

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 科目名    | 基礎看護学特論   |   |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織  |   |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 選択 春semester   |   |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |   |
| 科目概要   | 看護の基礎概念、看護実践を支える人間関係、および科学的根拠に基づいた看護介入のあり方、看護に関する社会的動向について体系的に探究する。   |   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論と看護実践がどのような関係にあるのか、看護実践から育っている理論とは何かなど看護理論と看護実践について追究する。</li> <li>2. 看護介入が患者・クライアントに及ぼす影響について、科学的に検証する方策を追究する。</li> <li>3. 看護の専門性とは何か、また時代の変化に対応して変化する看護の専門性とは何かを追究する。</li> </ol>   |   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 看護技術とは<br/>・看護技術とは<br/>・看護実践の構造における看護技術の位置づけ</p> <p>第2回 看護技術の特性<br/>・サイエンスとアート<br/>・看護技術の理論知と実践知</p> <p>第3回 看護技術と Evidence Based Nursing<br/>・Evidence Based Nursing とは<br/>・看護技術の科学的検証</p> <p>第4回 看護実践のプロセス①<br/>・クリティカルシンキング<br/>・問題解決思考</p> <p>第5回 看護実践のプロセス②<br/>・コミュニケーション</p> <p>第6回 看護実践に関連する理論 (中範囲理論)<br/>①人間の成長発達に関する理論</p> <p>第7回 看護実践に関連する理論 (中範囲理論)<br/>②看護のアセスメントと援助に関する理論</p> <p>第8回 文献抄読 (1)</p> <p>第9回 文献抄読 (1)<br/>※①②で学習した理論について、関連書籍、論文を読み、プレゼンテーション、意見交換する</p> <p>第10回 看護実践に関連する理論 (中範囲理論)<br/>③危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論<br/>④病気・障害のプロセスに関する理論</p> <p>第11回 文献抄読 (2)</p> <p>第12回 文献抄読 (2)<br/>※③④で学習した理論について、関連書籍、論文を読み、プレゼンテーション、意見交換する</p> <p>第13回 看護実践に関連する理論 (中範囲理論)<br/>⑤行動変容、行動強化に関する理論<br/>⑥認識の変容に焦点を当てた理論<br/>⑦その他の理論</p> <p>第14回 文献抄読 (3)</p> <p>第15回 文献抄読 (3)<br/>※⑤⑥⑦で学習した理論について、関連書籍、論文を読み、プレゼンテーション、意見交換する</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐久間 佐織</p> <p>佐久間 佐織</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織</p> <p>佐久間佐織</p> <p>佐久間佐織</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎</p> <p>炭谷正太郎・佐久間佐織</p> <p>佐久間佐織</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> *双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 8・9・12・15 回<br/> *実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 自身の考えを的確に伝える工夫と他者の意見を聞き積極的に議論することが学修には有効です。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 討議 40%、プレゼンテーション 40%、レポート 20%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。<br>授業で提示される文献をクリティークする。                                   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 佐久間佐織：1618 研究室 随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp<br>炭谷正太郎：1610 研究室 随時 【連絡先】 syoutarou-s@seirei.ac.jp      |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 看護教育特論  |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春 semester  |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | 看護学教育における教育制度や、臨地実習における教育と学習および、成人学習に関連した理論に基づく継続教育を対象にした広範な看護教育学の新しい知見から、看護学教育を俯瞰して、看護職の人材育成のあり方を探求する。   |
| 到達目標   | 1. 日本の看護学教育の現状と課題について考察することができる。<br>2. 実習指導のあり方について考察することができる。<br>3. 成人学習に関連した理論を学び、看護学教育における継続教育の現状と課題を説明することができる。   |
| 授業計画   | <p>回数 内容</p> <p>担当教員</p> <p>第1回 オリエンテーション・看護学教育の考え方 &lt; 佐々木幾美 &gt;</p> <p>第2回 看護教育制度の定義と考え方 &lt; 佐々木幾美 &gt;</p> <p>第3回 看護教育制度の変遷 &lt; 佐々木幾美 &gt;</p> <p>第4回 看護教育制度の現状と課題① (看護学における高等教育の拡充) &lt; 佐々木幾美 &gt;</p> <p>第5回 看護教育制度の現状と課題② (専門資格の共通課程の検討など) &lt; 佐々木幾美 &gt;</p> <p>第6回 看護教育方法の視点 &lt; 西田朋子 &gt;</p> <p>第7回 臨地実習指導論：実習の位置づけと意義、実習環境としての条件 &lt; 佐久間佐織 &gt;</p> <p>第8回 臨地実習指導論：指導者と教員の役割と連携ほか &lt; 佐久間佐織 &gt;</p> <p>第9回 実習指導の実際 &lt; 乾友紀 &gt;</p> <p>第10回 生涯学習と専門職の視点からみた看護継続教育 成人学習に関連した理論<br/>&lt; 西田朋子 &gt;</p> <p>第11回 継続教育の現状と課題：組織と運営について &lt; 西田朋子 &gt;</p> <p>第12回 継続教育の現状と課題：学習資源について &lt; 西田朋子 &gt;</p> <p>第13回 継続教育の現状と課題：教育活動について &lt; 西田朋子 &gt;</p> <p>第14回 看護管理の視点からみたスタッフ育成：人的資源管理 &lt; 鶴田恵子 &gt;</p> <p>第15回 看護管理の視点からみたスタッフ育成：スペシャリストの活用 &lt; 鶴田恵子 &gt;</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義および討議   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業への参加度 (30%)、最終レポート (70%)  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | レポート課題に対してコメントする  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学修：当日の授業内容に関するこれまでの自身の学習経験、教育経験を振り返る。<br>事後学修：授業資料を読み返し内容理解を深めると共に、今後自分にできることを考察する。 |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 佐久間佐織：1618 研究室 随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp  |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 看護技術開発  |
| 科目責任者  | 炭谷 正太郎  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春   |
| 科目の位置付 | (3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる   |
| 科目概要   | 看護実践場面における看護行為を取り上げ、その行為を成り立たせている看護技術の原理・原則との関係性と看護技術の可能性を多面的に検討し、新たな看護技術の有効性を検証する方法について学習する。   |
| 到達目標   | 1. 看護実践場面における看護行為と看護技術の原理・原則との関係を構造化し、看護技術がもつ意味を理解する。<br>2. 看護技術の開発において、重視しなければならない看護の視点について検討する。<br>3. 看護技術に必要な計測・測定技術の有効性および具体的な活用方法について、多面的に検討し看護技術開発の有効性を検証する。  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 看護技術における Evidence の検証方法①<br/>・ Evidence の定義と必要性 炭谷正太郎</p> <p>第2～4回 看護技術における Evidence の検証方法② 臨床研究の方法 安田智洋<br/>・ 実験研究を基盤とした有効性・有用性の検証方法<br/>・ 介入・侵襲の考え方<br/>・ 生理学的測定法、統計的手法、倫理</p> <p>第5～8回 看護技術の有用性の検証の実際 文献検討 炭谷正太郎<br/>佐久間佐織</p> <p>第9～11回 看護技術の有用性の検証の実際 演習<br/>・ 検証方法の設計 炭谷正太郎<br/>佐久間佐織</p> <p>第12～13回 看護技術の有用性の検証の実際 演習<br/>・ データ収集 炭谷正太郎<br/>佐久間佐織</p> <p>第14回 看護技術の有用性の検証の実際 演習<br/>・ データ分析 炭谷正太郎<br/>佐久間佐織</p> <p>第15回 看護技術の有用性の検証の実際 演習<br/>・ 結果と考察<br/>まとめ 炭谷正太郎<br/>佐久間佐織</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 5-15 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1、5-15 回</p> |

| 学修方法   | 自身の考えを的確に伝える工夫と他者の意見を聞き積極的に議論することが学修には有効です。   |                                      |                      |   |             |
|--|---|--------------------------------------|----------------------|---|-------------|
| 評価方法   | 討議 40%、プレゼンテーション 40%、レポート 20% 計 100%  |                                      |                      |   |             |
| 課題に対するフィードバック  | 課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。  |                                      |                      |   |             |
| 指定図書   | なし  |                                      |                      |   |             |
| 書籍名  | 著者  | 発売元出版社                               | 価格                   | ISBN  | 媒体種別/備考     |
|  |   |                                      |                      |   |             |
| 参考書  |   |                                      |                      |   |             |
| 書籍名  | 著者  | 発売元出版社                               | 価格                   | ISBN  | 媒体種別/備考     |
| バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版看護における研究第2版よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版 | 著 = Susan K. Grove<br>南裕子・野嶋佐由美 編<br>牧本清子   | エルゼビア・ジャパン<br>日本看護協会出版会<br>日本看護協会出版会 | 9000<br>2900<br>3200 | 9784860343002<br>9784818020665<br>9784818022713 | 1<br>1<br>1 |
| 事前・事後学修  | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。授業で提示される文献クリティークを怠らない。   |                                      |                      |   |             |
| オフィスアワー  | 炭谷正太郎：1610 研究室 随時 【連絡先】 syoutarou-s@seirei.ac.jp<br>安田 智洋：1206 研究室 随時 【連絡先】 tomohiro-y@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |                                      |                      |   |             |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 基礎看護学特論演習  |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織   |
| 単位数他   | 2 単位 (45 時間) 選択 秋 semester   |
| 科目の位置付 | (3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる  |
| 科目概要   | 看護実践において基盤となる看護理論、患者・看護師の相互作用、看護技術などを取り上げ、看護介入の効果を検証する方法論を探求する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心領域における健康問題や援助方法について文献検討を行い、看護介入とその評価について検討できる</li> <li>2. 基礎看護技術の方法の根拠および効果を科学的に検証する方法を明確にすることができる</li> <li>3. 基礎看護学における教育方法と評価を明確にすることができる</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>受講生の背景と関心領域に応じて上記の目標を達成するために、実践報告を主とした文献の講読、プレゼンテーション、討議をゼミナール形式で授業をすすめる。</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1～9回 実践報告を主とした文献の講読、プレゼンテーション、討議<br/>佐久間佐織、安田智洋、炭谷正太郎</p> <p>第10・11回 討議内容のまとめ①<br/>佐久間佐織、安田智洋、炭谷正太郎</p> <p>第12～21回 実践報告を主とした文献の講読、プレゼンテーション、討議<br/>佐久間佐織、安田智洋、炭谷正太郎</p> <p>第22・23回 討議内容のまとめ②<br/>佐久間佐織、安田智洋、炭谷正太郎</p> <p>※詳細な日程は第1回に提示する。また、昼間に開講することもある。<br/> *この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> *双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> *実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 積極的に研究テーマに関連する看護技術論文を検索する。検索した論文をクリティークして、プレゼンテーションを通して積極的に議論する。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 演習への参加状況 50%、 課題レポート 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 常に自身の関心領域についての情報収集をし、主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。<br>ゼミで指定された文献のクリティークを怠らない。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 佐久間佐織：1614 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp<br>安田 智洋：1206 研究室 随時 【連絡先】 tomohiro-y@seirei.ac.jp<br>炭谷正太郎：1616 研究室 随時 【連絡先】 syoutarou-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 科目名   | 基礎看護学特論実習   |   |   |
| 科目責任者   | 佐久間 佐織  |   |   |
| 単位数他  | 2 単位 (60 時間) 選択 秋 semester  |   |   |
| 科目の位置付  | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |   |   |
| 科目概要  | 特論・演習を通して学修した内容の看護実践場面、あるいは教育場面への適用の可能性と統合の方法について、実践を通して検討する。   |   |   |
| 到達目標  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既修の理論やモデルを活用した看護を実践し、評価・考察できる。</li> <li>2. 具体的な教育計画に基づく教育を実施し、教育課程、教育方法および教育評価の関係を考察できる。</li> <li>3. 自己の研究課題の具体化に関する検討を行うことができる。</li> </ol>   |   |   |
| 授業計画  | <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>&lt;授業内容・テーマなど&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～5回 実習内容の検討</p> <p>第6～28回 実習実施</p> <p>第29・30回 実習における事例の検討、まとめ</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎・樫原理恵</p> </td> </tr> </table> <p>※実習における事例の検討では、成果を発表する。<br/> ※発表内容に関して検討し、研究課題の明確化を図る。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> *双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/> *実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：第 6-28 回</p> | <p>&lt;授業内容・テーマなど&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～5回 実習内容の検討</p> <p>第6～28回 実習実施</p> <p>第29・30回 実習における事例の検討、まとめ</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎・樫原理恵</p> |
| <p>&lt;授業内容・テーマなど&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～5回 実習内容の検討</p> <p>第6～28回 実習実施</p> <p>第29・30回 実習における事例の検討、まとめ</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎</p> <p>佐久間佐織・炭谷正太郎・樫原理恵</p>   |   |   |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 特論・演習を通して学修した内容を活用して、積極的に具体的な教育計画を検討する。また、教育評価を探究し、実習内で活用することで適切な教育評価の理解を深める。                    |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習に対する取り組み 50%、課題レポート 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事例の検討、課題レポートへのコメント   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 常に教育の実践においては指導計画を事前に準備し、指導後の評価を実施する。関連書籍などで、指導内容の振り返りを実践する。                                      |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー   | 佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp<br>炭谷正太郎：1610 研究室 随時 【連絡先】 shoutarou-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 基礎看護学特別研究   |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織  |
| 単位数他   | 8 単位 (240 時間) 選択 通年   |
| 科目の位置付 | (4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。<br>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。   |
| 科目概要   | 修士論文を作成するために必要な基礎看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。   |
| 到達目標   | 1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する<br>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う<br>3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt;<br/>佐久間佐織、安田 智洋、炭谷正太郎</p> <p>&lt;授業内容・テーマ、評価方法&gt;</p> <p>1 年次春semester：<br/>これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br/>討論参加度 (30%)、課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester：<br/>春semesterの学修を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>発表態度 (30%)、発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester：<br/>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画書の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後に、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%)、データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>2 年次秋semester：<br/>指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br/>論文の完成度 (70%)、第三者の評価による修正の適切性 (30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 自身の力量に合わせて、授業計画に沿った研究計画を的確に立案し、自身考えを的確に伝える工夫と他者の意見を聞き積極的に議論し、論文化する。学会参加を積極的にする。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 面接でフィードバックする  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 常に、自身の関心領域についての情報収集をし、主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。ゼミで指定された文献のクリティークを怠らない。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp<br>炭谷正太郎：1610 研究室 随時 【連絡先】 syoutarou-s@seirei.ac.jp<br>安田 智洋：1206 研究室 随時 【連絡先】 tomohiro-y@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 看護管理学特論   |
| 科目責任者  | 田口 実里   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春   |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる  |
| 科目概要   | 看護管理論で得た知識を基に、看護管理学の理論基盤である組織行動論について学修し、組織内で人々が示す行動や態度に関する研究および実践への理論の適用を探究する。  |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織行動学を理解し、組織内での人々の行動や態度など、理論を用いてケース分析を行うことで、自己の課題を明確にすることができる。</li> <li>・専攻する看護管理分野および関連諸科学における理論・概念に精通し、看護管理分野の学問を深める。</li> </ul>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 梶原理恵</p> <p>&lt; 授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：科目ガイダンス 組織行動論への招待・モチベーション 講義</p> <p>第 2 回：組織コミットメント 事例分析・討議</p> <p>第 3 回：意思決定と合意形成 事例分析・討議</p> <p>第 4 回：キャリアマネジメント 事例分析・討議</p> <p>第 5 回：組織市民行動 事例分析・討議</p> <p>第 6 回：組織ストレス 事例分析・討議</p> <p>第 7 回：チームマネジメント 事例分析・討議</p> <p>第 8 回：リーダーシップ 事例分析・討議</p> <p>第 9 回：組織学習 事例分析・討議</p> <p>第 10 回：組織変革 事例分析・討議</p> <p>第 11 回：組織文化 事例分析・討議</p> <p>第 12 回：組織的公正 事例分析・討議</p> <p>第 13 回：組織社会化 事例分析・討議</p> <p>第 14 回：ダイバーシティマネジメント 事例分析・討議</p> <p>第 15 回：プロフェッショナルマネジメント</p> <p>まとめ 事例分析・討議</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |

|               |   |               |           |               |                |
|---------------|---|---------------|-----------|---------------|----------------|
| 学修方法          | 毎回指定図書を熟読し、他の文献を活用しながら看護管理に必要な組織行動についてケース分析を行いプレゼンテーションと討議を行う。          |               |           |               |                |
| 評価方法          | 授業への積極的な取り組み姿勢  | 50%           |           |               |                |
|               | プレゼンテーションの内容と態度   | 20%           |           |               |                |
|               | 最終レポート  | 30%           |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック | 授業中にプレゼンテーション内容、討議への参加態度についてフィードバックを行います。                               |               |           |               |                |
| 指定図書          | 下記を参照   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
| 【ベーシック＋】組織行動論 | 開本浩矢編著  | 中央経済社         | 2400      | 9784502295614 | 冊子版            |
| 参考書           | 授業時に提示します   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |               |                |
| 事前・事後学修       | 指定図書を熟読し、必要な文献を検索し発表者以外も討議に積極的に参加できるよう準備を整える。また、討議内容についてケースと理論について整理する。 |               |           |               |                |
| オフィスアワー       | 田口実里：1619 研究室 misato-t@seirei.ac.jp<br>時間についてはガイダンス時に提示します。             |               |           |               |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 専門看護管理特論   |  |
| 科目責任者  | 田口 実里  |  |
| 単位数他   | 2 単位数 (30 時間) 選択   |  |
| 科目の位置付 | ・エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。   |  |
| 科目概要   | 医療機関の管理者は、その運営状況を常に把握しておく必要があり、その指標となるのが財務・会計システムである。看護職者が医療機関の管理者として経営に参画するうえで、経営の指標となる財務・会計システムの知識を得ることは必須となる。<br>財務・会計に関する基礎知識の習得および分析する能力を養い、経営の視点を看護管理過程の分析において統合して実施できることを目的とする。   |  |
| 到達目標   | 保健医療福祉システムにおいて他の専門職と協働して経営に参画するために、ケース分析の手法を用いて看護経営戦略を立案することができる。  |  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、看護管理者の病院経営への参画意義</p> <p>第2回：病院経営・財務環境、病院会計制度</p> <p>第3回：病院経営活動と財務諸表、病院の経営指標</p> <p>第4回：損益分岐点分析、予算管理</p> <p>第5回：原価計算、BSC</p> <p>第6～8回：ケース分析と分析ツール</p> <p>第9～10回：病院のケース分析 [演習]</p> <p>第11回：病院のケース分析 [学生の発表と討議、講評]</p> <p>第12回：病院経営の総括</p> <p>第13回：看護管理者の経営戦略 [講義]</p> <p>第14回：看護管理者の経営戦略 [演習]</p> <p>第15回：看護管理者の経営戦略 [講師からの講評]</p> <p><br/></p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1回、6-11回、13-15回</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>田口実里</p> <p>阪口博政</p> <p>阪口博政</p> <p>阪口博政</p> <p>阪口博政</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>阪口博政、田口実里</p> <p>阪口博政</p> <p>河嶋知子</p> <p>田口実里</p> <p>河嶋知子、田口実里</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義、プレゼンテーション、討議を行う。<br>基本的な知識の理解及び、病院のケース分析のプレゼンテーションと討議への適切なアドバイスを受けるために講師を招聘し、専門的な知識を身に着ける。 |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業の参加度 20%、課題の取り組み 30%、レポート 50%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | レポートにコメントを記載して返却する。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 必要時、事前に提示する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | 必要時、授業内で提示する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | ・事前に参考書及び資料を読み内容の理解に努める。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 1号館6階1619研究室 メールアドレス：misato-t@seirei.ac.jp<br>時間：随時 ※事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです                  |               |           |             |                |

|        |   |  |
|--------|---|--|
| 科目名    | 看護管理学特論演習   |  |
| 科目責任者  | 田口 実里   |  |
| 単位数他   | 2 単位 (45 時間) 選択 春   |  |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる<br>3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる   |  |
| 科目概要   | 看護管理学領域における自身の研究課題について探求するうえで、文献レビューを通して研究課題に対しての既知の知識を整理する。  |  |
| 到達目標   | 1. 文献レビューの方法について説明することができる<br>2. 手順に従って自分の研究課題に関連する研究論文を検索し入手することができる<br>3. 研究課題に関連する文献をクリティークし、研究結果を検討することができる<br>4. 研究論文の情報を一覧表に整理し、研究動向を検討することができる<br>5. 自分の研究課題に関連する研究動向の特徴および明らかとなった内容と自身の研究課題とのギャップを記述することができる  |  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス・合同ゼミ<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第2回 関心領域の発表<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第3回 文献のクリティーク・文献レビューの方法<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第4回 質的研究のクリティーク<br/>個人ワーク</p> <p>第5回 質的研究のクリティーク<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第6回 量的研究のクリティーク<br/>個人ワーク</p> <p>第7回 量的研究のクリティーク<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第8回 文献研究のクリティーク<br/>個人ワーク</p> <p>第9回 文献研究のクリティーク<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第10回 関心領域における研究動向の分析（レビューマトリックスの方法） 集合（講義）田口・榎原</p> <p>第11回 関心領域の発表と文献検索（検索方法、検索ワードと今後の方向性） 集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第12回 研究動向の分析（レビューマトリックスの作成）①<br/>個人ワーク</p> <p>第13回 研究動向の分析（レビューマトリックスの作成）③<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第14回 研究動向の分析（レビューマトリックスの作成）④<br/>個人ワーク</p> <p>第15回 研究動向の分析（レビューマトリックスの作成）⑥<br/>集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第16回 研究動向の整理 集合（発表・討議）田口・榎原</p> <p>第17回 研究動向の分析と現状、自己の関心領域との比較<br/>個人ワーク</p> <p>第18回 研究動向の分析と現状、自己の関心領域との比較</p> |  |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>集合（発表・討議）田口・榎原<br/> 第19回 研究課題の検討・整理<br/> 集合（発表・討議）田口・榎原<br/> 第20回 文献検討と研究課題の整理、文章化 個人ワーク<br/> 第21回 文献検討と研究課題の整理、文章化<br/> 集合（発表・討議）田口・榎原<br/> 第22回 文献検討と研究課題の整理、文章化<br/> 個人ワーク<br/> 第23回 文献検討と研究課題の整理、文章化<br/> レポート提出</p> <p>※看護管理学特論演習で行った検討の結果を研究計画書の土台として特別研究で研究計画を検討していく</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にスケジュールを提示し学修の構成を説明する</li> <li>・課題を事前に取り組んだうえで、ゼミ形式で自身とメンバー、教員とでのディスカッションを通し、課題を考察する</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 討議の参加度（30%）、発表（40%）、レポート（30%）   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題レポートについては、個別面接でフィードバックする。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 必要時、事前に提示する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | 必要時、授業内で提示する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | ・授業前は、課題の準備をすること、授業後は課題の修正を行うこと。各課題については第1回目の授業で提示する。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 田口：1号館6階1619研究室 メールアドレス：misato-t@seirei.ac.jp<br>榎原：1号館6階1616研究室 メールアドレス：rie-k@seirei.ac.jp<br>時間：随時 ※事前にメールで問い合わせさせていただくとスムーズです  |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 看護管理学特論実習   |
| 科目責任者  | 檜原 理恵   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 選択 春   |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | 高度専門職業人を目指す看護管理者は、看護単位ごとの財務資源管理や地域連家について問題解決能力が求められているため、看護管理者の高度実践の基盤となる問題解決の能力を身につける。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な情報を収集することができる。</li> <li>2. アセスメントをして問題を抽出することができる。</li> <li>3. 解決策を提案することができる。</li> <li>4. 根拠となる文献を提示することができる。</li> <li>5. リコメンデーションを作成することができる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス：檜原、田口<br/> 第2回 問題解決法 [学生の発表と討議]：檜原、田口<br/> 第3～4回 看護管理過程 [学生の発表と討議]<br/> 第5回 コンサルテーション・プロセス：檜原、田口<br/> 第6回 フィールドワーク：檜原、田口<br/> 第7回 フィールドノートの作成<br/> 第8回 フィールドノート [学生の発表と討議]<br/> 第9～10回 計画 [学生の発表と討議]：檜原、田口<br/> 第11～26回 実習 (オリエンテーション+フィールドワーク+インタビュー)<br/> 第27～28回 実習カンファレンス [学生の発表と討議]：檜原<br/> 第29回 実習報告書の作成<br/> 第30回 実習報告会 (M1. M2 合同) [学生の発表と討議]：檜原、田口</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-30回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：第11-28回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設で2週間フィールドワークを行う。</li> <li>2. 実習内容に関する分析結果についてスーパービジョンを受ける。</li> <li>3. 実習カンファレンスで看護管理上の問題について発表する。</li> <li>4. 実習報告書を作成する。</li> </ol> |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習計画書 (20%)、実習に対する取り組み (20%)、実習成果 (20%)、実習報告書 (40%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 授業毎にはフィードバックを直接実施します。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>討議を進められる資料を準備する。<br/> 実習中は、フィールドノートを作成する。</p>  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>梶原理恵：1616 研究室 連絡先 rie-k@seirei.ac.jp<br/> 田口実里：1619 研究室 連絡先 misato-t@seirei.ac.jp<br/> 時間はオリエンテーション時にお知らせします。</p>  |               |           |             |                |



|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | プレゼンテーション、ディスカッション   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題レポートにコメントを記載して返却する。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 随時指定   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 檜原研究室 1616 rie-k@seirei.ac.jp、田口研究室 1619 misato-t@seirei.ac.jp<br>時間については、初回授業時に提示します。 |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 地域看護学特論  |  |
| 科目責任者  | 三輪 眞知子   |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春 semester   |  |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |  |
| 科目概要   | 公衆衛生看護学で活用される諸理論・概念を基盤として、個人・家族・集団・組織、そして地域における健康の維持・増進および回復に関わる地域看護の活動を分析し、地域看護における医療・保健・福祉の組織化および支援の方向性を探究する。  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学及び公衆衛生看護学に関する理念、概念を理解することができる。</li> <li>2. 健康の決定要因について理解し、実践と結びつけ、探究することができる。</li> <li>3. 公衆衛生看護の倫理的実践における原則と課題について理解することができる。</li> <li>4. 各地域看護の場における専門的実践探究の特色を理解し、実践の中で芽生えた関心や問題を探求できる。</li> </ol>   |  |
| 授業計画   | <p>総論</p> <p>第1回：地域看護学と公衆衛生看護学の変遷</p> <p>第2回：公衆衛生看護学の理念および概念</p> <p>第3回：公衆衛生看護学の視点からみた健康の地域社会経済環境的決定要因</p> <p>第4回：公衆衛生看護学の視点からみた健康の地域社会経済環境の現状と課題</p> <p>第5回：公衆衛生看護の基盤となる理論① 地域診断の理論</p> <p>第6回：公衆衛生看護の基盤となる理論② コミュニティ・エンパワメント</p> <p>第7回：疫学の視点からみた感染症健康危機管理</p> <p>第8回：公衆衛生看護の倫理</p> <p>専門的実践探究</p> <p>第9回：学校における学校保健の現状</p> <p>第10回：学校における学校保健の課題</p> <p>第11回：学校における養護教諭の役割と活動の現状と課題</p> <p>第12回：公衆衛生看護実践知を智に変えるための公衆衛生看護学研究①</p> <p>第13回：公衆衛生看護学研究①の課題（リサーチクエスションの設定）</p> <p>第14回：公衆衛生看護実践知を智に変えるための公衆衛生看護学研究②</p> <p>第15回：公衆衛生看護学研究②の課題（リサーチクエスションの設定）</p> | <p>三輪眞知子</p> <p>三輪眞知子</p> <p>江口晶子</p> <p>江口晶子</p> <p>金子仁子</p> <p>金子仁子</p> <p>西川 浩昭</p> <p>三輪眞知子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>金子仁子</p> <p>金子仁子</p> <p>中田晴美</p> <p>中田晴美</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義、討論、プレゼンテーション  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 討論への参加度 (30%)、プレゼンテーション内容 (30%) 課題レポート (40%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修内容について、授業の中で発表を行う。発表後には、必ずフィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業毎に、授業に関連して事前学修内容を提示する。それを授業の中で、学生は発表をする。その後、新たなテーマについて討論等を通して発掘し、そのテーマについて調べる。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>三輪真知子研究室 (1612) machiko-m@seirei.ac.jp<br/> 西川浩昭研究室 (1620) hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br/> 池永理恵子研究室 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp<br/> 江口晶子研究室 (1207) akiko-e@seirei.ac.jp</p> <p>時間については、初回の授業時に提示する。</p> |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 地域看護学援助特論 I  |
| 科目責任者  | 江口 晶子  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春 semester   |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる   |
| 科目概要   | 地域看護（主に対象公衆衛生看護）の基盤となる諸理論を学び科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際を探究し、看護理論と実践を結び付けて探求できる。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護（主に対象公衆衛生看護）の基盤となる諸理論を説明できる。</li> <li>2. 科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際を探究できる。</li> <li>3. 公衆衛生看護学分野における政策を理解することができる。</li> <li>4. 自己の研究疑問や研究課題設定に活用できる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>〈担当教員名〉<br/>江口晶子・三輪眞知子・西川浩昭・金子仁子（非常勤）・中田晴美（非常勤）</p> <p>〈授業内容・テーマ等〉</p> <p>第1回：ガイダンス<br/> 第2回：公衆衛生看護学における個人・家族に関する研究と理論<br/> 第3回：公衆衛生看護学における個人・家族に関する支援の実際<br/> 第4回：公衆衛生看護学における集団（グループ）支援に関する研究と理論<br/> 第5回：公衆衛生看護学における集団（グループ）支援に関する支援の実際<br/> 第6回：公衆衛生看護におけるコミュニティの組織化に関する研究と理論<br/> 第7回：公衆衛生看護におけるコミュニティの組織化に関する支援の実際<br/> 第8回：公衆衛生看護におけるソーシャル・キャピタルと地域づくりに関する研究と理論<br/> 第9回：公衆衛生看護におけるソーシャル・キャピタルと地域づくりに関する支援の実際<br/> 第10回：公衆衛生看護におけるヘルスケアシステムづくりに関する研究と理論<br/> 第11回：公衆衛生看護におけるヘルスケアシステムづくりの実際<br/> 第12回：公衆衛生看護における政策提言の意義と理論<br/> 第13回：政策提言の実際<br/> 第14回：公衆衛生看護実践上の問題解決や施策化における今後の課題と研究の活用<br/> 江口晶子・三輪眞知子・西川浩昭・金子仁子（非常勤）・中田晴美（非常勤）<br/> 第15回：上記の文献検討を用いて研究疑問及び研究課題との関連を推考する<br/> 江口晶子・三輪眞知子・西川浩昭・金子仁子（非常勤）・中田晴美（非常勤）</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義、討論、プレゼンテーション  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 討論への参加度 (30%)、プレゼンテーション内容 (30%) 課題レポート (40%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | プレゼンテーションについては授業中に随時フィードバックし、最終レポートについてはコメントを付します。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 授業内で適宜、資料を提示する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。授業で提示される文献クリティークを怠らない。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 江口晶子 (1207 研究室) akiko-e@seirei.ac.jp<br>三輪真知子 (1612 研究室) machiko-m@seirei.ac.jp<br>西川浩昭 (1620 研究室) hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br>※ 時間については、初回の授業時に提示する。 |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 地域看護学援助特論Ⅱ   |
| 科目責任者  | 江口 晶子  |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 選択 春 semester   |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | 地域看護学における研究方法の種類と概要 (量的研究、質的研究、混合研究法)、研究のプロセス (データ取得から分析まで) を、講義と演習を通して学び、看護実践と研究を結び付けて探求できる。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学における研究目的と意義が説明できる。</li> <li>2. 地域看護学における研究方法の種類と概要を説明できる。</li> <li>3. 地域看護学における研究のプロセスについて演習を通して理解できる。</li> <li>4. 実践と研究を結び付けて考えることができる。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt;<br/>江口晶子・三輪眞知子・西川浩昭</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 地域看護学における研究の目的と方法の概説 江口晶子・三輪眞知子</p> <p>【地域看護学における量的研究】 西川浩昭</p> <p>第2回 データの種類と取得方法、分析の考え方と分析手法</p> <p>第3回 SPSSによる統計解析演習① 記述統計 (代表値とばらつき)</p> <p>第4回 SPSSによる統計解析演習② 記述統計 (相関係数、1次回帰、オッズ比)</p> <p>第5回 SPSSによる統計解析演習③ 統計学的推論 (推定と検定)</p> <p>第6回 SPSSによる統計解析演習④ 統計学的推論 (平均の差、割合の差)</p> <p>第7回 SPSSによる統計解析演習結果のプレゼンテーションとまとめ</p> <p>【地域看護学における質的研究】 江口晶子・三輪眞知子</p> <p>第8回 データの取得方法、分析の考え方と分析方法</p> <p>第9回 質的帰納的分析演習① 質的研究分析ステップ① (例: コード化)</p> <p>第10回 質的帰納的分析演習② 質的研究分析ステップ② (例: サブカテゴリ化)</p> <p>第11回 質的帰納的分析演習③ 質的研究分析ステップ③ (例: カテゴリ化)</p> <p>第12回 質的帰納的分析演習④ 質的研究分析ステップ④ (例: テーマの抽出)</p> <p>第13回 質的帰納的分析演習結果のプレゼンテーションとまとめ</p> <p>【地域看護学における研究法】 江口晶子・三輪眞知子・西川浩昭</p> <p>第14回 データの種類と取得方法、分析の考え方と分析手法</p> <p>第15回 各種研究法を用いた論文のクリティーク演習とまとめ</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 演習を行いながら実践的に学ぶ。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 演習への取り組み 40%、レポート 60%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 各演習後にまとめを行い、フィードバックする。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | 演習内で適宜資料を提示する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前・事後学習の内容は、テーマに応じて提示する。所要時間の目安は、各 1 時間程度である。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 江口晶子（1207 研究室） akiko-e@seirei.ac.jp<br>三輪眞知子（1612 研究室） machiko-m@seirei.ac.jp<br>西川浩昭（1620 研究室） hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br>※ 時間については、初回の授業時に提示する。 |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 地域看護学特論演習  |  |
| 科目責任者  | 西川 浩昭  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (45 時間) 選択 秋 semester   |  |
| 科目の位置付 | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる   |  |
| 科目概要   | 地域看護学領域および学校看護の領域における子どもの健康課題の解決を図る方策や看護実践への研究成果活用について研究を進めるための汎用スキルとして論文クリテイクの基礎知識と技術を学び、討論やフィードバックを通して探究し、関連する論文のクリテイクを行い研究に対する洞察力を深める。  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学領域および学校看護の領域における研究課題が概観できる。</li> <li>2. 研究活動に必要な情報を収集することができる。</li> <li>3. 地域および学校における実践事例の健康課題や活動を分析し、構造化することができる。</li> <li>4. 研究課題に対するこれまでの研究の動向を把握することができる。</li> </ol>   |  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt;<br/> 池永理恵子・西川浩昭・岡本啓子、中島敦子、古川恵美</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。 池永理恵子</p> <p>第2回：学校看護の領域における研究課題の概観 池永理恵子</p> <p>第3回：論文クリテイクとは 西川 浩昭</p> <p>第4回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識①<br/> (研究テーマと枠組、研究方法のクリテイク) 西川 浩昭</p> <p>第5回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識② (量的研究) 西川 浩昭</p> <p>第6回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識③ (質的研究) 池永理恵子</p> <p>第7回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識④<br/> (研究結果と考察のクリテイク)</p> <p>池永理恵子</p> <p>第8回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス①<br/> 岡本啓子</p> <p>第9回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表 (事例を通して)<br/> 岡本啓子</p> <p>第10回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス②<br/> 中島敦子</p> <p>第11回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表 (事例を通して)<br/> 中島敦子</p> <p>第12回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス③<br/> 古川恵美</p> <p>第13回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表 (事例を通して)<br/> 古川恵美</p> <p>第14回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ①<br/> 池永理恵子</p> <p>第15回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ②<br/> 池永理恵子</p> <p>第16回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ③<br/> 池永理恵子</p> <p>第17回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ④ 池永理恵子</p> <p>第18回：フィールドワークの成果発表とディスカッション①<br/> 池永理恵子</p> <p>第19回：フィールドワークの成果発表とディスカッション②<br/> 池永理恵子</p> |  |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>第20回：学校看護の領域における倫理的課題について<br/>池永理恵子</p> <p>第21回：研究疑問から研究課題、研究の焦点化<br/>池永理恵子</p> <p>第22回：研究疑問から研究課題、研究テーマの設定<br/>池永理恵子</p> <p>第23回：学修成果の振り返りと課題発表<br/>池永理恵子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-23回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-2回、6-23回</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | ゼミ形式の授業。学生は、自分の研究テーマの明確化をめざして文献検討やフィールドワークを自ら計画し、教員の助言を受けて実施する。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | フィールドワークへの参加状況 (20%)、ディスカッションへの参加状況 (20%)、各段階でのプレゼンテーション内容 (40%)、レポート (20%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | プレゼンテーション後には、必ずフィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | プレゼンテーションは課題について調べて発表する。またプレゼンテーション後には、新たなテーマを発掘して、そのテーマについて調べる。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>西川浩昭研究室 (1620) hiroaki-ni@seirei.ac.jp</p> <p>池永理恵子研究室 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp</p> <p>時間については、初回の授業時に提示する。</p>   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 地域看護学特論実習  |
| 科目責任者  | 三輪 眞知子   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 選択 秋 semester   |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 地域看護学の各科目等、今まで学修した内容を統合して、地域住民の保健医療福祉行政上の課題解決のために政策化、事業化するための能力の向上を目指す。さらに、地域の健康水準を高める社会資源の開発、システム化について探求する。   |
| 到達目標   | 1. 研究テーマと関連させて実習先の行政組織等を事例に保健行政システム及び地域の健康課題、医療課題、福祉課題と行政の取り組みを理解する。<br>2. 研究テーマと関連させて実習先市町村等における保健師が担当する地区における地域包括ケアシステムの課題を抽出し、システム構築のための政策提言の方向性を考えることができる。   |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt;<br/>三輪眞知子・江口晶子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 : 研究疑問 (リサーチクエッション)、研究課題、研究テーマ発表<br/>第2回 : 研究テーマとの関連で最新の動向を把握<br/>第3回 : 実習オリエンテーション<br/>第4回 : 「政策提言とは」政策提言のための手順と様式について<br/>第5回 : 「政策提言」までのプロセスおよび研究テーマとの関連事例紹介<br/>第6～10回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 1<br/>課題分析シート (様式Ⅲ-4-1)・補助シート政策課題整理表 (様式Ⅲ-4-2)<br/>1. テーマ (タイトル) と設定した理由<br/>地域データ等の整理分析 (主に既存資料)・課題<br/>第11回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 1 中間報告会①<br/>第6～10回までの実習成果中間発表会およびディスカッション<br/>第12～14回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 2<br/>課題分析シート (様式Ⅲ-4-1)・補助シート政策課題整理表 (様式Ⅲ-4-2)<br/>2. 法的施策的情報整理<br/>3. これまでの取り組み、関連保健事業の総括<br/>第15回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 1 中間報告会②<br/>第14～16回までの実習成果中間発表会およびディスカッション<br/>第16～20回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 3<br/>4. 対象者聞き取り訪問と事例検討<br/>5. 関係機関及び関係者への聞き取り<br/>第21回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 3 中間報告会③<br/>第16～20回までの実習成果中間発表会およびディスカッション<br/>第22～27回 : 研究テーマと関連させた政策化実習 4<br/>6. 活動計画を作成し、研究テーマと関連させた政策提言の方向性を考える。<br/>第28～30回 : 実習成果を発表し、助言を受け、研究テーマ、対象、方法の明確化を図る。</p> <p>*院生の研究テーマにより変更する場合がある。</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 各自の学習課題・研究課題に応じた実習施設を選択して自ら実習計画を立案し、主体的に実習に取り組む。                                |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習計画書 (20%)、実習に対する取り組み姿勢・態度 (20%)、実習成果レポート (50%)、実習報告 (10%)                     |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 実習計画に対する助言を行い、実習計画の修正を行う。実習中は、中間報告を行い実習の修正を行い、フィードバックを行う。実習最終の報告に対してフィードバックを行う。 |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 関心あるテーマについて事前学修としてレポートを作成する。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 三輪眞知子研究室 (1612) machiko-m@seirei.ac.jp<br>江口晶子研究室 (1207) akiko-e@seirei.ac.jp   |               |           |             |                |

|        |   |  |
|--------|---|--|
| 科目名    | 学校看護特論  |  |
| 科目責任者  | 池永 理恵子  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春 semester  |  |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |  |
| 科目概要   | 養護実践で活用される看護の諸理論と概念を基盤として、子どもの成長・発達過程における健康支援について多角的に探究する。  |  |
| 到達目標   | 1. 養護実践における看護学の教育的意義や社会的意義について理解することができる。<br>2. 子どもの成長・発達過程における健康課題を心理・教育・保健の観点から多角的に探究することができる<br>3. 養護実践の場における看護の視点に立った支援の方法論や技法を理解し説明できる。  |  |
| 授業計画   | <担当教員名>池永理恵子、太田知実、江口晶子、津島ひろ江、ゲストスピーカー長峰伸治<br><授業内容・テーマ等><br>総論<br>第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。 池永理恵子<br>第2回：養護実践と看護職の歴史的経緯の理解Ⅰ（養護教諭の歴史と背景） 池永理恵子<br>第3回：養護実践と看護職の歴史的経緯の理解Ⅱ（保健・医療との関連） 池永理恵子<br>第4回：養護教諭に期待される社会的役割と課題 池永理恵子<br>第5回：養護活動における心理学的アプローチに関する研究Ⅰ（幼児期から学童期） 池永理恵子<br>第6回：養護活動における心理学的アプローチに関する研究Ⅱ（思春期） 池永理恵子<br>第7回：教育行政から見た養護教諭の位置づけと役割 金子尚公<br>第8回：保健安全教育における養護教諭の役割と連携 金子尚公<br>第9回：養護活動と地域看護との連携の現状と課題 江口晶子<br>第10回：養護活動と地域看護との連携と支援の実際 江口晶子<br>第11回：医療的ケア児の教育保障の歴史的背景 津島ひろ江<br>第12回：医療的ケア児の現状と課題 津島ひろ江<br>第13回：医療的ケア児の地域包括支援体制と多職種連携・協働 津島ひろ江<br>第14回：課題の発表 池永理恵子<br>第15回：まとめと評価 池永理恵子<br>（リサーチクエスションの設定）<br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br>実務家教員や実務家による授業：第1-4回、7-15回 |  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義、討論、プレゼンテーション  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 討論への参加度 (30%)、プレゼンテーション内容 (30%) 課題レポート (40%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修内容について、授業の中で発表を行う。発表後には、必ずフィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | 津島ひろ江他, 医療的ケア児の健康管理における養護教諭の役割, 誠信書房, 2023<br>ISBN-13 978-4414202243                                   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業毎に、授業に関連して事前学修内容を提示する。それを授業の中で、学生は発表をする。その後、新たなテーマについて討論等を通して発掘し、そのテーマについて調べる。                       |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 池永理恵子研究室 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp<br>江口晶子研究室 (1207) akiko-e@seirei.ac.j<br><br>時間については、初回の授業時に提示する。 |               |           |             |                |

| 科目名                               | 学校看護援助特論 I  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
|-----------------------------------|---|-------------|---------|----------------------------|-------|-----------------------|-------|--------------------------|-------|-------------------------------|-------|-----------------------------------|-------|-----------------------------------|-------|-------------------------------|-------|-------------------------------|-------|--------------------------------|-------|----------------------------------|-------|--------------------------------|-------|---------------------------------|-------|-------------------------------|------|----------------------------------|------|-------------------------|-------|
| 科目責任者                             | 池永 理恵子  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 単位数他                              | 2 単位 (30 時間) 選択 春 semester  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 科目の位置付                            | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 科目概要                              | 授業の概要<br>国内外の学校および地域社会の中における特別な支援を必要とする子どもへの支援について理解し、探究する。子どもの人権尊重と健やかな成長発達を保障するセーフティネットとしての学校の役割や地域の社会資源との連携の実際と具体的な支援の在り方を理解し、学校教員および養護教諭の社会的役割について考察する。   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 到達目標                              | 1. 国内および海外の特別な支援を要する子どもの現状から教育課題や社会背景について探究することができる。<br>2. 特別な支援を要する子どもの学校と地域との連携や支援の在り方を理解し説明できる。  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 授業計画                              | <table border="0"> <thead> <tr> <th>(授業内容・テーマ等)</th> <th>(担当教員名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション、本科目の目的と概要の説明</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第2回：学校保健に関連する課題と近年の傾向</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第3回：学校保健に関連する課題と関連領域の法整備</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第4回：特別な支援を要する子どもと養護教諭に期待される役割</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第5回：社会福祉領域における特別な支援を要する子どもの支援の実際①</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第6回：社会福祉領域における特別な支援を要する子どもの支援の実際②</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第7回：特別な支援を要する子どもの支援と看護職と教員の連携</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第8回：関心のあるテーマに関する研究の動向 I クリテイク</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第9回：関心のあるテーマに関する研究の動向 II クリテイク</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第10回：関心のあるテーマに関する研究の動向 III クリテイク</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第11回：地域における特別な支援を要する子どもへの支援の実際</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第12回：特別な支援を要する子どもと家庭における社会資源の活用</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第13回：海外における子どもの教育と医療の実際① (中国)</td> <td>赤坂真人</td> </tr> <tr> <td>第14回：海外における子どもの教育と医療の実際② (アジア地域)</td> <td>赤坂真人</td> </tr> <tr> <td>第15回：課題の発表・研究テーマとの関連と考察</td> <td>池永理恵子</td> </tr> </tbody> </table> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-12回, 15回</p> | (授業内容・テーマ等) | (担当教員名) | 第1回：オリエンテーション、本科目の目的と概要の説明 | 池永理恵子 | 第2回：学校保健に関連する課題と近年の傾向 | 池永理恵子 | 第3回：学校保健に関連する課題と関連領域の法整備 | 池永理恵子 | 第4回：特別な支援を要する子どもと養護教諭に期待される役割 | 池永理恵子 | 第5回：社会福祉領域における特別な支援を要する子どもの支援の実際① | 池永理恵子 | 第6回：社会福祉領域における特別な支援を要する子どもの支援の実際② | 池永理恵子 | 第7回：特別な支援を要する子どもの支援と看護職と教員の連携 | 池永理恵子 | 第8回：関心のあるテーマに関する研究の動向 I クリテイク | 池永理恵子 | 第9回：関心のあるテーマに関する研究の動向 II クリテイク | 池永理恵子 | 第10回：関心のあるテーマに関する研究の動向 III クリテイク | 池永理恵子 | 第11回：地域における特別な支援を要する子どもへの支援の実際 | 池永理恵子 | 第12回：特別な支援を要する子どもと家庭における社会資源の活用 | 池永理恵子 | 第13回：海外における子どもの教育と医療の実際① (中国) | 赤坂真人 | 第14回：海外における子どもの教育と医療の実際② (アジア地域) | 赤坂真人 | 第15回：課題の発表・研究テーマとの関連と考察 | 池永理恵子 |
| (授業内容・テーマ等)                       | (担当教員名)   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第1回：オリエンテーション、本科目の目的と概要の説明        | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第2回：学校保健に関連する課題と近年の傾向             | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第3回：学校保健に関連する課題と関連領域の法整備          | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第4回：特別な支援を要する子どもと養護教諭に期待される役割     | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第5回：社会福祉領域における特別な支援を要する子どもの支援の実際① | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第6回：社会福祉領域における特別な支援を要する子どもの支援の実際② | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第7回：特別な支援を要する子どもの支援と看護職と教員の連携     | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第8回：関心のあるテーマに関する研究の動向 I クリテイク     | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第9回：関心のあるテーマに関する研究の動向 II クリテイク    | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第10回：関心のあるテーマに関する研究の動向 III クリテイク  | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第11回：地域における特別な支援を要する子どもへの支援の実際    | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第12回：特別な支援を要する子どもと家庭における社会資源の活用   | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第13回：海外における子どもの教育と医療の実際① (中国)     | 赤坂真人  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第14回：海外における子どもの教育と医療の実際② (アジア地域)  | 赤坂真人  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 第15回：課題の発表・研究テーマとの関連と考察           | 池永理恵子   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 学修方法                              | 講義、グループワーク、討論、発表を含みます   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 評価方法                              | プレゼンテーション 50%、最終レポート 50%  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 課題に対するフィードバック                     | プレゼンテーションについては授業中に随時フィードバックし、最終レポートについてはコメントを付します   |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |
| 指定図書                              | 授業中に随時紹介、提示する。  |             |         |                            |       |                       |       |                          |       |                               |       |                                   |       |                                   |       |                               |       |                               |       |                                |       |                                  |       |                                |       |                                 |       |                               |      |                                  |      |                         |       |

| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|---|--------|----|------|---------|
|             |   |        |    |      |         |
| 参考書         |   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | テーマに基づき、プレゼンテーションの準備をしてください。<br>詳細は第1回オリエンテーションで説明します。  |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 池永理恵子研究室（1711） <a href="mailto:rieko-i@seirei.ac.jp">rieko-i@seirei.ac.jp</a><br>時間については、初回の授業時に提示する。 |        |    |      |         |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 学校看護援助特論Ⅱ   |
| 科目責任者         | 池永 理恵子  |
| 単位数他          | 2単位 (30時間) 選択 春semester   |
| 科目の位置付        | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |
| 科目概要          | 地域看護学における研究方法の種類と概要(量的研究、質的研究、混合研究法)、研究のプロセス(データ取得から分析まで)を、講義と演習を通して学び、看護実践と研究を結び付けて探求できる。  |
| 到達目標          | 1. 地域看護学における研究目的と意義が説明できる。<br>2. 地域看護学における研究方法の種類と概要を説明できる。<br>3. 地域看護学における研究のプロセスについて演習を通して理解できる。<br>4. 実践と研究を結び付けて考えることができる。  |
| 授業計画          | <p>&lt;担当教員名&gt;<br/>池永理恵子・西川浩昭・担当予定教員<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス 本講義の目的と概要 池永理恵子</p> <p>【地域看護学における量的研究】 西川浩昭</p> <p>第2回 データの種類と取得方法、分析の考え方と分析手法</p> <p>第3回 SPSSによる統計解析演習① 記述統計(代表値とばらつき)</p> <p>第4回 SPSSによる統計解析演習② 記述統計(相関係数、1次回帰、オッズ比)</p> <p>第5回 SPSSによる統計解析演習③ 統計学的推論(推定と検定)</p> <p>第6回 SPSSによる統計解析演習④ 統計学的推論(平均の差、割合の差)</p> <p>第7回 SPSSによる統計解析演習結果のプレゼンテーションとまとめ</p> <p>【公衆衛生看護学における研究】 担当予定教員</p> <p>第8回 地域における公衆衛生看護実践の分析等①</p> <p>第9回 地域における公衆衛生看護実践の分析等②</p> <p>【学校を中心とした地域看護学における質的研究】 池永理恵子</p> <p>第10回 質的帰納的分析演習① 質的研究分析ステップ①(例:コード化)</p> <p>第11回 質的帰納的分析演習② 質的研究分析ステップ②(例:サブカテゴリ化)</p> <p>第12回 質的帰納的分析演習③ 質的研究分析ステップ③(例:カテゴリ化)</p> <p>第13回 質的帰納的分析演習④ 質的研究分析ステップ④(例:テーマの抽出)</p> <p>第14回 質的帰納的分析演習結果のプレゼンテーションとまとめ</p> <p>第15回 関心のあるテーマの研究と分析について演習のまとめ 池永理恵子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業:第1-15回<br/>実務家教員や実務家による授業:第1回、8-15回</p> |
| 学修方法          | 演習を行いながら実践的に学ぶ。   |
| 評価方法          | 演習への取り組み40%、レポート60%   |
| 課題に対するフィードバック | 各演習後にまとめを行い、フィードバックする。  |
| 指定図書          | 南裕子, 野崎佐由美編(2017). 看護における研究, 第2版, 日本看護協会出版会<br>ISBN: 978-4-8180-2066-5  |

| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|---------|---|--------|----|------|---------|
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳井晴夫、緒方裕光編著 (2020) . 改訂新版 SPSS による統計データ解析. 現代数学社<br/>ISBN-13 978-4768705285</li> <li>・高木博文 (2011). 質的研究を科学する. 医学書院<br/>ISBN: 978-4-260-01208-9</li> </ul> 上記以外は担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。 |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 事前学習と事後学修内容は、テーマに応じて提示する。所要時間の目安は、各 1 時間程度である。  |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 西川浩昭研究室 (1620) hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br>担当予定教員 ( )<br>池永理恵子 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp<br><br>時間については、初回の授業時に提示する。   |        |    |      |         |

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 科目名    | 学校看護特論演習 I  |   |
| 科目責任者  | 池永 理恵子  |   |
| 単位数他   | 2 単位 (45 時間) 選択 秋 semester  |   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。  |   |
| 科目概要   | 地域看護学領域および学校看護の領域における子どもの健康課題の解決を図る方策や看護実践への研究成果活用について研究を進めるための汎用スキルとして論文クリテイクの基礎知識と技術を学び、討論やフィードバックを通して探究し、関連する論文のクリテイクを行い研究に対する洞察力を深める。   |   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学領域および学校看護の領域における研究課題が概観できる。</li> <li>2. 研究活動に必要な情報を収集することができる。</li> <li>3. 地域および学校における実践事例の健康課題や活動を分析し、構造化することができる。</li> <li>4. 研究課題に対するこれまでの研究の動向を把握することができる。</li> </ol>  |   |
| 授業計画   | <p>第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。</p> <p>第2回：学校看護の領域における研究課題の概観</p> <p>第3回：論文クリテイクとは</p> <p>第4回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識①<br/>(研究テーマと枠組、研究方法のクリテイク)</p> <p>第5回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識② (量的研究)</p> <p>第6回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識③ (質的研究)</p> <p>第7回：地域看護学領域における論文クリテイクの基礎知識④<br/>(研究結果と考察のクリテイク)</p> <p>第8回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス①</p> <p>第9回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表 (事例を通して)</p> <p>第10回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス②</p> <p>第11回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表 (事例を通して)</p> <p>第12回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス③</p> <p>第13回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表 (事例を通して)</p> <p>第14回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ①</p> <p>第15回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ②</p> <p>第16回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ③</p> <p>第17回：フィールドワーク (職場または学外活動において研究課題を見出す) ④</p> <p>第18回：フィールドワークの成果発表とディスカッション①</p> | <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>西<br/>川 浩昭</p> <p>西川 浩昭</p> <p>西川<br/>浩昭</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>岡本<br/>啓子</p> <p>岡本<br/>啓子</p> <p>中島<br/>敦子</p> <p>中島<br/>敦子</p> <p>古川<br/>恵美</p> <p>古川<br/>恵美</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 理恵子<br>第19回：フィールドワークの成果発表とディスカッション②<br>池永<br>理恵子<br>第20回：学校看護の領域における倫理的課題について<br>池永<br>理恵子<br>第21回：研究疑問から研究課題、研究の焦点化<br>池永<br>理恵子<br>第22回：研究疑問から研究課題、研究テーマの設定<br>池永<br>理恵子<br>第23回：学修成果の振り返りと課題発表<br>池永理恵子 |               |           |             |                |
| 学修方法          | 演習を行いながら実践的に学ぶ。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | フィールドワークへの参加状況 (20%)、ディスカッションへの参加状況 (20%)、各段階でのプレゼンテーション内容 (40%)、レポート (20%) を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 各演習後にまとめを行い、フィードバックする。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 牧本清子・山川みやえ 編著 (2020) . よくわかる看護研究論文のクリテイク. 日本看護協会出版会<br>ISBN : 978-4-8180-2271-3  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 上記以外は担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学習と事後学修内容は、テーマに応じて提示する。所要時間の目安は、各1時間程度である。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | オフィスアワー<br>西川浩昭研究室 (1620) hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br>池永理恵子 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp<br>時間については、初回の授業時に提示する。   |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 学校看護特論演習Ⅱ  |  |
| 科目責任者  | 池永 理恵子   |  |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 選択 秋 semester   |  |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |  |
| 科目概要   | 心身に疾患をもつ子どもの成長発達段階における看護ケアニーズと看護保健管理上の課題に対処するための方策や技術を理解する。また、他職種・関係部門との協働・連携や地域の社会資源の活用および連携システムの構築を学び、養護実践のリーダーに必要とされる看護実践力を修得する。  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患を持つ子どもの看護ケアにおける看護師の役割を理解できる。</li> <li>2. 入院から退院に移行する過程における多職種連携と看護支援について理解できる。</li> <li>3. 地域でケアを受ける子どもと家族の看護支援と連携システムについて理解できる。</li> <li>4. 学校における子どもの事故発生時に求められる養護教諭の看護実践力と連携力を獲得している。</li> </ol>  |  |
| 授業計画   | <p>第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。</p> <p>第2回：学校看護の領域における子どもの看護ケアニーズ</p> <p>第3回：医療的ケア児の現状および看護師の役割と課題</p> <p>第4回：小児慢性疾患の看護ケアと学校との連携</p> <p>第5回：子どもの事故発生状況の現状と看護師の役割</p> <p>第6回：子どもの事故発生時に必要な看護ケアと学校との連携</p> <p>第7回：思春期の精神疾患の現状と看護師の役割</p> <p>第8回：思春期の精神疾患に対する看護ケアと学校との連携</p> <p>第9回：在宅で看護ケアを受ける子どもの現状と看護師の役割</p> <p>第10回：在宅で看護ケアを受ける子どもや家族への支援と教育の役割</p> <p>第11回：学校における事故発生の現状と課題</p> <p>第12回：事故発生時に求められる養護教諭の看護実践能力と連携力</p> <p>第13回：養護教諭に求められる個人情報における倫理的配慮</p> <p>第14回：学修成果と振り返りと課題発表</p> <p>第15回：まとめ</p> | <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>宮谷<br/>恵</p> <p>宮谷<br/>恵</p> <p>藤浪<br/>千種</p> <p>藤浪<br/>千種</p> <p>入江<br/>拓</p> <p>入江<br/>拓</p> <p>山村<br/>江美子</p> <p>山村<br/>江美子</p> <p>中島<br/>敦子</p> <p>中<br/>島 敦子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> <p>池永<br/>理恵子</p> |
| 学修方法   | 演習を行いながら実践的に学ぶ。  |  |
| 評価方法   | 授業中の質疑・討議への参加状況 (30%)、プレゼンテーション内容 (30%)、レポート (40%) を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。  |  |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | 各演習後にまとめを行い、フィードバックする。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | 担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | 担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学習と事後学修内容は、テーマに応じて提示する。所要時間の目安は、各 1 時間程度である。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 池永理恵子 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp<br>宮谷 恵 (1713) megumi-m@seirei.ac.jp<br>藤浪 千種 (1208) chigusa-f@seirei.ac.jp<br>入江 拓 (3403) taku-i@seirei.ac.jp<br>山村江美子 (3412) emiko-y@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 学校看護特論実習   |
| 科目責任者         | 池永 理恵子   |
| 単位数他          | 4 単位 (180 時間) 選択 1 年次秋 Semester (120 時間)、2 年次春 Semester (60 時間)  |
| 科目の位置付        | (6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要          | 地域看護学および学校看護の領域においての各科目等、今まで学修した内容を統合して地域や学校の健康課題解決のための看護実践能力の向上を目指す。さらに、子どもの健康水準および健康リテラシーを高め、健やかな成長発達を支援するための社会資源の活用と連携システムについて探求する。実習は特論実習Ⅰと特論実習Ⅱで構成し、特論実習Ⅰは見学、補助を主とし、特論実習Ⅱでは指導者の指導のもと、介入的な関わりのある内容の実習とする。履修期間は通年とする。   |
| 到達目標          | 1. 特論実習Ⅰでは、研究テーマと関連させて実習先の保健・医療施設や学校機関等を事例に養護活動や学校看護の取り組みを理解する。<br>2. 特論実習Ⅱでは、研究テーマと関連させて実習先の医療施設や学校機関・施設等において養護教諭が関わる課題を抽出し、連携システム構築のための提言の方向性を考えることができる。   |
| 授業計画          | <p>授業計画<br/> &lt;実習Ⅰおよび実習Ⅱ&gt;<br/> 第 1 回：ガイダンス 本講義の目的と概要を説明をする。<br/> 池永理恵子<br/> 第 2 回：研究疑問（リサーチクエスチョン）、研究テーマ発表<br/> 池永理恵子<br/> 第 3 回：研究テーマとの関連で最新の研究動向を把握する<br/> 池永理恵子<br/> 第 4 回：実習Ⅰの実習先とオリエンテーション、実習目標発表<br/> 池永理恵子<br/> 第 5 回～25 回：研究テーマと関連させた医療機関または学校機関・施設の実習<br/> 池永理恵子<br/> 第 26 回～第 27 回：実習Ⅰ記録のまとめと振り返り<br/> 池永理恵子<br/> 第 28 回～第 30 回：実習Ⅰ成果の発表、助言を受け、研究テーマに沿った考察を行う。<br/> 池永理恵子<br/> 第 31 回～34 回：実習Ⅱの実習先の開拓や依頼等実習の事前準備を行う。<br/> 池永理恵子<br/> 第 35 回～第 55 回：研究テーマと関連させた医療機関または学校機関・施設の実習<br/> 池永理恵子<br/> 第 56 回～第 57 回：実習記録のまとめと振り返り<br/> 池永理恵子<br/> 第 58 回～第 60 回：実習Ⅱ成果の発表、助言を受け、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。<br/> 池永理恵子<br/> *研究テーマにより、実習先等は検討することがある。</p> |
| 学修方法          | 各自の学習課題・研究課題に応じた実習施設を選択して自ら実習計画を立案し、主体的に実習に取り組む。   |
| 評価方法          | 実習計画書 (20%) 実習に対する取り組み姿勢・態度 (40%)、実習成果レポート (30%)、実習報告 (10%) を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。   |
| 課題に対するフィードバック | 実習計画に対する助言を行い、実習計画の修正を行う。実習中は、中間報告を行い実習の修正を行い、フィードバックを行う。<br>実習最終の報告に対してフィードバックを行う。  |

|             |   |               |           |             |                |
|-------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 指定図書        | オリエンテーション時に提示する。                          |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>  | <b>著者</b>                                 | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|             |   |               |           |             |                |
| 参考書         | 実習中に随時提示する。学生は研究テーマや実習に関連した文献や資料を各自で探索する。 |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>  | <b>著者</b>                                 | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|             |   |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | 関心あるテーマについて事前学修としてレポートを作成する。              |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | 池永理恵子 (1711) rieko-i@seirei.ac.jp         |               |           |             |                |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 地域看護学特別研究 (三輪眞知子)  |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 三輪 眞知子   |        |    |      |         |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 選択 通年  |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | <p>(4) 看護学分野の専攻領域における研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究会計画を立案することができる。</p> <p>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。</p> <p>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流できる。</p>  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 修士論文を作成するために必要な地域看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。</li> <li>研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。</li> <li>得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。</li> </ol>   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ&gt;</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>① 1年次春 semester：これまでに学修した内容を用いて先行研究論文の吟味や討論を行い研究課題について焦点を絞る。<br/> 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>② 1年次秋 semester：春 semester の学修を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、<br/> 研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/> 発表態度 (30%)、発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>③ 2年次春 semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画書の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後に、<br/> 調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/> 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%)、データ収集の適切性(30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>④ 2年次秋 semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br/> 論文の完成度 (70%)、第三者の評価による修正の適切性 (30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | ディスカッション、発表、個別指導、講義  |        |    |      |         |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 各段階において、研究課題、研究計画書作成、分析、論文の完成において、フィードバックを行う。  |        |    |      |         |
| 指定図書          |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |

|         |  |        |    |      |         |
|---------|--|--------|----|------|---------|
|         |  |        |    |      |         |
| 参考書     |  |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 各段階において、研究のテーマに沿って事前・事後学修を行う。学生が自ら課題について学修するとともに、教員からも課題を提示する。   |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 三輪真知子 (1612) machiko-m@seirei.ac.jp<br>江口晶子研究室 (1207) akiko-e@seirei.ac.jp<br>西川浩昭研究室 (1620) hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br><br>時間については、初回の授業時に提示する。 |        |    |      |         |



|             |  |               |           |             |                |
|-------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 参考書         |  |               |           |             |                |
| <u>書籍名</u>  | <u>著者</u>  | <u>発売元出版社</u> | <u>価格</u> | <u>ISBN</u> | <u>媒体種別／備考</u> |
|             |  |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | 各段階において、研究のテーマに沿って事前・事後学修を行う。学生が自ら課題について学修するとともに、教員からも課題を提示する。   |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | 池永理恵子研究室 (1711) rieko-i@seoreo.ac.jp<br>西川浩昭研究室 (1620) hiroaki-ni@seirei.ac.jp<br>三輪眞知子 (1612) machiko-m@seirei.ac.jp<br>江口晶子研究室 (1207) akiko-e@seirei.ac.jp<br>担当予定教員 ( )<br>時間については、初回の授業時に提示する。 |               |           |             |                |

| 科目名   | 在宅看護学特論  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
|---|--|-------------|---------|--|------|--|-------|---|------|--|-------|--|------|---|------|--|------|---|------|---|------|
| 科目責任者   | 酒井 昌子  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 単位数他  | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修, 1 年次春semester  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 科目の位置付  | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 科目概要  | 多様で個別的な在宅療養者とその家族への看護を、効果的に実践するために必要な高度な看護判断・看護実践・評価する能力を修得するために、在宅看護の理念、対象理解や在宅看護を提供する基盤となる諸理論および地域医療システム及び諸制度、倫理的配慮などについて学習し、対象者の生活する場において看護援助を提供する在宅看護過程の展開方法を理解する。在宅看護の対象者である在宅療養者とその家族の健康生活上の援助ニーズの把握方法と対象者の生活様式に見合った、より質の高い看護援助を提供するための方法を理解する。地域包括ケアシステムにおける社会資源の理解、システムの組織化の方法、暮らしの場の多様な看護職の活動等について理解する。   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 到達目標  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者の理解および在宅看護を提供する基盤となる諸理論について文献の読解、討議を通じて理解を深めることができる。</li> <li>2. 我が国の在宅ケア及び在宅看護の歴史的変遷を通して、在宅医療・訪問看護・在宅ケアの現状や課題を理解できる。</li> <li>3. 在宅療養に関連する保健医療福祉制度の諸制度とケアシステムを具体的に述べることができる。</li> <li>4. ケアマネジメントの一連の過程に関する概念・理論を理解し、効果的な支援とその方法について説明することができる。</li> <li>5. 療養上複雑で多様な課題を持つ在宅療養者・家族とケア提供者の在宅療養を支</li> </ol>   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 授業計画  | <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 オリエンテーション<br/>在宅看護の概念<br/>訪問看護制度の創設と発展</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第2回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ①<br/>・医療法、医療・介護総合確保推進法、介護保険法、健康保険法、<br/>障害者総合支援法、身体障害者手帳、難病法、特定疾病治療研究事業など</td> <td style="text-align: right;">野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第3回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ②<br/>・在宅療養者に対する安全管理に関する制度、医療安全政策の理解</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第4回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ③<br/>・在宅医療における倫理的課題と関連する法律<br/>・高齢者虐待防止法、成年後見制度、個人情報保護法など</td> <td style="text-align: right;">野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第5回 在宅看護を支える理論 ①<br/>対象・環境のとらえ方 コミュニティズアズパートナーモデル、<br/>看護実践 セルフケア理論、ヒューマンケアリング理論、希望実現モデル</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第6回 在宅看護を支える理論 ②<br/>行動理論 ヘルスビリーフモデル、動機付け理論、移行看護<br/>社会資源の開発・組織化 プリシード・プロシードモデル</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第7回 健康と生活の総合的アセスメント 理論の理解①<br/>継続看護マネジメントモデル、</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第8回 健康と生活の統合的アセスメント 理論の理解②<br/>ICF、MDS-HS、インターライ方式、オマハシステム</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第9回 在宅で療養するための家族を理解するための理論の理解<br/>・家族発達理論<br/>・カルガリー式家族アセスメントモデル<br/>・渡辺式家族アセスメントモデル<br/>・家族生活力量モデル</td> <td style="text-align: right;">酒井昌子</td> </tr> </tbody> </table> | ＜授業内容・テーマ等＞ | ＜担当教員名＞ | 第1回 オリエンテーション<br>在宅看護の概念<br>訪問看護制度の創設と発展 | 酒井昌子 | 第2回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ①<br>・医療法、医療・介護総合確保推進法、介護保険法、健康保険法、<br>障害者総合支援法、身体障害者手帳、難病法、特定疾病治療研究事業など | 野田由佳里 | 第3回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ②<br>・在宅療養者に対する安全管理に関する制度、医療安全政策の理解 | 酒井昌子 | 第4回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ③<br>・在宅医療における倫理的課題と関連する法律<br>・高齢者虐待防止法、成年後見制度、個人情報保護法など | 野田由佳里 | 第5回 在宅看護を支える理論 ①<br>対象・環境のとらえ方 コミュニティズアズパートナーモデル、<br>看護実践 セルフケア理論、ヒューマンケアリング理論、希望実現モデル | 酒井昌子 | 第6回 在宅看護を支える理論 ②<br>行動理論 ヘルスビリーフモデル、動機付け理論、移行看護<br>社会資源の開発・組織化 プリシード・プロシードモデル | 酒井昌子 | 第7回 健康と生活の総合的アセスメント 理論の理解①<br>継続看護マネジメントモデル、 | 酒井昌子 | 第8回 健康と生活の統合的アセスメント 理論の理解②<br>ICF、MDS-HS、インターライ方式、オマハシステム | 酒井昌子 | 第9回 在宅で療養するための家族を理解するための理論の理解<br>・家族発達理論<br>・カルガリー式家族アセスメントモデル<br>・渡辺式家族アセスメントモデル<br>・家族生活力量モデル | 酒井昌子 |
| ＜授業内容・テーマ等＞   | ＜担当教員名＞  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第1回 オリエンテーション<br>在宅看護の概念<br>訪問看護制度の創設と発展  | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第2回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ①<br>・医療法、医療・介護総合確保推進法、介護保険法、健康保険法、<br>障害者総合支援法、身体障害者手帳、難病法、特定疾病治療研究事業など  | 野田由佳里  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第3回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ②<br>・在宅療養者に対する安全管理に関する制度、医療安全政策の理解                                       | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第4回 在宅療養に関する保健福祉制度の理解 ③<br>・在宅医療における倫理的課題と関連する法律<br>・高齢者虐待防止法、成年後見制度、個人情報保護法など                  | 野田由佳里  |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第5回 在宅看護を支える理論 ①<br>対象・環境のとらえ方 コミュニティズアズパートナーモデル、<br>看護実践 セルフケア理論、ヒューマンケアリング理論、希望実現モデル          | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第6回 在宅看護を支える理論 ②<br>行動理論 ヘルスビリーフモデル、動機付け理論、移行看護<br>社会資源の開発・組織化 プリシード・プロシードモデル                   | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第7回 健康と生活の総合的アセスメント 理論の理解①<br>継続看護マネジメントモデル、  | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第8回 健康と生活の統合的アセスメント 理論の理解②<br>ICF、MDS-HS、インターライ方式、オマハシステム                                       | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |
| 第9回 在宅で療養するための家族を理解するための理論の理解<br>・家族発達理論<br>・カルガリー式家族アセスメントモデル<br>・渡辺式家族アセスメントモデル<br>・家族生活力量モデル | 酒井昌子   |             |         |  |      |  |       |   |      |  |       |  |      |   |      |  |      |   |      |   |      |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
|               | <p>第10回 在宅療養に関するケアマネジメントの構成要素及びプロセス 酒井 昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントのプロセスと機能</li> <li>・ケアマネジメントの方法と評価</li> </ul> <p>第11回 地域包括ケアシステムの構築と推進 ゲストスピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国の地域包括ケアシステムの概念と特性</li> <li>・地域の地域包括ケアシステムの推進事業</li> <li>・地域医療介護連携</li> <li>・地域包括ケアシステムにおける看護師の役割</li> </ul> <p>第12回 在宅ケアにおける倫理的課題と意思決定支援 酒井昌子</p> <p>第13回 在宅療養に関するケアマネジメントの事例検討 ① 酒井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近経験したケアマネジメント事例の検討 (高齢者、難病患者など)</li> </ul> <p>第14回 在宅療養者・家族と在宅ケア提供者の倫理的課題 事例検討 ② 酒井 昌子</p> <p>第15回 本科目のまとめ 酒井昌子</p> <p>上記の学習全体を通して、在宅看護スペシャリストに必要な能力と役割について検討・考察する。</p> <p>※この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向または多方向に行われる討論を伴う授業：第2回～第15回</li> <li>・実務家教員や実務家による授業：第2、4、11回</li> </ul> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義・ゼミ形式で進める  |        |    |      |         |
| 評価方法          | 授業参加・貢献度 (20%)・プレゼンテーション 30%、課題レポート 50%  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業では発表内容についてコメントを提示する。<br>レポートは評価後にコメントを記入した内容を返却する。  |        |    |      |         |
| 指定図書          |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |
| 参考書           |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |

|             |   |
|-------------|---|
| 事前・<br>事後学修 | 事前学修：授業に際して参考文献の画有為投下所を熟読しておく。(14 時間)<br>事後学修：講義内容の理解を深めるためにテキストを読み直す (15 時間)<br>課題発表の順義を行う (2 時間)                  |
| オフィス<br>アワー | 酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>野田：2706 研究室 E-mail: yukari-n@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。 |

|        |   |  |
|--------|---|--|
| 科目名    | 在宅看護学援助特論 I   |  |
| 科目責任者  | 山村 江美子  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修, 1 年次春semester   |  |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |  |
| 科目概要   | 在宅療養者とその家族の健康と生活に活用できる看護理論やモデルの学修を基盤に在宅環境下におけるフィジカルアセスメント、セルフケアアセスメント、家族アセスメント、生活環境のアセスメントを学修し、卓越した在宅看護実践に必要な療養者のニーズに対する臨床判断能力を理解する。  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅環境下において行われる療養者の心身のアセスメントに必要な理論やモデルを説明できる。</li> <li>2. 在宅療養者の身体機能の特性に基づいて、的確なフィジカルアセスメントについて学ぶ。</li> <li>3. 在宅療養者の心理・社会的特性に基づいて、適切なセルフケアアセスメントおよび生活環境のアセスメントについて学ぶ。</li> <li>4. フィジカルアセスメント、セルフケアアセスメント、家族アセスメントおよび生活環境のアセスメントを統合し、在宅環境下における卓越した看護実践に必要な臨床判断を考察する。</li> </ol>  |  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 在宅看護の基盤となる看護理論・モデル①<br/>・ICF モデルの理念と ICF モデル</p> <p>第2回 在宅看護の基盤となる看護理論・モデル②<br/>・在宅療養者のセルフケアおよびセルフマネジメント<br/>・ストレングスモデル、ソーシャルサポート</p> <p>第3回 在宅看護のアセスメントの特徴と課題<br/>・利用者中心<br/>・療養者の生活と医療の統合、家族、地域（生活環境の視点）<br/>・時間的、予測的な視点</p> <p>第4回 在宅アウトカムベースのアセスメントツール<br/>・オマハシステム・OASIS・インターライ方式（MDS-HC）</p> <p>第5回 療養者家族をアセスメントする理論と援助方法①<br/>・家族の定義と家族看護支援の基本的な考え方<br/>・単位としての家族、家族機能としてのヘルスケア力</p> <p>第6回 療養者家族をアセスメントする理論と援助方法②<br/>・家族アセスメントのための看護理論<br/>・家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、家族ライフスタイル論</p> <p>第7回 療養者家族をアセスメントする理論と援助方法③<br/>・家族アセスメント支援モデル家族同心球環境モデル（CSFEM）、<br/>・渡辺式家族アセスメント、カルガリー式家族アセスメント</p> <p>第8回 療養者家族をアセスメントする理論と援助方法④<br/>・渡辺式家族アセスメントモデルによる家族看護過程の展開</p> <p>第9回 在宅療養者のフィジカルアセスメント①<br/>・呼吸・循環・消化・代謝</p> <p>第10回 在宅療養者のフィジカルアセスメント②</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>酒井 昌子</p> <p>酒井 昌子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>・筋骨格・感覚・皮膚・粘膜</p> <p>第11回 生活環境に関するアセスメント <span style="float:right">山村江美子</span><br/>         ・生活とはなにか、生活を捉える<br/>         ・在宅療養者の安全で安心な療養生活のための環境アセスメント<br/>         (ADLと療養・住環境のアセスメント、改修)<br/>         ・療養者及び家族の生活の質を高めるための生活環境アセスメント<br/>         (ソーシャル・サポート・ソーシャルキャピタル)</p> <p>第12回 生活と医療を統合する継続看護マネジメント① <span style="float:right">酒井昌子</span><br/>         ・継続看護の再考</p> <p>第13回 生活と医療を統合する継続看護マネジメント② <span style="float:right">酒井昌子</span><br/>         ・継続看護マネジメントモデルの概念と特徴<br/>         ・継続看護マネジメントの展開</p> <p>第14回 在宅看護における包括的アセスメントの特性 <span style="float:right">酒井昌子</span><br/>         ・在宅療養とその家族の事例について包括的アセスメント<br/>         (ICFモデルおよび継続看護アセスメント、フィジカルアセスメント、<br/>         症状・徴候アセスメント、セルフケアアセスメント、家族アセスメント、生活環境アセスメント)</p> <p>第15回 在宅看護における包括的アセスメントの検討とまとめ <span style="float:right">酒井昌子</span></p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義・セミナー形式   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 70%、課題レポート 30%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業では発表内容についてコメントを提示する<br>レポートは評価後にコメントを記入した内容を返却する   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |

|             |  |
|-------------|--|
| 事前・<br>事後学修 | 選択した課題について、テーマに関する文献を読み、プレゼンテーションの準備。  |
| オフィス<br>アワー | 山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br>酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。 |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 在宅看護学援助特論Ⅱ   |  |
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修, 1 年次春semester  |  |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |  |
| 科目概要   | 在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程の展開を学ぶ。療養上複雑で多様な課題を持つ療養者やその家族に対して、倫理的判断・臨床的判断を統合して問題解決方法を提案し実施できる高度な専門性を要する看護実践能力を修得する。さらに、在宅療養の場や状況の特徴を踏まえた感染予防、事故予防の安全管理・リスクマネジメントの具体的な方法を学修する。   |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅ケアにおける療養者・家族への倫理的判断・臨床的判断に関する基本的な概念や理論について理解できる。</li> <li>2. 在宅ケアにおける療養者・家族への倫理的判断・臨床的判断に必要な能力や技術を探求する。</li> <li>3. 在宅ケアで遭遇する可能性の高い倫理的課題について具体的な問題解決方法を検討する。</li> <li>4. 療養上複雑で多様な課題を持つ療養者・家族及びケア提供者について倫理的判・臨床的判断を統合して、問題解決方法を探求する。</li> <li>5. 感染管理・事故予防などの在宅における安全管理・リスクマネジメントの特性と実践方法について理解できる。</li> </ol>   |  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回 看護倫理の基礎知識<br/>酒井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理原則</li> <li>・倫理的判断のための基本的な概念としての徳の倫理、ケアリング、アドボカシーなど、文化的価値観や専門職としての倫理的責任について学ぶ。</li> </ul> <p>第2回 在宅ケアにおける倫理的問題の特徴<br/>井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師や訪問看護師が遭遇することが多い地域看護に特徴的な倫理的問題の状況や事例及び最近の動向や研究などについて討論する。</li> <li>・倫理的課題を判断するための理論及びモデル</li> </ul> <p>第3回 在宅ケアにおける意思決定支援<br/>昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療養者とその家族の意思決定の様相を理解し、意思決定に必要なコミュニケーションスキルやツールを学び、具体的な支援について討論する。</li> <li>・アドバンスケアプランにみる意思表示</li> <li>・在宅ケアチームにおける合意形成</li> </ul> <p>第4回 臨床的・倫理的判断を踏まえた看護過程の展開①<br/>酒井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅における看護過程の特徴</li> <li>・在宅看護過程で活用できる枠組み (オマハシステム、継続看護マネジメント)</li> </ul> <p>第5回 臨床的・倫理的判断を踏まえた看護過程の展開②<br/>酒井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討及び事例研究の方法</li> </ul> <p>第6・7回 在宅ケアにおける看護過程の展開①②<br/>山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療養上複雑で多様な問題をもつ認知症の事例について、生活ニーズを抽出し倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。</li> <li>・プレゼンテーション、討議</li> </ul> <p>第8・9回 在宅ケアにおける看護過程の展開③④<br/>山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療養上複雑で多様な問題を持つ難病もしくは小児の事例について、医療を含む生活ニーズを抽出し倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。</li> <li>・プレゼンテーション、討議</li> </ul> <p>第10・11回 在宅ケアにおける看護過程の展開⑤⑥<br/>酒井昌子</p> | <p>&lt;</p> <p>酒</p> <p>酒井</p> <p>酒井昌子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>酒井昌子</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>・療養上複雑で多様な問題を持つ終末期の事例について、生活ニーズを抽出し倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。</p> <p>・プレゼンテーション、討議</p> <p>第12・13・14回 在宅療養におけるリスクマネジメント①②③ 酒井昌子</p> <p>・リスクマネジメントの基本的な考え方</p> <p>・在宅におけるリスクマネジメントの特性</p> <p>・感染予防と安全管理</p> <p>・災害対応</p> <p>第15回 本科目のまとめ 酒井昌子</p> <p>・事例による在宅看護過程をリフレクションし、問題解決方法を検討するとともに、在宅看護における看護援助支援方法の課題や在宅看護専門看護師の役割を考察する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 選択した課題について、テーマに関する文献を読み、プレゼンテーションの準備をしてください。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。  |               |           |             |                |

| 科目名  | 在宅看護学援助特論Ⅲ   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
|--|--|-------------|---------|--|------------|--|------------|---|------------|--|------------|---|------------|--|------------|---|------------|---|------------|---|-------------------|--|-------------------|------------------|------------|
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修, 1年次秋semester   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 科目の位置付   | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 科目概要   | 医療機関の包括的支援を基盤として、在宅療養者に発生頻度の高い疾患や症候群の検査、処置、対症療法、薬物調整等を学び、キュアとケアを統合した看護実践を探究する。   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における主要な疾患の診断と治療を理解できる。</li> <li>2. 医療処置の必要な対象には医療機関の包括的支援を基盤として、検査、処置、対症療法、薬物調整などについて、アセスメントを実施ができる看護方法を探究する。</li> <li>3. 在宅の主な医療処置について、医療機器や器具の取り扱い方法を学ぶとともに療養者および家族への指導方法についての能力を養う。</li> <li>4. 緩和ケアの症状コントロール、疼痛管理など在宅で終末期を迎える対象と家族への具体的な支援方法を理解できる。</li> <li>5. 医療的ケアおよび緩和ケアを要する療養者に対し、在宅療養支援診療</li> </ol>   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 授業計画   | <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 在宅医療総論<br/>・ 訪問診療の実際とその意義 ・ 在宅医療の診療の基本と特徴<br/>・ 在宅医療を支える地域資源</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第2回 循環器系疾患の診断と治療<br/>・ 在宅医療 (外来を含む) における循環器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第3回 呼吸器系疾患の診断と治療①<br/>・ 在宅医療 (外来を含む) における呼吸器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第4回 呼吸器系疾患の診断と治療②<br/>・ 在宅酸素療養法を含む疾病管理と症状マネジメント</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第5回 脳血管障害の診断と治療<br/>・ 在宅医療 (外来を含む) における脳血管系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。<br/>・ 疾患から生じる機能障害への対応とリハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第6回 内分泌系・代謝系疾患の診断と治療<br/>・ 在宅医療 (外来を含む) における内分泌系・代謝系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。<br/>・ 糖尿病、腎疾患を中心とした疾病管理</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第7回 在宅療養における感染症とその対策について<br/>・ 在宅における発熱時や感染徴候のアセスメント及び薬物調整を含めた治療方法、予防的ケア</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第8回 生活機能障害と在宅医療<br/>・ サルコペニアとフレイル・栄養評価と栄養処方<br/>・ 認知症の診断と治療</td> <td style="text-align: right;">小野 宏志 (医師)</td> </tr> <tr> <td>第9回 認知症<br/>・ 認知症の非薬物療法<br/>・ 認知症のステージアプローチ</td> <td style="text-align: right;">佐藤 晶子 (老人看護専門看護師)</td> </tr> <tr> <td>第10回 褥瘡<br/>・ 在宅褥瘡ケアの特殊性<br/>・ 褥瘡の予防<br/>・ 在宅褥瘡のアセスメントと褥瘡ケア<br/>・ 口腔ケア</td> <td style="text-align: right;">佐藤 晶子 (老人看護専門看護師)</td> </tr> <tr> <td>第11回 神経難病の診断と治療①</td> <td style="text-align: right;">杉本 昌弘 (医師)</td> </tr> </tbody> </table> | ＜授業内容・テーマ等＞ | ＜担当教員名＞ | 第1回 在宅医療総論<br>・ 訪問診療の実際とその意義 ・ 在宅医療の診療の基本と特徴<br>・ 在宅医療を支える地域資源 | 小野 宏志 (医師) | 第2回 循環器系疾患の診断と治療<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における循環器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。 | 小野 宏志 (医師) | 第3回 呼吸器系疾患の診断と治療①<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における呼吸器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。 | 小野 宏志 (医師) | 第4回 呼吸器系疾患の診断と治療②<br>・ 在宅酸素療養法を含む疾病管理と症状マネジメント | 小野 宏志 (医師) | 第5回 脳血管障害の診断と治療<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における脳血管系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。<br>・ 疾患から生じる機能障害への対応とリハビリテーション | 小野 宏志 (医師) | 第6回 内分泌系・代謝系疾患の診断と治療<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における内分泌系・代謝系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。<br>・ 糖尿病、腎疾患を中心とした疾病管理 | 小野 宏志 (医師) | 第7回 在宅療養における感染症とその対策について<br>・ 在宅における発熱時や感染徴候のアセスメント及び薬物調整を含めた治療方法、予防的ケア | 小野 宏志 (医師) | 第8回 生活機能障害と在宅医療<br>・ サルコペニアとフレイル・栄養評価と栄養処方<br>・ 認知症の診断と治療 | 小野 宏志 (医師) | 第9回 認知症<br>・ 認知症の非薬物療法<br>・ 認知症のステージアプローチ | 佐藤 晶子 (老人看護専門看護師) | 第10回 褥瘡<br>・ 在宅褥瘡ケアの特殊性<br>・ 褥瘡の予防<br>・ 在宅褥瘡のアセスメントと褥瘡ケア<br>・ 口腔ケア | 佐藤 晶子 (老人看護専門看護師) | 第11回 神経難病の診断と治療① | 杉本 昌弘 (医師) |
| ＜授業内容・テーマ等＞  | ＜担当教員名＞  |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第1回 在宅医療総論<br>・ 訪問診療の実際とその意義 ・ 在宅医療の診療の基本と特徴<br>・ 在宅医療を支える地域資源   | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第2回 循環器系疾患の診断と治療<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における循環器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。                                 | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第3回 呼吸器系疾患の診断と治療①<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における呼吸器疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。                                | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第4回 呼吸器系疾患の診断と治療②<br>・ 在宅酸素療養法を含む疾病管理と症状マネジメント   | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第5回 脳血管障害の診断と治療<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における脳血管系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。<br>・ 疾患から生じる機能障害への対応とリハビリテーション  | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第6回 内分泌系・代謝系疾患の診断と治療<br>・ 在宅医療 (外来を含む) における内分泌系・代謝系疾患の診断と治療 (検査方法、処置、対症療法、薬物治療を含む)。<br>・ 糖尿病、腎疾患を中心とした疾病管理 | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第7回 在宅療養における感染症とその対策について<br>・ 在宅における発熱時や感染徴候のアセスメント及び薬物調整を含めた治療方法、予防的ケア                                    | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第8回 生活機能障害と在宅医療<br>・ サルコペニアとフレイル・栄養評価と栄養処方<br>・ 認知症の診断と治療  | 小野 宏志 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第9回 認知症<br>・ 認知症の非薬物療法<br>・ 認知症のステージアプローチ  | 佐藤 晶子 (老人看護専門看護師)  |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第10回 褥瘡<br>・ 在宅褥瘡ケアの特殊性<br>・ 褥瘡の予防<br>・ 在宅褥瘡のアセスメントと褥瘡ケア<br>・ 口腔ケア   | 佐藤 晶子 (老人看護専門看護師)  |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |
| 第11回 神経難病の診断と治療①   | 杉本 昌弘 (医師)   |             |         |  |            |  |            |   |            |  |            |   |            |  |            |   |            |   |            |   |                   |  |                   |                  |            |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>・在宅医療（外来を含む）における神経難病の診断と治療（検査方法、処置、対処療法、薬物療<br/>治療を含む）</p> <p>第12回 神経難病の診断と治療② 杉本 昌弘（医師）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋萎縮性側索硬化症（ALS）、小脳脊髄変性症、パーキンソン病</li> <li>・在宅人工呼吸器HMVおよび在宅NPPVの操作と管理法</li> <li>・合併症対処方法</li> </ul> <p>第13回 在宅における緩和ケア① 森田 達也（医師）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん性疼痛コントロール基本的な考え方</li> <li>・疼痛のアセスメントと除痛の評価方法</li> <li>・鎮痛剤投与方法（内服、経皮吸収、座薬、持続皮下注射）</li> </ul> <p>第14回 在宅における緩和ケア② 森田 達也（医師）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非がん疾患の軌道の特徴と予後予測</li> <li>・非がん疾患の苦痛の特徴</li> <li>・死亡まで過程と病態</li> <li>・死亡前後に生じる苦痛と緩和</li> </ul> <p>第15回・在宅における緩和ケア 酒井昌子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい看取り方・グリーフケア</li> <li>・アドバンスケアプランニング</li> <li>・在宅医療における看護師の役割</li> </ul> <p>※本科目は、「実践的な方法による授業」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務家教員や実務家による授業 1～15回</li> </ul> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート 50%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | 授業内で適宜資料を提示する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 授業内で適宜資料を提示する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学修：授業に際して指定図書、参考文献の該当箇所を熟読しておく（14時間）<br>事後学修：講義内容を理解を深めるために配布資料、参考資料を読み直す（15時間）<br>課題の整理を行う（1時間）   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 酒井：3410研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。  |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 在宅看護学援助特論IV  |  |
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修, 1 年次秋 semester   |  |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |  |
| 科目概要   | 訪問看護事業所の開設、効果的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について探求する。さらに、在宅看護の効果とその根拠、ケアの質評価とケア効果を高める方法など研究的手法を活用して検討する。  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーションなど在宅ケア事業所の開設方法について理解できる。</li> <li>2. 訪問看護ステーションの効果的な管理・運営及び経営戦略を理解できる。</li> <li>3. 在宅看護の質保証について、評価の視点や研究方法を学修し、在宅看護の質改善のための事業計画を作成することを通して探求する。</li> </ol>   |  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 訪問看護ステーションの管理・運営①<br/> ・訪問看護ステーションに関わる諸制度 (聖隷訪問サービス統括所長)<br/> ・訪問看護に関連する介護報酬と診療報酬及び公費負担医療制度の基礎知識</p> <p>第2回 訪問看護ステーションの管理・運営②<br/> ・財務管理 (聖隷訪問サービス統括所長)</p> <p>第3回 訪問看護ステーションの管理・運営③<br/> ・人材管理 (聖隷訪問サービス統括所長)</p> <p>第4回 訪問看護ステーションの管理・運営④<br/> ・情報管理と安全管理 (聖隷訪問サービス統括所長)</p> <p>第5回 訪問看護ステーションにおける人材育成① (聖隷訪問看護 ST 所長)<br/> ・訪問看護における OJT (On the job training) の目的と意義 (聖隷訪問看護 ST 所長)<br/> ・訪問看護における OJT の現状と課題</p> <p>第6回 訪問看護ステーションにおける人材育成②<br/> ・新卒者訪問看護師育成プログラム (聖隷訪問看護 ST 所長)<br/> ・訪問看護師のラダー等からみる訪問看護実践能力と育成計画</p> <p>第7回 仮想訪問看護ステーションの開設計画、事業計画の作成①<br/> ・地域特性および訪問看護市場の市場分析について (聖隷訪問サービス統括所長)</p> <p>第8回 仮想訪問看護ステーションの開設計画、事業計画の作成②<br/> ・訪問看護ステーションの特徴と運営方針、広報活動 (聖隷訪問サービス統括所長)</p> <p>第9回 在宅看護の質評価について考える (討議)<br/> ・訪問看護の質とは<br/> ・訪問看護の質評価</p> <p>第10回 在宅看護の質の評価方法<br/> ・ドナベディアン医療の質モデル<br/> ・看護の質評価方法<br/> ・訪問看護質評価のためのガイドライン</p> <p>第11回 訪問看護の質評価とケア効果を高める方法①<br/> ・演習用に作成した事業所の情報を用いた SWOT 分析演習</p> <p>第12回 訪問看護の質評価とケア効果を高める方法②<br/> ・演習用に作成した事業所の情報を用いた改善計画立案演習</p> <p>第13回 訪問看護の質評価とケア効果を高める方法③<br/> ・演習用事業所の質評価と改善に向けての提言書作成演習</p> <p>第14回 訪問看護事業所の開設と経営戦略 (討議) ①</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>尾田優美子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>尾田優美子</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | (聖隷訪問サービス)  |               |           |             |                |
|               | 統括所長)<br>・演習事例の分析を通し、将来、持続可能性のある訪問看護事業所の開設や経営戦略を考える<br>第15回 訪問看護事業所の開設と経営戦略(討議とまとめ)②<br>・演習事例の分析を通し、将来、持続可能性のある訪問看護事業所の開設や経営戦略を考える<br>尾田優美子<br>(聖隷訪問サービス統括所長)<br><br>※本科目は、「実践的な方法による授業である」<br>実務家による授業： 第1～8回<br>双方向または多方向に行われる授業： 14, 15回 |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 授業内で適宜資料する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | 授業内で適宜資料を提示する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 選択した課題について、テーマに関する文献を読みプレゼンテーションの準備をしてください。<br>課題レポート：テーマに関する事例検討あるいは文献検討   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。  |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 在宅看護学特論演習  |
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |
| 単位数他   | 2単位 (45時間) 修士論文コース 選択, 1年次秋semester  |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 在宅看護学領域において問題、課題となる看護現象を理解するために、社会の変化、保健医療福祉の動向、在宅看護の概念や関連する諸理論、他学問分野の関心や発展等を踏まえて、在宅看護の対象者のニーズや課題、新しい看護のアプローチについて探索する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護学領域における研究の動向を理解する。</li> <li>2. 関心のあるテーマを基に文献検討し、臨床実践などの経験も交えて、研究疑問、研究課題を明らかにすることができる。</li> <li>3. 研究計画書作成のプロセスに沿って、研究課題の明確化、研究方法の選択と決定、研究手順、研究のゴール (アウトカム) 等を検討し、研究デザインを描くことができる。</li> <li>4. 看護実践及び研究実践上の倫理的課題や倫理的ジレンマについて在宅看護学の視点で考察できる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>学生の関心や関心のあるテーマを基に、研究の意義、研究方法とその実現可能性や検証方法の適切性などの観点から文献検討を行う。</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：授業の進め方に関するオリエンテーション 酒井 昌子</p> <p>第2回：リサーチセッションとは何か 酒井 昌子</p> <p>第3回：研究課題を問う①在宅看護学領域における問題意識 酒井 昌子</p> <p>第4回：研究課題を問う②研究疑問の構成要素・キーワード 酒井 昌子</p> <p>第5回：研究疑問を問う③研究疑問のレベル 酒井 昌子</p> <p>第6回：文献検討① 文献検討の知識と技術 酒井 昌子</p> <p>第7回：文献検討② 研究疑問に関する文献検討と検索結果 酒井 昌子</p> <p>第8回：文献検討③ 研究疑問に関する文献検討の結果 酒井 昌子</p> <p>第9回：文献検討④ 論文クリティークの方法と視点 概念分析等</p> <p>第10・11回：課題に対する文献検討① 質的研究における論文クリティーク 酒井 昌子</p> <p>第12・13回：課題に対する文献検討② 量的研究における論文クリティーク 酒井 昌子</p> <p>第14・15回：在宅看護に関するフィールドワーク計画立案 酒井 昌子</p> <p>第16～21回：フィールドワーク</p> <p>第22・23回：フィールドワークにおける事例検討と課題の抽出 酒井 昌子<br/>山村江美子</p> <p>第24回：研究課題の明確化 酒井 昌子<br/>山村江美子</p> <p>第25回：研究デザインについて：デザインの種類と特徴 酒井 昌子</p> <p>第26、27、28回：研究デザイン (研究計画書) の作成 酒井 昌子</p> <p>第29・30回：研究デザインの発表と評価 酒井 昌子<br/>山村江美子</p> <p>※本科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向または多方向に行われる討論を伴う授業：第7、8回、第10～15回、第29、30回</li> <li>・実務家教員や実務家による授業：第16～23回</li> </ul> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | ゼミ形式で進めます。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 演習への参加度とプレゼンテーション (70%)、課題レポート (30%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で発表内容に対するコメントを提示する。<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 演習内で適宜資料を提示する。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 関心あるテーマについて、動機・研究課題を明確にし、テーマに観手ンする文献を 5 編以上精読してくること。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。 |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 在宅看護学高度実践演習 I  |
| 科目責任者  | 山村 江美子   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 必修 1 年次秋 semester   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 疾患による呼吸、栄養、排泄、コミュニケーション等の身体機能の低下について医療機器を活用して生きる神経難病患者の事例を通し、疾病の受容と療養方針の意思決定の支援、医療機関から在宅への移行期の支援、在宅療養開始時の支援、継続期の支援等、療養者と家族の支援を検討する。現在、増加傾向にある医療的ケア児の在宅療養の支援の基本的技能を修得する。  |
| 到達目標   | 1. 在宅神経難病の療養者と援助方法を、疾病の受容や治療方針の意思決定の支援、医療機関から在宅への移行期、療養開始時、継続期に分けて支援を系統的に理解できる。<br>2. 医療的ケア児の療養の実際から在宅療養への支援を検討することができる。<br>3. 身体機能の低下を補うために医療機器を活用して療養する事例の呼吸、栄養、排泄、コミュニケーションなどの援助方法や療養者と家族の生活の支援の基本的技法を修得する。   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1・2回 医療的ケアが必要な患者と家族の看護 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目オリエンテーション</li> <li>・医療ケアと医療的ケア・医行為について</li> <li>・医療的ケアが必要な患者の在宅療養期別の看護（在宅移行期、在宅療養開始期、継続期）</li> <li>・医療的ケアの必要な療養者と家族のケアに関する文献から研究の動向</li> </ul> <p>第3・4回 在宅神経難病患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅神経難病患者の診断・治療が生活に及ぼす影響</li> <li>・ALS の病態と進行と看護</li> <li>・ALS 患者の疾病の受容と療養方針の意思決定支援</li> </ul> <p>第5・6回 人工呼吸器を装着して在宅療養をおくる患者と家族への看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALS の呼吸管理（病状進行に応じた呼吸管理）</li> <li>・病態に応じたコミュニケーション手段の確立の援助</li> <li>・日々の呼吸管理（気道の清浄化のためのケア・感染防止、気管切開部の保護）</li> <li>・呼吸管理の安定のための医療介護、業者との連携</li> <li>・療養者の QOL への支援</li> <li>・介護家族の支援（介護指導とレスパイト）、災害時の対応（平素の準備・発災時）</li> <li>・人工呼吸器を選択しない療養者と家族の支援</li> </ul> <p>第7・8回 医療的ケア児の在宅療養への支援 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア児とは その動向</li> <li>・小児在宅医療の現状と課題</li> <li>・小児と家族への退院支援</li> </ul> <p>第9・10回 医療的ケア児の在宅療養への支援 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の発達・成長と各ライフステージに応じた小児と家族支援</li> <li>・小児の呼吸管理、小児のフィジカルアセスメント、</li> <li>・小児在宅医療の人工呼吸器の監理と家族指導について</li> <li>・医療的ケア児と家族の当事者グループの活動について</li> </ul> <p>第11～13回 医療的ケアのある患者の在宅療養支援 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経難病看護における行政の保健師の役割</li> <li>・難病相談センターの機能や行政保健師の役割、多職種連携、地域ネットワーク</li> <li>・医療的ケア児を支える保健福祉制度・社会資源</li> </ul> |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
|               | <p>第14・15回 在宅における医療的ケアの技術（フィールドワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅人工呼吸器管理と装着患者のケア、在宅中心静脈栄養法・胃瘻、</li> <li>肺理学療法、創傷ケア、在宅医療機器導入時の退院支援</li> </ul> <p>第16～19回 人工呼吸器を装着して在宅療養をおくる患者と家族の看護の実際（フィールドワーク）</p> <p>人工呼吸器装着患者の実際の看護を体験し医療的ケア患者の在宅療養支援を検討する。</p> <p>第20～22回 医療的ケア児のデイサービスの参加</p> <p>第23～25回 医療的ケア児の退院支援（移行期ケア）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者支援センターが担う地域連携としての役割</li> </ul> <p>第26～28回 フィールドワークの事例展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアが必要な療養者と家族の支援と在宅看護専門看護師の役割</li> </ul> <p>第29・30回 事例展開発表と討議、まとめ <span style="float: right;">山村江美子</span></p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/>     実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義、学内演習により授業を進めます。   |        |    |      |         |
| 評価方法          | 演習への参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート (1・2) 50%   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます。  |        |    |      |         |
| 指定図書          |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |
| 参考書           |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修       | <p>事前学修：. 神経難病の検査・診断・治療についての臨床講義においては、事前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、討議用資料を作成してください。</p> <p>課題レポート1：事例検討</p> <p>課題レポート2：質の高い療養生活に向けての専門的看護支援に関すること</p>  |        |    |      |         |
| オフィスアワー       | <p>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp</p> <p>酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp</p> <p>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p>  |        |    |      |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 在宅看護学高度実践演習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) 高度実践看護コース 必修, 1年次秋semester  |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 在宅で終末期を迎える療養者と家族の看護について、実践事例や文献による研究事例を用いて演習し、がん患者・非がん患者に対する在宅緩和ケアの方法、終末期経過別の的確なニーズの把握やケア実践方法を修得する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者の在宅緩和ケアにおける症状コントロールおよびQOL向上について、的確なニーズ把握やケア実践の具体的方法を実践できる。</li> <li>2. 終末期の療養者と家族への在宅導入期のケアについて、在宅移行支援における意思決定支援、療養環境整備について、チームアプローチを含めた具体的方法を検討できる。</li> <li>3. 非がん患者の在宅でのエンド・オブ・ライフケアについて、的確なニーズ把握やケア実践の具体的方法を検討できる。</li> <li>4. 在宅で終末期を迎える療養者の臨死期のケアとして、特に緩和ケアおよびスピリチュアルケアについて、的確なニ</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1～2回 在宅終末期ケアに関する基本的知識と研究 酒井昌子<br/> 緩和ケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフケア、good death、アドバンスケアプランニングなどの終末期の意思決定に関する用語など終末期ケアの各概念の定義と範囲について理解し、国内外の研究動向について発表と討議を行う。</p> <p>第3～4回 がん治療・看護の動向と在宅緩和ケア① 佐久間由美 (がん看護専門看護師)<br/> がん治療およびがん看護の動向を知り、がん患者の在宅移行期または在宅療養における緩和ケアの意義と内容を学ぶ。</p> <p>第5～6回 がん患者の在宅緩和ケア(疼痛コントロール)② 佐久間由美 (がん看護専門看護師)<br/> WHO 緩和医療ガイドラインをはじめ、疼痛緩和のアセスメントと対処方法の基本的知識を学ぶ。<br/> ロールプレイ等を用いて、痛みを適確にアセスメントし、薬物の経路や量を含めた選択、痛みの増減に伴う対処方法、オピオイドスイッチング、副作用対策、および薬物以外の緩和方法などの対処方法について事例検討を行いながら学ぶ。</p> <p>第7～9回 がん患者の在宅緩和ケア(症状コントロール)③ (フィールドワーク) 佐久間由美 (がん看護専門看護師)<br/> がん患者の症状コントロール(倦怠感、呼吸症状、消化器症状、精神症状)について実践事例を用いてアセスメントし、対処方法を習得する。</p> <p>第10～12回 療養上複雑で多様な課題を持つ非がん高齢者への在宅終末期ケア① 佐藤晶子 (老人看護専門看護師)<br/> 慢性疾患および認知症や老衰など非がん高齢者のエンド・オブ・ライフケアなど高齢者の終末期ケアの基本的な考えを理解する。<br/> 人生の終末期にある高齢者の包括的アセスメントを理解する。</p> <p>第13～14回 療養上複雑で多様な課題を持つ非がん高齢者への在宅終末期ケア(フィールドワーク)② 佐藤晶子 (老人看護専門看護師)<br/> 実践の場における高齢者の包括的アセスメントを学ぶ。</p> |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>第 15～14 回 療養上複雑で多様な課題を持つ非がん高齢者への在宅終末期ケア ③ 佐藤晶子（老人看護専門看護師）<br/> 高齢者の在宅移行の看護の事例展開を行い、終末期にある高齢者の高度実践について考察する。</p> <p>第 17～18 回 療養上複雑で多様な課題を持ち在宅で終末期を迎える療養者と家族への移行期ケア① 大木純子（がん看護専門看護師/看護相談室）<br/> 終末期の本人・家族への在宅移行支援とチームアプローチ<br/> 在宅で終末期を迎える療養者の在宅移行期の支援について理解する。</p> <p>第 19～23 回 療養上複雑で多様な課題を持ち在宅で終末期を迎える療養者と家族への在宅導入期のケア（フィールドワーク）② 大木純子（がん看護専門看護師/看護相談室）<br/> 実際の退院支援・退院調整から、在宅移行期における支援を習得する。</p> <p>第 24～25 回 療養上複雑で多様な課題を持ち在宅で終末期を迎える療養者の臨死期のケア（事例検討） 酒井昌子<br/> 臨死期の判断と在宅終末期におけるスピリチュアルケア<br/> 在宅で終末期を迎える臨死期にある方の訪問看護に同行し、症状コントロール、スピリチュアルケアなど可能な範囲で参加する。<br/> その後、同行事例の看護実践のエビデンスを明確にしつつ事例検討を行うことで実践的学びを習得する。<br/> 実践事例がない場合は、過去に経験した事例や研究事例による事例検討を行う。</p> <p>第 26～27 回 療養上複雑で多様な課題を持ち在宅で終末期を迎える療養者家族への臨死期と死別後のケア（事例検討） 山村江美子<br/> 家族への在宅看取り支援とグリーフケア（予期悲嘆と死別悲嘆へのケア）<br/> 在宅で終末期を迎える臨死期にある方の訪問看護に同行し、在宅看取り支援とグリーフケアなど可能な範囲で参加する。<br/> その後、同行事例の看護実践のエビデンスを明確にしつつ事例検討を行うことで実践的学びを習得する。<br/> 実践事例がない場合は、過去に経験した事例や研究結果事例により事例検討を行う。</p> <p>第 28～29 回 在宅で終末期を迎える独居高齢者を支えるケアシステム 酒井昌子<br/> 終末期の独居高齢者のためのネットワーク構築とサポートシステムの開発<br/> 在宅で終末期を迎える独居高齢者の方の訪問看護に同行し、ネットワーク構築など可能な範囲で参加する。<br/> その後、同行事例の看護実践のエビデンスを明確にしつつ事例検討を行うことで実践的学びを習得する。<br/> b 実践事例がない場合は、過去に経験した事例や研究結果事例により事例検討を行う。</p> <p>第 30 回 本演習のまとめ 酒井昌子<br/> 療養上複雑で多様な課題を持ち在宅で終末期を迎える療養者と家族へのケアについて、終末期経過別の的確なニーズとケアについてまとめる。</p> <p>※本科目は、「実践的な方法による授業」である。<br/> 実務家教員や実務家による授業：第 3～6 回、第 10～12 回、第 17～18 回<br/> 実地での体験活動を伴う授業（フィールドワーク）：第 7～9 回、第 13～14 回、第 19 回から 23 回<br/> 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業：第 1～2 回、第 24～30 回</p> |
| 学修方法 | 講義、学内演習により授業を進めます。  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | 演習への参加度(授業での プレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート (1・2) 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。<br>また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | 授業内で適宜資料を提示する  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 授業内で適宜資料を提示する  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>事前学習：演習に先立ち、これまでの学習内容と現場の問題・課題を関連づけて、演習に臨んでください。</p> <p>                    エンドオブライフケア、緩和ケアに関する知識を復習する。</p> <p>                    課題や事例検討の準備をする。(10～15 時間程度)</p> <p>事後学修： 講義演習後、知識の整理を行う。課題レポートの作成 (15 時間)</p> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 在宅看護学特論実習  |
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) 修士論文コース 選択、1年次秋semester   |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要   | 在宅看護学特論、特論演習などの学びの上に、健康課題を持ちながら生活する在宅療養患者とその家族をアセスメントし、その人らしい生活の維持、向上のための看護過程を展開できる能力を習得する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の理論や知識を活用して、様々な問題を抱えて生活する在宅療養患者とその家族の療養生活をアセスメントし、在宅療養患者・家族の抱える問題やニーズを特定し、課題解決に向けて在宅療養者の尊厳、その人らしさを尊重した看護実践（看護過程）を展開できる。</li> <li>2. 在宅療養者とその家族の日常生活支援を通して、療養生活が療養者とその家族にどのような変化や影響を与えているかを探索できる。</li> <li>3. 多職種との連携の実際を理解し、在宅療養生活の療養やQOL向上のために利用可能な資源について検討する。</li> <li>4. 上記のことを通して、在宅</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 酒井昌子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の関心や学習、研究課題に適した実習施設および対象を選択する。</li> <li>2. 上記の1にそって、実習計画を作成し、それに沿って実践する。</li> </ol> <p>第1～2回：臨地実習の準備<br/>関心や研究課題を明確にする。</p> <p>第3～10回：課題に沿った文献検討および事例を用いた在宅看護過程学習</p> <p>第11～20回：実習施設における看護実践と記録<br/>実習施設における在宅療養患者および家族の看護実践<br/>看護職および多職種とのチームカンファレンスの参加</p> <p>第21～30回：看護実践の評価と考察（援助の意味づけ）<br/>課題の明確化と今後の研究の方向性の検討</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-30回<br/>実地での体験活動を伴う授業：第11-20回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | 臨床実習およびゼミ形式  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習への取り組み・参加度、実習記録 (50%)<br>課題レポートを通して課題明確化の思考プロセスおよび文献検討の適切性 (50%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 実習の学びをカンファレンスなどで確認し、課題をともに検討・指導する。<br>実習記録は目標の到達度を評価したのち、コメントを添えて返却する。<br>文献検討の内容を評価下の阿智、実習記録における課題明確化のプロセスについて文書、口頭で指導する。 |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学修：指定図書、参考書を活用して在宅における看護過程について予習しておくこと。(15時間)<br>事後学修：実習、臨床カンファレンスの討議内容をふまえて看護実践について評価、実習の振り返りをする。(15時間)                 |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。   |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 在宅看護学高度実践実習 I   |
| 科目責任者  | 酒井 昌子   |
| 単位数他   | 2 単位数 (90 時間) 高度実践看護コース 必修, 1 年次秋semester   |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要   | 在宅看護専門看護師に相当する訪問看護師もしくは、病院の退院調整部門専従看護師としての卓越した実践経験や訪問看護ステーション所長として看護管理にかんするじっせんけいけんのあるかんのしのだうのもとに、在宅看護専門看護師としての役割（卓越した実践、ケアスタッフの教育、相談、連携・調整、倫理的問題の調整）を学ぶ。また医療機関の退院支援・退院調整部門において、在宅移行支援が必要で複雑な問題を持つ入院患者とその家族を受け持ち、包括的なあるメントに基づく退院支援計画の立案、実施、評価の一連のプロセスについて高度な看護実践を行う。なお、本実習では専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、多職種との「連携調整」「卓越した実践」「倫理的問題の調整」を中心に学修する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>療養上複雑で多様な課題をもち退院支援・調整が必要な患者とその家族に対し包括的アセスメントを行い、それに基づく退院支援計画を立案実施し評価することができる（卓越した実践）。</li> <li>対象者の意向とニーズに応じ、その人らしい地域での生活が継続するために、関係者との連携調整を行い、ケアマネジメント、チームアプローチを展開できる（連携調整）。</li> <li>療養上複雑で多様な問題を持ち退院支援・調整が必要な個別事例から地域が抱えている顕在的・潜在的な課題を分析し、地域における社会資源の現状と課題を明確にし、地域包括ケアシステム</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 酒井昌子・山村江美子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習施設：聖隷浜松病院 退院支援室<br/>実習指導者 宗像倫子（地域連携支援室/老人看護専門看護師）・高 真喜（地域連携支援室/小児看護専門看護師）<br/>：聖隷三方原病院 看護相談室<br/>実習指導者 大木純子（看護相談室/がん看護専門看護師）<br/>：聖隷訪問看護ステーション<br/>実習指導者 尾田優美子（統括所長）</li> <li>習期間：1 年次、2 月頃、2 週間</li> <li>実習内容・方法<br/>療養上複雑で多様な課題を持ち退院支援・調整が必要な入院中の療養者と家族を担当し、包括的アセスメントにより生活ニーズを明らかにする。そして、受け持ち事例の在宅移行への推進、在宅療養生活の安定・継続のために、退院支援・調整、ケアマネジメント、院内外の機関とのチーム形成を実践する。特に、専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、多職種との「連携調整」「卓越した実践」「倫理的問題の調整」を中心に学修する。<br/>具体的な実習内容<br/>1) 事前に実習計画を立案し、実習施設の指導者に相談して調整し、実習計画を完成させて実習に臨む<br/>2) 医療機関の退院調整部門では、実習指導者とともに調整依頼のあった事例の面接に参加し、関係機関への連絡や退院調整会議の招集と実施、退院準備の関わり、退院前訪問等に主体的に参加する。<br/>3) 卓越した実践 療養上複雑で多様な課題を持ち退院支援・調整が必要な事例に対して包括的アセスメントを行い、看護師をはじめとするケアスタッフの実践内容や方法を多角的に抽出し、実習指導者等からの助言を受けつつ実践を行う。その実践内容から「卓越した実践」について考察する。さらに、実習期間中に地域ケア会議等に同席し、個別ケースの検討から地域の顕在的・潜在的な健康問題を検討し、地域包括ケアシステム実現のための方策と看護職としての役割を考える。<br/>4) 連絡調整 療養上複雑で多様な課題を持ち退院支援・調整が必要な事例に対して自らイニシアチブをとりつつ、多職種チームの一員として「連携調整」を行い、退院支援・調整の実践、モニタリング、評価までの一連を実施する。</li> </ol> |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
|               | <p>5) 倫理的問題の調整 退院支援・調整が必要な事例の意思決定支援を行う。実習期間中に「倫理的問題の調整」が必要な事例があれば、実際の支援場面に同席したり、関係者へのインタビューを行い支援内容や方法を学ぶ。</p> <p>6) 概ね第1週目は、基本的に指導者をモデルとして指導者と共に行動し、第2週目以降は、計画を立て指導者の許可を得て、実習生が主体的に行動する。</p> <p>7) 実習中、指導者とディスカッションする時間をもち、体験を整理し、高度実践看護師に求められる看護活動の意味を明確にして学習をまとめる。</p> <p>実習の受け持ち事例数は、実習目標が達成できなければこの限りではない。</p> <p>1) ~7) を通し、実践経過と自己の課題について実習記録としてまとめる。</p> <p>※本科目は、実習現地において、高度な実践を看護師などが実習指導を担当するため、実践的教育に該当する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>     実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>     実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 詳細は「在宅看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照  |        |    |      |         |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での取り組み/実習記録 (50%)</li> <li>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (15%)</li> <li>・受け持ち事例についての課題レポート (20%)</li> <li>・在宅看護高度実践看護師の役割についての実践レポート (15%)</li> </ul>  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います。また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます。  |        |    |      |         |
| 指定図書          |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
| 参考書           |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
| 事前・事後学修       | <p>実習前：実習記録「疾患・病態の理解など適宜事前に行う。既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください。(15時間)</p> <p>実習中：実習記録「日々の記録」中間・最終カンファレンスに向けた「専門看護師の役割・機能」に関する学びなどのプレゼンテーションの作成</p> <p>実習後：受け持ち事例についての課題レポートおよび在宅看護専門看護師の役割についての実践レポートの作成 (15時間)</p>  |        |    |      |         |
| オフィスアワー       | <p>酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp</p> <p>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp</p> <p>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p>  |        |    |      |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 在宅看護学高度実践実習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 山村 江美子   |
| 単位数他   | 3 単位 (135 時間) 高度実践看護コース 必修, 2 年次春・秋セメスター (通年科目)  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 在宅看護学高度実践演習Ⅰで学んだ内容を活かし、医療的ケアに関する看護を必要とする療養者とその家族を受け持ち、高度な看護実践を行う。また、専門看護師の6つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」、「倫理的問題の調整」を中心に「教育」や「相談」「研究」を高め、在宅看護専門看護師としての役割開発を行う能力を養う。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>療養上複雑で多様な課題を持つ医療的ケアが必要な療養者とその家族に対して関連する専門知識・理論を活用した包括的なアセスメントを行い、エビデンスに基づく専門性の高い看護を実践することができる (卓越した実践能力)。</li> <li>医療依存度の高い療養者への効果的なケアが提供されるために関係職種と連携調整を行い、多職種連携によるチームアプローチが実践できる (連携調整)。</li> <li>療養上複雑で多様な課題を持つ倫理的問題に直面している療養者および家族が、自らの価値観と一致した選択ができるように、意思決定支援が実施でき</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 山村江美子・酒井昌子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習期間：2 年次、5 月中旬から 3 週間</li> <li>実習施設：訪問看護ステーション<br/>実習指導者：訪問看護事業所管理者</li> <li>実習内容・方法<br/>実習では療養上複雑で多様な課題を持ち医療的ケアが必要な療養者と家族を 2 事例以上担当し、包括的アセスメント、ケアの実践、他職種との連携調整、倫理的調整などを実践する。事例検討や勉強会など看護師等への教育活動の企画から実施までの過程に参加する。また、看護師や多職種からの相談業務を実習指導者の指導を受けながら実践する。<br/>また、本実習では専門看護師としての6つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」「倫理的問題の調整」を中心に「教育」「相談」「研究」を高めるが、各能力に関する内容は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>卓越した実践 療養上複雑で多様な課題を持つ医療的ケアが必要な療養者とその家族に対して、実際に関連する専門知識・理論を活用した包括的なアセスメントを行い、看護計画を立案、実施、評価を行う。</li> <li>連携調整 療養上複雑で多様な課題を持つ医療的ケアが必要な療養者とその家族の療養生活が続くように実施されているケアカンファレンスやその他の活動に参加し、多職種・多機関との連携調整について考察する。また、受け持ち事例に対し「コーディネーション」が必要な場合は実践し、実践内容を振り返る。</li> <li>倫理的問題の調整 実習期間中、療養上複雑で多様な課題を持ち「倫理的問題の調整」が必要な事例があれば、実習指導者が行う実際の支援場面に同席し支援方法を学び考察する。<br/>また、受け持ち事例に対し「倫理的問題の調整」が必要な場合は実践し、実践内容を振り返る。</li> <li>教育 実習期間中に実習指導者が行う訪問看護ステーションにおける看護の質の向上のための教育場面に同席し、実習指導者にその意図や具体的な教育方法について学び考察する。</li> <li>相談 実習指導者が療養上複雑で多様な課題を持つ療養者や家族、ケアスタッフに行う実際の相談場面に同席し、相談内容やコンサルテーション方法について学び考察する。<br/>また、受け持ち事例について「コンサルテーション」が必要な場合は自ら実践し、実践内容を振り返る。</li> <li>研究 看護実践の中から在宅看護の質の向上に貢献できる研究課題を探求する。</li> <li>概ね第 1 週目は、基本的に指導者をモデルとして指導者と共に行動し、第 2 週目以降は、計画を立て指導者の許可を得て、実習生が主体的に行動する。</li> <li>実習中、指導者とディスカッションする時間を持ち、体験を整理し、高度実践看護師に求められる看護活動の意味を明確にして学習をまとめる。</li> </ol> </li> </ol> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>実習の受け持ち事例数は、実習目標が達成できなければこの限りではない。<br/>1) ～8) を通し、実践経過と自己の課題について実習記録としてまとめる。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p>      |               |           |             |                |
| 学修方法          | 詳細は「在宅看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照  |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での取り組み/実習記録 (50%)</li> <li>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (15%)</li> <li>・受け持ち事例についての課題レポート (20%)</li> <li>・在宅看護高度実践看護師の役割と役割開発についての実践レポート (15%)</li> </ul> |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います。また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>実習前：既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください。<br/>実習中：実習記録およびカンファレンス等におけるプレゼンテーションの作成<br/>実習後：受け持ち事例についての課題レポートおよび在宅看護専門看護師の役割についての実践レポート</p>   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br/>酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br/>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p>  |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 在宅看護学高度実践実習Ⅲ  |
| 科目責任者  | 酒井 昌子   |
| 単位数他   | 3 単位数 (135 時間) 高度実践看護コース 必修, 2 年次春・秋セメスター (通年科目)  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要   | 在宅看護学高度実践実習Ⅱで学んだ内容を活かし、終末期ケアに関する看護を必要とする療養者を受け持ち、高度な看護実践を行う。また、専門看護師の6つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」、「倫理的問題の調整」を中心に「教育」「相談」「研究」をふまえ、在宅看護専門看護師として高い倫理観と質の高い看護ケアの実践に必要な能力を養う。  |
| 到達目標   | 1. 療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者と家族に対し、専門知識・理論に基づいた包括的なアセスメントを行い、経過時期別に看護問題を抽出し適切なケアが実践できる (卓越した実践)。<br>2. 在宅療養支援診療所からの訪問診療に参加し、終末期の在宅ケアチームの専門職種間や関係機関との連絡調整を実施し、多職種連携によるチームアプローチが実践できる (連携調整)。<br>3. 療養上複雑で多様な課題を持ち倫理的問題に直面している療養者および家族が、自らの価値観と一致した選択ができるように、意思決定支援が実施できる (倫   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 酒井昌子・山村江美子</p> <p>1. 実習施設：聖隷訪問看護ステーション<br/>実習指導者 藤野有美子 (訪問看護事業所管理者)<br/>尾田優美子 (統括所長)<br/>坂の上ファミリークリニック (在宅ホスピスケア・在宅医療支援医院)<br/>実習指導者 小野宏志 (在宅医療支援診療所医師)<br/>坂の上訪問看護ステーションあずきもち訪問看護事業所管理者</p> <p>2. 実習期間：2 年次、7 月から 3 週間</p> <p>3. 実習内容・方法</p> <p>実習では、療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアに関する看護を必要とする療養者と家族を 2 事例以上 (がん患者および非がん患者) 担当し、包括的アセスメント、ケアの実践、他職種との連携調整、倫理的調整などを実践する。可能な限り、総合病院の看護相談室において、訪問看護開始前の在宅療養移行期から関わり、安定期、臨末期および死別後の家族へのグリーフケアを含めた経過時期別ケアを実践する。さらに、デスカンファレンスの企画・運営も行う。訪問看護ステーションによる実習に加え、在宅医療支援診療所において 1~2 日実習し、訪問診療における在宅医の役割、医療介護の連携や在宅緩和ケアチームのあり方を学ぶ機会とする。事例検討や勉強会など看護師等への教育活動の企画から実施までの過程に参加する。また、看護師や多職種からの相談業務を実習指導者の指導を受けながら実践する。</p> <p>本実習では、専門看護師としての 6 つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」「倫理的問題の調整」を中心に「教育」「相談」「研究」を高めるが、各能力に関する内容は以下のとおりである。</p> <p>1) 卓越した実践 療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者とその家族に対して、実際に関連する専門知識・理論を活用した包括的なアセスメントを行い、看護計画を立案、実施、評価を行う。</p> <p>2) 連携調整 療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者とその家族の療養生活が続くように実施されているケアカンファレンスやその他の活動に参加し、多職種・多機関との連携調整について考察する。</p> <p>3) 倫理的問題の調整 療養上複雑で多様な課題を持ち終末期ケアが必要な療養者・家族の倫理的問題に着目して看護実践を行う。また、実習期間中に「倫理的問題の調整」が必要な事例があれば、実際の支援場面に同席したり、関係者にインタビューしたりすることで支援内容や方法を学ぶ。</p> <p>4) 教育 実習指導者が行う訪問看護ステーションにおける看護の質の向上のための教育場面に同席し、教育方法や技術についてディスカッションする。</p> <p>5) 相談 実習指導者が訪問看護スタッフに行う実際の相談場面に同席し、相談内容やコンサルテーション方法についてディスカッションする。さらに、受け持ち事例でのデスカンファレン</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>スを企画し実施する。</p> <p>6) 研究 専門的看護実践のため看護研究の位置づけを考え、在宅看護の質の向上に貢献できる研究課題を探求する。</p> <p>実習の受け持ち事例数は、実習目標が達成できなければこの限りではない。</p> <p>1) ~6) を通し、実践経過と自己の課題について実習記録としてまとめる。</p> <p>※本科目は、実習現地において、高度な実践を行う看護師等が実習指導者を担当するため、実践的教育に該当する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 詳細は「在宅看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照する   |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での取り組み/実習記録 (50%)</li> <li>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (15%)</li> <li>・受け持ち事例の事例についての課題レポート (20%)</li> <li>・在宅看護高度実践看護師の役割についての実践レポート (15%)</li> </ul>  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います。また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>実習前：疾患・病態の理解、終末期ケアなど適宜事前に行う。既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください。(15時間)</p> <p>実習中：実習記録「日々の記録およびカンファレンス等におけるプレゼンテーションの作成</p> <p>実習後：受け持ち事例についての課題レポートおよび在宅看護専門看護師の役割についての実践レポートの作成(15時間)</p>   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp</p> <p>山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp</p> <p>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p>   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 在宅看護学高度実践実習Ⅳ   |
| 科目責任者  | 酒井 昌子  |
| 単位数他   | 2単位 (90時間) 高度実践看護コース 必修, 秋 Semester  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 在宅看護専門看護師に相当する訪問看護師もしくは訪問看護ステーション所長として看護管理に関する実践経験のある看護師の指導のもとで、効果的・効率的な経営管理、ケアの質改善方法について探求する。<br>訪問看護活動の参加やスタッフからの情報、データ分析を通して、訪問看護の質改善に向けての課題を分析し、職場環境の整備やスタッフ教育など運営改善の方法を修得する。<br>また、チームアプローチの促進に向け重要な課題である在宅ケアスタッフへの教育、相談、多職多組織の連携・調整を行うことを中心としながら、倫理的問題の調整、解決の試みに関わり、在宅看護専門看護師としての卓越した実践能力を習得する。  |
| 到達目標   | 1. 地域の特性を考慮した訪問看護事業所の開設、効率的な管理・運営の方策及び経営的戦略について具体的な実践方法を修得する。<br>2. 問題点抽出のために必要な訪問看護活動への参加やスタッフからの情報、必要なデータを収集し、訪問看護の質改善に向けての課題を分析できる。<br>3. 抽出した課題に対する職場環境の整備やスタッフ教育などの具体的対策を考え、提言書を作成することができる。<br>4. 訪問看護師の倫理的配慮および問題について把握し、倫理的問題の解決方法について提   |
| 授業計画   | <授業内容・テーマ等> <担当教員名>酒井昌子・山村江美子<br>1. 実習施設：聖隷訪問看護ステーション細江<br>実習指導者 尾田優美子（聖隷訪問サービス統括所長）<br>2. 実習期間：2年次、10月から2週間<br>3. 実習内容・方法<br>自己の実習課題を明確化して実習施設と相談しながら実習計画を立案する。実習を通して実習指導者および教員のスーパービジョンを受ける。<br>具体的には、以下の6つについて実施する。<br>1) 実習施設において「地域特性を考慮した訪問看護ステーションの開設のための準備と運営、経営管理、人材管理の方法」の実際を知り、その方法を理解する。<br>2) 実習施設の訪問看護ステーションの管理者業務について、説明を受けた後に役割の参加観察、一部業務の実践を体験し実際の運営方法を学ぶ。<br>3) 実習施設の問題点抽出のために必要な訪問看護活動への参加やスタッフからの情報、必要なデータの収集により、訪問看護の質評価と改善に向けての課題を分析する。<br>4) 課題分析結果に基づき、職場環境の整備やスタッフ教育など具体的対策を考え、提言書を作成する。<br>5) 教育 実習期間中に実習指導者が行う訪問看護ステーションにおける看護の質の向上のための教育場面に同席し、実習指導者にその意図や具体的な教育方法について学び考察する。<br>6) 相談 実習指導者が療養者や家族、ケアスタッフに行う実際の相談場面に同席し、相談内容やコンサルテーション方法について学び考察する。<br><br>※この科目は実習現地において、高度な実践を行う看護師などが実習指導者を担当するため、実践的教育に該当する。<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br>実地での体験活動を伴う授業：実習期間 |
| 学修方法   | 臨床実習およびゼミ形式<br>詳細は「在宅看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照   |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での取り組み／実習記録 (50%)</li> <li>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (15%)</li> <li>・実習成果についての課題レポート (20%)</li> <li>・在宅看護高度実践看護師の役割についての実践レポート (15%)</li> </ul> |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います。また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>事前学修：実習訪問看護ステーションの運営管理状況を事前に情報収集し、把握・分析を進め、各自の実習目標および実習計画、およびステップへの教育(セミナー)の企画書を作成する。(15時間)</p> <p>事後学修：実習記録「日々の記録」、中間・最終カンファレンスに向けた「専門看護師の役割・機能」「実習のまとめ」等の作成(15時間)</p>                    |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>酒井：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br/>         山村：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br/>         時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p>   |               |           |             |                |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 在宅看護学特別研究   |
| 科目責任者         | 酒井 昌子   |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 修士論文コース 選択, 通年  |
| 科目の位置付        | (4) 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。<br>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要          | 在宅看護学の領域で検討が必要な課題に関する研究を実施し、得られたデータを分析して研究論文を完成できる。   |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の研究課題を焦点化し、研究計画を作成する。<br>2. 研究計画に沿って収集したデータを分析できる。<br>3. 研究結果について考察できる。<br>4. 研究論文を執筆し、完成できる。  |
| 授業計画          | 1 年次春semester：<br><授業内容・テーマ>これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br><評価方法>討論参加度 (30%) 文献検討及び課題の焦点化の達成度 (70%)<br><br>1 年次秋semester：<br><授業内容・テーマ>春semesterの学修を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br><評価方法>文献検討及び問題の焦点化 (30%)、発表態度及び研究計画書の完成度 (70%)<br><br>2 年次春semester：<br><授業内容・テーマ> 研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画書の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後に、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br><評価方法> 研究計画の倫理的配慮の適切性 (20%)、データ収集および分析の適切性 (20%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (20%)、計画書の完成度 (40%)<br><br>2 年次秋semester：<br><授業内容・テーマ> 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br><評価方法>倫理的配慮の適切性 (10%)、データ収集及び分析の適切性 (20%)、結果からの考察の論理性 (20%)、論文の完成度(50%)<br><br>＊この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回 |
| 学修方法          | 個別面談指導およびゼミ形式により進める。  |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | 検討会などでの発表に関する総合的な評価・反省を行い、次回への示唆を提示する。計画書案について随時評価し添削・指導を重ね、コメントを添えて返却する。   |
| 指定図書          |   |

| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|---------|---|--------|----|------|---------|
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     |   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 各段階において、研究のテーマに沿って事前・事後学修を行う。学生が自ら課題について積極的・計画的、主体的に学修に臨むこと。  |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 酒井 昌子 研究室 (3410) masako-s@seirei.ac.jp、<br>山村江美子研究室 (3412) emiko-y@seirei.ac.jp<br>時間については、初回の授業時に提示する。 |        |    |      |         |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 在宅看護学課題研究   |
| 科目責任者         | 酒井 昌子   |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 選択 通年  |
| 科目の位置付        | (4) 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。<br>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要          | 在宅看護学特論、在宅看護学援助特論等で学修した内容をふまえて、高度看護実践の中から在宅で生活する療養者と家族または看護サービス等について関心のある課題を取り上げ、研究課題の明確化・研究計画書の作成、計画に沿ってデータの収集・分析を行い、論文にまとめるプロセスを実践し、基礎的な研究能力を修得する。  |
| 到達目標          | 1. 在宅看護実践の中から関心ある課題・問題を取り上げ、テーマを設定する。<br>2. 研究計画書として、研究の背景（動機）、意義、目的、研究方法、倫理的配慮等について明確に記述できる。<br>2. 研究計画に沿って、データ収集し分析し、結果をまとめることができる。<br>4. 研究結果について考察できる。<br>3. 論文の形式に沿って、研究論文を執筆し、完成できる。  |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;評価方法&gt;</p> <p>1年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;看護学領域の特論、看護研究方法などで学修した内容を用いて、在宅高度看護実践に関する先行研究の文献検討を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;：文献検討及び研究疑問の焦点化（30%）研究計画書の完成度（70%）</p> <p>1年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;在宅高度看護実践に関する研究課題を明確にし研究計画書を作成する<br/>&lt;評価方法&gt;文献検討の及び課題の焦点化（30%）、発表態度及び研究計画書の完成度（70%）</p> <p>2年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、計画に従い調査を実施、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究方法、データ収集・分析の適切性（30%）、論文の完成度（30%）</p> <p>2年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;論文の完成度（60%）、データ収集及び分析の適切性（30%）、倫理的は医療の適切性（10%）</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |
| 学修方法          | テーマに関する文献のプレゼンテーション、個別指導面接およびゼミ形式により進める。  |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | 授業のなかでのディスカッション、検討会等、様々な機会を通して随時フィードバックを行う。計画書案について随時評価し、添削・指導を重ね、コメントを添えて返却する。   |

|             |   |               |           |             |                |
|-------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 指定図書        |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>  | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|             |   |               |           |             |                |
| 参考書         |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>  | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|             |   |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | 論文作成に必要な社会情勢、医療・ケアの最新情報も文献検討などの事前学修を積極的に主体的に計画的に行っておくこと。  |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | 酒井 昌子：3410 研究室 E-mail: masako-s@seirei.ac.jp<br>山村江美子：3412 研究室 E-mail: emiko-y@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 老年看護学特論  |
| 科目責任者  | 山田 紀代美   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択、高度実践看護コース 必修 春   |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | 多様で個別的な高齢者とその家族への看護を、効果的に実践するために必要である高度な看護判断・看護実践・評価する能力を修得するために、老年看護の概念、老年看護実践に应用できる諸理論、老化の生物学、倫理的配慮等について学修し、現在の高齢社会のニードや課題について、老人看護専門看護師の持つ社会的役割や使命について、老年看護の専門的な立場から検討・考察する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護学の概念、看護理論およびこれらの老年看護実践への応用について理解する。</li> <li>2. 老年看護学の歴史的変遷を通して、老年学・老年看護学および諸科学の発達が高齢者ケアやヘルスケアシステムにどのように影響してきているか等について検討する。</li> <li>3. 日本の急激な高齢社会の到来とそれを支える社会システム・環境について理解する。</li> <li>4. 老化過程（衰退現象）について、最新の科学的知見（老化の生物学）や医療のテクノロジーとの関連で理解し、看護実践への示唆を検討する。</li> <li>5. 倫理原則や生命倫理上の意思決定モデルについて理解を</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：老年看護の概念、高齢者のための国連原則、<br/>老年看護活動の特性、全人的理解とケアの専門性について 山田紀代美</p> <p>第 2 回：老年看護実践に应用される概念モデル、看護理論について 山田紀代美</p> <p>第 3 回：老年看護実践に应用される：Grand /Middle-Range theory 等 山田紀代美</p> <p>第 4 回：老年看護実践に应用される理論の具体的展開 ①活動理論と離脱理論<br/>山田紀代美</p> <p>第 5 回：老年看護実践に应用される理論の具体的展開 ②コンフォートとストレングス</p> <p>第 6 回：日本の急激な高齢社会の到来と社会システム・環境について 内藤智義</p> <p>第 7 回：老年看護学の歴史的変遷と諸科学・社会環境の影響について 山田紀代美</p> <p>第 8 回：老化の生物学：老化とは、加齢に伴う変化、ヒトの老化について 熊澤武志</p> <p>第 9 回：老化の生物学：寿命の遺伝要因、細胞内の老化のプロセスについて 熊澤武志</p> <p>第 10 回：倫理の定義と高齢者の人権・健康な生活を営む権利・QOL<br/>および倫理的行動に関する老人看護専門看護師の責任 ①サクセスフルエイジングへの援助<br/>山田紀代美</p> <p>第 11 回：倫理の定義と高齢者の人権・健康な生活を営む権利・QOL<br/>および倫理的行動に関する老人看護専門看護師の責任 ②高齢者のアドボカシー 内藤智義</p> <p>第 12 回：老人看護専門看護師のための倫理的意思決定の枠組み、倫理的<br/>意思決定のための技術、医療の決定に関する法的代理人等について 内藤智義</p> <p>第 13 回：老人看護専門看護師に必要とされる能力と役割について 山田紀代美</p> <p>第 14～15 回：上記の学習全体を通して、老人看護専門看護師に必要とされる<br/>能力と役割について検討・考察する 山田紀代美</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-7 回、10-15 回</p> |
| 学修方法   | 講義・ゼミ形式  |
| 評価方法   | 授業への参加度とプレゼンテーション（70%）、レポート（30%）により評価する  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する                       |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 学生のワーク（第5回，第12回，第14回，第15回）について、初回に学生が担当するテーマを示すので、指定図書、他を良く読み、事前にゼミ資料を作成すること |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 山田：看護学研究科、研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）  |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 高齢者保健医療福祉政策論   |
| 科目責任者  | 木村 暢男  |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 修士論文コース 選択、度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる   |
| 科目概要   | 高齢者ケアを取り巻く社会の状況と老年看護の実践に関連する法規は、どのように変遷し、どのように関連し、現在に至っているかについて概括する。とくに、超高齢社会を迎えて、高齢者医療費の高騰や介護ニーズの増大に対して、医療保険制度および介護保険制度は制度維持を目指してどのように変遷してきたかを検討・考察する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職に必要な法や制度に関する基礎的情報と法的な考え方の特徴を理解する。</li> <li>2. 我が国の高齢者保健・福祉政策と関連する法規について理解する。</li> <li>3. 医療保険制度および介護保険制度について、高齢者ケアの観点から現状と課題を理解する。</li> <li>4. 高齢者の基本的人権の尊重、自己決定権等を保証する老人看護実践・看護活動に関連する法規について理解する。</li> <li>5. 「地域の時代」の社会資源とサポートシステムの組織化について討議し、高齢者の自律した日常生活を支える共助・自助の有り方について、老人看護専門看護師として</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：法の基本的な概念・用語・論理の進め方について。保健医療福祉に関わる法の基本原則（基本的人権の尊重、自己決定権）、社会規範、行為規範、権利と義務、法と家族、法の限界について（木村暢男）</p> <p>第2回：我が国の高齢者保健・福祉政策と老人福祉法・老人保健法の変遷（木村暢男）</p> <p>第3回：介護保険法と老人保健対策について（木村暢男）</p> <p>第4回：高齢者医療確保法と後期高齢者医療広域連合：老人保健対策（内藤智義）</p> <p>第5回：高齢者医療確保法と健康増進法について：老人保健対策（内藤智義）</p> <p>第6回：老人福祉対策と介護保険法①：介護保険法成立の背景（木村暢男）</p> <p>第7回：老人福祉対策と介護保険法②：介護保険法成立のポイント（木村暢男）</p> <p>第8回：老人福祉対策と介護保険法③：介護保険法のサービス（木村暢男）</p> <p>第9回：老人福祉対策と介護保険法④：保険給付申請の手順（木村暢男）</p> <p>第10回：介護保険法のサービス：在宅ケア活動、施設ケア活動（木村暢男）</p> <p>第11回：権利擁護としての成年後見制度：民法改正（平成12年4月施行）（木村暢男）</p> <p>第12回：高齢者虐待防止・養護者支援法（木村暢男）</p> <p>第13回：看護と関係法規（山田紀代美）</p> <p>①患者の権利（看護師の倫理規定1988に規定）</p> <p>②インフォームド・コンセント（1947 ニュルベルグ綱領、1948ジュネーブ宣言、1954 医倫理の国際綱領、1954 研究および実験の原則、1964 ヘルシンキ宣言）</p> <p>③自己決定の権利（患者の権利に関するリスボン宣言1995年9月）</p> <p>第14回：看護の保障と関係法規（山田紀代美）</p> <p>患者の生命と安全を守る：①結果予見義務と結果回避義務、②看護職者を守る：業務上の危険と労災保険</p> <p>第15回：「地域の時代」の社会資源とサポートシステムの組織化と自律した日常生活を支える共助・自助の有り方を促進する方法について、老人看護専門看護師としての立場から（相互に）考察する。（山田紀代美）</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義・ゼミ形式  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業への参加度とプレゼンテーション（70%）、レポート（30%）により評価する。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 杉本正子他編：わかりやすい関係法規，ヌーヴェルヒロカワ，2003   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 保健師助産師看護師法，国民衛生の動向，日本国憲法   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 初回に、学生の担当するテーマについて伝えるので、指定図書、他を良く読み、事前にゼミ資料を作成してくること。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |               |           |             |                |



|                 |  |               |           |               |                |
|-----------------|--|---------------|-----------|---------------|----------------|
|                 |  |               |           |               |                |
| 学修方法            | 講義形式   |               |           |               |                |
| 評価方法            | 授業への参加度とプレゼンテーション (70%)、レポート (30%) により評価する。  |               |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック   | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する   |               |           |               |                |
| 指定図書            | リンダ J. カルペニート著、黒江 ゆり子監訳：看護診断ハンドブック 第12版、医学書院、2023.   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
| 看護診断ハンドブック 第12版 | リンダ J. カルペニート  | 医学書院          | 4000      | 9784260050210 | 冊子版            |
| 参考書             | Burnner & Suddarth's Textbook of Medical- Surgical Nursing 10th, Lippincott Williams & wilkins, 2004.                                  |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
|                 |  |               |           |               |                |
| 事前・事後学修         | 疾患の特徴・病態生理をA4 1枚にまとめてレポートすること。   |               |           |               |                |
| オフィスアワー         | 内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |               |           |               |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 老年看護援助特論 I  |
| 科目責任者  | 山田 紀代美  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |
| 科目概要   | <p>質の高い老年看護実践のために、看護過程の展開と高齢者の個別性を把握する包括的な機能アセスメント法について具体的な事例を通して理解し、技法を修得することを目的とする。</p> <p>特に高齢社会を迎え、フィジカルアセスメントや、生活機能、精神的・社会的側面まで包括的にアセスメントする ICF International classification of Functioning、Orem's Self-Care、Gordon's functional domains などの理論・概念を深く理解することを目的とする。</p> <p>これらの理論や概念・ツールは老年看護実践にどのように有効であるか等について実践的視点から検討する。</p>   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の包括的な機能アセスメントの重要性を理解する。</li> <li>2. 高齢者の包括的な機能アセスメント法 (ICF、Orem's Self-Care 等) のいずれかを用いて事例に適用し、高齢者の特徴や個性がとらえられるかを評価する。</li> <li>3. 高齢者の健康状態や身体機能の程度を把握するためのフィジカルアセスメントを模擬患者に用いて実践する。</li> <li>4. 咀嚼・嚥下機能の低下した模擬事例および移動機能の低下した模擬患者の事例を用いて、包括的な機能アセスメントを実施し、看護計画を立案する。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回: 科学的方法としての看護過程 山田紀代美</p> <p>第2回: 高齢者の包括的な機能アセスメントの重要性と方法について 山田紀代美</p> <p>第3回: 高齢者の包括的な機能アセスメント法の中から ICF を用いて、事例に適用する (情報を収集し、その情報を分析・解釈) 演習 山田紀代美</p> <p>第4回: 高齢者の包括的な機能アセスメント法の中から Gordon's functional domains を用いて、事例の情報収集、分析・解釈する演習 山田紀代美</p> <p>第5回: ICF、および Gordon's functional domains のアセスメントを比較し、高齢者の特徴や個性が捉えられているか等の検討 山田紀代美</p> <p>第6回: 高齢者のフィジカルアセスメントについて: 身体機能の測定方法 内藤智義</p> <p>第7回: フィジカルアセスメントの実際と記録方法①: 全体の観察 内藤智義</p> <p>第8回: フィジカルアセスメントの実際と記録方法②: 呼吸・循環・腹部・脳神経系、排泄・清潔行動、身体の保持・運動機能系 内藤智義</p> <p>第9~10回: 高齢者の情報収集方法についての実際 宗像倫子</p> <p>第11回: 高齢者の家族からの情報収集の実際 宗像倫子</p> <p>第12回: 模擬患者を用いた事例展開: 包括的な機能アセスメント<br/>誤嚥性肺炎を発症して急性期病棟に入院した認知症高齢者の看護アセスメント 木村暢男</p> <p>第13回: 模擬患者を用いた事例展開: 包括的な機能アセスメント<br/>パーキンソニズムを呈する高齢者の ADL アセスメントと自己実現への看護計画 木村暢男</p> <p>第14回: 模擬患者: 事例①②包括的な機能アセスメントの発表・評価 木村暢男</p> <p>第15回: 理論・枠組み、ツール等は老年看護高度実践の点から見た適用の根拠と有効性・有用性について、全体で検討する 山田紀代美 木村暢男 内藤智義</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業: 第1-15回<br/>実務家教員や実務家による授業: 第1-15回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 第1～8回までは講義・演習とし、第9～14回は一部演習を含む、第15回はdiscussionとする   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業への参加度とプレゼンテーション（70%）、レポート（30%）により評価する   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 学生のワーク（第12～15回）について、初回に学生が担当するテーマを伝える。参考書、他を良く読み、事前にゼミ資料を作成すること   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 山田：看護学研究科、研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>木村：看護学研究科、研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 老年看護援助特論Ⅱ  |
| 科目責任者  | 木村 暢男  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | 複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族への、質の高い老年看護実践のために、老年期によく見られる身体的変化の (NANDA-I の採択した看護診断分類法Ⅱによる) 看護診断名をあげ、各診断名の定義と診断指標、関連因子を具体的に高齢者に関連付けて検討し、看護過程 (アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価) を展開する。さらに、高齢者の人権を守るための老人看護専門看護師の役割について認識を深める。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康問題・課題について包括的にアセスメントし、高齢者の自立を促し、家族機能を高める看護援助について理解を深める。</li> <li>2. 高齢者によく見られる加齢に伴う身体的変化の看護診断名を NANDA-I の採択した看護診断分類法Ⅱに基づいて、高齢者の特性に関連付けて検討する。</li> <li>3. 各診断名に沿って、模擬事例の高齢者・家族に対する看護アセスメントを行う。</li> <li>4. 各診断名に沿って、模擬事例の高齢者・家族に対する看護計画を立案し、実施する。</li> <li>5. 各診断名に沿って、模擬事例を用いて、アセスメントから実施まで評価する。</li> <li>6</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1～2 回：高齢者の健康問題・課題について：包括的アセスメントの視点 (山田紀代美)<br/> ・高齢者の健康問題とその受け止め方、セルフケア能力、精神・心理および社会的面への影響<br/> ・家族の受け止め方と家族の凝集性・支援能力、利用可能な社会的リソース</p> <p>第 3 回：包括的アセスメントとそれに基づく計画立案：高齢者の特徴や価値観 を尊重した目標設定と介入方法、評価時期について (木村暢男)</p> <p>第 4 回：看護計画に基づく看護介入の実践について (木村暢男)<br/> ・高齢者や家族が安心してケアを受け入れられるようになるための、事前の書面を用いた説明、および随時の説明と実施時の受け入れ状況の確認の必要性について<br/> ・高齢者反応が現れにくい特徴や、急な変化が起きやすいことを考慮した予測的観察の必要性とその方法について</p> <p>第 5 回：看護計画に基づくアセスメント・計画・実践・結果に関する評価 (段階的な評価時期の設定、高齢者・家族の満足感等も考慮する) (木村暢男)</p> <p>第 6～7 回：高齢者によく見られる加齢に伴う身体的変化 (記憶障害、摂食・嚥下障害、排尿障害・便秘・下痢、低栄養・貧血、搔痒感、関節痛・腰痛、視聴覚障害など) に関するアセスメントの構成因子 (診断指標、個人・環境の状況因子) (内藤智義)</p> <p>第 8 回：高齢者と家族：家族機能・家族の凝集性について (木村暢男)</p> <p>第 9 回：各看護診断 (体液量不足、排尿障害等) に沿った看護過程の展開 (木村暢男)</p> <p>第 10 回：事例分析：(家族の視点から見る)：身体可動性障害の分析 (木村暢男)</p> <p>第 11 回：高齢者の人権保障について：看護倫理とアドボカシー、老人看護専門看護師の役割 (木村暢男)</p> <p>第 12 回：高齢者虐待予防のための対策：身体拘束と虐待発生のメカニズム等に関する倫理的調整 (木村暢男)</p> <p>第 13 回：感染リスク状態、転倒転落リスク状態に沿った看護過程の展開 (山田・木村・内藤)</p> <p>第 14 回：末梢性神経血管性機能障害リスク状態に沿った看護過程の展開 (山田・木村・内藤)</p> <p>第 15 回：看護過程の展開が科学的問題解決技法である理由について全体で検討する (山田・木村・内藤)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義およびゼミ形式  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業への参加度とプレゼンテーション (70%), レポート (30%) により評価する。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 初回の授業時に提示します。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック第10版, 医学書院, 2014  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 院生は、参考書等を良く読み、事前にゼミ資料を作成してこること。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 老年慢性看護論   |
| 科目責任者  | 内藤 智義   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付 | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |
| 科目概要   | 高齢者の慢性疾患は、身体機能の低下や生活習慣と密接に関係していることが多く、病気の診断が遅れることや、慢性状態から急に症状悪化を来し、生命の危機に遭遇することがある。さらに、高齢者の慢性疾患は、ライフスタイルの転換や症状コントロールを要し、不可逆的病理変化を起し、多様な病態を呈することがある。このように同じ疾患であっても、個人によって、多様な病態を呈し、そのため、個別性に応じた綿密なアセスメントや対処が必要となる。老人看護専門看護師は、必要な専門知識・的確な臨床判断、熟練した技術、および高い倫理観を用いて、高齢者やその家族に対して質の高い看護実践を提供する能力が必要となり、ここでは、日常生活管理を重視した援助や、個別性を重視した目標設定、社会生活への適応や QOL の維持などを目指す一方、それらに適応できなかった人々をどのように支援していくかというチャレンジとともに、老人看護専門看護師の役割機能を発揮する取り組みとして、実践の中で、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育等が必要な状況への関わりを通して、役割・機能に関する認識を高めることができるようになることを目指す。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の慢性疾患の特徴について、身体・生理機能低下、生活習慣、急性期疾患との違い、長い潜伏期間等との関連から理解する。</li> <li>2. 高齢期に多い、主な慢性疾患（生活習慣病、慢性肺気腫、慢性腎炎、関節リウマチ、高齢者特有の骨粗しょう症、悪性新生物など）について、エビデンスを把握するための観察の視点、ヘルスアセスメントの方法を習得する。</li> <li>3. 慢性病を持つ高齢者の薬物療法の課題と援助のポイントについて理解する。</li> <li>4. 慢性疾患が高齢者の生活にもたらす影響とそれを支える看護の基本的姿勢について理解する。</li> <li>5. 慢性</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：老年症候群の特徴について①急性疾患に付随する症候（意識障害・せん妄・熱中症・脱水症・発熱）</p> <p>第2回：老年症候群の特徴について②慢性疾患に付随する症候（腰痛・るいそう・しびれ・浮腫・睡眠障害・抑うつ）</p> <p>第3回：老年症候群の特徴について③ADL 低下に合併する症候（転倒/骨折・排尿障害・便秘・嚥下障害・入浴事故）</p> <p>第4回：高齢期に多い主な慢性疾患の症状の特徴と観察方法</p> <p>第5回：高齢者総合的機能評価（CGA）と栄養評価の活用</p> <p>第6回：慢性疾患を持つ高齢者のヘルスアセスメント演習①問診・視診・触診・聴診</p> <p>第7回：慢性疾患を持つ高齢者のヘルスアセスメント演習②打診・血圧測定・反射の観察</p> <p>第8回：慢性疾患を持つ高齢者と薬物療法①高齢者における薬物治療の原則と薬物有害事象</p> <p>第9回：慢性疾患を持つ高齢者と薬物療法②高齢者で留意すべき主な薬物</p> <p>第10回：慢性疾患を持つ高齢者と薬物療法③服薬管理能力アセスメントとリスクマネジメント</p> <p>第11回：慢性疾患を持つ高齢者の療養生活におけるリハビリテーションと看護の役割</p> <p>第12回：慢性病患者の目指すべき状態（看護目標）と看護の基本的姿勢：生態の恒常性，ニーズ，ウェルネス，適応，自尊感情，自己効力，セルフケア，コンプライアンスとアドヒアランス，日常生活管理等</p> <p>第13回：慢性疾患を持つ高齢者の看護過程展開のポイントについて</p> <p>第14回：酸素療法を取り入れた肺気腫高齢患者の自宅復帰への看護過程</p> <p>第15回：喪失体験が重なり，糖尿病が悪化した高齢患者の自立支援への看護過程</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |   |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびゼミ形式   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業への参加度とプレゼンテーション (50%)、看護過程展開レポート (50%)  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>看護過程展開レポートは、情報の解釈分析から看護問題抽出まで、看護目標から実践・評価までの各プロセスにおいて評価し、コメントを記入したものを返却する |               |           |             |                |
| 指定図書          | パトリシア・R. アンダーウッド (著), 南 裕子 (監修) : 看護理論の臨床活用—パトリシア・R. アンダーウッド論文集, 日本看護協会出版会, 2003.                     |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | Ann B. Hamric et.al : Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5e Saunders 5 版             |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 高齢者の慢性疾患の病態・検査・治療法について予習・復習し、理解したことをレポートにまとめて (A4 1~2 枚程度に) 提出する。                                     |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 内藤 : 看護学研究科、1614 研究室 (曜日・時間については初回授業時に提示します。)   |               |           |             |                |

|            |   |
|------------|---|
| 科目名        | 認知症高齢者看護特論  |
| 科目責任者      | 木村 暢男   |
| 単位数他       | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付     | (2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。   |
| 科目概要       | 認知症高齢者の病態生理、検査・診断技術、治療・管理方法について理解し、認知症の重症度とBPSDのアセスメント能力を身につけて、複雑な問題を有する認知症高齢者と家族に対して専門的で高度な看護実践（日常生活を安全に、安定して過ごせるため）について探求する。  |
| 到達目標       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の診断・評価と病態生理、検査・診断技術および認知症の治療（薬物・非薬物療法）について理解を深め、認知症の重症度とBPSD、生活障害と心理的苦悩の理解に基づいたアセスメント方法が説明できる。</li> <li>2. 認知機能測定ツールの正しい測定方法を理解し、それらを用いて認知症患者の認知機能を正しく把握することができる。</li> <li>3. 認知症高齢者と家族のもつ複雑な看護の課題に対しリスクマネジメントでき、生活の質を高める専門的で高度な援助方法を考えることができる。</li> <li>4. 複雑で多面的なニーズを有する、認知症高齢者とその家族に対</li> </ol>  |
| 授業計画       | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：認知症の概念と定義（木村暢男）</p> <p>第2回：認知症患者の病態（認知機能の低下）と認知症をきたす疾患の検査（内藤智義）</p> <p>第3回：認知機能測定の実際：MMSE、長谷川式簡易知能評価スケール他（木村暢男）</p> <p>第4回：認知症の治療法（内藤智義）</p> <p>第5回：パーソンセンタードケアの理論と実践（講義）。パーソンセンタードケアを実践するための課題（討論）。（木村暢男）</p> <p>第6回：認知症高齢者及び家族の視点から、心理的苦悩を理解する（認知症高齢者・家族の手記を読んで発表し看護の方向を討議）（木村暢男）</p> <p>第7回：認知症高齢者のアセスメントと看護援助（木村暢男）</p> <p>第8回：事例検討（討論）（木村暢男）</p> <p>第9回：BPSDに対する援助、環境の調整（山田紀代美）</p> <p>第10回：認知症高齢者に対するアクティビティケアの理念と実際（回想法、バリデーション療法、リアルティ・リエンション等を含む）（木村暢男）</p> <p>第11回：認知症高齢者への環境の影響について理解する（山田紀代美）</p> <p>第12回：高齢者施設・グループホーム・在宅における認知症ケアの実際と質評価（DCM）（木村暢男）</p> <p>第13回：認知症高齢者のターミナルケア（山田紀代美）</p> <p>第14回：認知症高齢者における倫理的問題の理解と実践・調整（木村暢男）</p> <p>第15回：認知症高齢者ケアにおける老人看護専門看護師の実際・相談・教育の実際（木村暢男）</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |
| 学修方法       | 講義・討論   |
| 評価方法       | 授業への参加度とプレゼンテーション（70%）、レポート（30%）  |
| 課題に対するフィード | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する  |

|         |   |        |    |      |         |
|---------|---|--------|----|------|---------|
| バック     |   |        |    |      |         |
| 指定図書    | 長谷川和夫監修：認知症ケア最前線 理解と実践，パーソン書房，2014  |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     | 1) 池田学：認知症，中公新書，2010.<br>2) 日本神経学会監修：認知症疾患治療ガイドライン 2010 コンパクト版，医学書院，2012.<br>3) クリスティーン・ボーデン：私は誰になっていくの？ クリエイツかもがわ，2003.<br>4) トム・キッドウッド（高橋誠一訳）：認知症のパーソンセンタードケア，筒井書房，2005.<br>5) 児玉桂子，他編：痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり，彰国社，2003.<br>6) 金井克子，他監修：高齢者看護プラクティス 認知症ケア・ターミナルケア，中央法規，2006<br>7) ビ |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 認知症の病態生理を予習・復習し，理解したことをA4 1枚程度にまとめて提出する.  |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）  |        |    |      |         |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 老年看護学特論演習   |
| 科目責任者  | 山田 紀代美  |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) 修士論文コース 選択 春   |
| 科目の位置付 | (3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。  |
| 科目概要   | 老年看護学領域において問題・課題となる看護現象を理解するために、社会の変化、保健・医療・福祉の動向、老年看護の概念・諸理論、老化のバイオロジー、他学問分野の関心・発展等を踏まえて、現在の高齢者・高齢化社会のニーズや課題、新しい看護のアプローチについて探索する。  |
| 到達目標   | 1. 老年看護学領域における研究の動向を理解する。<br>2. 関心のあるテーマを基に文献検討し、臨地実習等の経験も交えて、リサーチクエッション、研究課題を明らかにする。<br>3. 研究計画書を立案するためのプロセスを踏んで、研究課題の明確化、研究方法の選択・決定、研究手順、研究のゴール（アウトカム）等を検討し、研究デザインを具体的に描く。<br>4. 看護実践および研究実践上の倫理的ジレンマについて、老年看護学の視点から考察する。   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>学生の関心や関心のあるテーマを基に、研究の意義、目的、方法・実現可能性、検証方法の適切性等の観点から文献検討を行う。授業は、おもに学生の発表とグループ討議で進める。</p> <p>第1回：授業の進め方に関する orientation&amp;assignment 山田紀代美<br/> 第2回：研究疑問 research question とは何か 山田紀代美<br/> 第3回：研究疑問を問う①老年看護における問題意識 山田紀代美<br/> 第4回：研究疑問を問う②研究疑問の構成要素・キーワード 山田紀代美<br/> 第5回：研究疑問を問う③研究疑問のレベルについて 山田紀代美<br/> 第6回：文献検討①文献検索に必要な知識と技術 内藤智義<br/> 第7回：文献検討②研究疑問に関する文献検索と検索結果 内藤智義<br/> 第8回：文献検討③研究疑問に関する文献の検索結果 内藤智義<br/> 第9回：文献検討④論文クリティークの視点 山田紀代美<br/> 第10・11回：課題に対する文献検討①質的研究における論文クリティーク 山田紀代美<br/> 第12・13回：課題に対する文献検討②量的研究における論文クリティーク 山田紀代美<br/> 第14・15回：課題に対する文献検討③英論文のクリティーク 山田紀代美<br/> 第16回：倫理的配慮：事例検討 山田紀代美<br/> ①認知症高齢者の終末期における意思決定<br/> 第17回：倫理的配慮：事例検討 山田紀代美<br/> ②家族介護者の介護負担と虐待<br/> 第18・19回：フィールドワーク①関心のあるテーマに関連した環境の理解 木村暢男<br/> 第20・21回：フィールドワーク②関心のあるテーマに関連した実態の把握 木村暢男<br/> 第22・23回：フィールドワーク③関心のあるテーマに関連した課題の抽出 木村暢男</p> <p>第24回：研究課題の明確化 山田紀代美<br/> 第25回：研究デザインについて：デザインの種類と特徴 山田紀代美<br/> 第26・27・28回：研究デザイン（研究計画書）の作成 山田紀代美<br/> 第29・30回：研究デザインの発表と評価 山田紀代美</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | ゼミ形式   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業への参加度とプレゼンテーション (70%), レポート (30%) により評価する。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する<br>レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 関心あるテーマについて、動機および研究課題を明確にし、テーマに関連する文献を 5 編以上精読してくること。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 老年看護学特論実習  |
| 科目責任者  | 木村 暢男  |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 修士論文コース 選択 春  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | 老年看護学特論、老年看護援助特論 I 等の既習の学習内容を統合し、老年期にある健康課題を持つ人の状況をアセスメントし、その人らしく生活できるように健康的な生活を回復・維持・促進するための看護過程を展開できる能力を修得する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の理論や知識を活用して、老年期にある健康課題を持つ人の状況をアセスメントし、課題解決に向けて高齢者の尊厳・その人らしさを尊重した看護実践（看護過程）を展開する。</li> <li>2. 診療の補助や日常生活援助を通して、新しい療養環境が高齢者にどのような変化や影響を与えているかを探索する。</li> <li>3. 高齢者・家族とのかかわりは、高齢者の健康的な生活の回復・維持・促進に貢献できているかを評価する。</li> <li>4. 上記のことを通して、老年看護実践の質向上のための研究課題を明確にし、その改善のための研究方法の具体化を検討する。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の関心、学習・研究課題に適した実習施設および対象を選択する。</li> <li>2. 上記①に沿って実習計画を作成し、それに沿って実践する。</li> </ol> <p>第 1-2 回：臨地実習の準備（関心・研究課題を明確にする）</p> <p>第 3-10 回：課題に沿った文献検討の実施</p> <p>第 11-20 回：高齢者ケア施設実習および看護実習（実践）とその記録</p> <p>第 21-30 回：看護実践の分析・結果の考察（援助の意味づけ）．課題の明確化と今後の研究の方向性の検討。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-30 回<br/>     実務家教員や実務家による授業：第 1-30 回<br/>     実地での体験活動を伴う授業：第 11-20 回</p> |
| 学修方法   | 臨床実習およびゼミ形式  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | 実習への取組み・参加度, 実習記録 (50%)<br>課題明確化の思考プロセスおよび文献検討の適切性 (50%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 実習の学びをカンファレンス等で確認し、課題を共に検討・指導する<br>実習記録は、目標の到達度を評価したのち、コメントを添えて返却する<br>文献検討の内容を評価したのち、実習記録における課題明確化の思考プロセスの表現について、<br>文書・口頭で指導する |               |           |             |                |
| 指定図書          | Matteson & McConnell's : Gerontological Nursing Concepts and Practice 3ed, saunders  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック第10版, 医学書院, 2014  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 指定図書および参考書を活用して看護過程の展開について予習しておくこと。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 老年看護学高度実践実習 I  |
| 科目責任者  | 内藤 智義  |
| 単位数他   | 6 単位 (270 時間) 高度実践看護コース 必修 春   |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | 多様で複数の健康問題を持つ高齢者とその家族に対して、老人看護専門看護師として必要な専門知識・的確な臨床判断、熟練した技術、および高い倫理観を用いて、質の高い看護実践を提供する能力を修得する。また、老人看護専門看護師の役割として必要な調整、コンサルテーション、倫理調整、教育等が必要な状況への関わりを通して、老人看護専門看護師としての役割・機能に関する認識を高め、新たな役割開発を行う研究的視点・能力を養う。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様で複雑な慢性疾患を持つ高齢者とその家族に関して、療養方法の修得、セルフケアの自立、療養の維持・促進等を目指した看護過程を展開することができる (実践)。</li> <li>2. 多様で複雑な慢性疾患を持つ高齢者とその家族が、療養に必要なリソースを得られるように、保健・医療・福祉にたずさわる他職種とのコーディネーションを行うことができる (調整)。</li> <li>3. 看護職者および老年看護 (特に慢性疾患高齢者のケア) 領域に関わる医療従事者に対し、それぞれのニーズや課題に応じてコンサルテーションを行うことができる (相談)。</li> <li>4. 慢性</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 内藤智義、山田紀代美、木村暢男 実習指導者：宗像倫子 (CNS)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>実習目的：複雑で多様な慢性疾患を持つ高齢者とその家族に対して、専門的で質の高い看護過程を展開し、それらの実践を通して老人看護専門看護師の役割 (高度実践・調整・コンサルテーション・相談・教育・倫理的調整・研究的取り組み) を修得する。</p> <p>実習期間：7月から9月</p> <p>実習施設：聖隷浜松病院</p> <p>4. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多様で複雑な健康問題を持つ慢性疾患のある高齢者とその家族に対して、実習担当教員及び実習指導者からスーパービジョンを受けながら、専門的で高度な質の高い看護を提供するための看護過程 (アセスメント・看護計画の立案、看護実践・評価) を展開する。</li> <li>2) 上記1)の実践を通して、老人看護専門看護師と共に、老人看護専門看護師の役割 (実践・調整・相談・コンサルテーション・教育・倫理的調整等) を体験・実践する。これらの役割遂行の経緯と具体的内容について、看護チームメンバーと共に1~2回程度の分析・評価会を行い、レポート作成する。</li> <li>3) 上記1)の患者の受け持ち期間終了後に、事例報告レポートを作成し、看護チームメンバー、臨床指導者、老人看護専門看護師、および担当教員等の参加のもとで事例検討会を行う。</li> <li>4) 看護スタッフ教育として、複雑難解な事例を担当している看護スタッフのニーズ (課題) に焦点を当て、課題を分析する。それらの知見を反映して老年看護の教育プログラムを立案・実践・評価 (教育的な働きかけ) をし、その目的、内容、実施、評価をレポートにまとめる。</li> <li>5) 専門看護師の役割である実践 (倫理調整を含む)、相談、調整、教育について、各項目について2例以上をまとめ、レポートを提出する。</li> </ol> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 臨床実習およびゼミ形式  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習への取組み・参加度, (50%), 実習記録: 思考プロセス (50%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 実習の学びをカンファレンス等で確認し、課題を共に検討・指導する<br>実習記録は、目標の到達度を評価したのち、コメントを添えて返却する<br>文献検討の内容を評価したのち、実習記録における課題明確化の思考プロセスの表現について、<br>文書・口頭で指導する             |               |           |             |                |
| 指定図書          | パトリシア・R. アンダーウッド (著), 南 裕子 (監修): 看護理論の臨床活用—パトリシア・R. アンダーウッド論文集, 日本看護協会出版会, 2003.   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | Ann B. Hamric et.al : Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5e Saunders<br>5 版   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 専門看護師 (CNS) の役割について確認し, NP (nurse practitioner) との相違点について考え, CNS と NP の共存のメリットは何か?あるいはデメリットがあるか考えておいて下さい                                     |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 内藤: 看護学研究科、1614 研究室 (曜日・時間については初回授業時に提示します。)<br>山田: 看護学研究科、1615 研究室 (曜日・時間については初回授業時に提示します。)<br>木村: 看護学研究科、2704 研究室 (曜日・時間については初回授業時に提示します。) |               |           |             |                |



|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | <p>実習の学びをカンファレンス等で確認し、課題を共に検討・指導する<br/> 実習記録は、目標の到達度を評価したのち、コメントを添えて返却する<br/> 文献検討の内容を評価したのち、実習記録における課題明確化の思考プロセスの表現について、<br/> 文書・口頭で指導する。</p>                                    |               |           |             |                |
| 指定図書          | <p>初回授業時に提示します。</p>   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | <p>1) 池田学：認知症，中公新書，2010.<br/> 2) 日本神経学会監修：認知症疾患治療ガイドライン 2010 コンパクト版，医学書院，2012.<br/> 3) トム・キッドウッド（高橋誠一訳）：認知症のパーソンセンタードケア，筒井書房，2005.<br/> 4) 長谷川和夫監修：認知症ケア最前線 理解と実践，ぱーそん書房，2014</p> |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>認知症の病態生理・認知症高齢者の生活上の問題，高齢者を取り巻く家族・社会環境等について，予習・復習し，看護実践に備えるようにする。</p>  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br/> 内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）</p>   |               |           |             |                |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 老年看護学特別研究   |
| 科目責任者         | 山田 紀代美  |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 修士論文コース 選択 通年   |
| 科目の位置付        | (4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。<br>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。<br>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要          | 修士論文を作成するために必要な老年看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。   |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。<br>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。<br>3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。   |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>1 年次春semester：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の適切性 (30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |
| 学修方法          | 学生の発表を中心に行い、ゼミ方式と個別指導により進める。  |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | 検討会等での発表に関する総合的な評価・反省を共に行い、次回への示唆を提示する。計画書案について随時評価し、添削・指導を重ね、コメントを添えて返却する。   |
| 指定図書          |   |

| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|---------|--|--------|----|------|---------|
|         |  |        |    |      |         |
| 参考書     |  |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 積極的・計画的・主体的に、集中して授業に臨むこと。  |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |        |    |      |         |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 老年看護学課題研究   |
| 科目責任者  | 山田 紀代美  |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) 高度実践看護コース 選択 通年  |
| 科目の位置付 | (4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。<br>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。<br>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要   | 老年看護学特論・援助特論・病態・治療・管理論等で学習した内容をふまえて、高度看護実践の中から高齢者とその家族について関心ある問題を取り上げ、研究課題の明確化・研究計画書の作成、計画に沿ってデータの収集・分析を行い、論文にまとめるプロセスを実践し、基礎的な研究能力を修得する。   |
| 到達目標   | 1. 老年看護実践の中から関心ある課題・問題を取り上げ、テーマを設定する。<br>2. 研究計画書として、研究の背景（動機）、意義、目的、研究方法・倫理的配慮等について明確に記述する。<br>3. 研究計画に沿って、データ収集、結果を分析する。<br>4. 考察、結論を、看護実践への効果的な影響の面から論理的に記述する。<br>5. 論文の形式に沿って研究の背景（動機）、意義、目的、研究方法、倫理的配慮、結果、分析、考察等を論述し、修士論文を作成する。  |
| 授業計画   | 1年次春semester：<br><授業内容・テーマ等>看護学領域における特論、看護研究方法等で学修した内容を用いて、文献検討や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br><評価方法>・文献検討及び課題の焦点化（30%）・研究計画書の完成度（70%）<br><br>1年次秋semester：<br><授業内容・テーマ等><br>研究計画を検討会で発表し研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br><評価方法>・文献検討及び課題の焦点化（30%）・研究計画書の完成度（70%）<br><br>2年次春semester：<br><授業内容・テーマ等><br>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br><評価方法>・倫理的配慮の適切性（10%）・データ収集及び分析の適切性（30%）・論文の完成度（60%）<br><br>2年次秋semester：<br><授業内容・テーマ等><br>指導を受けながら、課題研究論文を作成し、完成させる。<br><評価方法>・倫理的配慮の適切性（10%）・データ収集及び分析の適切性（30%）・論文の完成度（60%）<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回 |
| 学修方法   | プレゼンテーション、討議、個別指導により授業を行う。  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 検討会等での発表に関する総合的な評価・反省を共に行い、次回への示唆を提示する。計画書案について随時評価し、添削・指導を重ね、コメントを添えて返却する。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 論文作成に必要な社会情勢の最新情報や文献検討などの事前学習を、積極的、計画的、主体的に行っておくこと。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 山田：看護学研究科、1615 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>木村：看護学研究科、2704 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。）<br>内藤：看護学研究科、1614 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 精神看護学特論   |
| 科目責任者  | 入江 拓  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 春   |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる   |
| 科目概要   | 精神科看護とは、精神的健康について援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、自律性の回復を通して、その人らしい生活ができるように支援することを言い、精神的健康の増進を目指す精神保健看護と精神科看護の二つの分野からなり、精神看護学はこれを学ぶ学問である。これらに共通した、対象となる人々への理解およびケアの基礎的な概念に関する知識を概観し、アセスメントや看護ケアへ活用する方法を検討する。そして、精神医療に携わる者や、組織の倫理的課題を踏まえて、実践上の、あるいは研究課題につなげるいくつかの視座を基に考察する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学の成立と発展を理解するため精神医療の歴史的経緯を制度・関連法規と関連させ学修する。</li> <li>2. 現在の精神 (科) 看護の課題 (倫理上の課題を含む) を理解し、実践上あるいは研究課題と関連づけて考察できる。</li> <li>3. 対象となる人々を理解するための精神の構造と機能に関する理論や仮説を説明できる。</li> <li>4. 個々人の精神的課題と家族や集団との関連に関する基本的な知識を習得する。</li> <li>5. 対象となる人々への精神的課題の評価とケアに関する基礎的理論を理解する。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;入江拓、清水隆裕</p> <p>第1回 インTRODクシヨN: 精神病およびメンタルヘルスの概念の変遷<br/>批判的談話研究からの検討<br/>入江拓</p> <p>第2回 日本の精神医療の歴史的変遷: 精神保健医療制度・関連法規の変遷<br/>聖隷の歴史に学ぶ倫理をめぐる闘いに関する哲学的検討・倫理観を下支えするもの<br/>入江拓</p> <p>第3回 我が国の精神医療現場における倫理をめぐる課題 (1)<br/>権利擁護的な文脈での倫理的課題<br/>今泉源</p> <p>第4回 精神医療における倫理をめぐる内外の現状と課題 (2)<br/>非倫理的行動や虐待的な文脈での倫理的課題<br/>今泉源</p> <p>第5回 精神機能・精神症状: 人格、知能、意識、認知機能、高次脳機能、感情<br/>入江拓</p> <p>第6回 こころの構造と機能1: 精神力動論 I (精神分析的理論)<br/>清水隆裕</p> <p>第7回 こころの構造と機能2: 精神力動論 II (対象関係論、愛着理論等)<br/>清水隆裕</p> <p>第8回 こころの構造と機能3: 生涯発達論 (エリクソンによる理論)<br/>清水隆裕</p> <p>第9回 こころの構造と機能4: 認知行動理論・パーソナリティ論<br/>清水隆裕</p> <p>第10回 精神疾患とはなにか: 精神疾患に対する種々のアプローチ<br/>今泉源</p> <p>第11回 個と集団へのアプローチ: 家族機能、家族システム論、グループダイナミクス<br/>今泉源</p> <p>第12回 アセスメントと看護ケアに関する理論 1: 対人関係論<br/>清水隆裕</p> <p>第13回 アセスメントと看護ケアに関する理論 2: セルフケア論<br/>清水隆裕</p> <p>第14回 アセスメントと看護ケアに関する理論 3: 社会心理的アプローチ</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 清水隆裕<br>第15回 身体疾患への精神看護・精神障害者への身体ケア<br>当事者・援助者の語り、マイノリティー支援の視座<br>入江拓<br><br>＊順番は都合で変わる場合があります。<br>＊この科目は「実践的な方法による授業」である。   |               |           |             |                |
| 学修方法          | テーマに関する文献のプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を行う。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br>実務家教員や実務家による授業：第1-15回   |               |           |             |                |
| 評価方法          | ディスカッションへの参加度及び、プレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | プレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。<br>さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックします。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に現在持っている精神看護の教科書、参考書をお持ちください。</li> <li>・野呂香代子・神田靖子訳、批判的談話研究とは何か、三元社（2018）</li> <li>・小田博志、改訂版、エスノグラフィー入門、春秋社（2023）</li> <li>・中野真也・吉川悟、システムズアプローチ入門（2024）</li> <li>・Isabel Menzies Lyth, Containinng Anxiety in Institutions, (1988) 該当箇所を精選してお渡しします</li> </ul> |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業前に関連資料（事例等）を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。（毎回40分程度の事前・事後学習を行ってください。）   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。<br>入江拓は看護学部の所属（3403研究室）taku-i@seirei.ac.jpです。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取りおいでください。<br>清水隆裕は看護学部の所属（1214研究室）takahiro-sh@seirei.ac.jpです。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取りおいでください。   |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 地域精神保健活動特論   |  |
| 科目責任者  | 入江 拓   |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 選択 秋  |  |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |  |
| 科目概要   | 地域精神保健の概要とメンタルヘルスに関するライフサイクルに応じた課題を理解し、予防的介入を学ぶ。   |  |
| 到達目標   | 1. 社会の中起こる精神保健上の問題の発生と予防について理解することができる。<br>2. ライフサイクル別にみたメンタルヘルスの特徴を説明することができる。<br>3. 地域社会におけるメンタルヘルス向上を目指したアプローチを理解する。  |  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt;入江拓、清水隆裕、渡部奈穂、高塚清香</p> <p>第 1 回 授業ガイダンス：プレゼンテーションの方法など、文献紹介 入江拓</p> <p>第 2 回 精神保健の基本知識（概要、意義や課題、関連法規） 入江拓</p> <p>第 3 回 ライフサイクル早期におけるメンタルヘルスの課題 1<br/>（周産期のメンタルヘルス、子どもの発達を周産期から支援する） 入江拓</p> <p>第 4 回 ライフサイクル早期におけるメンタルヘルスの課題 2<br/>地域で支えるマイノリティの生活者のメンタルヘルス 入江拓</p> <p>第 5 回 生活の場（学校）におけるメンタルヘルスのシステムと課題 1<br/>（学齢期の子どものメンタルヘルス支援システム） 入江拓</p> <p>第 6 回 生活の場（学校）におけるメンタルヘルスのシステムと課題 2<br/>（学生相談から見た大学生のメンタルヘルスと心の教育。自殺予防対策） 入江拓</p> <p>第 7 回 成熟期におけるメンタルヘルスの課題（うつ病など） 清水隆裕</p> <p>第 8 回 老年期のメンタルヘルスの課題（認知症、犯罪など）<br/>清水隆裕</p> <p>第 9 回 当事者や家族を支える地域の取り組み 1 支援・サービス・社会資源 渡部奈穂</p> <p>第 10 回 当事者や家族を支える地域の取り組み 2 リカバリー志向のサービス 渡部奈穂</p> <p>第 11 回 当事者や家族を支える地域の取り組み 3 当事者・ネットワーク 渡部奈穂</p> <p>第 12 回 当事者や家族を支える地域の取り組み 4 ケースマネジメント 渡部奈穂</p> <p>第 13 回 地域精神保健の課題 1（産業の現場でのメンタルヘルスの現状と課題） 高塚清香</p> <p>第 14 回 地域精神保健の課題 2（メンタルヘルスリテラシー教育） 高塚清香</p> <p>第 15 回 地域精神保健活動における看護の役割（リエゾンなど）<br/>入江拓</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> |  |
| 学修方法   | テーマに関する文献のプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を行う。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br>実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回   |  |
| 評価方法   | ディスカッションへの参加度及び、プレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）   |  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | プレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックする。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 服部祥子、生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために(第3版)医学書院  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 適宜資料等含め提示します。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業前に関連資料（事例等）を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。（毎回40分程度の事前・事後学習を行ってください。）   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。</p> <p>入江拓は看護学部の所属（3403 研究室）<a href="mailto:taku-i@seirei.ac.jp">taku-i@seirei.ac.jp</a> です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取りおいください。</p> <p>清水隆裕は看護学部の所属（1214 研究室）<a href="mailto:takahiro-sh@seirei.ac.jp">takahiro-sh@seirei.ac.jp</a> です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取りおいください。</p> |               |           |             |                |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 精神看護学特論演習   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 清水 隆裕   |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (45 時間) 選択 秋   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 精神看護の対象となる個人および集団へ提供する看護援助技法（看護セラピー）の理論的背景を理解し、文献購読やロールプレイ等により基本的技法を修得し、さらに評価方法を学ぶ。さらに多職種チームにおける看護師の役割を理解する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | 1. 面接の目的を理解し、対象者が持っている健康課題と関連する要因（病歴、家族など）の情報収集の方法を学ぶ。<br>2. 個々人の精神的課題や家族や集団へのアプローチに関する基本的な知識と方法を習得する。<br>3. 多職種チームに個々人の精神的課題へ、家族や集団へのアプローチの基本的方法を修得する。   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <担当教員名>清水隆裕、入江拓<br><授業内容・テーマ等><br>・個人初回面接法について<br>第1回 オリエンテーション、面接の目的と背景にある理論<br>第2回 個人初回面接法 文献購読<br>第3回 個人初回面接法1：面接時態度、情報収集すべき項目の検討、情報整理によるヒストリーの作成の意味と方法、<br>第4回 個人初回面接法2：ロールプレイ、記録の書き方<br>第5回 治療的面接法 1：目的、技法の概観<br>第6回 治療的面接法 2：ロジャーズによる面接技法、<br>第7回 治療的面接法 3：マイクロカウンセリングのコミュニケーション技法<br>第8回 治療的面接法 4：支持的精神療法に関する理論と各技法の方法、治療的面接法と看護への適用、レビューおよび記録の書き方、<br>第9回 グループダイナミクス 1：レビン、スラブソン、ピオンなどの理論<br>第10回：集団精神療法1：多様な方法の概観による)<br>第11回から13回 SSTあるいは認知行動療法に関する基本的知識と方法<br>第14回から17回 病棟・デイケアにおいて個人面接、SST、認知行動療法等に参加・見学<br>第18回から20回 事例検討（上記の事例に関する振り返り）<br>第21回から23回 精神看護における多職種チームでの看護師の機能と役割<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-23回<br>実務家教員や実務家による授業：第1-23回 |        |    |      |         |
| 学修方法          | 自身が経験した事例の検討を含めたプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を進めます。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | ディスカッション、ロールプレイへの参加度及び、プレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 提出されたプレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックする。   |        |    |      |         |
| 指定図書          | なし  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |

|         |  |        |    |      |         |
|---------|--|--------|----|------|---------|
|         |  |        |    |      |         |
| 参考書     | 授業で適宜紹介する  |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 授業前に関連資料（事例等）を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。（毎回 40 分程度の事前・事後学習を行ってください。）   |        |    |      |         |
| オフィスアワー | メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。<br>清水隆裕 研究室 (1214) アドレス : takahiro-sh@seirei.ac.jp<br>入江拓 研究室 (3403) アドレス : taku-i@seirei.ac.jp |        |    |      |         |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 精神看護学特論実習   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 清水 隆裕   |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 選択 秋   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 6. 他の専門職者、研究者や学生との連携・協働し、リーダーシップを発揮して課題解決に取り組むことができる  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 精神看護学特論、精神看護学特論演習において学修した内容を統合して、精神的課題を持つ人々に対応して効果的な看護ケアを提供する能力を養う。   |        |    |      |         |
| 到達目標          | 1. 修得したコミュニケーション能力を用いて、精神的課題を持つ人々から短時間で適切な情報収集を行うことができる。<br>2. 得られた情報から対象に応じた支援計画を作成・実施・評価し、改善策を作成できる。<br>3. 対象者の持つ問題に応じた看護介入の技法の実施上の問題点を検討することができる   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <担当教員名>清水隆裕、入江拓<br><授業内容・テーマなど><br>第1回実習オリエンテーション<br>第2回実習のテーマを決定し、可能な実習施設・対象・方法を検討する<br>第3回実習計画の立案および依頼状等の手続きを行う。<br>8日間の臨地実習を行う。この間2回実習報告をおこないスーパービジョンを受ける。<br>実習終了後、評価、改善策を検討する。<br>実習の場は、病棟、デイケア、地域の障害者総合支援法等による施設等から学生が選択する。<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：第全ての回<br>実地での体験活動を伴う授業：実習期間 |        |    |      |         |
| 学修方法          | 自ら経験した事例の検討を含めたプレゼンテーションに関してスーパービジョンを行う形式で授業を進めます。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | 実習の参加度及び、プレゼンテーション (50%)、課題レポート (50%)   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 提出されたプレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。   |        |    |      |         |
| 指定図書          | なし  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |
| 参考書           | 適宜、授業内で紹介します  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修       | 授業前に関連資料(事例等)を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読み、まとめて授業に参加する。  |        |    |      |         |

|             |  |
|-------------|--|
| オフィス<br>アワー | メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。<br>清水隆裕 研究室 (1214) アドレス : takahiro-sh@seirei.ac.jp<br>入江拓 研究室 (3403) アドレス : taku-i@seirei.ac.jp |
|-------------|--|

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 精神看護学特別研究  |
| 科目責任者  | 清水 隆裕  |
| 単位数他   | 8 単位 (240 時間) 選択 通年  |
| 科目の位置付 | <p>4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる</p> <p>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる</p> <p>7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる</p>  |
| 科目概要   | <p>修士論文を作成するために必要な精神看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる</li> <li>・研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる</li> <li>・学術的な視野をもち、学会等で専門家や学生と交流ができる</li> </ul>  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。</li> <li>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。</li> <li>3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 担当教員：清水隆裕、入江拓</p> <p>1 年次春semester：リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester：春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の適切性 (30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>     実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |
| 学修方法   | 自ら経験した事例の検討を含めたプレゼンテーションに関してスーパービジョンを行う形式で授業を進める。  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | 上記評価方法によって総合的に最終評価を行う。   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 提出されたプレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 授業中、適宜紹介します  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 研究のプロセスに沿って各自主体的に進める。(毎回 40 分程度の事前・事後学習を行ってください。)  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。<br>清水隆裕 研究室 (1214) アドレス : takahiro-sh@seirei.ac.jp<br>入江拓 研究室 (3403) アドレス : taku-i@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|                       |   |                       |
|-----------------------|---|-----------------------|
| 科目名                   | 慢性看護学特論   |                       |
| 科目責任者                 | 河口 てる子  |                       |
| 単位数他                  | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修, 春semester  |                       |
| 科目の位置付                | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |                       |
| 科目概要                  | 慢性病が個人および家族の健康や生活に及ぼす影響について理解するとともに、慢性病者の思いや反応、行動特性を理解するための概念・理論について学び、慢性病をもちながらの日常生活において生起する複雑で解決困難な問題とその背景を探求する。  |                       |
| 到達目標                  | 1. 慢性的な病気や障害の動向および慢性病が個人とその家族の健康や生活に及ぼす影響について理解する。<br>2. 慢性病者とその家族の思いや反応、行動特性を理解するうえで基盤となる概念・理論について要点を説明できる。<br>3. 慢性病者の理解にかかわる概念・理論および社会の変化をふまえ、慢性病をもちながらの日常生活において生起する複雑で解決困難な問題とその背景について検討する。 |                       |
| 授業計画                  | <授業内容・テーマ等>   | <担当教員名>               |
|                       | 第 1 回：社会の変化と慢性的な病気や障害の動向  | 河口てる子                 |
|                       | 第 2 回：慢性病とともに生きるということ（慢性性）  | 河口てる子                 |
|                       | 第 3 回：慢性病とともに生きることに伴う多様な問題とその背景   | 河口てる子                 |
|                       | 第 4 回：慢性病者の反応・行動の特徴（保健行動、病気行動、病者役割等）  | 河口てる子                 |
|                       | 第 5 回：セルフケアおよび関連概念<br>(Self-care, Self-management、セルフマネジメントモデル 等)   | 河口てる子                 |
|                       | 第 6 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ①自己効力理論   | 河口てる子                 |
|                       | 第 7 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ②病みの軌跡  | 河口てる子                 |
|                       | 第 8 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ③不確かさ   | 河口てる子                 |
|                       | 第 9 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ④<br>成人教育(アンドラゴジー)  | 河<br>口<br>て<br>る<br>子 |
|                       | 第 10 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ⑤ICF モデル   | 河口てる子                 |
|                       | 第 11 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ⑥<br>ト ラ ン ス セ オ レ テ ィ カ ル モ デ ル   | 河<br>口<br>て<br>る<br>子 |
|                       | 第 12 回：慢性病者の理解にかかわる概念・理論 ⑦<br>ス ト レ ス ・ コ ー ピ ン グ 理 論   | 河<br>口<br>て<br>る<br>子 |
|                       | 第 13 回：ストレス対処と健康保持（健康生成志向）  | 河口てる子                 |
| 第 14 回：文献にみる慢性病者とその家族 | 河口てる子   |                       |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 第15回：まとめ（臨床でかかわった事例を用いての検討） <span style="float: right;">河口てる子</span>   |               |           |             |                |
|               | *この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br>実務家教員や実務家による授業：第1-15回  |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度（授業でのプレゼンテーションを含む）50%、課題レポート（1・2）50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。<br>また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 最初に授業計画を提示するので、担当するいくつかの課題を決めて、主に指定図書を用いて事前学習を行い、プレゼンテーションの準備をしてください（各回180分程度）。<br>課題レポート1：取り上げた概念の一つから選択したテーマ<br>課題レポート2：概念・理論の活用（事例を用いた検討） |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 河口てる子：1209研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間については初回授業時に提示します。   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学援助特論 I  |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修, 春セメスター  |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | 慢性病患者とその家族の複雑な心身の状態把握に必要な身体的、心理・社会的側面を含めた包括的アセスメントについて学ぶ   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性病患者の身体・生活面のアセスメントについて理解する</li> <li>2. 慢性病患者の心理・社会的側面のアセスメントについて理解する</li> <li>3. 慢性病患者の生活面のアセスメントについて理解する</li> <li>4. 慢性病患者の家族について、家族看護に基づくアセスメントについて理解する</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">＜ 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 ＞</p> <p>＜担当教員名＞</p> <p>第1回：慢性病患者の包括的なアセスメントの概要、意義 和田 由樹</p> <p>第2回：身体面のアセスメント①<br/>(呼吸器・循環器に機能障害をもつ患者のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第3回：身体面のアセスメント②<br/>(内分泌・代謝に機能障害をもつ患者のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第4回：身体面のアセスメント③<br/>(脳神経・運動器に機能障害をもつ患者のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第5回：身体面のアセスメント④<br/>(嚥下機能・排泄機能に障害をもつ患者のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第5回：主要な症状のアセスメント①<br/>(疼痛・しびれ、倦怠感のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第7回：主要な症状のアセスメント②<br/>(水分・栄養状態、浮腫のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第8回：主要な症状のアセスメント③<br/>(サブスペシアル領域特有の症状アセスメント) ゲストスピーカー</p> <p>第9回：生活面のアセスメント (セルフケア能力のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第10回：心理社会的側面のアセスメント① (認知面のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第11回：心理社会的側面のアセスメント② (心理面のアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第12回：心理社会的側面のアセスメント③<br/>(サブスペシアル領域の慢性病患者特有の心理社会的側面のアセスメント) ゲストスピーカー</p> <p>第13回：慢性病患者の家族に対するアセスメント①<br/>(家族を理解する諸理論に基づくアセスメント) 和田 由樹</p> <p>第14回：慢性病患者の家族に対するアセスメント②<br/>(家族アセスメントモデルの活用) 和田 由樹</p> <p>第15回：病期に応じた慢性病患者とその家族の包括的アセスメント 和田 由樹</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br>実務家教員や実務家による授業：第1-15回   |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度（授業でのプレゼンテーション含む）50%、課題レポート50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修および授業内容における疑問については、授業内でフィードバックを行います  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学修：基盤科目「フィジカルアセスメント」の学修内容をもとに、慢性病者に対する各回のアセスメント内容について、指定図書および文献をもとに事前に自己学修を行い、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（各回180分程度）<br>事後学修：授業後にはその内容から自己の課題を深める（各回180分程度） |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp  |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 慢性看護学援助特論Ⅱ  |
| 科目責任者  | 和田 由樹   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修, 春semester  |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |
| 科目概要   | 慢性的な病気や障害をもつ人の利用可能な医療・福祉の諸制度や体制について学ぶとともに、現状における課題を整理し、革新的方策について検討する  |
| 到達目標   | 1. 我が国における慢性的な病気や障害をもつ人の利用可能な医療・福祉の諸制度や体制とその課題について理解する<br>2. 現行の医療・福祉制度における問題・課題と革新的方策の検討を通して、制度の活用を充実させるための支援のあり方を探求する   |
| 授業計画   | <p>&lt; 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 &gt;<br/>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：慢性的な病気や障害をもつ人々を支える医療・福祉政策・制度 和田 由樹<br/>第 2 回：医療保険制度と診療報酬 和田 由樹<br/>第 4 回：健康増進・生活習慣病予防対策の概要 和田 由樹<br/>第 5 回：年金制度の仕組みとその課題 河口てる子<br/>第 6 回：障害者福祉の現状と課題：①障害者総合支援法と障害者手帳 和田 由樹<br/>第 7 回：障害者福祉の現状と課題：②透析患者をめぐる社会保障の実際 和田 由樹<br/>第 8 回：病気や障害による生活の困窮と自立支援 和田 由樹<br/>第 9 回：地域で生活する慢性病患者と家族をめぐるわが国の現状 酒井 昌子<br/>第 10 回：介護保険制度の仕組みとその課題 酒井 昌子<br/>第 11 回：地域包括ケアシステムの取り組み 酒井 昌子<br/>第 12 回：ケアマネジメントと社会資源 酒井 昌子<br/>第 13 回：地域包括ケアにおける連携と看護師の役割 酒井 昌子<br/>第 14 回：在宅療養における生活と医療を統合する支援 酒井 昌子<br/>第 15 回：医療・福祉の諸制度における課題と革新的方策についての検討 和田 由樹</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度（授業でのプレゼンテーション含む）50%、課題レポート50%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修および授業内容における疑問については、授業内でフィードバックを行います   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 医療・福祉の諸制度については、『国民衛生の動向』『国民の福祉と介護の動向』等から現行制度の要点を整理してプレゼンテーションの準備をしてください（各回180分程度）<br>課題レポート：モデル事例（①家族を支える立場にある有職者が病気で入院した場合、②病気や障害とともに生活している高齢者の場合）をあげ、利用可能な医療・福祉の諸制度および問題・課題について検討する |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間については初回授業時に提示します   |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 慢性看護学援助特論Ⅲ  |
| 科目責任者  | 和田 由樹   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修, 秋semester  |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |
| 科目概要   | 複雑な問題を抱えて生活する慢性病患者とその家族の療養環境を把握するとともに、慢性病患者・家族の地域での生活を支える支援ネットワークについて理解し、質の高い療養生活に向けて調整するための方策を検討する   |
| 到達目標   | 1. 複雑な問題を抱えて生活する慢性病患者とその家族の病期に応じた療養環境(病院、外来、在宅など)における特徴を理解する<br>2. 慢性病患者とその家族の地域での生活を支える支援ネットワークについて理解する<br>3. 複雑な問題を抱えて生活する慢性病患者とその家族の、より質の高い療養生活に向けた調整をするための方策について検討する  |
| 授業計画   | <p>&lt; 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 &gt;<br/>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：地域包括ケアシステムにおける地域医療構想 和田 由樹</p> <p>第 2 回： 地域包括ケアシステムにおける病院機能分化と機能連携<br/>和田 由樹</p> <p>第 3 回： ソ ー シ ャ ル サ ポ ー ト の 概 念 ・ 種 類<br/>和田 由樹</p> <p>第 4 回： 療 養 の 場 の 移 行 に 伴 う 支 援<br/>和田 由樹</p> <p>第 5 回：慢性病患者と家族の在宅療養移行支援における看護ケア<br/>和田 由樹</p> <p>第 6 回：療養支援における成人教育理論を用いたアプローチ<br/>河口 てる子</p> <p>第 7 回：在宅療養移行支援における専門看護師の役割<br/>ゲストスピーカー</p> <p>第 8 回：外来に通院する慢性病患者への支援<br/>ゲストスピーカー</p> <p>第 9 回：医療療養病棟における難病患者・家族の抱える問題と専門的支援<br/>ゲストスピーカー</p> <p>第 10 回：難病患者・家族への専門的支援：外来支援とレスパイト入院<br/>ゲストスピーカー</p> <p>第 11 回：難病患者の在宅療養移行を支援する地域連携室の役割<br/>ゲストスピーカー</p> <p>第 12 回：難病患者・家族の支援ネットワーク<br/>ゲストスピーカー</p> <p>第 13 回：終末期にある慢性病を持つ人とその家族に対するエンドオブライフケア</p> <p>和田 由樹</p> <p>第 15 回：慢性病をもつ人の質の高い療養に向けた専門看護師による倫理調整</p> <p>和田 由樹</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |
| 学修方法   | 講義およびセミナー形式で授業を進めます   |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | 授業への参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前学修：課題について、プレゼンテーションの準備をしてください (各回 180 分程度)<br>事後学修：授業後にはテーマに関する内容から慢性病を持つ人の療養を支える支援システムの現状と課題について検討してください。      |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間については初回授業時に提示します |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学援助特論IV  |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 高度実践看護コース 必修, 秋semester   |
| 科目の位置付 | DP2 エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | 慢性病の発症予防から死に至るまでのさまざまな時期に対応した慢性病の予防・治療に伴う専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護、終末期ケアに関する諸理論と支援技術について学ぶ  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性病の発症・進展予防のための自己管理支援に関わる理論について学ぶ</li> <li>慢性病のさまざまなに変化する時期（急性増悪期、回復期、安定期、終末期）に対応した専門的看護支援について学び、時期に応じた望ましい支援のあり方を検討する</li> <li>病気や障害を抱えて生活する人と家族に対するリハビリテーション看護について学ぶ</li> <li>終末期にある慢性病患者とその家族の抱える倫理的な問題を理解し、意思決定を支える支援について検討する</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt; 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 &gt;</p> <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：慢性病の経過および治療の特徴からみた分類 和田 由樹</p> <p>第 2 回：青年期・壮年期の特徴をふまえた看護支援 和田 由樹</p> <p>第 3 回：老年期の特徴をふまえた看護支援 和田 由樹</p> <p>第 4 回：慢性病の発症・進展予防のための自己管理支援 河口てる子</p> <p>第 5 回：急性増悪期における悪化リスク軽減に向けた看護支援 ゲストスピーカー</p> <p>第 6 回：回復期における生活の再獲得を促進する支援 和田 由樹</p> <p>第 7 回：リハビリテーションを必要とする慢性病患者への支援技術 和田 由樹</p> <p>第 8 回：協働的パートナーシップ理論 和田 由樹</p> <p>第 9 回：協働的パートナーシップ理論を用いた支援の実際 和田 由樹</p> <p>第 10 回：慢性病とともに生きることを支える看護支援 ゲストスピーカー</p> <p>第 11 回：終末期にある慢性病患者と家族の抱える多様な問題とその背景 和田 由樹</p> <p>第 12 回：終末期にある慢性病をもつ人と家族の倫理的な意思決定理論 和田 由樹</p> <p>第 13 回：終末期にある慢性病を持つ人に対する苦痛緩和ケア 和田 由樹</p> <p>第 14 回：終末期にある慢性病患者とその家族に対する全人的ケア 和田 由樹</p> <p>第 15 回：終末期にある慢性病をもつ人とその家族に対する悲嘆・グリーフケア</p> <p>和田 由樹</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 実務家教員や実務家による授業：第1-15回   |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義およびセミナー形式で授業を進めます   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート 50%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。<br>また、提出された課題については振り返りの機会を設けます  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 選択した課題について、テーマに関する文献を読み、プレゼンテーションの準備をしてください(各回180分程度)<br>課題レポート：テーマに関する事例検討あるいは文献検討                               |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間については初回授業時に提示します |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学特論演習  |
| 科目責任者  | 河口 てる子   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 修士論文コース 選択 秋semester  |
| 科目の位置付 | DP3 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 様々な問題を抱えて生活する慢性疾患患者とその家族に対する看護支援の実際を学び、慢性疾患患者・家族を支援するための看護モデルの構築を試みる。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病等の慢性疾患を持ちながら生活する人々の療養の現状と課題を理解し、患者家族にかかわる医療・療養の場における看護の実際より、セルフマネジメントを支援する看護のあり方について検討する。</li> <li>進行性で医療的ケアニーズの高い在宅療養者の現状と課題を理解し、在宅や療養施設等の難病患者の療養の場における看護の実際により、難病看護のあり方について検討する。</li> <li>慢性疾患患者とその家族を支援するため看護介入モデルを検討する。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">＜ 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 ＞</p> <p>＜担当教員名＞</p> <p><b>【高齢慢性疾患患者のセルフマネジメント】</b></p> <p>第 1～3 回 : 慢性疾患患者のセルフマネジメント支援について<br/>河口てる子</p> <p>第 4～9 回 : 高齢慢性疾患患者の療養支援の実際<br/>和田 由樹<br/>(外来、在宅診療、訪問看護等における療養支援事例の収集)</p> <p>第 9～12 回 : 慢性疾患患者の療養、およびセルフマネジメントの支援の検討<br/>山本 真矢<br/>(事例分析を通して療養、およびセルフマネジメント支援の在り方の検討)</p> <p><b>【難病看護】</b></p> <p>第 13～15 回 : 難病療養者の療養支援について<br/>河口てる子</p> <p>第 16～21 回: 難病療養者の療養支援の実際<br/>和田 由樹<br/>(在宅、療養施設等における難病看護及び療養支援の事例収集)</p> <p>第 21～24 回: 難病療養者の療養上の課題とその解決に向けた支援の検討<br/>和田 由樹<br/>(事例分析を通して、多職種連携、および難病看護の在り方の検討)</p> <p><b>【看護介入モデルの検討】</b></p> <p>第 25～27 回: 慢性看護に関連する看護介入の課題に関する検討<br/>河口てる子<br/>(事例にみる実際と文献からの知見により、看護介入を検討)</p> <p>第 28～30 回 : 慢性看護における特定の課題に対する看護介入の構造化<br/>河口てる子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業 : 第 1-30 回<br/>実務家教員や実務家による授業 : 第 1-30 回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日3回(3コマ)を単位として進める。</li> <li>・【高齢慢性疾患患者のセルフマネジメント】【難病看護】それぞれ①事前ゼミ、②臨地での事例収集、③事例分析を実施する。</li> <li>・【看護介入モデルの検討】事例分析をもとに、慢性看護実践上の課題を明示し、改題解決に向けた看護介入について検討し、構造化する。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・ゼミにおけるディスカッションへの参加 50%</li> <li>・事例分析、および看護介入モデルに関するレポート 50%</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックする。</li> <li>・提出された課題については振り返りの機会を設ける。</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前ゼミにおける課題に関しては、科目開始前に提示する。</li> <li>・臨地での収集した事例に関するレポートは、それぞれの課題に応じた分析を行い、プレゼンおよびディスカッションの内容を踏まえて作成する。<br/>課題レポート1：セルフマネジメント<br/>課題レポート2：難病看護</li> <li>・看護介入モデルの検討に関しては、自己の研究テーマを踏まえ、事例分析を活用し、特定の課題に対する看護介入の構造化に向けた取り組みをレポートとして報告する。</li> </ul> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>和田 由樹： 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法については初回授業時に提示します。  |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学高度実践演習 I  |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 必修, 秋semester   |
| 科目の位置付 | DP3 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 主要慢性疾患における特徴的な病態・症候、必要な検査・診断・治療について理解したうえで、身体、心理社会的側面を含めた包括的アセスメントの基本的技能を修得する  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要慢性疾患における特徴的な病態・症候、必要な検査・診断・治療について理解する</li> <li>2. 慢性病者の身体の安寧を整えるための症状緩和に関する治療調整・支援技術を理解する</li> <li>3. 慢性病者の病状悪化のリスクおよび悪化予防のための専門的な看護支援技術を理解する</li> <li>4. 事例のロールプレイを通して、慢性病者とその家族の身体、心理社会的側面を含めた包括的アセスメントの基本的技法を修得する</li> <li>5. サブスペシャル領域における慢性病者の査定に適した包括的アセスメントを作成する</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">＜ 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 ＞</p> <p>＜担当教員名＞</p> <p>第 1～2 回：慢性疾患をもつ人の診断・治療が生活に及ぼす影響<br/>和田 由樹</p> <p>第 3～5 回：内分泌疾患における検査・診断・治療<br/>柏原裕美子</p> <p>第 6～7 回：脳神経疾患における検査・診断・治療<br/>渥美哲至</p> <p>第 8～9 回：糖尿病患者における包括的アセスメントと支援技術<br/>山本真矢</p> <p>第 10～11 回：慢性呼吸器疾患患者における包括的アセスメントと支援技術<br/>山本真矢</p> <p>第 12～13 回：慢性腎臓病患者における包括的アセスメントと支援技術<br/>和田 由樹</p> <p>第 14～15 回：慢性心不全患者における包括的アセスメントと支援技術<br/>和田 由樹</p> <p>第 16～17 回：脳神経疾患患者における包括的アセスメントと支援技術<br/>和田 由樹</p> <p>第 18～20 回：糖尿病・呼吸器疾患患者における薬物療法と医療処置への支援技術 山本真矢</p> <p>第 21～22 回：学内演習<br/>サブスペシャル領域の事例を用いた包括的アセスメントツールの作成 和田 由樹</p> <p>第 23～24 回：学内演習<br/>サブスペシャル領域の事例における枠組みを活用した看護問題の明確化</p> <p>和田 由樹</p> <p>第 25～26 回：学内演習 ロールプレイ 事例に対する包括的アセスメントの実施</p> <p>和田 由樹、山本真矢</p> <p>第 27～28 回：学内演習 ロールプレイ 症状緩和、悪化予防のための援助技術の実施</p> <p>和田 由樹、山本真矢</p> <p>第 29～30 回：サブスペシャル領域の包括的アセスメントツールの修正、<br/>包括的アセスメント技法における今後の課題<br/>和田 由樹</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第21-30回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p>  |               |           |             |                |
| 学修方法          | <p>臨床講義、セミナー、学内演習(ロールプレイ等)により授業を進めます<br/>         第21～24回：学内演習は、自己の経験および実践報告の文献からサブスペシヤル領域の事例を提示し、事例の分析から包括的アセスメントツールの作成、および枠組みを活用した看護問題の明確化を行います<br/>         第25～28回：実習室で事例に基づき学生相互に患者・家族・看護師の役割を分担してロールプレイを行い、アセスメントの手順や援助技術の基本的な修得をめざします<br/>         第29～30回は、実際にアセスメントツールを用いた経験を通して、サブスペシヤル領域における</p>          |               |           |             |                |
| 評価方法          | <p>演習への参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート(1・2) 50%</p>   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | <p>課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします</p>  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>事前学修：<br/>         1. 主要慢性疾患の検査・診断・治療についての臨床講義においては、事前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、討議用資料を作成してください(各回180分程度)<br/>         2. 包括的アセスメントと支援技術については、各回の内容について「慢性看護学援助特論Ⅰ」での学修内容をもとに事前にプレゼンテーションの準備をしてください(各回180分程度)</p> <p>事後学修：授業後には講義の内容から自己の課題を深める(事後学修180分程度)<br/>         課題レポート1：サブスペシヤル領域の事例を用いた包括的アセスメントツールの作成</p> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br/>         河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br/>         時間については初回授業時に提示します</p>   |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | 慢性看護学高度実践演習Ⅱ   |  |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 必修, 春semester   |  |
| 科目の位置付 | DP3 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |  |
| 科目概要   | 慢性病のさまざまな時期に対応した慢性病患者とその家族に対する専門的看護支援の実際を学び、事例検討を通して質の高い療養生活に向けた看護支援のあり方を探求する  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性病の予防期におけるセルフケア支援、慢性病を抱えて生活する人々に対する自己管理支援の実際について検討する</li> <li>2. 慢性病患者・家族のセルフヘルプ・グループ、サポートグループの現状を知り、支援方法について検討する</li> <li>3. 治療や療養生活における解決困難な倫理的課題を抱える慢性病患者とその家族に対する意思決定支援について学ぶ</li> <li>4. 慢性看護の高度看護実践を担う看護師の役割（実践、相談、調整、倫理的調整、等）について学ぶ</li> </ol>   |  |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">＜ 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 ＞</p> <p>＜担当教員名＞</p> <p>第 1 回：生活習慣病発症・進展予防のためのセルフケア支援 和田 由樹</p> <p>第 2 回： さまざまな場における生活習慣病予防に向けた健康教育 和田 由樹</p> <p>第 3～4 回：演習（フィールドワーク）：生活習慣病予防に向けた健康教育の実際 天野 薫</p> <p>第 5～6 回：演習：糖尿病患者に対する自己管理支援プログラムの検討 和田 由樹</p> <p>第 7～10 回：演習：サブスペシャル領域における自己管理支援の検討 和田 由樹</p> <p>第 11 回：セルフヘルプ・グループとサポートグループ 河口てる子</p> <p>第12回：慢性病をもつ人々の患者会・家族会の現状 和田 由樹</p> <p>第13回：慢性病をもつ人々の患者会・家族会への支援 和田 由樹</p> <p>第14～15 回：演習（フィールドワーク）：患者会・家族会への支援の実際 和田 由樹</p> <p>第16回：慢性看護における倫理的課題 和田 由樹</p> <p>第 17 回：アドボカシーと意思決定支援 和田 由樹</p> <p>第18～19 回：事例検討：治療法を選択における意思決定支援 和田 由樹</p> <p>第20回：慢性看護の高度実践におけるコンサルテーション スピーカー ゲスト</p> <p>第21～22 回：事例検討：コンサルテーションの実際 スピーカー ゲスト</p> <p>第23 回：解決困難な諸問題を抱え調整を必要とする慢性病患者への支援 スピーカー ゲスト</p> <p>第24～25 回：事例検討：調整を必要とする慢性病患者への支援の実際 スピーカー ゲスト</p> <p>第26～27 回：事例検討：治療の選択(医療処置)における倫理的意決定支援 和田 由樹</p> <p>第28～30 回：演習：サブスペシャル領域における相談、調整、倫理調整の検討</p> |  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>和田 由樹</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第3-4回、第7-10回、第14-15回、第28-30回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p>   |               |           |             |                |
| 学修方法          | <p>講義、学内演習、フィールドワーク等により授業を進めます<br/>         第3～4回：演習（フィールドワーク）：生活習慣病予防に向けた健康教育の実際<br/>         については、事前準備の後、特定健康診査あるいは人間ドックを受診する人々に対する健康教育を見学し、現状と課題について検討します<br/>         第14～15回：演習（フィールドワーク）：患者会・家族会への支援の実際<br/>         については、事前準備の後、近隣の地域あるいは病院で開催されるサブスペシャリティ領域の患者会に参加して、現状と課題について検討します<br/>         第7～10回および第28～30回は、サブス</p> |               |           |             |                |
| 評価方法          | <p>演習への参加度(授業でのプレゼンテーションを含む) 50%、課題レポート(1・2) 50%</p>   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | <p>課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします</p>  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>これまでの学修の成果と現場の問題・課題を関連づけて、演習に臨んでください<br/>         演習、事例検討の準備（テーマごとに10～15時間程度）<br/>         課題レポート1：事例検討<br/>         課題レポート2：質の高い療養生活に向けての専門的看護支援に関すること</p>   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br/>         河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br/>         時間については初回授業時に提示します</p>   |               |           |             |                |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 慢性看護学特論実習   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 河口 てる子  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 修士論文コース 選択 秋semester   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | DP6 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 様々な問題を抱えて生活する慢性疾患患者・家族と関わり、関連する諸概念・諸理論を具体的に検討するとともに、質の高い看護ケアを提供する能力を養う。   |        |    |      |         |
| 到達目標          | 1. 様々な問題を抱えて生活する慢性疾患患者・家族の療養生活への理解を深め、慢性疾患患者・家族の抱える問題・ニーズを特定する。<br>2. 慢性疾患患者・家族に対して、患者・家族の思いや希望を尊重した質の高い看護援助の方策を検討する。<br>3. 多職種との連携の実際を理解し、療養環境維持のために利用可能な資源について検討する。   |        |    |      |         |
| 授業計画          | 担当教員 河口てる子<br><br>関心領域のフィールドを選択し、下記のプロセスにしたがって実習を行う。<br>1) 実習目標の設定・実習施設の決定<br>2) 実習計画の立案<br>3) 看護実践：実習施設における慢性疾患患者・家族への看護ケアに参加する。<br>看護職および多職種とのチームカンファレンスに参加する。<br>4) 評価：実習内容を振り返り、分析・評価する。<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br>実地での体験活動を伴う授業：実習期間 |        |    |      |         |
| 学修方法          | 自ら実習計画を立案し、主体的に実習に取り組む。   |        |    |      |         |
| 評価方法          | 実習目標の達成度 (70%)、実習記録 (30%)   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修については、実習中の討議や実習カンファレンスを通してフィードバックを行う。また、実習記録については振り返りの機会を設ける。   |        |    |      |         |
| 指定図書          |   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |
| 参考書           |   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |

|             |   |
|-------------|---|
| 事前・<br>事後学修 | 事前学修：慢性看護学領域や基盤科目での学修内容を再確認して実習に臨むこと。<br>その他、随時指定する。<br>事前学修：実習・討議内容をふまえて看護実践について復習すること。                          |
| オフィス<br>アワー | 河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>和田由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>時間については初回授業時に提示します。 |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学高度実践実習 I  |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |
| 単位数他   | 2 単位 (90 時間) 高度実践看護コース 必修, 秋semester   |
| 科目の位置付 | DP6 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 複雑な問題を抱えて生活する慢性病患者と家族に対して包括的アセスメントを行い、生活の質重視の観点から求められる基本的な医学的評価・判断に基づいた療養管理にむけた実践の過程を学ぶ  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な問題を抱えて生活する慢性病患者とその家族に対する基本的な医学的評価・判断に基づいた薬物療法や医療処置の管理の実際について理解する</li> <li>2. 薬物療法や医療処置を有して生活する慢性病患者とその家族に対して、既習の知識・技術を統合して包括的アセスメントを行う</li> <li>3. 包括的アセスメントをもとに、検査・診断・治療に関する医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の調整について生活の質重視の観点から検討する</li> <li>4. 複雑な問題を抱えて生活する慢性病患者とその家族に対する療養管理における質の高い看護実践を学ぶ</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 和田 由樹</p> <p>[実習内容・方法]</p> <p>A. 総合病院の内科外来における実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内分泌内科外来において専門医の診察場面に同席し、検査・診断・治療に関する医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理の実際を学ぶ。実習指導者の指導のもとに、問診・身体診察を行う。</li> <li>2) 慢性疾患看護専門看護師の外来における慢性病患者と家族への看護活動を見学し、慢性疾患看護専門看護師としての役割(実践、教育、相談、調整、研究、倫理的調整)について理解を深める。</li> </ol> <p>実習場所 聖隷浜松病院 (内分泌内科外来)</p> <p>実習指導者 柏原裕美子 (糖尿病専門医)</p> <p>山本 真矢 (慢性疾患看護専門看護師)</p> <p>B. 地域クリニックにおける実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) クリニックの外来および住診時の専門医の診察場面に同席し、在宅療養管理における医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置管理の実際を学ぶ。</li> <li>2) クリニックを受診している慢性病患者とその家族 1 例に対して、包括的アセスメントを行い、生活の質重視の観点からの医学的評価・判断にもとづく薬物療法や医療処置の調整について実習指導者と意見交換を行う。</li> <li>3) 包括的アセスメントをもとに、クリニックを受診している慢性病患者とその家族の抱える問題を明らかにし、療養管理における質の高い看護実践を学ぶ。</li> </ol> <p>実習場所 あつみ神経内科クリニック</p> <p>実習指導者 渥美 哲至 (院長、神経内科専門医)</p> <p>鈴木 桜子 (看護師)</p> <p>C. 総合病院の内科病棟における実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性疾患看護専門看護師の病棟における慢性病患者と家族への看護活動を見学し、慢性疾患看護専門看護師としての役割(実践、教育、相談、調整、研究、倫理的調整)について理解を深める。</li> <li>2) 薬物療法や医療処置を有して内科病棟に入院している慢性疾患患者を 1 例受け持ち、検査データ、身体診察、コミュニケーションから得られる情報から包括的アセスメントを行う。</li> <li>3) 包括的アセスメントをもとに、検査・診断・治療に関する医学的評価・判断にもとづく薬物療法や医療処置の調整について生活の質重視の観点から実習指導者と意見交換を行う。</li> </ol> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>4) 包括的アセスメントをもとに、複雑な問題を抱えて生活する慢性病者とその家族に対して、看護計画(問題の明確化、計画立案、介入)を展開して、実習指導者の指導のもとに、療養管理における質の高い看護実践を学ぶ。</p> <p>実習場所 聖隷浜松病院 内科病棟<br/> 実習指導者 山本 真矢 (慢性疾患看護専門看護師)</p> <p>A. B. C. の実習期間は、目標の到達ができるまでとする。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 詳細は「慢性看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習の到達目標に応じた評価表に基づき、総合的に評価する<br>・実習での取り組み/実習記録 (60%)<br>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (20%)<br>・受け持ち事例の事例についての課題レポート (20%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 実習前：慢性看護学領域や基盤科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学、等)で学修した既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください<br>実習中：実習記録およびカンファレンス等におけるプレゼンテーションの作成<br>実習後：受け持ち事例の事例についての課題レポート   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学高度実践実習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |
| 単位数他   | 4 単位 (180 時間) 高度実践看護コース 必修, 春semester  |
| 科目の位置付 | DP6 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 慢性病のさまざまな時期に対応した慢性病者と家族に対する専門的な看護支援の実際を学び、慢性疾患看護専門看護師として高い倫理観をもって質の高い看護ケアの実践にむけて必要な能力を養う   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性病のさまざまな時期において多様な問題をもつ慢性病者とその家族に対する医療的治療の視点を含めた包括的アセスメントを行い、看護問題を適切に把握して専門的な看護支援を実践する</li> <li>治療や療養生活における解決困難な問題を抱える慢性病者とその家族に対する看護実践において、常に自らのケアを省みる倫理的感性を高めて、倫理的問題を調整する支援を学ぶ</li> <li>慢性病者とその家族に対して看護専門職者や他の専門職種と連携・協働しながら相談、調整方法について学ぶ</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 和田 由樹</p> <p>[実習内容・方法]</p> <p>A. 急性期病院における実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複雑かつ多様な問題をもつ慢性病者を1例受け持ち、包括的なアセスメントを行う。</li> <li>看護問題を適切に把握して専門的な看護介入を行い評価する。</li> <li>入院中の患者に対して、医療チームとの連携のもとに、個別・集団に対する教育活動を実践する。</li> <li>慢性疾患看護専門看護師の看護活動(実践、教育、相談、調整、研究、倫理的調整)にも参加し、慢性疾患看護専門看護師が行う活動と、活動に応用されている専門的知識や介入戦略について理解を深める。</li> </ol> <p>実習場所 聖隷三方原病院・聖隷浜松病院 その他</p> <p>B. 訪問看護ステーションにおける実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>訪問看護を利用している慢性病者とその家族の事例を受け持ち、在宅における療養生活・支援体制について包括的なアセスメントを行う。</li> <li>在宅で生活する慢性病者とその家族に対し、訪問看護師あるいは他職種と連携・協働して、専門的看護支援を実践する。</li> <li>療養生活における解決困難な問題を抱える慢性病者とその家族に対して、倫理的問題を調整する支援について検討する。</li> <li>在宅で療養生活を送る患者・家族を取り巻くケアシステムを総合的に評価し、質の高い生活に向けた方策について検討する。</li> </ol> <p>実習場所 訪問看護ステーション細江</p> <p>実習指導者 尾田 優美子 (訪問看護師、所長)</p> <p>C. 療養型病院における実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療療養病床で療養生活を送る慢性病者を数例受け持ち、包括的なアセスメントを行う。</li> <li>包括的アセスメントのもとに、検査・診断・治療に関する医学的評価・判断にもとづく薬物療法や医療処置の調整について生活の質重視の観点から実習指導者と意見交換を行う。</li> <li>人工呼吸器を使用して生活する患者とその家族に対して、在宅療養移行上の課題についてアセスメントを行い、円滑な療養移行にむけた支援計画を立案・実践する。</li> <li>療養生活における解決困難な問題を抱える慢性病者に対して生活の質を重視した看護支援を行う。常に自らのケアを省みる倫理的感性を高めて、倫理的問題を調整する支援について検討する。</li> <li>ケースカンファレンス(患者・家族、病棟看護師、退院支援看護師、訪問看護師、ケアマネジャー、MSW等)に参加し、多職種チームとの連携のもとに、退院後の生活を見通した退院調整</li> </ol> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>について学ぶ。<br/> 実習場所 北斗わかば病院<br/> 実習指導者 杉本 昌宏 (院長, 神経内科専門医)<br/> 加納 江理 (地域連携室長, 難病看護師)</p> <p>A. B. C. の実習期間は、目標の到達ができるまでとする</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 詳細は「慢性看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習の到達目標に応じた評価表に基づき、総合的に評価する<br>・実習での取り組み/実習記録 (60%)<br>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (倫理的問題への支援に関する記録を含む) (20%)<br>・受け持ち事例の事例についての課題レポート (20%)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 実習前：慢性看護学領域や基盤科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学、等)で学修した既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください<br>実習中：実習記録およびカンファレンス等におけるプレゼンテーションの作成<br>実習後：受け持ち事例の事例についての課題レポート  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します  |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 慢性看護学高度実践実習Ⅲ   |
| 科目責任者  | 和田 由樹  |
| 単位数他   | 4 単位 (180 時間) 高度実践看護コース 必修, 秋semester  |
| 科目の位置付 | DP6 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 慢性病とともに生活する患者・家族に対して、慢性疾患看護専門看護師として高い倫理観をもち、高度な専門的知識・技術および適確な臨床判断に基づいた質の高い看護ケアを提供する能力を養う   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑かつ多様な問題を抱える慢性病患者とその家族に対して、包括的アセスメントに基づき専門的知識と適確な判断・技術をもちいた質の高い看護介入を実践し、評価を行う</li> <li>2. 慢性疾患看護専門看護師として求められる役割（実践、教育、相談、調整、研究、倫理的調整）を理解し、実践・評価する</li> <li>3. 慢性疾患看護専門看護師の役割を実践することを通して、慢性疾患看護専門看護師としての役割開発を行う能力を養う</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 和田 由樹</p> <p>〔実習内容・方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門看護師が行っている複雑な問題を抱え対応困難な事例への看護実践の見学を通して、実践内容を整理しその意味について考察する</li> <li>2) 内科病棟（関心領域の病棟）において、慢性疾患で身体的・心理的・社会的に複雑かつ多様な問題を抱えている患者を数例受け持ち、包括的アセスメントに基づき看護計画を立案する。<br/>実習指導者による指導を受けながら、看護チームの一員として看護介入を行うとともに、多職種と連携して実践を行う。</li> <li>3) 内科外来においては、慢性疾患看護専門看護師とともに、複雑な問題を抱えた慢性疾患患者からの看護相談に対応する。</li> <li>4) 慢性疾患看護専門看護師とともに行動し、慢性疾患看護専門看護師として求められる役割（実践、教育、相談、調整、研究、倫理的調整）を理解し、自らの能力を踏まえて実践し、評価する。</li> <li>5) 専門看護師の役割開発に関する課題を明確にし、具体的取り組みについて検討する。</li> </ol> <p>実習場所 浜松医科大学医学部附属病院 内科病棟および内科外来<br/>実習指導者 調整中</p> <p>実習期間は、目標の到達ができるまでとする</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |
| 学修方法   | 詳細は「慢性看護学 高度実践看護コース 実習要項」参照  |
| 評価方法   | <p>実習の到達目標に応じた評価表に基づき、総合的に評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での取り組み／実習記録 (50%)</li> <li>・カンファレンス等におけるプレゼンテーションおよび討議内容 (15%)</li> <li>・受け持ち事例の事例についての課題レポート (20%)</li> <li>・慢性疾患看護専門看護師の役割についての実践レポート (15%)</li> </ul>  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | 事前学修や実習記録、プレゼンテーションについては、実習中の討議や実習カンファレンスを通して、随時フィードバックを行います。また、提出された課題レポートについては振り返りの機会を設けます                                 |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 実習前：既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください<br>実習中：実習記録およびカンファレンス等におけるプレゼンテーションの作成<br>実習後：受け持ち事例の事例についての課題レポート、および慢性疾患看護専門看護師の役割についての実践レポート |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー   | 和田 由樹：1213 研究室 E-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>河口てる子：1209 研究室 E-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示します      |               |           |             |                |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 慢性看護学特別研究   |
| 科目責任者         | 河口 てる子  |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 選択 通年   |
| 科目の位置付        | DP4 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>DP5 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。<br>DP7 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要          | 慢性看護学領域の最新の実践上の知見の学習を踏まえ、研究課題に適した研究方法論を検討し、研究計画書を作成する。承認された計画書に基づいて、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。   |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。<br>2. 作成した研究計画は、検討会における研究計画内容の承認、および倫理審査委員会における研究倫理の承認を得る。<br>3. 研究計画に沿って適切にデータ収集、及び分析を行い、論文としてまとめる。   |
| 授業計画          | 1 年次春semester：<br>【授業内容・テーマ等】 これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br>【評価方法】 討議参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度(70%)<br><br>1 年次秋semester：<br>【授業内容・テーマ等】 春semesterの学修を踏まえて研究計画 を討論会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br>【評価方法】 発表態度 (30%)、発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)<br><br>2 年次春semester：<br>【授業内容・テーマ等】 研究計画書に従って、研究倫理委員会に 研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br>【評価方法】 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%)、データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)<br><br>2 年次秋semester：<br>【授業内容・テーマ等】 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br>【評価方法】 論文の完成度 (70%)、第三者の評価による修正の適切性 (30%)<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回 |
| 学修方法          | ディスカッション、発表、個別指導、講義、  |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | 授業のなかでのディスカッション、検討会等、様々な機会を通して随時フィードバックを行う。   |
| 指定図書          |   |

| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|---|--------|----|------|---------|
|             |   |        |    |      |         |
| 参考書         |   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修     | 随時指定  |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 河口てる子：1209 研究室 e-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>和田 由樹： 研究室 e-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示する。 |        |    |      |         |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 慢性看護学課題研究   |
| 科目責任者         | 河口 てる子  |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 選択 通年  |
| 科目の位置付        | DP4 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>DP5 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。<br>DP7 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要          | 慢性看護学特論、援助特論等で学修した内容をふまえて、看護実践の中から慢性疾患をもつ人々について関心のある課題を取り上げ、研究計画書を作成し、データの収集・分析を行い、課題研究を完成させる。  |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の関心のある課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。<br>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。<br>3. 得られた資料を適切に分析し、課題研究としてまとめる。  |
| 授業計画          | 1 年次春semester：<br>【授業内容・テーマ等】<br>これまで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br>【評価方法】 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)<br><br>1 年次秋semester：<br>【授業内容・テーマ等】<br>春semesterの学修を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br>【評価方法】 発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)<br><br>2 年次春semester：<br>【授業内容・テーマ等】<br>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br>【評価方法】 研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)<br><br>2 年次秋semester：<br>【授業内容・テーマ等】<br>指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br>【評価方法】 論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の適切性 (30%)<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回 |
| 学修方法          | ディスカッション、発表、個別指導、講義、  |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | 授業のなかでのディスカッション、検討会等、様々な機会を通して随時フィードバックを行う。   |

|             |   |        |    |      |         |
|-------------|---|--------|----|------|---------|
| 指定図書        |   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 参考書         |   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修     | 随時指定  |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 河口てる子：1209 研究室 e-mail: teruko-k@seirei.ac.jp<br>和田 由樹： 研究室 e-mail: yuki-wd@seirei.ac.jp<br>時間・連絡方法等については初回授業時に提示する。 |        |    |      |         |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 急性看護学特論   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 乾 友紀  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 高度実践看護コース 必修 1 年次 春   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる   |        |    |      |         |
| 科目概要          | 危機理論をはじめさまざまな理論を活用して急性期という衝撃的な体験に直面している患者・家族の反応や立ち直りの過程を理解するとともに、危機の衝撃を回避、緩和して回復を促す急性期看護のあり方を追究する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衝撃的な体験に直面した患者・家族を理解するための主要な概念を説明できる。</li> <li>2. 急性期看護に用いられる看護介入モデルの理解と分析・評価について探求する。</li> <li>3. 危機理論および関連する概念、理論の理解を深め、分析・評価を通してその活用について探求する。</li> </ol>  |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>第1回 急性期看護領域の変化と動向 乾友紀</p> <p>第2回 急性期看護における看護師の役割 乾友紀</p> <p>第3回 看護モデル・介入モデルについて 大石ふみ子</p> <p>第4回 看護モデルの分析と評価 大石ふみ子</p> <p>第5回 急性期看護介入モデルの開発 大石ふみ子</p> <p>第6回 急性期看護介入モデルの分析と評価① 原著論文を用いて 大石ふみ子</p> <p>第7回 急性期看護介入モデルの分析と評価② 原著論文を用いて 大石ふみ子</p> <p>第8回 危機理論に関連する理論・概念 (1) Stress, Coping &amp; Adaptation 藤浪千種</p> <p>第9回 危機理論に関連する理論・概念 (2) Stress, Coping &amp; Adaptation - 事例を用いて検討 - 藤浪千種</p> <p>第10回 危機理論に関連する理論・概念 (3) Loss &amp; Crisis 乾友紀</p> <p>第11回 危機理論に関連する理論・概念 (4) Loss &amp; Crisis -Family Crisis- 乾友紀</p> <p>第12回 危機理論に関連する理論・概念 (5) Grief 藤浪千種</p> <p>第13回 危機理論に関連する理論・概念 (6) Social Support 藤浪千種</p> <p>第14回 危機理論に関連する理論・概念 (7) Self Concept① -Body Image を含む- 乾友紀</p> <p>第15回 危機理論に関連する理論・概念 (8) Self Concept② -事例を用いて検討- 乾友紀</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義、発表、討議で授業を進める。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | プレゼンテーション(50%)およびディスカッションへの参加度 (50%) を総合的に評価する。   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 履修者に対し、授業内でのディスカッションにおいて意見・助言等のフィードバックを行う。  |        |    |      |         |
| 指定図書          | 特に指定しない。  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |

|             |   |        |    |      |         |
|-------------|---|--------|----|------|---------|
|             |   |        |    |      |         |
| 参考書         | 『Analysis and evaluation of conceptual models of nursing, 2nd ed.』 Fawcett, J. (1989)<br>『ストレスの心理学 - 認知的評価と対処の研究』 Lazarus, D. E., Folkman, S., 本明寛他監訳<br>(1991), 実務教育出版<br>他、授業中に随時連絡する。        |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | 授業前までに各回の内容について自己学修する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自<br>己の課題を深める（事後学修 20 分）。   |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 乾友紀 : yuki-i@seirei.ac.jp (1217 研究室)<br>大石ふみ子 : fumiko-o@seirei.ac.jp (1219 研究室)<br>藤浪千種 : chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室)<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定<br>を確認してください) |        |    |      |         |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 急性看護学援助特論 I  |
| 科目責任者         | 乾 友紀   |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 高度実践看護コース 必修 1 年次 春  |
| 科目の位置付        | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる  |
| 科目概要          | クリティカル状況にある急性期患者を身体面、心理・社会面から総合的に理解し、患者・家族のアセスメントと看護援助のあり方、評価のあり方を探求するとともに、患者の状況に衝撃を受ける家族のアセスメントと看護援助のあり方を探求する。  |
| 到達目標          | 1. 周術期にある患者・家族の看護に必要なアセスメントと援助について理解する。<br>2. クリティカル状況にある患者・家族の看護に必要なアセスメントと援助について理解する。  |
| 授業計画          | <p>第1回 手術侵襲による影響と周術期看護、手術による合併症と機能変化、クリティカルケア看護とは 乾 友紀</p> <p>第2回 周術期にある患者・家族のアセスメントと援助 上部 (下部) 消化管手術 (1) 病態と治療 乾 友紀</p> <p>第3回 周術期にある患者・家族のアセスメントと援助 上部 (下部) 消化管手術 (2) 患者・家族の看護 乾 友紀</p> <p>第4回 周術期にある患者・家族のアセスメントと援助 呼吸器手術 (1) 病態と治療 乾 友紀</p> <p>第5回 周術期にある患者・家族のアセスメントと援助 呼吸器手術 (2) 患者・家族の看護 乾 友紀</p> <p>第6回 周術期にある患者・家族のアセスメントと援助 運動器手術 (1) 病態と治療 乾 友紀</p> <p>第7回 周術期にある患者・家族のアセスメントと援助 運動器手術 (2) 患者・家族の看護 乾 友紀</p> <p>第8回 クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助 急性脳・神経障害 (1) 病態と治療 乾 友紀</p> <p>第9回 クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助 急性脳・神経障害 (2) 患者・家族の看護 乾 友紀</p> <p>第10回 クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助 急性呼吸障害 (1) 病態と治療 桑原 美香</p> <p>第11回 クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助 急性呼吸障害 (2) 患者・家族の看護 桑原 美香</p> <p>第12回 クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助 急性循環障害 (1) 病態と治療 桑原 美香</p> <p>第13回 クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助 急性循環障害 (2) 患者・家族の看護 桑原 美香</p> <p>第14-15回 クリティカルケア看護・救急看護における家族看護 桑原 美香</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |
| 学修方法          | 講義・プレゼンテーション・討議により授業を進める。  |
| 評価方法          | プレゼンテーション(50%)およびディスカッションへの参加度 (50%) を総合的に評価する。  |
| 課題に対するフィードバック | 履修者に対し、授業内でのディスカッションにおいて意見・助言等のフィードバックを行う。   |

| 指定図書                             | 特に指定しない  |        |      |               |         |
|----------------------------------|--|--------|------|---------------|---------|
| 書籍名                              | 著者   | 発売元出版社 | 価格   | ISBN          | 媒体種別／備考 |
|                                  |  |        |      |               |         |
| 参考書                              | 『The ICU Book 第4版』 稲田英一（翻訳）、メディカルサイエンスインターナショナル、2015<br>その他授業の中で適宜紹介する。                                  |        |      |               |         |
| 書籍名                              | 著者   | 発売元出版社 | 価格   | ISBN          | 媒体種別／備考 |
| 日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護 基礎から臨床応用まで | 古賀雄二   | 中央法規出版 | 4800 | 9784805859100 | 1       |
| ICUディーズ 改訂第2版                    | 道又 元裕  | 学研プラス  | 3400 | 9784780911848 | 1       |
| 周術期の臨床判断を磨く I 第2版                | 鎌倉 やよい   | 医学書院   | 3000 | 9784260050777 | 1       |
| 周術期の臨床判断を磨く II                   | 深田 順子  | 医学書院   | 3400 | 9784260046756 | 1       |
| 事前・事後学修                          | 院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後学修 40 分）。          |        |      |               |         |
| オフィスアワー                          | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00（ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください） |        |      |               |         |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 急性看護学援助特論Ⅱ   |
| 科目責任者         | 乾 友紀   |
| 単位数他          | 2単位 (30時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付        | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる  |
| 科目概要          | 自立して生活を営んでいる成人が生命危機状態に陥った際に、人として遭遇するさまざまな制限や権利の侵害といった問題状況を明らかにし、患者・家族の尊厳を守り個人の選択と自由を支援する倫理的看護実践のあり方を追究する。  |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救命救急治療管理を受ける患者・家族の看護援助と倫理的問題について理解する。</li> <li>2. 急性期患者・家族において障害されやすい個人の権利を理解する。</li> <li>3. 患者・家族の自由な意思決定とその障害を理解し、患者・家族の権利の擁護の方法を検討する。</li> <li>4. ジレンマに遭遇した際の倫理的意思決定の方法を理解する。</li> </ol>  |
| 授業計画          | <p>第1回 救命救急治療管理を受ける患者・家族の特徴と初期対応における倫理的課題 (1) 救命救急における倫理的課題 乾友紀</p> <p>第2回 救命救急治療管理を受ける患者・家族の特徴と初期対応における倫理的課題 (2) 事例の分析 乾友紀</p> <p>第3回 救命救急治療管理を受ける外傷患者・家族のアセスメントと倫理的課題 (1) 外傷患者・家族の倫理的課題 乾友紀</p> <p>第4回 救命救急治療管理を受ける外傷患者・家族のアセスメントと倫理的課題 (2) 事例の分析 乾友紀</p> <p>第5回 集中治療を受けるせん妄患者・家族のアセスメントと倫理的課題 乾友紀</p> <p>第6-7回 救命救急治療管理を受ける患者・家族の倫理的問題と倫理調整 (1・2) Bad Newsを伝えるときのケア 乾友紀</p> <p>第8回 集中治療を受ける患者・家族の倫理的問題と倫理調整 (1) 緩和ケア 藤浪千種</p> <p>第9回 集中治療を受ける患者・家族の倫理的問題と倫理調整 (2) End of Life Care、Grief Care 藤浪千種</p> <p>第10回 脳死・臓器移植における倫理的課題 大石ふみ子</p> <p>第11回 脳死・臓器移植を受ける患者・家族のアセスメントと倫理調整 大石ふみ子</p> <p>第12回 先進的、実験的治療をめぐる倫理的課題 大石ふみ子</p> <p>第13回 集中治療を受ける患者・家族のアドボカシーと自律について (1) ICUにおける終末期の患者・家族の倫理的課題 藤浪千種</p> <p>第14回 集中治療を受ける患者・家族のアドボカシーと自律について (2) ICUにおける終末期の患者・家族への倫理調整 藤浪千種</p> <p>第15回 災害医療における患者・家族のアセスメントと倫理的課題 乾友紀</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |
| 学修方法          | 講義・プレゼンテーション・討議により授業を進める。  |
| 評価方法          | プレゼンテーション(50%)およびディスカッションへの参加度 (50%) を総合的に評価する。  |
| 課題に対するフィードバック | 履修者に対し、授業内でのディスカッションにおいて意見・助言等のフィードバックを行う。   |

| 指定図書          | 特に指定しない  |           |      |               |         |
|---------------|--|-----------|------|---------------|---------|
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社    | 価格   | ISBN          | 媒体種別/備考 |
| 参考書           | 『クリティカルケア看護と看護倫理』宇都宮明美ほか、へるす出版、2024<br>『看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド』日本クリティカルケア看護学会監修、三輪書店、2013<br>『臨床倫理学 第5版』Jonsen A. R. ほか、赤林朗ほか監訳、新興医学出版社、2006<br>『看護倫理のための意思決定10のステップ』ジョイス E. トンプソンほか、ケイコ・イマイ・キシ他監訳、日本看護協会出版会、2005<br>その他、必要に応じて適宜紹介する。 |           |      |               |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社    | 価格   | ISBN          | 媒体種別/備考 |
| 看護師の倫理調整力 第2版 | 鶴若麻理   | 日本看護協会出版会 | 2200 | 9784818025400 | 1       |
| 事前・事後学修       | 院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後学修 40 分）。  |           |      |               |         |
| オフィスアワー       | 乾友紀：yuki-i@seirei.ac.jp（1217 研究室）<br>大石ふみ子：fumiko-o@seirei.ac.jp（1219 研究室）<br>藤浪千種：chigusa-f@seirei.ac.jp（1208 研究室）<br>毎週水曜日 11:45-13:00（ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください）  |           |      |               |         |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 急性フィジカルアセスメント   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 乾 友紀  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2単位 (30時間) 修士論文コース 選択 ・高度実践看護コース 必修 1年次 春   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 急性期にあり集中治療を必要とする患者の状態を把握するために必要となる系統的観察法や生理学的変化、生活行動、機能変化を査定するための知識、技術を習得する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアおよび救急看護を必要とする状況での体位、姿勢、および情動を含めた生理学的変化と機序を理解する。</li> <li>2. クリティカルケアおよび救急看護を必要とする状況での生活行動を把握するためのフィジカルアセスメントと観察枠組みを理解する。</li> <li>3. クリティカルケアおよび救急看護を必要とする状況での機能回復状況を把握するためのフィジカルアセスメントと観察枠組みを理解する。</li> </ol>  |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>第1回 循環器系機能とフィジカルアセスメント (1) 心不全 山田 聡子</p> <p>第2回 循環器系機能とフィジカルアセスメント (2) 大動脈破裂 山田 聡子</p> <p>第3回 呼吸器系機能とフィジカルアセスメント (1) 呼吸不全 辻本 雄大</p> <p>第4回 呼吸器系機能とフィジカルアセスメント (2) 低酸素血症 辻本 雄大</p> <p>第5回 中枢神経系機能とフィジカルアセスメント (1) 意識の評価 乾 友紀</p> <p>第6回 中枢神経系機能とフィジカルアセスメント (2) 運動の評価 乾 友紀</p> <p>第7回 せん妄のフィジカルアセスメント (1) 病態と評価 桑原 美香</p> <p>第8回 せん妄のフィジカルアセスメント (2) 事例の分析 桑原 美香</p> <p>第9回 廃用症候のフィジカルアセスメント 桑原 美香</p> <p>第10回 救急看護における primary survey と secondary survey 本家 淳子</p> <p>第11回 薬物中毒のフィジカルアセスメント 本家 淳子</p> <p>第12回 自殺企図とフィジカルアセスメント 本家 淳子</p> <p>第13回 トリアージとフィジカルアセスメント 乾 早苗</p> <p>第14回 外傷のフィジカルアセスメント (1) 評価と治療 乾 早苗</p> <p>第15回 外傷のフィジカルアセスメント (2) 事例の分析 乾 早苗</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義、発表、討議で授業を進める。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | ディスカッションへの参加度 (50%) およびプレゼンテーション(50%)を総合的に評価する。   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | クラスの前までにプレゼンテーションの準備を行い、教員より課題に対する指導を受けてからクラスに臨む。クラスでのディスカッションにおいて課題をより深められる。   |        |    |      |         |
| 指定図書          | 『ICU 実践ハンドブックー病態ごとの治療・管理の進め方』清水 敬樹 (編集) (2009) 羊土社  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |

|             |   |               |           |             |                |
|-------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 参考書         | 授業中に随時紹介する  |               |           |             |                |
| <u>書籍名</u>  | <u>著者</u>   | <u>発売元出版社</u> | <u>価格</u> | <u>ISBN</u> | <u>媒体種別／備考</u> |
|             |   |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | 授業前までに各回の内容について自己学修する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後 20 分）。   |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | 乾 友紀 研究室 1217、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください) |               |           |             |                |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 急性病態生理論   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 乾 友紀  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択 ・ 高度実践看護コース 必修 1 年次 春   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 急性期にあり集中治療を必要とする患者に必要な病態や生理学的変化とそのアセスメント、および治療管理・予防方法についての知識を習得する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期成人患者の看護診断技術を修得する。</li> <li>2. 急性期成人患者の看護計画の立案に必要な知識・技術を修得する。</li> <li>3. 呼吸、循環、水分・電解質に関する代謝病態生理、および手術・麻酔侵襲が生体に及ぼす病態生理学的影響と予防理論について理解する。</li> <li>4. 呼吸、循環、水分・電解質に関する代謝病態生理、および手術・麻酔侵襲が生体に及ぼすアセスメントについて理解する。</li> </ol>   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>第1回 全身管理の必要な患者の病態生理学的影響：鎮静時の観察とアセスメント、鎮静ガイドライン 鳥羽 好恵</p> <p>第2回 全身麻酔における患者管理：全身麻酔薬の使用原理（吸入麻酔薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬）、麻酔合併症 鳥羽 好恵</p> <p>第3回 手術侵襲・ショックと生体反応：内分泌系反応、サイトカイン、SIRS・MOF、ARDS 鳥羽 好恵</p> <p>第4回 生体情報モニタリング：ECG、PaO<sub>2</sub>、CVP、PCWP、SVO<sub>2</sub> 鳥羽 好恵</p> <p>第5回 水分と電解質の異常と治療 鳥羽 好恵</p> <p>第6回 急性呼吸不全と人工呼吸器：急性呼吸不全、人工呼吸の種類と適応、合併症、肺保護戦略 鳥羽 好恵</p> <p>第7-8回 循環管理：心機能の評価方法、循環作動薬の使い方 鳥羽 好恵</p> <p>第9回 代謝病態生理と患者管理：腎障害、血液浄化療法 三崎 太郎</p> <p>第10-11回 重症心不全の内科的管理：IABP、PCPS 岡 俊明</p> <p>第12回 重症心不全の外科的管理：心移植、PCPS、VAS 小出 昌秋</p> <p>第13-14回 ACLS 演習：気道確保、心肺脳蘇生、救急薬剤の作用 田中 茂</p> <p>第15回 ペインコントロール：ペインクリニックの適応疾患と疼痛対策 鳥羽 好恵/乾 友紀</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第15回<br/>     実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 担当教員の勤務する施設において、実際に機器などを用いて患者管理を模擬体験し、具体的に理解する。   |        |    |      |         |
| 評価方法          | グループワークにおける課題の成果 (60%)、レポート(40%)  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 各担当教員とクラスの中で課題を明らかにした上で、次回以降のクラスで疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。  |        |    |      |         |
| 指定図書          | 『ICU 実践ハンドブック—病態ごとの治療・管理の進め方』清水 敬樹 (編集) (2009) 羊土社  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |

|             |  |               |           |             |                |
|-------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 参考書         |  |               |           |             |                |
| <u>書籍名</u>  | <u>著者</u>  | <u>発売元出版社</u> | <u>価格</u> | <u>ISBN</u> | <u>媒体種別／備考</u> |
|             |  |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | 授業前までに各回の内容について自己学修する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後 20 分）。  |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : chigusa-f@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください) |               |           |             |                |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 急性看護学特論演習 I  |
| 科目責任者         | 乾 友紀   |
| 単位数他          | 2 単位 (45 時間) 選択 1 年次 (秋: 集中)   |
| 科目の位置付        | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる   |
| 科目概要          | 看護実践をとおしてクリティカル状況及び周手術期にある患者・家族の全人的な苦痛を理解し、疼痛緩和のためのケア、処置の理論、原理、方法、効果判定などについての実践力を養い、チームアプローチのための方略について理解を深める。  |
| 到達目標          | 1. クリティカル状況及び周手術期にある患者・家族の身体的・心理社会的苦痛をアセスメントできる知識を習得する。<br>2. クリティカル状況及び周手術期にある患者・家族の全人的苦痛を緩和するためのケア・処置の理論、原理、方法、効果判定の技術を習得する。   |
| 授業計画          | <p>第1・2回 クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助 疼痛の病態・評価・看護 乾友紀</p> <p>第3・4回 ペインコントロールの実際と効果判定 疼痛緩和の方略、薬物治療と評価 乾友紀</p> <p>第5・6回 疼痛のある患者のその家族のコンサルテーションの実際 事例検討 乾友紀</p> <p>第7・8回 クリティカル状況にある患者のリハビリテーション 心臓リハビリテーション・呼吸理学療法 乾友紀</p> <p>第9・10回 クリティカル状況にある患者の身体的苦痛緩和の援助の分析・評価 事例検討 乾友紀・大石ふみ子・藤浪千種</p> <p>第11-15回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助 聖隷三方原病院にて研修</p> <p>第16-18回 クリティカル状況にある患者・家族に実践した苦痛緩和の援助の分析と評価 事例検討 乾友紀・大石ふみ子・藤浪千種</p> <p>第19-21回 クリティカル状況にある患者・家族の治療・管理に伴う苦痛の緩和 事例検討 乾友紀・大石ふみ子・藤浪千種</p> <p>第22-23回 クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和 事例検討 乾友紀・大石ふみ子・藤浪千種</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-23回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-23回</p> |
| 学修方法          | 臨地での経験を踏まえ、看護の現象の観察、実践を振り返り、クリティカル状況及び周手術期における患者とその家族の全人的苦痛の特徴を分析し、文献検討とゼミでの討議を行う。また、これらの学修をもとに自己の課題を解決する方法をレポートにまとめ発表する。  |
| 評価方法          | ゼミでのプレゼンテーション(60%)、課題レポート(40%)   |
| 課題に対するフィードバック | 履修者に対し、授業内でのディスカッションにおいて意見・助言等のフィードバックを行う。   |

| 指定図書            | 特に指定しない。  |        |      |               |         |
|-----------------|---|--------|------|---------------|---------|
| 書籍名             | 著者  | 発売元出版社 | 価格   | ISBN          | 媒体種別／備考 |
|                 |   |        |      |               |         |
| 参考書             | 『集中治療医学』日本集中治療医学会編集、学研、2023<br>『専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第2版)』、日本緩和医療学会編集、南江堂、2019<br>演習の中で適宜紹介する。   |        |      |               |         |
| 書籍名             | 著者  | 発売元出版社 | 価格   | ISBN          | 媒体種別／備考 |
| 【第5版】<br>標準救急医学 | 日本救急医学会<br>／監修 有賀徹<br>／〔ほか〕編集   | 医学書院   | 7500 | 9784260017558 | 1       |
| 事前・<br>事後学修     | 院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後学修 40 分）。   |        |      |               |         |
| オフィス<br>アワー     | 乾友紀：yuki-i@seirei.ac.jp（1217 研究室）<br>大石ふみ子：fumiko-o@seirei.ac.jp（1219 研究室）<br>藤浪千種：chigusa-f@seirei.ac.jp（1208 研究室）<br>毎週水曜日 11:45-13:00（ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください） |        |      |               |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 急性看護学特論演習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 乾 友紀   |
| 単位数他   | 2単位(60時間) 高度実践看護コース必修 1年次(秋:集中)  |
| 科目の位置付 | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる   |
| 科目概要   | 看護実践をとおしてクリティカル状況にある患者・家族の全人的な苦痛を理解し、疼痛緩和のためのケア、処置の理論、原理、方法、効果判定などについての実践力を養い、チームアプローチのための方略について理解を深める。  |
| 到達目標   | 1. クリティカル状況にある患者・家族の身体的・心理社会的苦痛をアセスメントできる知識を習得する。<br>2. クリティカル状況にある患者・家族の全人的苦痛を緩和するためのケア・処置の理論、原理、方法、効果判定の技術を習得する。   |
| 授業計画   | <p>第1回 クリティカル状況のアセスメントに必要な専門看護師の役割 本家 淳子</p> <p>第2回 クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助(1) 疼痛の病態 桑原 美香</p> <p>第3回 クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助(2) 疼痛の評価と看護 桑原 美香</p> <p>第4回 ペインコントロールの実際と効果判定(1) 疼痛緩和の方略 桑原 美香</p> <p>第5回 ペインコントロールの実際と効果判定(2) 薬物治療と評価 桑原 美香</p> <p>第6回 疼痛のある患者とその家族のコンサルテーションの実際(1) 疼痛のある患者とその家族のアセスメント 桑原 美香</p> <p>第7回 疼痛のある患者とその家族のコンサルテーションの実際(2) コンサルテーションを用いた事例の展開 桑原 美香</p> <p>第8回 クリティカル状況にある患者のリハビリテーション(1) 心臓リハビリテーション 桑原 美香</p> <p>第9回 クリティカル状況にある患者のリハビリテーション(2) 呼吸理学療法 桑原 美香</p> <p>第10回 クリティカル状況に身体的苦痛緩和の援助の分析・評価(1) 分析・評価 桑原 美香</p> <p>第11回 クリティカル状況に身体的苦痛緩和の援助の分析・評価(2) 事例 桑原 美香</p> <p>第12-15回 臨地演習:(1・2・3・4)<br/>臨床におけるペインコントロールの実際を疼痛のアセスメント、ケア、評価を行う。</p> <p>疼痛緩和におけるチームアプローチについて、ケアの根拠、理論、効果判定を行う。 桑原 美香</p> <p>第16回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(1) 事例の分析:病態 乾 友紀</p> <p>第17回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(2) 事例の分析:疼痛の病態と関連因子 乾 友紀</p> <p>第18回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(3) 事例の記述アセスメント(身体的状況の情報の整理) 乾 友紀</p> <p>第19回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(4) 事例の記述アセスメント(身体的状況の分析とアセスメント) 乾 友紀</p> <p>第20回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(5) 事例の分析:家族の状況について 乾 友紀</p> <p>第21回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(6) 事例の分析:患者・家族の心理的状況について 乾 友紀</p> <p>第22回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(7) 事例の分析:患者・家族の社会的状況について 乾 友紀</p> <p>第23回 クリティカル状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(8) 事例の分析:患者・家族の看護問題の抽出と優先順位の検討 乾 友紀</p> <p>第24回 クリティカル状況にある患者・家族に実践した苦痛緩和の援助の分析と評価(1) 事例の援助の分析 乾 友紀</p> <p>第25回 クリティカル状況にある患者・家族に実践した苦痛緩和の援助の分析と評価(2) 事例</p> |

|                 |   |               |           |               |                |
|-----------------|---|---------------|-----------|---------------|----------------|
|                 | <p>の援助の評価 乾 友紀<br/> 第26回 クリティカル状況にある患者・家族の治療・管理に伴う苦痛の緩和 (1) 治療・管理の方略 本家 淳子<br/> 第27回 クリティカル状況にある患者・家族の治療・管理に伴う苦痛の緩和 (2) 疼痛緩和の評価 本家 淳子<br/> 第28回 クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和 (1) 心理的苦痛のアセスメントと緩和 本家 淳子<br/> 第29回 クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和 (2) 社会的苦痛のアセスメントと緩和 本家 淳子<br/> 第30回 クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和 (3) 患者—家族関係における介入 本家 淳子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p> |               |           |               |                |
| 学修方法            | 臨地演習では、受け持ち患者の看護に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む。臨地実習内容についてケーススタディを作成したうえで演習に臨む。   |               |           |               |                |
| 評価方法            | 演習のレポート(40%)、課題レポート(60%)  |               |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック   | クラスの前までにプレゼンテーションの準備を行い、教員より課題に対する指導を受けてからクラスに臨む。クラスでのディスカッションにおいて課題をより深められる。   |               |           |               |                |
| 指定図書            | 『集中治療医学』日本集中治療医学会編集、学研、2023   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別／備考</b> |
| 【第5版】<br>標準救急医学 | 日本救急医学会<br>／監修 有賀徹<br>／〔ほか〕編集   | 医学書院          | 7500      | 9784260017558 | 冊子版            |
| 参考書             | 『専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第2版)』、日本緩和医療学会編集、南江堂、2019<br>演習の中で適宜紹介する。  |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別／備考</b> |
|                 |   |               |           |               |                |
| 事前・事後学修         | 院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する(事前学修40分)。授業後は講義の内容から自己の課題を深める(事後学修40分)。   |               |           |               |                |
| オフィスアワー         | 乾 友紀 1217研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください)  |               |           |               |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 急性看護学援助特論演習   |
| 科目責任者  | 乾 友紀  |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース必修 2 年次 (春: 集中)   |
| 科目の位置付 | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる  |
| 科目概要   | 救命・救急治療、集中治療などを受けて身体的・心理社会的に拘束状態または自律・自立していない患者および家族について看護ケアの専門性について演習を通して実践する知識・技術と実践力を習得する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアを受け拘束状態にある患者・家族の身体的・心理社会的状態をアセスメントし安全・安楽に配慮した看護援助を提供できる知識・技術を習得する。</li> <li>2. クリティカルケアを受け拘束状態にある患者・家族が治療の選択において自律した意思決定における倫理問題についてアセスメントできる知識・技術を習得する。</li> <li>3. クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題を解決するための専門看護師の役割を理解する。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>第 1 回 拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助 (1) 拘束状態にある患者の病態 桑原美香</p> <p>第 2 回 拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助 (2) 援助と評価 桑原美香</p> <p>第 3 回 救命救急・救急治療管理を受けて拘束状態にある患者の身体状態のアセスメントと看護援助 (1) 分析とアセスメント 桑原美香</p> <p>第 4 回 救命救急・救急治療管理を受けて拘束状態にある患者の身体状態のアセスメントと看護援助 (2) 看護診断に基づく援助と評価 桑原美香</p> <p>第 5 回 救命救急・救急治療管理を受けてせん妄状態にある患者の身体状態のアセスメントと看護援助 (1) 分析とアセスメント 桑原美香</p> <p>第 6 回 救命救急・救急治療管理を受けてせん妄状態にある患者の身体状態のアセスメントと看護援助 (2) 看護診断に基づく援助と評価 桑原美香</p> <p>第 7 回 救命救急・救急治療管理を受けて拘束状態にある患者の身体状態の安全対策と看護援助 (1) 分析とアセスメント 桑原美香</p> <p>第 8 回 救命救急・救急治療管理を受けて拘束状態にある患者の身体状態の安全対策と看護援助 (2) 看護診断に基づく援助と評価 桑原美香</p> <p>第 9 回 救命救急・救急治療管理を受けている患者・家族の倫理的問題と援助 (1) 分析とアセスメント 桑原美香</p> <p>第 10 回 救命救急・救急治療管理を受けている患者・家族の倫理的問題と援助 (2) 倫理調整の方略 桑原美香</p> <p>第 11 回 集中治療を受ける患者とその家族のアセスメントと看護援助 (1) ショック 桑原美香</p> <p>第 12 回 集中治療を受ける患者とその家族のアセスメントと看護援助 (2) CPA 桑原美香</p> <p>第 13 回 集中治療を受ける患者とその家族のアセスメントと看護援助 (3) Sepsis 桑原美香</p> <p>第 14 回 集中治療を受ける患者とその家族のアセスメントと看護援助 (4) MODS 桑原美香</p> <p>第 15-26 回 臨地演習: 臨床でのクリティカル状況における患者・家族の援助<br/>集中治療を行う専門施設におけるクリティカル状況の患者・家族の援助に関わり、看護援助の実際について学ぶ。 桑原美香</p> <p>第 27 回 クリティカル状況における患者・家族に実践した援助の分析・評価 (1) 分析・アセスメント 乾 早苗</p> <p>第 28 回 クリティカル状況における患者・家族に実践した援助の分析・評価 (2) 評価 乾 早苗</p> <p>第 29 回 クリティカルケアにおける倫理的問題に関する専門看護師の役割 (1) 分析 乾 早苗</p> <p>第 30 回 クリティカルケアにおける倫理的問題に関する専門看護師の役割 (2) 役割と課題 乾 早苗</p> |

|                 |   |               |           |               |                |
|-----------------|---|---------------|-----------|---------------|----------------|
|                 | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p>              |               |           |               |                |
| 学修方法            | <p>臨地演習では、受け持ち患者の看護に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む。臨地実習内容についてケーススタディを作成したうえで演習に臨む。</p>                              |               |           |               |                |
| 評価方法            | <p>演習のレポート(40%)、課題レポート(60%)</p>   |               |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック   | <p>演習前、演習中に課題について調べ準備して演習に臨み、演習中に明らかになった課題については演習後に討議や課題のレポートにまとめ、プレゼンテーションを行ってフィードバックを受ける。</p>                         |               |           |               |                |
| 指定図書            | <p>『集中治療医学』日本集中治療医学会編集、秀潤社、2001</p>   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別／備考</b> |
| 【第5版】<br>標準救急医学 | 日本救急医学会<br>／監修 有賀徹<br>／〔ほか〕編集   | 医学書院          | 7500      | 9784260017558 | 冊子版            |
| 参考書             | <p>演習の中で適宜紹介する。</p>   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別／備考</b> |
|                 |   |               |           |               |                |
| 事前・事後学修         | <p>院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後学修 40 分）。</p>                  |               |           |               |                |
| オフィスアワー         | <p>乾 友紀 1217 研究室、E-mail:yuki-i@seirei.ac.jp<br/>         毎週水曜日 11:45-13:00（ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください）</p> |               |           |               |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 急性看護学特論実習   |
| 科目責任者  | 乾 友紀  |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) 選択 1年次 (秋:集中)  |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | 救命・救急治療、集中治療などを受けて身体的・心理社会的に拘束状態または自律・自立していない患者および家族について看護ケアの専門性について演習を通して実践する知識・技術と実践力を習得する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期患者及びその家族に対する看護の必要性についてアセスメントし安全・安楽に配慮した看護援助を実践する。</li> <li>急性期患者及びその家族に対する看護援助実践を通して看護の特殊性を理解する。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;実習内容、方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期患者を受け持ち、その患者と家族に対する看護過程を展開し看護を実践する。</li> <li>急性期看護学特論演習Ⅰで作成した看護モデルや既存のアセスメントツール等を使用して看護の方法、目標の設定、目標の達成度等を評価し効果的な看護介入を追究する。</li> <li>急性期看護を提供するチームの一員として行動し、急性期看護の場の特徴を明らかにする。</li> <li>実習記録にしたがって日々の看護実践を記録し指導をうける。</li> <li>実習カンファレンスの場で得られた体験を発表し指導者ととともに討議する。</li> <li>実習体験に文献検討を加え急性期看護の専門性と課題についてレポートを作成する。</li> </ol> <p>&lt;すすめ方&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習準備：関心領域を設定し、その領域の看護についての知識を整理する。</li> <li>実習：急性期患者を受け持ち、患者と家族に対する看護を実践する。</li> <li>急性期看護が行われている場の見学実習を行い看護実践上の課題を見出す。</li> <li>レポート作成：急性期看護における専門性と課題についてレポートをまとめ発表する。</li> </ol> <p>実習スケジュールは相談の上で決定する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |
| 学修方法   | 臨地実習では、受け持ち患者の看護に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む。臨地実習内容についてケーススタディを作成したうえで演習に臨む。   |

|                 |   |               |           |               |                |
|-----------------|---|---------------|-----------|---------------|----------------|
| 評価方法            | 目標の達成度（レポートを含む） 80%、実習の準備を含めた取り組みの姿勢 20%  |               |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック   | 実習計画、実習記録については毎回、コメントおよび話し合いでフィードバックしながらすすめる。課題発表では、グループ討議、臨地指導者のコメント等でフィードバックする。                         |               |           |               |                |
| 指定図書            | 『集中治療医学』日本集中治療医学会編集、学研、2023   |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別／備考</b> |
| 【第5版】<br>標準救急医学 | 日本救急医学会<br>／監修 有賀徹<br>／〔ほか〕編集   | 医学書院          | 7500      | 9784260017558 | 冊子版            |
| 参考書             | 実習の中で適宜紹介する。  |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>      | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別／備考</b> |
|                 |   |               |           |               |                |
| 事前・<br>事後学修     | 病棟での看護実践ができるよう基本的な看護過程、看護技術の準備を整えて臨む。<br>毎回の実習、討議、発表の準備（80分）、実習、授業後の課題の修正とまとめ（80分）を自己学習時間の目安とする。          |               |           |               |                |
| オフィス<br>アワー     | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください) |               |           |               |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 急性看護学高度実践実習 I   |
| 科目責任者  | 乾 友紀  |
| 単位数他   | 6 単位 (270 時間) 高度実践看護コース必修 2 年次 春 (集中)   |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | クリティカル期およびポスト・クリティカル期の治療・ケアについて臨地実習を通してクリティカルケア専門看護師としての活動に必要な実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究などの能力を養う。   |
| 到達目標   | ICU、関連するポスト・クリティカル期の病棟において集中治療を受ける患者・家族のケアについて以下の目的を達成する。<br>1. クリティカル期の患者の身体状態について高度な看護判断ができる。<br>2. クリティカル期の患者・家族の全人的な苦痛を緩和するための EBN に基づいた看護実践を提供できる。<br>3. クリティカル期の患者・家族が持つ倫理的問題について分析し、多様な価値観を尊重できるよう倫理的判断を説明できる。<br>4. クリティカル期の患者・家族、医療チーム、看護師に、専門看護師に求められる実践、調整、コンサルテーション、倫   |
| 授業計画   | 1. 実習期間<br>7 月～9 月<br>2. 実習施設<br>聖隷三方原病院・その他 CCNS が勤務している病院 ICU、関連するポスト・クリティカル期の病棟<br>3. 実習体制<br>実習指導は、教員と CCNS または CCNS 相当の者と相談・協力して行う。<br>4. 実習方法<br>1) 実習目標を到達するために、該当する外来・病棟で患者を受け持ち、看護実践を行う。受け持っている患者の状態の変化に合わせて、ポスト・クリティカル期の病棟に移動し、継続して受け持ち患者に看護実践を行う。<br>2) 実習中は CCNS の卓越した実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究が行えるよう、実習指導者、教員、からスーパービジョンを受けて自習を進める。<br>3) 実習中は、受け持ち患者についてのカンファレンスを院生は主体的に開催し、クリティカルケアチームメンバーと調整、コンサルテーションを行い、討議の機会を持つ。<br>4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、院生、クリティカルチームメンバー、CCNS、教員によるケースカンファレンスを行う。<br>5. 記録<br>記録物は受け持ち患者の個人情報保護に配慮して個人・施設が特定されないように配慮する。<br>1) 患者記録、フェイスシート、検査データ、治療記録の概要、受け持ち患者のケアについて、看護過程についてまとめる。(2 事例程度)<br>2) CCNS の役割について臨床での調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究支援などのアクセス方法やニーズの抽出方法など、組織のシステムについて分析し、CCNS としての役割開発の課題を考察する。<br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br>実地での体験活動を伴う授業：実習期間 |

|                   |  |               |           |               |                |
|-------------------|--|---------------|-----------|---------------|----------------|
|                   |  |               |           |               |                |
| 学修方法              | 受け持ち患者に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む。CCNS に求められる役割について必要な学習内容は、適宜学修しながら実習に臨む。   |               |           |               |                |
| 評価方法              | 実習の到達目標に応じた評価表に基づき、カンファレンス・講義などの資料作成とプレゼンテーションと実習レポートなどを総合して評価する。  |               |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック     | 院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後学修 40 分）。  |               |           |               |                |
| 指定図書              | 『集中治療医学』日本集中治療医学会編集、学研、2023<br>『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第 13 版』T.H. ハードマン/上鶴重美原書編集、医学書院、2025  |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>        | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
| 【第 5 版】<br>標準救急医学 | 日本救急医学会<br>/ 監修 有賀徹<br>/ [ほか] 編集   | 医学書院          | 7500      | 9784260017558 | 冊子版            |
| 参考書               | 『AACN:Core Curriculum for Critical Care Nursing』Elsevier、2006  |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>        | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
|                   |  |               |           |               |                |
| 事前・<br>事後学修       | 急性看護学での既習範囲、急性看護学特論演習Ⅱで配布された資料などを学修し実習に臨む。受け持ち患者に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む（事前学修 40 分）。実習終了後は、記録を整理し、CCNS としての役割開発の課題を考察する。（事後学修 40 分） |               |           |               |                |
| オフィス<br>アワー       | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください)                                      |               |           |               |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 急性看護学高度実践実習Ⅱ  |
| 科目責任者  | 乾 友紀  |
| 単位数他   | 4 単位 (180 時間) 高度実践看護コース必修 2 年次 秋 (集中)   |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | クリティカル期の治療・ケアについて臨地実習を通してクリティカルケア専門看護師としての活動に必要な実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究などの能力を養う。   |
| 到達目標   | 救命救急外来、救急 ICU、CCU、SCU、関連するポスト・クリティカル期の病棟などにおいて集中治療を受ける患者・家族のケアについて以下の目的を達成する。<br>1. クリティカル期の患者の身体状態について高度な看護判断ができる。<br>2. クリティカル期の患者・家族の全人的な苦痛を緩和するための EBN に基づいた看護実践を提供できる。<br>3. クリティカル期の患者・家族が持つ倫理的問題について分析し、多様な価値観を尊重できるような倫理的判断を説明できる。<br>4. クリティカル期の患者・家族、医療チーム、看護師に、専門看護師に求め  |
| 授業計画   | 1. 実習期間<br>10 月～11 月<br><br>2. 実習施設<br>聖隷三方原病院・その他 CCNS が勤務している病院 救命救急外来、救急 ICU、CCU、SCU、HCU 関連するポスト・クリティカル期の病棟<br><br>3. 実習体制 実習指導は、教員と CCNS または CCNS 相当の者と相談・協力して行う。<br><br>4. 実習方法<br>1) 実習目標を到達するために、該当する外来・病棟で患者を受け持ち、看護実践を行う。受け持っている患者の状態の変化に合わせて、ポスト・クリティカル期の病棟に移動し、継続して受け持ち患者に看護実践を行う。<br>2) 実習中は CCNS の卓越した実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究が行えるよう、実習指導者、教員、からスーパービジョンを受けて自習を進める。<br>3) 実習中は、受け持ち患者についてのカンファレンスを院生は主体的に開催し、クリティカルケアチームメンバーと調整、コンサルテーションを行い、討議の機会を持つ。<br>4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、院生、クリティカルチームメンバー、CCNS、教員によるケースカンファレンスを行う。<br><br>5. 記録 記録物は受け持ち患者の個人情報保護に配慮して個人・施設が特定されないように配慮する。<br>1) 患者記録、フェイスシート、検査データ、治療記録の概要、受け持ち患者のケアについて、看護過程についてまとめる。(2 事例程度)<br>2) CCNS の役割について臨床での調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究支援などのアクセス方法やニーズの抽出方法など、組織のシステムについて分析し、CCNS としての役割開発の課題を考察する。<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br>実地での体験活動を伴う授業：実習期間 |
| 学修方法   | 受け持ち患者に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む。CCNS に求められる役割について必要な学習内容は、適宜学修しながら実習に臨む。  |

|                   |  |               |           |               |                |
|-------------------|--|---------------|-----------|---------------|----------------|
| 評価方法              | 実習の到達目標に応じた評価表に基づき、カンファレンス・講義などの資料作成とプレゼンテーションと実習レポートなどを総合して評価する。  |               |           |               |                |
| 課題に対するフィードバック     | 院生は授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する（事前学修 40 分）。授業後は講義の内容から自己の課題を深める（事後学修 40 分）。                          |               |           |               |                |
| 指定図書              | 『集中治療医学』日本集中治療医学会編集、学研、2023<br>『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第 13 版』T.H. ハードマン/上鶴重美原書編集、医学書院、2025                      |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>        | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
| 【第 5 版】<br>標準救急医学 | 日本救急医学会<br>/ 監修 有賀徹<br>/ [ほか] 編集   | 医学書院          | 7500      | 9784260017558 | 冊子版            |
| 参考書               | 『AACN:Core Curriculum for Critical Care Nursing』Elsevier、2006  |               |           |               |                |
| <b>書籍名</b>        | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b>   | <b>媒体種別/備考</b> |
|                   |  |               |           |               |                |
| 事前・<br>事後学修       | 急性看護学での既習範囲、急性看護学特論演習Ⅱで配布された資料などを学修し実習に臨む。受け持ち患者に必要な知識を自己学修したうえで、アセスメント、看護計画を立案して臨む。実習終了後は、記録を整理し、CCNS としての役割開発の課題を考察する。 |               |           |               |                |
| オフィス<br>アワー       | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください)                |               |           |               |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 急性看護学特別研究  |
| 科目責任者  | 乾 友紀   |
| 単位数他   | 8 単位 (240 時間) 修士論文コース 選択 通年  |
| 科目の位置付 | 4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる<br>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる<br>7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる   |
| 科目概要   | 修士論文を作成するために必要な急性看護学領域の最新の学修を踏まえ、院生は特定の研究課題を選択、研究計画書の作成、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。<br>文献検討により研究課題を明確化して研究計画書を作成し、研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い、論文にまとめるプロセスを経験することにより基礎的な研究能力を修得する。  |
| 到達目標   | 1. クリティカル期の看護実践の中から関心ある課題についてテーマを設定する。<br>2. 研究計画書として、背景、意義、研究目的、研究方法、倫理的配慮について記述 できる。<br>3. 研究計画に沿って、データ収集、分析をすることができる。<br>4. 結果、考察を論理的に行う事ができる。  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員&gt;乾友紀、藤浪千種</p> <p>1 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>これまで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br/>&lt;評価方法&gt;討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>春semesterの学修を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>&lt;評価方法&gt;発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>2 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>論文の完成度 (70%) 第 3 者の評価による修正の適切性 (30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |

|                                    |   |                    |              |                                |                |
|------------------------------------|---|--------------------|--------------|--------------------------------|----------------|
|                                    |   |                    |              |                                |                |
| 学修方法                               | プレゼンテーション、討議、個別指導により授業を進める。   |                    |              |                                |                |
| 評価方法                               | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |                    |              |                                |                |
| 課題に対するフィードバック                      | 個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |                    |              |                                |                |
| 指定図書                               |   |                    |              |                                |                |
| <b>書籍名</b>                         | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b>      | <b>価格</b>    | <b>ISBN</b>                    | <b>媒体種別／備考</b> |
| バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版【第2版】看護研究原理と方法 | 著 = Susan K. Grove<br>D. F. ポーリット／著 C. T. ベック／著 近藤潤子／監訳 後藤桂子／〔ほか〕訳  | エルゼビア・ジャパン<br>医学書院 | 9000<br>9500 | 9784860343002<br>9784260005265 | 冊子版<br>冊子版     |
| 参考書                                |   |                    |              |                                |                |
| <b>書籍名</b>                         | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b>      | <b>価格</b>    | <b>ISBN</b>                    | <b>媒体種別／備考</b> |
|                                    |   |                    |              |                                |                |
| 事前・事後学修                            | 授業前に、看護研究方法及び急性期看護学領域における特論・演習・実習の学修内容をふまえてプレゼンテーション・討議用の資料を作成する。討議に先立ちプレゼンテーション資料を作成する。授業後に討議内容をふまえて復習する。  |                    |              |                                |                |
| オフィスアワー                            | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>藤浪 千種 1208 研究室、E-mail : chigusa-f@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください) |                    |              |                                |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 急性看護学課題研究  |
| 科目責任者  | 乾 友紀   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 選択 通年   |
| 科目の位置付 | 4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる<br>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる<br>7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる   |
| 科目概要   | 急性看護学特論、援助特論、病態生理論、フィジカルアセスメント等で学習した内容をふまえてクリティカル期およびポスト・クリティカル期の患者とその家族に関する看護実践の中から、関心ある課題を取り上げる。加えて、文献検討により研究課題を明確化して研究計画書を作成し、研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い、論文にまとめるプロセスを経験することにより基礎的な研究能力を修得する。   |
| 到達目標   | 1. クリティカル期の看護実践の中から関心ある課題についてテーマを設定する。<br>2. 研究計画書として、背景、意義、研究目的、研究方法、倫理的配慮について記述できる。<br>3. 研究計画に沿って、データ収集、分析をすることができる。<br>4. 結果、考察を論理的に行う事ができる。   |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員&gt;乾友紀、藤浪千種</p> <p>1 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;看護学領域における特論、看護研究方法等で学修した内容を用いて、文献検討や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br/>&lt;評価方法&gt;・文献検討及び課題の焦点化 (30%)・研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画を検討会で発表し研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>&lt;評価方法&gt;・文献検討及び課題の焦点化 (30%)・研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;・倫理的配慮の適切性 (10%)・データ収集及び分析の適切性 (30%)・論文の完成度 (60%)</p> <p>2 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;指導を受けながら、課題研究論文を作成し、完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;・倫理的配慮の適切性 (10%)・データ収集及び分析の適切性 (30%)・論文の完成度 (60%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |
| 学修方法   | プレゼンテーション、討議、個別指導により授業を進める。  |

|                                    |   |                     |              |                                |                |
|------------------------------------|---|---------------------|--------------|--------------------------------|----------------|
| 評価方法                               | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |                     |              |                                |                |
| 課題に対するフィードバック                      | 個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |                     |              |                                |                |
| 指定図書                               |   |                     |              |                                |                |
| <b>書籍名</b>                         | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b>       | <b>価格</b>    | <b>ISBN</b>                    | <b>媒体種別/備考</b> |
| バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版【第2版】看護研究原理と方法 | 著 = Susan K. Grove<br>D. F. ポーリット/著 C. T. ベック/著 近藤潤子/監訳 後藤桂子/[ほか] 訳   | エルゼビア・ジャンパン<br>医学書院 | 9000<br>9500 | 9784860343002<br>9784260005265 | 冊子版<br>冊子版     |
| 参考書                                | ゼミの中で適宜紹介する。  |                     |              |                                |                |
| <b>書籍名</b>                         | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b>       | <b>価格</b>    | <b>ISBN</b>                    | <b>媒体種別/備考</b> |
|                                    |   |                     |              |                                |                |
| 事前・事後学修                            | 授業前に、看護研究方法及び急性期看護学領域における特論・演習・実習の学修内容をふまえてプレゼンテーション・討議用の資料を作成する。討議に先立ちプレゼンテーション資料を作成する。授業後に討議内容をふまえて復習する。  |                     |              |                                |                |
| オフィスアワー                            | 乾 友紀 1217 研究室、E-mail : yuki-i@seirei.ac.jp<br>藤浪 千種 1208 研究室、E-mail : chigusa-f@seirei.ac.jp<br>毎週水曜日 11:45-13:00 (ただし、実習等で不在になることがあるため、事前にメールで予定を確認してください) |                     |              |                                |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | がん看護学特論   |
| 科目責任者  | 大石 ふみ子  |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる   |
| 科目概要   | がん患者および家族に対する看護実践の、土台となる理論や概念を探究する。がん臨床の諸現象を理論と対照しつつ考察し、がん患者や家族の状況を設定し、既存の研究からそれらを解決するためのエビデンスを探索し、解釈・分析・検討しながら文献的考察を深める。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんとともに生きる人々とその家族の体験理解の土台となる理論や概念が説明できる。</li> <li>2. AYA 世代から成人期、高齢者までのライフサイクルを加味したがん看護を考えることができる。</li> <li>3. がん看護領域における諸現象を理論と対照しつつ考察できる。</li> <li>4. がん患者や家族の状況を設定し、解決するためのエビデンスを探索し、解釈・分析・検討しながら文献的考察を深める。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">＜ 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 ＞</p> <p>＜担当教員＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん看護理論の総説：がん看護学および緩和ケア学の理論、発展の歴史的経緯と、理論概念の全体像 柳原清子</li> <li>2. がん患者・家族の体験の理解：病いの意味論、ナラティブ・アプローチ 柳原清子</li> <li>3. がんと AYA 世代患者、発達段階からの心理社会的課題と支援 柳原清子</li> <li>4. AYA 世代がん患者、発達段階からの心理社会的課題と支援文献の購読とディスカッション 柳原清子</li> <li>5. がん患者の持つ力とそれを活かした看護支援：ケアリング、M. ニューマン理論 大石ふみ子</li> <li>6. がん患者の持つ力とそれを活かした看護支援について文献の購読とディスカッション 大石ふみ子</li> <li>7. 今日の我が国のがん看護の実践と背景：がん対策基本法、がん看護専門看護師の実践、ピアサポート 大石ふみ子</li> <li>8. 今日の我が国のがん看護の実践と背景について文献の購読とディスカッション 大石ふみ子</li> <li>9. 保健信念モデル・自己効力感 藤浪千種</li> <li>10. 保健信念モデル・自己効力感について文献の購読とディスカッション 藤浪千種</li> <li>11. ストレス・コーピング・適応理論（レジリエンスを含む） 前澤美代子</li> <li>12. ストレス・コーピング・適応理論に関する文献の購読とディスカッション 前澤美代子</li> <li>13. 喪失・悲嘆・危機理論 前澤美代子</li> <li>14. 喪失・悲嘆・危機理論 文献の購読とディスカッション 前澤美代子</li> <li>15. がん患者の家族理解：家族レジリエンス、家族危機理論、家族発達理論 柳原清子</li> </ol> |

|  |   |                               |                      |   |                |
|--|---|-------------------------------|----------------------|---|----------------|
|  | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員による授業：第1回～第15回</p>  |                               |                      |   |                |
| 学修方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。</li> </ul>  |                               |                      |   |                |
| 評価方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション及び討議への参加度 (60%)</li> <li>・学修した以外の理論、概念を1つ取り上げ、がん看護の実践・研究にどのように適用できるかについて考察したレポートの提出 (40%)</li> </ul>   |                               |                      |   |                |
| 課題に対するフィードバック                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。</li> </ul>   |                               |                      |   |                |
| 指定図書   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>   |                               |                      |   |                |
| <b>書籍名</b>                                       | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b>                 | <b>価格</b>            | <b>ISBN</b>                                     | <b>媒体種別/備考</b> |
|  |   |                               |                      |   |                |
| 参考書  |   |                               |                      |   |                |
| <b>書籍名</b>                                       | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b>                 | <b>価格</b>            | <b>ISBN</b>                                     | <b>媒体種別/備考</b> |
| がん看護学<br>第3版<br>がんがみえる<br>【第2版】<br>看護理論家の業績と理論評価 | 小松 浩子<br>医療情報科学研究<br>所<br>筒井真優美/編<br>集  | 医学書院<br>メディックメデ<br>ィア<br>医学書院 | 2300<br>3900<br>6400 | 9784260042161<br>9784896328608<br>9784260039611 | 1<br>1<br>1    |
| 事前・<br>事後学修                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に授業計画に示した各回の内容について学修し、プレゼンテーションの資料を作成する。</li> <li>・授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。</li> </ul>   |                               |                      |   |                |
| オフィス<br>アワー                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大石ふみ子 (看護学研究科) 1219 研究室、メールアドレス : fumiko-o@seirei.ac.jp</li> <li>・藤浪千種 (看護学研究科) 1208 研究室、メールアドレス : chigusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間は初回授業時まで提示します。必要時はいつでもメールしてください。</li> </ul> |                               |                      |   |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | がん看護援助特論  |
| 科目責任者  | 大石 ふみ子  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | がんサバイバーが直面する多様な課題と看護援助について理解を深めるとともに、様々な治療を受けるがん患者とその家族への看護援助・支援方法を探求し、これらを根拠として、がん患者・家族がもつ複雑な健康問題への包括的な看護援助について検討する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者・家族がもつ複雑な問題についての包括的な看護援助・支援について検討する。</li> <li>2. がん患者・家族の看護に用いられる看護介入モデルの理解と分析・評価について探求する。</li> <li>3. がんサバイバーに共通する課題と看護援助について理解する。</li> <li>4. 様々な治療を受けるがん患者・家族への看護援助・支援方法を理解する。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当<br/>教員&gt;</span></p> <p>【第 1-5 回：看護理論・モデルを活用した患者と家族のアセスメント・看護援助方法】<br/>担当教員：大石ふみ子<br/>第 1 回：がん患者の抱える問題とそれら問題へのアプローチ方法<br/>第 2 回：がん患者と家族への看護援助に関する理論とその活用<br/>第 3 回：がん患者と家族のアセスメント①<br/>第 4 回：がん患者と家族のアセスメント②<br/>第 5 回：事例を用いたがん患者と家族のアセスメント</p> <p>【第 6-13 回：がんの様々な局面および治療に伴い生じる患者・家族の課題と看護援助】<br/>※事例・研究論文による検討<br/>担当教員：藤浪千種<br/>第 6 回：診断時、治療選択時、治療開始時・変更時の患者と家族<br/>第 7 回：化学療法を受ける患者と家族<br/>第 8 回：放射線治療を受ける患者と家族<br/>第 9 回：緩和治療を受ける患者と家族<br/>第 10 回：集学的治療を受ける患者と家族<br/>第 11 回：リハビリテーションを受ける患者と家族<br/>第 12 回：外来治療を受ける患者と家族<br/>第 13 回：終末期にある患者とその家族</p> <p>【第 14-15 回：専門看護師による患者と家族への支援】<br/>※事例・研究論文による検討<br/>担当教員：水島史乃<br/>第 14 回：がん治療をうける患者と家族に対するがん看護専門看護師による支援①<br/>第 15 回：がん治療をうける患者と家族に対するがん看護専門看護師による支援②</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員による授業：第 1 回～第 15 回</p> |
| 学修方法   | ・講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める   |
| 評価方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション及び討議への参加度 (60%)</li> <li>・複雑な問題をもつがん患者・家族に対するアセスメント及び看護援助についてのレポート (事例検討) の提出 (40%)</li> </ul>   |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| 指定図書          | <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | <ul style="list-style-type: none"> <li>がん看護コアカリキュラム 日本版、一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ、2017、医学書院</li> <li>がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス、Eaton LH.、Janelle M. Tipton JM.、Irwin M. (Eds)、鈴木志津枝、小松浩子監訳、2013、医学書院</li> </ul> |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業前に授業計画に示した各回の内容について学修し、プレゼンテーションの資料を作成する。</li> <li>授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。</li> </ul>   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>科目責任者:大石ふみ子(看護学研究科) 1208 研究室 メールアドレス:fumiko-f@seirei.ac.jp</li> <li>時間については初回授業時に提示する。</li> </ul>  |               |           |             |                |

|               |   |        |   |      |         |
|---------------|---|--------|---|------|---------|
| 科目名           | がん看護病態特論  |        |   |      |         |
| 科目責任者         | 水島 史乃   |        |   |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 春  |        |   |      |         |
| 科目の位置付        | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |        |   |      |         |
| 科目概要          | がんの発生・進展の過程における分子・遺伝子レベルでのメカニズムや臨床的特徴等の病態生理学と、がん診断およびがん治療に関する専門的知識を深めるとともに、医学的根拠に基づいたがん看護について探求する。  |        |   |      |         |
| 到達目標          | 1. がんの発生・進展に至るメカニズムや臨床的特徴について説明できる。<br>2. 近年、著しく増加している肺がんや消化器がん等の疾患及びがん患者に特徴的な症状の病態、診断、治療と、末期がんの病態、ホスピスケアについて理解する。<br>3. 1・2の医学的根拠に基づいたアセスメントを行い、がん患者の看護援助方法について検討する。   |        |   |      |         |
| 授業計画          | <授業内容・テーマ等><br><br>第1回：がんの発生と進展<br>第2回：がんの免疫学・遺伝<br>第3回：がんの組織と臨床的特徴<br>第4回：がんの診断—画像診断、内視鏡診断等<br>第5回：肺がんの病態・診断・治療<br>第6回：消化器がんの病態・診断・治療<br>第7回：乳がんの病態・診断・治療①<br>諏訪 香<br>第8回：乳がんの病態・診断・治療②<br>第9回：血液がんの病態・診断・治療①<br>第10回：血液がんの病態・診断・治療②<br>平野 功<br>第11回：消化器症状の病態と治療<br>第12回：呼吸器症状の病態と治療<br>第13回：がん性疼痛のアセスメントと治療<br>第14回：末期がんの病態と患者の特徴<br>第15回：ホスピスケア<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家による授業：第1回～第15回 |        | <担当教員><br><br>棚橋 雅幸<br>棚橋 雅幸<br>邦本 幸洋<br>木村 泰生<br>棚橋 雅幸<br>木村 泰生<br>横道 直佑<br>横道 直佑<br>横道 直佑<br>今井 堅吾<br>今井 堅吾 |      |         |
| 学修方法          | ・講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。  |        |   |      |         |
| 評価方法          | ・プレゼンテーション及び討議への参加度 (60%)<br>・肺がん、消化器がん、乳がん、血液がん患者の事例の病態、診断、治療、看護についてのレポート (事例検討) の提出 (40%)   |        |   |      |         |
| 課題に対するフィードバック | ・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。   |        |   |      |         |
| 指定図書          | 必要な文献、論文を適宜示します。  |        |   |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格  | ISBN | 媒体種別/備考 |

|            |   |               |           |             |                |
|------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|            |   |               |           |             |                |
| 参考書        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『新臨床腫瘍学 改訂第7版』日本臨床腫瘍学会編 (2024),</li> <li>・南江堂『専門家をめざす人のための緩和医療学』改定第3版日本緩和医療学会編 (2024), 南江堂</li> <li>・『がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン (2017年版)』金原出版</li> <li>・『がん患者の呼吸器症状緩和に関するガイドライン (2016年版)』日本緩和医療学会ホームページ, <a href="https://www.jspm.ne.jp/publication/guidelines/individual.html?entry_id=89">https://www.jspm.ne.jp/publication/guidelines/individual.html?entry_id=89</a></li> <li>・『死亡直前と看</li> </ul> |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b> | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|            |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に授業計画に示した各回の内容について学修し、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| オフィスアワー    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者: 水島史乃 (看護学研究科) 1215 研究室、メールアドレス: <a href="mailto:fumino-m@seirei.ac.jp">fumino-m@seirei.ac.jp</a></li> <li>・オフィスアワーは水曜日の 11:45~13:00 ですが、それ以外の時間も都合が合えば対応が可能です。メールにて連絡してください。</li> </ul>  |               |           |             |                |

|        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 科目名    | 緩和ケア特論  |        |  |
| 科目責任者  | 大石 ふみ子  |        |  |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋  |        |  |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |        |  |
| 科目概要   | がんがもたらす様々な苦痛症状のアセスメント及び症状マネジメントについての専門的知識を習得するとともに、がん患者とその家族の身体的苦痛・精神的苦悩と悲嘆に対する緩和ケア、エンドオブライフケア、遺族ケアにおける全人的ケアについて理解を深める。                                     |        |  |
| 到達目標   | 1. がん患者のトータルペインと全人的ケアについて理解する。<br>2. がん性疼痛及びその他の苦痛症状のアセスメント、症状マネージメントのための治療法について理解する。<br>3. 緩和ケア、エンドオブライフケア、遺族ケアにおけるがん患者・家族の様々な身体的苦痛と苦悩、悲嘆への全人的ケアのあり方を検討する。 |        |  |
| 授業計画   | <授業内容・テーマ等>   | <担当教員> |  |
|        | [緩和ケア総論]  |        |  |
|        | 第 1 回：緩和ケアとは  | 大石ふみ子  |  |
|        | 第 2 回：がん患者のトータルペイン  | 大石ふみ子  |  |
|        | 第 3 回：がん患者のトータルペインと全人的ケアチームアプローチ  | 大石ふみ子  |  |
|        | 第 4 回：がん患者のスピリチュアルケア事例を用いた検討  | 水島史乃   |  |
|        | 第 5 回：緩和ケアにおける意思決定支援  | 水島史乃   |  |
|        | [身体的・心理的・社会的苦痛のアセスメントとマネージメント]  |        |  |
|        | 第 6 回：がん性疼痛   | 井上菜穂美  |  |
|        | 第 7 回：食欲不振、腹部膨満、腹水  | 井上菜穂美  |  |
|        | 第 8 回：呼吸困難、倦怠感、悪液質症候群   | 大山末美   |  |
|        | 第 9 回：抑うつ   | 安      |  |
|        | 第 10 回：抑うつ  | つ      |  |
|        | 第 11 回：苦痛緩和のための鎮静 ① 医学的適応と倫理的課題   | 今井 堅吾  |  |
|        | 第 12 回：苦痛緩和のための鎮静 ② 治療の実際と評価  | 今井 堅吾  |  |
|        | [緩和ケアにおけるがん患者の家族への援助]   |        |  |
|        | 第 13 回：家族のニーズと援助方法  | 藤浪千種   |  |
|        | [エンドオブライフケア]  |        |  |
|        | 第 14 回：Advanced Care Planning のトピックス  | 森雅紀    |  |
|        | 第 15 回：緩和ケアの国際的な動向・多職種連携  |        |  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>森雅紀</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員・実務家による授業：第1回～第15回</p>  |               |           |             |                |
| 学修方法          | ・授業、プレゼンテーション、討議により授業を進める。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション及び討議への参加度 (40%)</li> <li>・授業で学修した症状に関わる事例検討レポートの提出 (60%)</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | ・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『専門家をめざす人のための緩和医療学』改定第3版 日本緩和医療学会編 (2024), 南江堂</li> <li>・『緩和ケア教育テキスト: がんと診断された時からの緩和ケアの推進』田村恵子, 日本看護協会編 (2017), メディカ出版</li> <li>・『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン (2020年版)』日本緩和医療学会ガイドライン統括委員会編 (2020), 金原出版</li> <li>・『苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン (2010年版)』日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会編 (2010), 金原出版</li> <li>・『がん患者の消化器症状緩和のためのガイ</li> </ul> |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に授業計画に示した各回の内容について学修し、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。</li> </ul>   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者: 大石ふみ子 (看護学研究科) 1219 研究室 メールアドレス: fumiko-o@seirei.ac.jp</li> <li>・時間については初回授業時に提示します。</li> </ul>   |               |           |             |                |

| 科目名   | 緩和ケア援助特論   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
|---|--|--|--------|------------------------------|------|-----------------------|------|---------------------|------|---------------------|------|--------------------|------|--------------------|------|------------------------|--------|-------------------------|--------|------------------------|----------|-------------------------|-----------|------------------------|----------|------------------------|-----------|-----------------------------|-----------------|---|------|---------------------------------------|--------|
| 科目責任者   | 藤浪 千種  |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 単位数他  | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 科目の位置付  | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 科目概要  | 症状緩和を目的とする治療を受けるがん患者の苦痛緩和のためのエビデンスに基づく看護援助について探求するとともに、がん患者・家族の在宅療養への移行と療養継続のための看護援助・支援について臨床判断過程を踏まえながら検討する。  |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 到達目標  | 1. がんに伴う苦痛症状緩和のための薬物療法、放射線療法、手術療法と、治療に伴う有害事象及び支持療法について理解する。<br>2. 1 の治療がもたらす苦痛症状の予防あるいは早期発見、早期対処のための看護援助及びセルフケア支援について検討する。<br>3. 在宅療養への移行および在宅療養継続を支える看護援助・支援について検討する。   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 授業計画  | <p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;"></th> <th style="width: 30%; text-align: right;">＜担当教員＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：緩和ケアにおける治療に関する近年の動向と実際</td> <td style="text-align: right;">前田一石</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：緩和ケア治療に関するエビデンス</td> <td style="text-align: right;">前田一石</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：最近のがん薬物治療の実際①</td> <td style="text-align: right;">邦本幸洋</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：最近のがん薬物治療の実際②</td> <td style="text-align: right;">邦本幸洋</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：薬物療法に伴う支持医療①</td> <td style="text-align: right;">平川聡史</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：薬物療法に伴う支持医療②</td> <td style="text-align: right;">平川聡史</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：薬物療法と看護 事例を用いた検討</td> <td style="text-align: right;">井上 菜穂美</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：薬物療法と看護 臨床判断過程の検討</td> <td style="text-align: right;">井上 菜穂美</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：放射線療法と看護<br/>大屋富彦</td> <td style="text-align: right;">事例を用いた検討</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：放射線療法と看護<br/>大屋富彦</td> <td style="text-align: right;">臨床判断過程の検討</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：手術療法と看護<br/>西尾里美</td> <td style="text-align: right;">事例を用いた検討</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：手術療法と看護<br/>西尾里美</td> <td style="text-align: right;">臨床判断過程の検討</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：在宅療養へ移行するがん患者・家族への看護</td> <td style="text-align: right;">地域医療連携システム 大木純子</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：在宅療養へ移行するがん患者・家族への看護<br/>退院調整と在宅ケアの準備・資源の活用</td> <td style="text-align: right;">大木純子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：在宅におけるがん患者・家族への看護<br/>島史乃、大石ふみ子</td> <td style="text-align: right;">藤浪千種、水</td> </tr> </tbody> </table> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員・実務家による授業：第 1 回～第 15 回</p> |  | ＜担当教員＞ | 第 1 回：緩和ケアにおける治療に関する近年の動向と実際 | 前田一石 | 第 2 回：緩和ケア治療に関するエビデンス | 前田一石 | 第 3 回：最近のがん薬物治療の実際① | 邦本幸洋 | 第 4 回：最近のがん薬物治療の実際② | 邦本幸洋 | 第 5 回：薬物療法に伴う支持医療① | 平川聡史 | 第 6 回：薬物療法に伴う支持医療② | 平川聡史 | 第 7 回：薬物療法と看護 事例を用いた検討 | 井上 菜穂美 | 第 8 回：薬物療法と看護 臨床判断過程の検討 | 井上 菜穂美 | 第 9 回：放射線療法と看護<br>大屋富彦 | 事例を用いた検討 | 第 10 回：放射線療法と看護<br>大屋富彦 | 臨床判断過程の検討 | 第 11 回：手術療法と看護<br>西尾里美 | 事例を用いた検討 | 第 12 回：手術療法と看護<br>西尾里美 | 臨床判断過程の検討 | 第 13 回：在宅療養へ移行するがん患者・家族への看護 | 地域医療連携システム 大木純子 | 第 14 回：在宅療養へ移行するがん患者・家族への看護<br>退院調整と在宅ケアの準備・資源の活用 | 大木純子 | 第 15 回：在宅におけるがん患者・家族への看護<br>島史乃、大石ふみ子 | 藤浪千種、水 |
|   | ＜担当教員＞   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 1 回：緩和ケアにおける治療に関する近年の動向と実際                      | 前田一石   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 2 回：緩和ケア治療に関するエビデンス                             | 前田一石   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 3 回：最近のがん薬物治療の実際①                               | 邦本幸洋   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 4 回：最近のがん薬物治療の実際②                               | 邦本幸洋   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 5 回：薬物療法に伴う支持医療①                                | 平川聡史   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 6 回：薬物療法に伴う支持医療②                                | 平川聡史   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 7 回：薬物療法と看護 事例を用いた検討                            | 井上 菜穂美   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 8 回：薬物療法と看護 臨床判断過程の検討                           | 井上 菜穂美   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 9 回：放射線療法と看護<br>大屋富彦                            | 事例を用いた検討   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 10 回：放射線療法と看護<br>大屋富彦                           | 臨床判断過程の検討  |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 11 回：手術療法と看護<br>西尾里美                            | 事例を用いた検討   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 12 回：手術療法と看護<br>西尾里美                            | 臨床判断過程の検討  |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 13 回：在宅療養へ移行するがん患者・家族への看護                       | 地域医療連携システム 大木純子  |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 14 回：在宅療養へ移行するがん患者・家族への看護<br>退院調整と在宅ケアの準備・資源の活用 | 大木純子   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 第 15 回：在宅におけるがん患者・家族への看護<br>島史乃、大石ふみ子             | 藤浪千種、水   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 学修方法  | ・講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 評価方法  | ・プレゼンテーション及び討議への参加度 (60%)<br>・課題レポート (40%)   |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |
| 課題に対するフィードバック                                     | ・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |  |        |                              |      |                       |      |                     |      |                     |      |                    |      |                    |      |                        |        |                         |        |                        |          |                         |           |                        |          |                        |           |                             |                 |   |      |                                       |        |

| 指定図書           | なし   |        |       |               |         |
|----------------|--|--------|-------|---------------|---------|
| 書籍名            | 著者   | 発売元出版社 | 価格    | ISBN          | 媒体種別／備考 |
| 参考書            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『専門家をめざす人のための緩和医療学』改定第3版 日本緩和医療学会編 (2024), 南江堂</li> <li>・『緩和ケア教育テキスト: がんと診断された時からの緩和ケアの推進』田村恵子, 日本看護協会編 (2017), メディカ出版</li> <li>・『がん看護コアカリキュラム 日本版』一般や団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ (2017) , 医学書院</li> <li>・『がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス』 Eaton LH., Janelle M. Tipton JM., Ir</li> </ul> |        |       |               |         |
| 書籍名            | 著者   | 発売元出版社 | 価格    | ISBN          | 媒体種別／備考 |
| 新臨床腫瘍学 (改訂第6版) | 日本臨床腫瘍学会   | 南江堂    | 15000 | 9784524227396 | 1       |
| 事前・事後学修        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。</li> </ul>   |        |       |               |         |
| オフィスアワー        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者: 藤浪千種 (看護学研究科) 1208 研究室 メールアドレス: chigusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間については初回授業時に提示します。</li> </ul>   |        |       |               |         |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | がん看護学特論演習  |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 藤浪 千種  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (45 時間) 修士論文コース 選択 秋  |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 3. 幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |        |    |      |         |
| 科目概要          | がん看護学における特論及び援助特論、看護理論で学習した概念・理論を基礎として、特定のがん患者・家族に適用できるがん看護介入モデルを作成し、モデルの前提及び構成要素間の関係・一貫性を検証する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | 1. 文献・経験等を用いて特定のがん患者・家族に適用できるがん看護介入モデルを作成する。<br>2. 作成したがん看護介入モデルの前提及び構成要素間の関係・一貫性について検討する。   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>&lt;担当教員名&gt; 藤浪千種、大石ふみ子、乾友紀、水島史乃<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1-3回：看護介入モデルの前提である自己の看護の信念・価値（philosophy）を明らかにする。</p> <p>第4-6回：過去の臨床経験において直面したがん患者あるいは家族の看護上の課題を手がかりに、ある特定のがん患者または家族の健康問題に関わる現象と、それを取り巻く状況について文献検索を行い、看護介入のターゲットとなる問題を検討・討議する。</p> <p>第7-12回：自己の経験や文献をもとに、特定のがん患者あるいは家族の看護介入モデルの構成要素について検討・討議する。</p> <p>第13-20回：がん患者または家族に適用できる看護介入モデルを作成する。作成した看護介入モデルについて発表し、モデルの前提及び構成要素間の関係・一貫性について討議を行う。</p> <p>第21-23回：討議内容に基づいて、自己の看護介入モデルの修正・検証について討議する。作成したがん看護介入モデル及びその検証についてレポートを作成する。</p> <p>※演習の日程の詳細は、話し合いの上決定する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員による授業：第1回～第23回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | ・講義、プレゼンテーション、討議、個別指導により授業を進める。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | ・プレゼンテーション及び討議への参加度（40%）<br>・作成したがん看護介入モデル及びその検証についての課題レポート（60%）   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | ・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |        |    |      |         |
| 指定図書          | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |
| 参考書           | ・授業内で適時提示する  |        |    |      |         |

| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|---|--------|----|------|---------|
|             |   |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に授業計画に示した各回の内容について学修し、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。</li> </ul>          |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者：藤浪千種（看護学研究科）1208 研究室 メールアドレス：chigusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間については初回授業時に提示する。</li> </ul> |        |    |      |         |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | がん看護学演習 I  |  |
| 科目責任者  | 水島 史乃  |  |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 必修 秋  |  |
| 科目の位置付 | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。  |  |
| 科目概要   | がん患者および家族を全人的に理解するためのアセスメント技能と、症状の緩和や悪化の予防を図るための代替療法、リハビリテーションを活用した看護介入技術を習得し、がん患者・家族の苦痛を緩和し、セルフケア能力に働きかける方法について探求する。  |  |
| 到達目標   | 1. がん患者の身体的・心理的・社会的側面についての系統的及び問題中心のアセスメント技能を習得する。<br>2. 症状の緩和や悪化の予防を図るための代替療法、リハビリテーションを活用した看護技術を習得し、がん患者・家族の苦痛を緩和しセルフケア能力に働きかける方法について検討する。   |  |
| 授業計画   | <p>&lt; 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 &gt;<br/>&lt;担当教員&gt;</p> <p>[がん患者の苦痛症状のアセスメントの実際]</p> <p>第1回：アセスメントに用いる問診技術と身体の系統的アセスメント法① 水島 史乃</p> <p>第2回：アセスメントに用いる問診技術と身体の系統的アセスメント法② 水島 史乃</p> <p>第3回：身体症状の問題中心アセスメント法 箕浦 侑加<br/>(疼痛、呼吸器症状、消化器症状)①</p> <p>第4回：身体症状の問題中心アセスメント法 箕浦 侑加<br/>(疼痛、呼吸器症状、消化器症状)②</p> <p>第5回：身体症状の問題中心アセスメント法 箕浦 侑加<br/>(皮膚症状、リンパ浮腫、泌尿器症状、神経症状、精神症状)①</p> <p>第6回：身体症状の問題中心アセスメント法 箕浦 侑加<br/>(皮膚症状、リンパ浮腫、泌尿器症状、神経症状、精神症状)②</p> <p>第7回：栄養状態のアセスメント法と栄養サポート① 岩田 友子</p> <p>第8回：栄養状態のアセスメント法と栄養サポート② 岩田 友子</p> <p>第9回：客観的検査データの解釈① 岩田 友子</p> <p>第10回：客観的検査データの解釈② 岩田 友子</p> <p>第11回：がん患者の心理・社会的状態のアセスメント (事例検討) 水島 史乃</p> <p>第12回：がん患者の心理・社会的状態のアセスメント (事例検討) 水島 史乃</p> <p>第13回：がん患者の家族のニーズアセスメント (事例検討) 水島 史乃</p> <p>第14回：がん患者の家族のニーズアセスメント (事例検討) 水島 史乃</p> <p>[代替療法を活用した看護援助の実際]</p> <p>第15回：マッサージ① 水島 史乃</p> <p>第16回：マッサージ② 水島 史乃</p> <p>第17回：アロマセラピー① 水島 史乃</p> <p>第18回：アロマセラピー② 水島 史乃</p> <p>[リハビリテーションを活用した看護援助の実際]</p> <p>第19回：症状緩和のためのリハビリテーション看護① 水島 史乃</p> <p>第20回：症状緩和のためのリハビリテーション看護② 水島 史乃</p> <p>第21回：症状緩和のためのリハビリテーション看護(倦怠感)① 水島 史乃</p> <p>第22回：症状緩和のためのリハビリテーション看護(倦怠感)② 水島 史乃</p> <p>第23回：症状緩和のためのリハビリテーション看護(呼吸困難)① 乾 友紀</p> |  |

|               |   |        |                          |      |         |
|---------------|---|--------|--------------------------|------|---------|
|               | 第24回：症状緩和のためのリハビリテーション看護(呼吸困難)②<br>第25回：リンパ浮腫に対する複合的理学療法の活用とセルフケア支援①<br>第26回：リンパ浮腫に対する複合的理学療法の活用とセルフケア支援②<br>美  |        | 乾 友紀<br>佐々木 久美<br>佐々木 久美 |      |         |
|               | [[緩和ケアにおけるコミュニケーション技術の実際]<br>第27回：緩和ケアにおけるコミュニケーション①<br>第28回：緩和ケアにおけるコミュニケーション②   |        | 水島 史乃<br>水島 史乃           |      |         |
|               | [がん患者・家族を対象とした看護介入の検討]<br>第29回：がん患者・家族の苦痛緩和とセルフケア支援(討議)①<br>ふみ子<br>第30回：がん患者・家族の苦痛緩和とセルフケア支援(討議)②<br>ふみ子  |        | 藤浪千種・大石<br>藤浪千種・大石       |      |         |
|               | ＊この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員・実務家による授業：第1回～第30回   |        |                          |      |         |
| 学修方法          | ・講義、演習、討議により授業を進める。   |        |                          |      |         |
| 評価方法          | ・授業に対する取り組みの姿勢・態度(60%)<br>・ディスカッションへの参加度及びプレゼンテーション(40%)  |        |                          |      |         |
| 課題に対するフィードバック | ・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。   |        |                          |      |         |
| 指定図書          | ・『がん看護コアカリキュラム日本版：手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア』一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(2017), 医学書院<br>・『がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス』Eaton LH., Janelle M. Tipton JM., Irwin M. (Eds), 鈴木志津枝, 小松浩子監訳(2013), 医学書院   |        |                          |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格                       | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |                          |      |         |
| 参考書           | ・『がん緩和ケアのフィジカルアセスメント』月刊薬事, 55(10), 2013年9月臨時増刊号<br>・『続・がん医療におけるコミュニケーション・スキル』藤森麻衣子, 内富庸介編(2009), 医学書院<br>・『リラクゼーション法の理論と実際—ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門 第2版』五十嵐透子著(2015), 医歯薬出版<br>・『がん補完代替医療ガイドライン 第1版』日本緩和医療学会ホームページ, <a href="https://www.jspm.ne.jp/files/guideline/cam_pdf/cam01.pdf">https://www.jspm.ne.jp/files/guideline/cam_pdf/cam01.pdf</a> |        |                          |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格                       | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |                          |      |         |
| 事前・事後学修       | ・授業前に授業計画に示した各回の内容に対応した事前課題について自己学修する。<br>・討議に先立ち、プレゼンテーション資料を作成する。<br>・授業後に演習内容のフィードバックをふまえて復習する。  |        |                          |      |         |
| オフィス          | ・科目責任者：水島史乃(看護学研究科) 1215研究室 メールアドレス：fumino-f@seirei.ac.jp   |        |                          |      |         |

|     |  |
|-----|--|
| アワー | ・オフィスアワーは水曜日の 11:45～13:00 ですが、それ以外の時間も都合が合えば対応が可能です。メールにて連絡してください。 |
|-----|--|

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | がん看護学演習Ⅱ  |
| 科目責任者  | 藤浪 千種   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 必修 春   |
| 科目の位置付 | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | がん患者の治療や症状緩和に携わる様々な人々及びチームの活動の実際を体験し、がん患者とその家族を包括的に理解し、多職種との連携・協働のもと、その人らしく生きることを支援するための看護援助を探求・実践する。   |
| 到達目標   | <p>1) がん患者の治療やさまざまな症状緩和に携わる多職種との連携や専門医療チームの活動を理解できる。</p> <p>2) がん患者の治療やさまざまな症状緩和に携わる各職種の活動や考え方、価値観、専門性や専門医療チームあり方が理解できる。</p> <p>3) がん患者の治療や症状緩和に携わる様々な人々及び専門医療チームが、がん患者とその家族をどのように把握しその人らしい人生を支援しているのかが理解できる。</p> <p>4) 自らががん看護専門看護として様々な人々・チームと関わる上での課題や目標などを見出すことができる。</p>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員&gt;<br/>藤浪千種、大石ふみ子、水島史乃</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>第 1-2 回：緩和ケアチームによるアプローチ<br/>第 3-14 回：臨地研修その 1 (臨床講義含む)<br/>〔演習場所〕 聖隷三方原病院 ホスピス (病棟・外来)、腫瘍センター (病棟・外来)<br/>○第 3-8 回：緩和ケアチームにおける活動の実際 (うち臨床講義 3 回 がん CNS 佐久間由美)<br/>○第 9-14 回：ホスピスにおける看護活動の実際<br/>第 15-16 回：緩和・ホスピスケアにおける課題と展望—討議<br/>第 17-28 回：臨地研修その 2 (臨床講義含む)<br/>〔演習場所〕 聖隷三方原病院 リハビリテーション部、がん相談支援センター等<br/>○第 17-18 回：栄養サポートチームの活動の実際<br/>○第 19-20 回：がんリハビリテーションの実際<br/>○第 21-24 回：緩和チームにおける CNS 活動の実際 (うち臨床講義 2 回 がん CNS 佐久間由美)<br/>○第 25-28 回：がん相談支援センターの活動の実際 (うち 1 回臨床講義 がん CNS 大木純子)<br/>第 29-30 回：緩和ケアにおけるチームアプローチの課題と展望—討議</p> <p>※演習内容・方法<br/>・ホスピス看護課長及び臨地の指導者による指導を受けながら、ホスピスのがん患者・家族の苦痛・苦悩を和らげ、安楽に配慮した看護活動を体験する。<br/>・ホスピスを拠点に、症状緩和に携わる人々や緩和ケアチームメンバーとともに行動し、緩和ケアの現状及び活動を体験するとともに、多職種カンファレンスにおいて、がん患者・家族の苦痛や苦悩を緩和するための看護援助についての討議に参加する。<br/>・各臨地演習最終日に、臨地の指導者及び担当教員とともにカンファレンスを行い、目標 1 及び 2 についての学びを発表し、討議を行う。<br/>・演習の日程の詳細は、ホスピス看護課長、指導者等との話し合いのうえ決定する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員による授業：第 1・2・15・16・29・30</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>回<br/>実地での体験活動を伴う授業：第3-14、17-28回</p>   |               |           |             |                |
| 学修方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習、プレゼンテーション、討議により授業を進める</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する取り組みの姿勢・態度 (20%)</li> <li>・討議への参加度及びプレゼンテーション (20%)</li> <li>・目標に対する課題レポートの提出 (60%)</li> </ul>  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 指定図書          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定なし</li> </ul>   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『専門家をめざす人のための緩和医療学』改定第3版日本緩和医療学会編 (2024), 南江堂</li> <li>・『緩和ケア教育テキスト：がんと診断された時からの緩和ケアの推進』田村恵子, 日本看護協会編 (2017), メディカ出版</li> </ul>   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習に先立ち、既修したがん看護学に関する授業内容について復習するとともに、緩和ケアチーム活動、栄養サポートチーム活動、がんリハビリテーション、がん相談支援活動の概要について自己学修する。</li> <li>・討議に先立ち、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・授業後に演習・討議内容についてのフィードバックをふまえて復習する。</li> </ul> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者：藤浪千種 (看護学研究科) 1208 研究室 メールアドレス : chigusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間・連絡方法については初回授業時に提示します。</li> </ul>   |               |           |             |                |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | がん看護学特論実習  |
| 科目責任者         | 藤浪 千種  |
| 単位数他          | 2単位 (60時間) 修士論文コース 選択 秋  |
| 科目の位置付        | 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要          | がん患者の最新の診断・治療の現状を把握するとともに、さまざまな苦痛・苦悩をもつがん患者・家族に対する高度な専門的看護を探求・実践する。  |
| 到達目標          | 1. 最新の診断・治療の現状を把握する。<br>2. さまざまな苦痛・苦悩をもつがん患者・家族に対する高度な専門的看護を探求・実践する。   |
| 授業計画          | <p>&lt;担当教員&gt;<br/>藤浪千種、大石ふみ子、水島史乃</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 週5日 2週間</li> <li>2. 実習場所 聖隷三方原病院あるいはその他の地域がん診療連携拠点病院</li> <li>3. 実習内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生が関心を持つがん看護の特定の領域において、実習指導者及び担当教員の指導を受けながら、1～2名程度のがん患者を受け持ち、患者の診断、治療の状況について、文献に基づくエビデンスを踏まえて把握するとともに、患者とその家族を対象に、看護過程を展開し、看護を実践・評価を行う。</li> <li>2) 看護実践を行うにあたり、がん看護学特論演習で作成した看護介入モデルを用いて、介入の焦点とゴールを明確にし、対象の状況に適したアセスメントツールを用いて介入の効果を評価する。</li> <li>3) 病棟等で行われるカンファレンス等に参加し、がん患者及び家族の苦痛・苦悩に対する看護についての学びを深める。</li> <li>4) アセスメント及び看護計画等の記録を記載し、看護実践の振り返りと評価、考察を行うとともに、記録等を実習指導者と担当教員に定期的に提出し、指導を受ける。</li> <li>5) 実習の1週目後半及び最終日に、実習指導者、教員とともにカンファレンスを行い、実践した看護について発表し、討議を行う。</li> <li>6) 目標1及び2についての学びについてレポートにまとめる。</li> </ol> </li> </ol> <p>※がん治療病棟において、治療を受けるがん患者を受け持ち、患者及び家族に対する看護を実践し、討議を行う。</p> <p>※日程の詳細は、実習場所である部署の看護課長との話し合いのうえ決定する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>実地での体験活動を伴う授業</p> |
| 学修方法          | ・実習、プレゼンテーション、討議により授業を進める。   |
| 評価方法          | ・授業に対する取り組みの姿勢・態度 (20%)<br>・目標1及び2についてのレポート提出 (80%)  |
| 課題に対するフィードバック | ・個人または履修者全体に対し、学修内容についての意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。   |
| 指定図書          | なし   |

| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
|             |  |        |    |      |         |
| 参考書         | ・授業の中で適時提示する。  |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に先立ち、既修したがん看護学に関する授業内容について復習して実習に臨む。</li> <li>・討議に先立ち、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・実習後に実習・討議内容についてのフィードバックをふまえて復習する。</li> </ul> |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者：藤浪千種（看護学研究科）1208 研究室 メールアドレス：chigusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間は初回授業時に提示します。</li> </ul>                                   |        |    |      |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | がん看護学高度実践実習 I  |
| 科目責任者  | 藤浪 千種  |
| 単位数他   | 2 単位 (90 時間) 高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者や学生との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 緩和医療を受けるがん患者の看護（特に身体管理）に必要な卓越した臨床判断能力を養う。  |
| 到達目標   | <p>1) 緩和医療を受けるがん患者の苦痛症状をはじめとする様々な身体症状をデータを用いた分析により理解できる。</p> <p>2) がん看護専門看護師が行う、臨床判断（患者の身体・心理・社会・治療・看護行為の必要性など様々な要素）が理解できる。</p> <p>3) がん看護専門看護師が行う、臨床判断から実践までのプロセス（臨床判断・看護実践・評価）が理解できる。</p> <p>4) がん看護専門看護師が行う臨床判断プロセスに必要な専門的知識・技術が理解できる。</p> <p>5) 自らががん看護専門看護師として臨床判断やそれに基づく看護実践を行う上での課題や目標を見出すこと</p>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員&gt;<br/>藤浪千種、大石ふみ子、水島史乃</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>本実習は、緩和医療の現場において、がん患者の苦痛症状に対する治療・緩和ケアの選択・実施を導く臨床判断の過程について、実習指導者によるスーパービジョンを受けながら実践的に学ぶ。本実習では、実習担当教員と実習指導者との密接な連携に基づいて教育が提供される。</p> <p>&lt;実習方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間：週 5 日、2 週間 計 10 日間（臨地での実習日数は 3 日間/週）</li> <li>2. 実習場所： 聖隷三方原病院 緩和支援治療科外来（外来診療・病棟診療）</li> <li>3. 実習指導者：佐久間由美（がん看護専門看護師）<br/>大木純子（がん看護専門看護師）</li> <li>4. 進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は「実践的な方法による授業」であり臨床での体験活動を伴う。また、実習日程・内容の詳細は、実習指導者との話し合いの元決定される。</li> </ul> </li> </ol> <p>①患者の診療・ケア場面を見学し、がん患者の苦痛症状、身体機能等について実習指導者のアセスメントと身体管理のために行われる治療・緩和ケアを観察し、その間になされた臨床判断の過程を整理する。</p> <p>②実習指導者の臨床判断を確認し、指導者とともにそれら臨床判断に基づく看護実践・評価を行う。</p> <p>③臨地での学びをレポートにまとめ、実習担当教員と臨床判断の過程について検討する。</p> <p>④実習 1 週目及び 2 週目に主体的にカンファレンスを開催し、学びに関する資料を用いて発表し、実習担当教員、実習指導者、非常勤講師とともに討議を行う。</p> <p>（①②に関する臨床判断の実践例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスアセスメント</li> <li>・がん性疼痛、呼吸困難等の苦痛症状のアセスメント</li> <li>・検査の必要性の判断</li> <li>・がん性疼痛の治療（オピオイドローテーション）の選択と実施・評価に関わる判断</li> <li>・呼吸困難の治療の選択と実施・評価に関わる判断（鎮静の必要性の判断、薬剤の選択調整と評価を含む）</li> <li>・生活調整のための治療的支援の判断</li> </ul> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | ・実習、プレゼンテーション、討議により授業を進める。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | ・本実習の到達目標に応じた評価表に基づき、カンファレンスでのプレゼンテーション及び討議内容と、実習記録物・課題レポート等の成果物により目標到達度を総合的に評価する。  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | ・個人または履修者全体に対し、学修内容についての意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          | ・指定なし。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | ・授業中に随時提示する。  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に先立ち、共通科目（フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学等）及びがん看護学領域の科目の既修内容について復習し、実習に臨む。</li> <li>・討議に先立ちプレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・実習後に実習・討議内容についてのフィードバックをふまえて復習する。</li> </ul> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者：藤浪千種（看護学研究科）研究室 1208、メールアドレス：chigusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間・連絡方法は初回授業時に提示する。</li> </ul>  |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | がん看護学高度実践実習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 藤浪 千種  |
| 単位数他   | 2単位 (90時間) 高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者や学生との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | がん看護専門看護師の役割を探求、実践することを通じて、がん看護専門看護師としての役割開発を行う能力を養う。  |
| 到達目標   | <p>1) がん看護専門看護師として活動している看護職の指導のもと、がん看護専門看護師としての役割 (実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究) について理解できる。</p> <p>2) がん看護専門看護師として果たすべき役割のうち、いずれかの役割について焦点を当て計画を立案し、実施・評価する。</p> <p>3) がん患者・家族に対する倫理的感性を高め、倫理的な態度で接することができる。</p> <p>4) がん看護専門看護師としての役割開発に向けた自己の課題を説明することができる。</p> <p>5) 実習目標を意識し、がん看護専門看護師を目指すものとして主体的に学ぶことができ</p>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員&gt;<br/>藤浪千種、大石ふみ子、水島史乃</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>本実習は、臨床で活動するがん看護専門看護師を実習指導者とし、実習指導者による指導のもとで行う。また実習期間全般に亘り、実習担当教員に学修内容を記録物とともに定期的に報告し、実習目標到達度と課題を確認しながら進める。本実習では、実習担当教員と実習指導者、看護部責任者との密接な連携に基づいて教育が提供される。</p> <p>&lt;実習方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 週5日、2週間 計10日間</li> <li>2. 実習場所・指導者<br/>静岡県立総合病院 病棟・外来等 鈴木かおり (がん看護専門看護師)</li> <li>3. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習指導者とともに行動し、がん看護専門看護師が行う看護実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究等の活動について見学又は参加する。その中で、指導者によるスーパービジョンを受けながら、地域・組織・チームの中でがん看護専門看護師が行う活動の意味と、その活動に応用されている専門的知識や介入戦略、タイムマネジメントや記録・報告書の作成方法の工夫を学ぶ。</li> <li>2) 実習施設の特定の部署において、がん看護専門看護師の役割に関わるニーズ・課題をアセスメントし、指導者と共に介入目標・内容・方法・効果の評価方法を検討する。</li> <li>3) 介入計画を指導者と共に実施・評価する。</li> <li>4) がん看護専門看護師の役割開発に関する課題・課題に対する具体的取り組みを実際の活動やカンファレンスから検討する。</li> <li>5) 記録等を実習指導者・担当教員に適時提出し、指導を受ける。</li> <li>6) 実習の中盤と終盤に、学生が主体的にカンファレンスを開催する。カンファレンスでは目標に関わる学修内容を発表し、実習指導者及び実習担当教員と討議を行う。</li> <li>7) 目標に関わる学修内容について、最終的に課題レポートにまとめ、提出する。</li> </ol> </li> </ol> <p>※日程等の詳細は、実習指導者、看護部責任者との話し合いのうえ決定する。<br/>*この科目は「実践的な方法による授業」であり、実地での体験活動を伴う。</p> |
| 学修方法   | ・実習、プレゼンテーション、討議により授業を進める。   |
| 評価方法   | ・本実習の到達目標に応じた評価表に基づき、カンファレンスでのプレゼンテーション及び討議内容と、実習記録物・課題レポート等の成果物により目標到達度を総合的に評価する。   |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人または履修者全体に対し、学修内容についての意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。</li> </ul>   |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で適時提示する。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に先立ち、看護コンサルテーション論及びがん看護学領域の既修授業内容について復習し、実習に臨む。討議に先立ちプレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・実習後に実習・討議内容についてのフィードバックをふまえて復習する。</li> </ul> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者：藤浪千種（看護学研究科）1208 研究室 メールアドレス：chugusa-f@seirei.ac.jp</li> <li>・時間・連絡方法は初回授業時に提示します。ご用の方はメールで連絡してください。</li> </ul>           |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | がん看護学高度実践実習Ⅲ  |
| 科目責任者  | 水島 史乃   |
| 単位数他   | 6 単位 (270 時間) 高度実践看護コース 必修 秋  |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者や学生との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要   | 複雑な問題をもつがん患者・家族に対して、がん看護専門看護師として必要な高度な専門的知識と的確な臨床判断及び熟練した技術を用いて、また専門家としての倫理観を備えた態度で質の高い看護ケアを提供する能力を養う。  |
| 到達目標   | <p>1) 複雑な問題をもつがん患者・家族に対する卓越した看護実践を中心として、専門看護師に求められる倫理調整・多職種協働の調整と、相談・教育・研究の役割を実践し、評価を行う。</p> <p>2) がん治療・診断に伴う臨床判断能力及び身体管理能力を養う。</p> <p>3) 様々な苦痛症状を抱えるがん患者や地域医療連携を必要とするがん患者・家族に対し、臨床判断に基づき専門的で高度な質の高い看護ケアを実践し、評価を行う。</p> <p>4) がん患者・家族に対する倫理的感性を高め、倫理的な態度で接することができる。</p> <p>5) 実習目標を意識し、がん看護専門看護師を目指す</p>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員&gt;<br/>水島史乃、大石ふみ子、藤浪千種</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>本実習は、臨床で活動するがん看護専門看護師を実習指導者とし、指導者による指導を受けながら行う。また実習期間全般に亘り、実習担当教員に学修内容を記録物とともに定期的に報告し、実習目標到達度と課題を確認しながら進める。本実習では、実習担当教員と実習指導者、実習病棟看護課長との密接な連携に基づき、教育が提供される。</p> <p>&lt;実習方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 週 5 日 6 週間 計 30 日間</li> <li>2. 実習場所 聖隷三方原病院 腫瘍センター (がん治療専門病棟)</li> <li>3. 実習指導者 佐久間由美 (がん看護専門看護師) 大木 純子 (がん看護専門看護師)</li> <li>4. 実習方法 <p>1) がん治療を提供する病棟において、身体的・心理社会的に複雑な問題を抱えるがん患者 4 ～ 5 名以上を受け持ち (指導者と相談・調整のうえで受け持ち患者を決定する。受け持ち患者には、医療施設から在宅・地域への移行に伴う地域連携支援を必要とするがん患者を含むこととする。)、看護チームの一員として倫理観を備えた態度で看護実践を行うとともに、倫理的問題に対する倫理調整と多職種協働の調整を行う。</p> <p>2) 受け持ちのがん患者とその家族を対象に、実習指導者による指導を受けながら、身体的・心理社会的側面についてアセスメントを実施し、それに基づき看護計画を立案し、身体管理を含む実践を行い、その効果を評価する。これらの介入においては、対象に対して倫理的な態度でかわる。また倫理調整と多職種協働の調整について、アセスメントに基づいて計画を立案し、実践・評価する。</p> <p>3) 実習指導者の指導の下で、専門看護師が担う相談・教育・研究の役割に関わるニーズ・課題をアセスメントし、計画立案・実施・評価を行う。</p> <p>4) 専門看護師が担う実践及びその他の役割に関わるアセスメントと計画、実施・評価等の記録を記載し、記録を実習担当教員と実習指導者に定期的に提出し指導を受ける。</p> <p>5) 実習 2・4・6 週目に学生が主体的にカンファレンスを開催し、学びに関する作成資料を用いて発表し、実習担当教員、実習指導者、実習病棟看護課長とともに討議を行う。</p> <p>6) 到達目標に応じた課題レポートをまとめ、提出する。</p> </li> </ol> <p>※実習日程の詳細は、実習指導者、実習病棟看護課長との話し合いのうえ決定する。<br/>※この科目は「実践的な方法による授業」であり、実地での体験活動を伴う。</p> |
| 学修方法   | ・実習、プレゼンテーション、討議により授業を進める。  |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本実習の到達目標に応じた評価表に基づき、カンファレンスでのプレゼンテーション及び討議内容と、実習記録物・課題レポート等の成果物により目標到達度を総合的に評価する。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人または履修者全体に対し、学修内容についての意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| 指定図書          | 特になし  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に適時提示する。</li> </ul>  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に先立ち、共通科目（フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学等）及びがん看護学領域の科目の既修内容について復習し、実習に臨む。討議に先立ち、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・実習後に実習・討議内容についてのフィードバックをふまえて復習する。</li> </ul> |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目責任者：水島史乃（看護学研究科）1215 研究室 メールアドレス：fumino-m@seirei.ac.jp</li> <li>・オフィスアワーは水曜日の 11:45～13:00 ですが、それ以外の時間も都合が合えば対応が可能です。メールにて連絡してください。</li> </ul>     |               |           |             |                |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | がん看護学特別研究  |
| 科目責任者         | 大石 ふみ子   |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 選択 通年  |
| 科目の位置付        | 4. 看護学分野の選考領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。   |
| 科目概要          | 修士論文を作成するために必要ながん看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。  |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。<br>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。<br>3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。  |
| 授業計画          | <p>&lt;担当教員&gt;大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、水島史乃</p> <p>1 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>これまで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br/>&lt;評価方法&gt;討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>春semesterの学修を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>&lt;評価方法&gt;発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>2 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;<br/>論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の適切性 (30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員による授業：全ての回</p> |
| 学修方法          | ・プレゼンテーション、討議、個別指導により行う。   |
| 評価方法          | ・研究プロセスおよび成果物により、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | ・個別/合同指導時に、意見・助言や課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。   |

|             |  |        |    |      |         |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
| 指定図書        | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 参考書         | ・授業内で適時提示する。   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | ・既修の授業内容（看護研究方法及びがん看護学領域における特論・演習・実習等）を踏まえてプレゼンテーション・討議用の資料：計画書を作成する。  |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 科目責任者：大石ふみ子（看護学研究科）1219 研究室 メールアドレス：fumiko-o@seirei.ac.jp<br>毎回、次回の面談（討議）時間を設定する。<br>随時の相談については、メールで予約を取ってください |        |    |      |         |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | がん看護学課題研究  |
| 科目責任者         | 大石 ふみ子   |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 選択 通年   |
| 科目の位置付        | 4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。   |
| 科目概要          | がん看護学特論、がん看護援助特論等で学修した内容をふまえて、看護実践の中からがん患者・家族に関する課題をとりあげ、看護現象を通して実証的に研究を行う。  |
| 到達目標          | 1. 各学生が看護実践の中に関心ある問題を取りあげ、テーマを設定する。<br>2. 研究計画書を作成し、テーマに沿って倫理的配慮、データ収集を行う。<br>3. 課題について、文献的及び臨床的に実証する。   |
| 授業計画          | <p>&lt;担当教員&gt;大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、水島史乃</p> <p>1 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;看護学領域における特論、看護研究方法等で学修した内容を用いて、文献検討や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br/>&lt;評価方法&gt;・文献検討及び課題の焦点化 (30%)・研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画を検討会で発表し研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>&lt;評価方法&gt;・文献検討及び課題の焦点化 (30%)・研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;・倫理的配慮の適切性 (10%)・データ収集及び分析の適切性 (30%)・論文の完成度 (60%)</p> <p>2 年次秋semester：<br/>&lt;授業内容・テーマ等&gt;指導を受けながら、課題研究論文を作成し、完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;・倫理的配慮の適切性 (10%)・データ収集及び分析の適切性 (30%)・論文の完成度 (60%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向または多方向に行われる討議を伴う実務家教員による授業：全ての回</p> |
| 学修方法          | ・プレゼンテーション、討議、個別指導により行う。   |
| 評価方法          | ・研究プロセスおよび成果物により総合的に最終評価を行う。   |
| 課題に対するフィードバック | 個別/合同指導時に、意見・助言や課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |
| 指定図書          | なし   |

| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|---------|---|--------|----|------|---------|
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     | ・授業内で適時提示する。  |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | ・看護研究方法及びがん看護学領域における特論・演習・実習の学修内容をふまえてプレゼンテーション・討議用の資料：計画書を作成する。  |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 科目責任者：大石ふみ子（看護学研究科）1219 研究室 メールアドレス：fumiko-o@seirei.ac.jp<br>毎回、次回の面談（討議）時間を設定する。<br>随時の相談については、メールで相談してください。 |        |    |      |         |



|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p>             |               |           |             |                |
| 学修方法          | 「講義」「グループワーク」「討論」「発表」  |               |           |             |                |
| 評価方法          | プレゼンテーション 50%、レポート 50%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | レポートへのコメント   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | <p>テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしておいてください。<br/>         第1回のオリエンテーション時に説明をする予定です。</p>  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | <p>藤本栄子：1714 研究室 金曜日午後 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp<br/>         室加千佳：2604 研究室 水曜日Ⅲ時限 メールアドレス chika-mu@seirei.ac.jp</p> |               |           |             |                |



|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | 「講義」「グループワーク」「討論」「発表」  |               |           |             |                |
| 評価方法          | プレゼンテーション 50%、課題レポート 50%   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | レポートへのコメント   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしてください。<br>第1回のオリエンテーション時に説明をする予定です。                              |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 室加千佳：2604 研究室 メールアドレス chika-mu@seirei.ac.jp<br>藤本栄子：1714 研究室 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | ハイリスク周産期ケア特論  |
| 科目責任者         | 室加 千佳   |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 選択 春   |
| 科目の位置付        | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる   |
| 科目概要          | ハイリスク新生児と母親および家族の健康問題をアセスメントし、適切な支援を行うための基礎的能力を養うために、対象の健康問題を取り上げて、ケアニーズを明らかにし、看護援助を探究する。   |
| 到達目標          | 1. ハイリスク新生児と母親および家族の支援を行うための主要な概念について理解する。<br>2. 新生児行動評価の理論とその実際の評価方法を理解する。<br>3. ハイリスク新生児の母親の心理ならびに母子関係の特徴を理解し、関係性を育むための看護援助について探究する。<br>4. NICU における退院支援ならびに退院調整の実際と専門職の連携について理解する。<br>5. 世界における NICU 看護と日本における NICU 看護のつながりについて理解する。   |
| 授業計画          | <p style="text-align: center;">＜ 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 ＞</p> <p>＜担当教員名＞</p> <p>第 1 回：オリエンテーションとハイリスク周産期ケア特論に期待すること 室加千佳</p> <p>第 2 回：ハイリスク新生児の特徴 室加千佳</p> <p>第 3 回：新生児行動評価の概念と実際① 大城昌平</p> <p>第 4 回：新生児行動評価の概念と実際② 大城昌平</p> <p>第 5 回：医療的ケア児の現状と課題 室加千佳</p> <p>第 6 回：医療的ケア児の在宅移行支援 室加千佳</p> <p>第 7 回：高度実践看護師 (CNS) におけるハイリスク周産期ケアの実際① 井出由美</p> <p>第 8 回：高度実践看護師 (CNS) におけるハイリスク周産期ケアの実際② 井出由美</p> <p>第 9 回：NICU 入院児の母親・家族への心理と支援① 長濱輝代</p> <p>第 10 回：NICU 入院児の母親・家族への心理と支援② 長濱輝代</p> <p>第 11 回：日本における NICU 看護 (新生児看護学会等の活動) 小西美樹</p> <p>第 12 回：世界における NICU 看護 (COINN 等の活動) 小西美樹</p> <p>第 13 回：周産期に関する理論と概念 藤本栄子</p> <p>第 14 回：NICU における母乳育児支援 藤本栄子</p> <p>第 15 回：まとめ 室加千佳</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |
| 学修方法          | 講義」「グループワーク」「討論」「発表」  |
| 評価方法          | プレゼンテーション、ディスカッション 50%、課題レポート 50%   |
| 課題に対するフィードバック | レポートへのコメント  |

|             |  |               |           |             |                |
|-------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 指定図書        |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>  | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|             |  |               |           |             |                |
| 参考書         |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>  | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|             |  |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | <p>テーマに基づき、担当教員と共にディスカッションします。<br/>第1回のオリエンテーション時に説明をする予定です。</p>                                 |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | <p>室加千佳：2604 研究室 メールアドレス chika-mu@seirei.ac.jp<br/>藤本栄子：1714 研究室 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp</p> |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | ウイメンズヘルス看護学特論演習  |
| 科目責任者  | 室加 千佳  |
| 単位数他   | 2単位 (45時間) 選択 秋  |
| 科目の位置付 | 3. 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる   |
| 科目概要   | 女性の健康問題をアセスメントし、適切な支援を行うための基礎的能力を養うための支援内容および支援方法について学修する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウイメンズヘルス看護学において、関心のあるテーマと対象を選定する。</li> <li>2. 関心のあるテーマをもとに、系統的な文献検索を行い、研究課題の明確化を図る。</li> <li>3. 研究課題に対するこれまでの研究の動向を把握する。</li> <li>4. 研究計画書の概要を立案できる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>関心のあるテーマあるいは研究課題に関する文献検討をもとに、プレゼンテーション・討議を中心とした授業を進める。</p> <p>第 1 回 : オリエンテーション<br/>藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 2・3 回 : 量的研究方法について<br/>藤本栄子・室加千佳</p> <p>第 4・5 回 : 質的研究法について<br/>藤本栄子・室加千佳</p> <p>第 6～8 回 : 文献レビューの方法<br/>藤本栄子・室加千佳</p> <p>第 9～11 回 : 関心のあるテーマについてディスカッション<br/>藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 12～14 回 : データ収集方法について<br/>藤本栄子・室加千佳</p> <p>第 15～17 回 : データ分析方法について<br/>藤本栄子・室加千佳</p> <p>第 18～23 回 : 研究計画についてディスカッション<br/>藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-23 回<br/>     実務家教員や実務家による授業：第 1-23 回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 「プレゼンテーション」「討議」   |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習に対する取り組みの姿勢・態度 20%</li> <li>・目標の達成状況 30%</li> <li>・提出した課題レポート 50%</li> </ul> 以上を総合して評価を行う。    |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | レポートへのコメント  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしてください。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 藤本栄子：1714 研究室 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp<br>黒野智子：1709 研究室 メールアドレス tomoko-k@seirei.ac.jp<br>室加千佳：2604 研究室 メールアドレス chika-mu@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | ウィメンズヘルス看護学特論実習  |
| 科目責任者  | 室加 千佳  |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 選択 秋  |
| 科目の位置付 | 6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる   |
| 科目概要   | ウィメンズヘルス看護学特論・ウィメンズヘルス看護学演習など今まで学修した内容を統合して、周産期の女性ならびにその家族の健康課題を解決するための看護ケアを実践できる能力を養う。  |
| 到達目標   | 1. テーマを持ち実習計画を立て、周産期の女性ならびにその家族の健康課題を解決するための看護過程を展開する。<br>2. 特論・演習で学修した理論や概念を用いて、実施した看護の展開について、評価する。<br>3. 実施した看護の展開を通して、研究課題の明確化および研究方法について検討する。  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：実習オリエンテーション 藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 2 ～ 4 回：実習テーマの明確化 藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 5 ～ 7 回：実習計画の作成、実習計画の発表 藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 8 ～ 9 回：実習場所の調整および打ち合わせ 藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 10～26 回：実習計画に基づいた実習の展開 藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>第 27～28 回：実施した看護の実践報告および分析・評価 藤本栄子・黒野智子・室加千佳<br/>(実習成果のプレゼンテーションを含む)</p> <p>第 29 ～30 回：研究課題の明確化および研究方法について検討 藤本栄子・黒野智子・室加千佳</p> <p>*学生のテーマをもとに、実習計画を立て、実習場所を選択し実施する。<br/>*実習後、実施した看護の展開を振り返り、研究課題の明確化を図り、具体的な研究方法について吟味する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-30 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-30 回<br/>実地での体験活動を伴う授業：第 10-26 回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |   |               |           |             |                |
| 学修方法          | 「実習」「プレゼンテーション」「討議」   |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に対する取り組みの姿勢・態度 20%</li> <li>・目標の達成状況 30%</li> <li>・提出した課題レポート 50%</li> </ul> 以上を総合して評価を行う。    |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 提出課題に対するコメント  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 事前に課題提示する 事後は討論の内容をレポートに加筆する  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 藤本栄子：1714 研究室 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp<br>黒野智子：1709 研究室 メールアドレス tomoko-k@seirei.ac.jp<br>室加千佳：2604 研究室 メールアドレス chika-mu@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | ウィメンズヘルス看護学特別研究  |
| 科目責任者  | 藤本 栄子  |
| 単位数他   | 8 単位 (240 時間) 選択 通年  |
| 科目の位置付 | 4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる<br>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる<br>7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる   |
| 科目概要   | 自己の研究課題に関わるウィメンズヘルス看護学分野における最新の知見と研究方法の理解を深め、研究計画書を作成し、それに沿ってデータ収集と分析を実施し、結果を導くまでの基本的な研究プロセスを修士論文の作成を通して経験し修得する。   |
| 到達目標   | 1. 研究計画書として、背景、意義、目的、研究方法、分析方法、倫理的配慮について明確に記述できる。<br>2. 研究計画に沿って、データ収集を行うことができる。<br>3. 研究計画に沿って、収集したデータを分析することができる。<br>4. 結果の導き方ならびに考察は、論理的に矛盾なく行うことができる。<br>5. 適切な倫理的配慮のもと、研究を遂行し、論文を作成できる。   |
| 授業計画   | <p>1 年次 春semester<br/>         &lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>         ・ウィメンズヘルス看護学領域における特論、看護研究方法・看護理論等で学修した内容を用いて、文献検討を行い研究課題を明確にする。<br/>         &lt;評価方法&gt;<br/>         文献検討 (60%)、取り組み態度 (20%)、課題の明確化 (20%)</p> <p>1 年次 秋semester<br/>         &lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>         ・研究方法、分析方法を検討し、研究における倫理的問題を明確にする。<br/>         &lt;評価方法&gt;<br/>         研究方法 (20%)、分析方法 (20%)、倫理的課題の明確化 (20%)、取り組み態度 (40%)</p> <p>2 年次 春semester<br/>         &lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>         ・研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究調査実施上の倫理的配慮について、申請し、承認を受ける。・研究計画書に基づいて、データ収集を行う。<br/>         &lt;評価方法&gt;<br/>         研究計画書 (40%)、倫理申請書 (30%)、データ収集の取り組み態度 (30%)</p> <p>2 年次 秋semester<br/>         &lt;授業内容・テーマ等&gt;<br/>         ・データを分析し、文献および討論をもとに考察する。<br/>         ・修士論文を作成する。<br/>         ・修士論文を提出し、論文審査を受ける。<br/>         適宜、講義、ゼミ形式で授業を行う。<br/>         &lt;評価方法&gt;<br/>         データ分析 (40%)、考察 (20%)、論文の完成度 (40%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>         実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | ゼミ形式  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 上記、評価方式を用いて、総合的に最終評価を行う。  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 提出課題に対するコメント  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 研究のプロセスに添って、各自が主体的に行う。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 藤本栄子：1714 研究室 メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp<br>熊澤武志：1716 研究室 メールアドレス takeshi-ku@seirei.ac.jp<br>室加千佳：2604 研究室 メールアドレス chika-mu@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

| 科目名  | 助産学特論  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
|--|--|-------------|---------|------------------------|-------------|------------------------|-------------|-------------------|-------------|---------------------------------------|--|--|--|----------------------------------|--|----------------------------|-------|------------------------------|-------------|---------------------------|-------------|-----------------------------|-------------|------------------------------|-------|---------------------------------------|-------------|----------------------|-------------|-------------------------------------|-------------|--------------------------------------|-------------|
| 科目責任者                                      | 久保田 君枝   |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 単位数他                                       | 2単位 (30 時間) 選択 春   |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 科目の位置付                                     | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、助産学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 科目概要                                       | 助産を取り巻く現況と課題を理解し、産む性をもつ女性に対する理解を深め、今後の助産のあり方を探求・検討する。  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 到達目標                                       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産を取り巻く主要概念を理解できる。</li> <li>2. 産む性・産まない性・LGBTQ に対する理解を深めることができる。</li> <li>3. リプロダクティブヘルス・ライツと SDGs について課題と対策について説明できる。</li> <li>3. 助産における歴史の変遷を通して、今日における助産および産科医療の現状と課題を明らかにすることができる。</li> <li>4. 今後の助産のあり方について自らの考えを明らかにすることができる。</li> </ol>   |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 授業計画                                       | <table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：助産における主要概念<br/>志子</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：助産師の職務・業務範囲と法的根拠</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：性の発達と LGBTQ</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：ライフサイクルの各期の特徴と課題<br/>久保田君枝 三輪与志子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5 回：リプロダクティブヘルス・ライツと SDGs<br/>久保田君枝 三輪与志子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6 回：助産を支える理論（愛着、親子の絆）<br/>室加 千佳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7 回：助産を支える理論（親子関係、親役割獲得）</td> <td>室加 千佳</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：助産を支える理論（親子関係の逸脱）<br/>子</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：母子保健の現状と課題（日本）<br/>枝</td> <td>三輪与志子 久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：母子保健の現状と課題（諸外国）<br/>枝</td> <td>三輪与志子 久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：助産を取り巻く保健・医療・福祉の現状と課題</td> <td>室加 千佳</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：助産師教育（キャリア・ラダー、アドバンス助産師）<br/>志子</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：助産師の職業倫理と生命倫理</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：今後の助産のあり方、助産の将来展望（日本）<br/>与志子</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：今後の助産のあり方、助産の将来展望（諸外国）<br/>与志子</td> <td>久保田君枝 三輪与志子</td> </tr> </tbody> </table> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> | <授業内容・テーマ等> | <担当教員名> | 第 1 回：助産における主要概念<br>志子 | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 2 回：助産師の職務・業務範囲と法的根拠 | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 3 回：性の発達と LGBTQ | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 4 回：ライフサイクルの各期の特徴と課題<br>久保田君枝 三輪与志子 |  | 第 5 回：リプロダクティブヘルス・ライツと SDGs<br>久保田君枝 三輪与志子 |  | 第 6 回：助産を支える理論（愛着、親子の絆）<br>室加 千佳 |  | 第 7 回：助産を支える理論（親子関係、親役割獲得） | 室加 千佳 | 第 8 回：助産を支える理論（親子関係の逸脱）<br>子 | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 9 回：母子保健の現状と課題（日本）<br>枝 | 三輪与志子 久保田君枝 | 第 10 回：母子保健の現状と課題（諸外国）<br>枝 | 三輪与志子 久保田君枝 | 第 11 回：助産を取り巻く保健・医療・福祉の現状と課題 | 室加 千佳 | 第 12 回：助産師教育（キャリア・ラダー、アドバンス助産師）<br>志子 | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 13 回：助産師の職業倫理と生命倫理 | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 14 回：今後の助産のあり方、助産の将来展望（日本）<br>与志子 | 久保田君枝 三輪与志子 | 第 15 回：今後の助産のあり方、助産の将来展望（諸外国）<br>与志子 | 久保田君枝 三輪与志子 |
| <授業内容・テーマ等>                                | <担当教員名>  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 1 回：助産における主要概念<br>志子                     | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 2 回：助産師の職務・業務範囲と法的根拠                     | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 3 回：性の発達と LGBTQ                          | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 4 回：ライフサイクルの各期の特徴と課題<br>久保田君枝 三輪与志子      |  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 5 回：リプロダクティブヘルス・ライツと SDGs<br>久保田君枝 三輪与志子 |  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 6 回：助産を支える理論（愛着、親子の絆）<br>室加 千佳           |  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 7 回：助産を支える理論（親子関係、親役割獲得）                 | 室加 千佳  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 8 回：助産を支える理論（親子関係の逸脱）<br>子               | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 9 回：母子保健の現状と課題（日本）<br>枝                  | 三輪与志子 久保田君枝  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 10 回：母子保健の現状と課題（諸外国）<br>枝                | 三輪与志子 久保田君枝  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 11 回：助産を取り巻く保健・医療・福祉の現状と課題               | 室加 千佳  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 12 回：助産師教育（キャリア・ラダー、アドバンス助産師）<br>志子      | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 13 回：助産師の職業倫理と生命倫理                       | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 14 回：今後の助産のあり方、助産の将来展望（日本）<br>与志子        | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |
| 第 15 回：今後の助産のあり方、助産の将来展望（諸外国）<br>与志子       | 久保田君枝 三輪与志子  |             |         |                        |             |                        |             |                   |             |                                       |  |  |  |                                  |  |                            |       |                              |             |                           |             |                             |             |                              |       |                                       |             |                      |             |                                     |             |                                      |             |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | 「講義」「グループワーク」「討論」「発表」を行います                             |               |           |             |                |
| 評価方法          | プレゼンテーション 50%、レポート 50%                                 |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題に対する助言や学生主体に取り組むことができる様に支援をします。                      |               |           |             |                |
| 指定図書          | ありません  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 随時提示します。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業内容に合わせて、事前学習を行い、「グループワーク」「討論」「発表」ができる様に事前・事後学修してください |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 久保田君枝：1715 研究室<br>金曜日午後                                |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 助産援助特論   |
| 科目責任者  | 久保田 君枝   |
| 単位数他   | 2単位 (30 時間) 選択 秋   |
| 科目の位置付 | 2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる  |
| 科目概要   | 周産期における健康問題をもつ対象の援助に必要な概念・理論・看護モデル、ならびに看護実践について学修する。   |
| 到達目標   | 1. 女性のライフサイクル全体を視野に入れた、特に周産期における女性と新生児ならびにその家族への支援の基盤となる概念・理論を学修する。<br>2. 周産期における助産師の裁量と助産診断を学修する。<br>3. 現代社会において、女性が子どもを産むこと、育てる権利が保障されるための周産期看護に関する支援方法について学修する。   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 関心をもつ研究テーマの紹介と討議 久保田君枝</p> <p>第 2 回： 周産期における看護援助となるセルフケア理論 中川 有加</p> <p>第 3 回： 周産期における看護援助となるセルフケアの実際 中川 有加</p> <p>第 4 回： 周産期における看護援助の基盤となる自己効力感の概念 稲垣 恵子</p> <p>第 5 回： 周産期における看護援助の基盤となる自己効力感と自己自認 稲垣 恵子</p> <p>第 6 回： 望まない妊娠の現状と中絶・出産への支援 室加 千佳</p> <p>第 7 回： 日本における特別養子縁組、里親制度の現状 久保田君枝</p> <p>第 8 回： 諸外国における養子縁組、里親制度の現状 久保田君枝</p> <p>第 9 回： 児童虐待の現状と政策（日本と諸外国） 久保田君枝</p> <p>第 10 回： 児童虐待予防と親子の愛着形成 室加 千佳</p> <p>第 11 回： プレコンセプションケア 三輪与志子</p> <p>第 12 回： 妊娠期から産褥期の栄養と運動の現状 三輪与志子</p> <p>第 13 回： 周産期における支援システム（母子保健と行政） 中川 有加</p> <p>第 14 回： 周産期における支援システム（母子地域包括ケア） 中川 有加</p> <p>第 15 回： ま と め と 討 議 久保田君枝</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |
| 学修方法   | 「講義」「グループワーク」「討論」「発表」を行います   |
| 評価方法   | プレゼンテーション 50%、レポート 50%   |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック | 課題に対する助言や学生主体に取り組むことができる様に支援をします                       |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 随時提示します。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業内容に合わせて、事前学習を行い、「グループワーク」「討論」「発表」ができる様に事前・事後学修してください |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 久保田君枝：1715 研究室<br>金曜日午後                                |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 助産学特論演習  |
| 科目責任者  | 久保田 君枝   |
| 単位数他   | 2単位 (45時間) 選択 秋  |
| 科目の位置付 | 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる  |
| 科目概要   | 国内外における助産学領域における現状と課題を明確にしていくために、良い文献を精読できる能力を養うとともに、自己の研究課題を明確にし、研究計画の概要を提示することができる。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産学領域における研究の動向を理解できる。</li> <li>2. 関心のあるテーマにもとづく研究の動向を把握した上で、論理的文献考察力を深めることができる。</li> <li>3. 研究課題を焦点化することができる。</li> <li>4. 研究計画書の概要を立案できる。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>関心のあるテーマあるいは研究課題に関する文献検討をもとに、プレゼンテーション・討議を中心とした授業を進める。</p> <p>第1回 : 研究とは 助産学研究の探求 久保田君枝 三輪与志子<br/> 第2-3回 : 量的研究法について 久保田君枝 三輪与志子<br/> 第4-5回 : 質的研究法について 久保田君枝 三輪与志子<br/> 第6-8回 : 文献レビューの方法 久保田君枝 三輪与志子<br/> 室加千佳<br/> 第9-11回 : 関心のあるテーマについてディスカッション 中川 有加 久保田君枝 三輪与志子<br/> 第12-14回 : データ収集方法について 久保田君枝 三輪与志子<br/> 室加千佳<br/> 第15-17回 : データ分析方法について 久保田君枝 三輪与志子<br/> 第18-23回 : 研究計画についてディスカッション 久保田君枝 三輪与志子<br/> 室加千佳</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-23回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-23回</p> |
| 学修方法   | 「講義」「グループワーク」「討論」「発表」  |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習に対する取り組みの姿勢・態度 20%</li> <li>・目標の達成状況 30%</li> <li>・提出した課題レポート 50%</li> </ul> |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題に対する助言や学生主体に取り組むことができる様に支援をします   |               |           |             |                |
| 指定図書          | ありません。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 随時提示します。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業内容に合わせて、事前学習を行い、「グループワーク」「討論」「発表」ができる様に事前・事後学修してください。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 久保田君枝：1715 研究室 金曜日午後   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 助産学特論実習  |
| 科目責任者  | 久保田 君枝   |
| 単位数他   | 2単位 (60 時間) 選択 秋   |
| 科目の位置付 | 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる  |
| 科目概要   | 助産学特論・助産学演習など今まで学修した内容を統合して、周産期の女性ならびにその家族の健康課題を解決するための助産ケアを実践できる能力を養う。  |
| 到達目標   | 1. 実習目的に合わせて、PDCA に沿って立案し、実施、評価する。<br>2. 特論・演習で学修した理論や概念を用いて、実施した看護の展開について、評価する。<br>3. 実施した看護の展開を通して、研究課題の明確化および研究方法について検討する。  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回 : 実 習 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン<br/>久保田君枝 三輪与志子</p> <p>第 2 ～ 4 回 : 実習テーマの明確化 久保田君枝 三輪与志子</p> <p>第 5 ～ 7 回 : 実習計画の作成、実習計画の発表 久保田君枝 三輪与志子</p> <p>第 8 ～ 9 回 : 実習場所の調整および打ち合わせ 久保田君枝 三輪与志子</p> <p>第 10 ～ 26 回 : 実習計画に基づいた実習の展開 久保田君枝 三輪与志子</p> <p>第 27 ～ 28 回 : 実施した看護の実践報告および分析・評価 (実習成果のプレゼンテーションを含む) 久保田君枝 三輪与志子</p> <p>第 29 ～ 30 回 : 研究課題の明確化および研究方法について検討 久保田君枝 三輪与志子</p> <p>*学生のテーマをもとに、実習計画を立て、実習場所を選択し実施する。<br/>*実習後、実施した看護の展開を振り返り、研究課題の明確化を図り、具体的な研究方法について検討する。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：第 10－26 回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          | 実習科目です   |               |           |             |                |
| 評価方法          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に対する取り組みの姿勢・態度 20%</li> <li>・目標の達成状況 30%</li> <li>・提出した課題レポート 50%</li> </ul> |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | <p>事前学習：実習計画の作成をします。<br/>         課題：実習のまとめをプレゼンテーションします。</p>  |               |           |             |                |
| 指定図書          | ありません  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | 必要に応じて提示します。   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業内容に合わせて、事前学習を行い、「グループワーク」「討論」「発表」ができる様に事前・事後学修してください。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 久保田君枝：1715 研究室 金曜午後  |               |           |             |                |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 助産学特別研究  |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 久保田 君枝   |        |    |      |         |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 選択 通年  |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | 4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる<br>5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる<br>7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる   |        |    |      |         |
| 科目概要          | 修士論文を作成するために必要な助産学看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。   |        |    |      |         |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。<br>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う。<br>3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。  |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>1 年次春semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の文献検討や討論を行い、研究課題を明確にする。<br/>&lt;評価方法&gt;討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br/>&lt;評価方法&gt;発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br/>&lt;評価方法&gt;研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)</p> <p>2 年次秋semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br/>&lt;評価方法&gt;論文の完成度(70%) 第三者の評価による修正の適切性(30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | ディスカッション、発表、個別指導、講義、   |        |    |      |         |
| 評価方法          | 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)<br>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)<br>論文の完成度(70%) 第三者の評価による修正の適切性(30%)  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 事前学習：実習計画の作成、課題：実習のまとめをプレゼンテーションします。   |        |    |      |         |
| 指定図書          | ありません。   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |

|         |  |        |    |      |         |
|---------|--|--------|----|------|---------|
|         |  |        |    |      |         |
| 参考書     | 随時提示します。   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 授業内容に合わせて、事前学習を行い、「グループワーク」「討論」「発表」ができる様に事前・事後学修してください |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 久保田君枝：1715 研究室 金曜日の午後                                  |        |    |      |         |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 小児看護学特論 I  |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 市江 和子  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 春   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 子どもと親・家族をとりまく社会状況をふまえ、対象となる子どもの成長・発達を理解するための主要な理論から、小児各期の発達や状況に応じた看護について考察する。さらに、研究動向から最近の知見を得るとともに、これらの理論を看護に適用する可能性、課題について探求する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を概観し、主要な理論を理解する。</li> <li>2. 発達段階や状況に応じた看護を理解する。</li> <li>3. 必要な発達評価を理解する。</li> <li>4. 既存の研究などを通して、子どもへの援助について幅広く学修する。</li> </ol>   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回 子どもの発達と発達に影響を及ぼす社会・文化的動向 市江和子</p> <p>第2回 胎生期/新生児期と看護 市江和子</p> <p>第3回 乳児期と看護 市江和子</p> <p>第4回 幼児期/学童期と看護 市江和子</p> <p>第5回 思春期/青年期と看護 市江和子</p> <p>第6回 キャリーオーバーと生育看護 市江和子</p> <p>第7回 人間発達理論の研究史 市江和子</p> <p>第8回 発達理論(1) 認知発達理論(ピアジェ) 市江和子</p> <p>第9回 発達理論(2) 愛着理論(ボールビー) 市江和子</p> <p>第10回 発達理論(3) マーラーの乳幼児の発達理論 市江和子</p> <p>第11回 発達理論(4) 心理社会的発達理論(エリクソン) 市江和子</p> <p>第12回 発達理論の総括 市江和子</p> <p>第13回 子どもの発達についての研究動向 市江和子</p> <p>第14回 小児看護学における発達理論の展開と研究課題 市江和子</p> <p>第15回 まとめと討議 市江和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>     実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義、セミナー形式で授業を進める。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | 授業の取り組み 50%、課題レポートまたは発表 50%により総合的に判断する。  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックをする。   |        |    |      |         |
| 指定図書          | 舟島なをみ、望月美智代：看護のための人間発達学 第5版、医学書院、2017.   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |

|             |  |               |           |             |                |
|-------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 参考書         | なし   |               |           |             |                |
| <u>書籍名</u>  | <u>著者</u>  | <u>発売元出版社</u> | <u>価格</u> | <u>ISBN</u> | <u>媒体種別／備考</u> |
|             |  |               |           |             |                |
| 事前・<br>事後学修 | 授業時に課題として提示する内容を、事前・事後学修する。課題の発表準備をする。                   |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp |               |           |             |                |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 小児看護学特論Ⅱ   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 市江 和子  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 春   |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 子どもと親子関係・家族をめぐる主要な理論、家族発達に関する諸理論について、その主要概念を学ぶ。また、子どもや親・家族の状況を理解しケアを実践するために、セルフケア理論、ストレスコーピングを中心にその諸理論を理解する。さらに、研究動向から最近の知見を得るとともに、子どもと親・家族への看護を探求する。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと親・家族の関係を学ぶための主要な理論を理解する。</li> <li>2. 子どもと親子関係・家族と家族発達に関する諸理論を理解し、活用方法を検討する。</li> <li>3. 子どものストレス、痛み、遊びの支援を理解する。</li> <li>4. 子どもの自己概念の評価とケアを理解する。</li> <li>5. 死を迎える子どもへの看護を学び、親・家族への支援を理解する。</li> <li>6. 既存の理論・研究などを通して、子どもと親・家族への援助について考察する。</li> </ol>  |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回 子どもと親子関係・家族をめぐる理論 宮谷恵<br/> 第2回 家族発達理論(1)：各発達段階における家族の特徴 宮谷恵<br/> 第3回 家族発達理論(2)：家族発達理論の視点を活用した家族発達のアセスメント 宮谷恵<br/> 第4回 ストレスコーピングモデル 宮谷恵<br/> 第5回 子どもと親・家族のコーピング 宮谷恵<br/> 第6回 ソーシャルサポートとその評価 宮谷恵<br/> 第7回 家族介入モデルと家族看護の展開 宮谷恵<br/> 第8回 小児看護領域におけるソーシャルサポート 市江和子<br/> 第9回 子どものセルフケア：セルフケア理論 市江和子<br/> 第10回 子どものストレスとケア 市江和子<br/> 第11回 子どもの痛みとケア 市江和子<br/> 第12回 子どもにとっての遊び 市江和子<br/> 第13回 子どもの自己概念と評価 市江和子<br/> 第14回 子どもの死・悲嘆と親・家族への看護とグリーフケア 市江和子<br/> 第15回 子どもと親・家族をめぐる理論の応用と課題 市江和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義、セミナー形式で授業を進める。  |        |    |      |         |
| 評価方法          | 授業の取り組み50%、課題レポートまたは発表50%により総合的に判断する。  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。  |        |    |      |         |
| 指定図書          | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |

|         |   |        |    |      |         |
|---------|---|--------|----|------|---------|
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     | なし  |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する。   |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 看護学研究科 宮谷恵：月曜日午後(1713 研究室) (e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp)<br>看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp |        |    |      |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 小児病態・治療論   |
| 科目責任者  | 宮谷 恵   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 小児疾患の診断・治療の概要をふまえ臨床判断力を深め、さまざまな状況における子どもと親・家族に必要な病態や生理的变化とアセスメント、及び治療・管理、予防方法についての知識を習得する。また、小児期における一般的な疾患を理解し、薬物療法と服薬管理、症状マネジメントを理解する。  |
| 到達目標   | 1. 主な小児疾患の病態生理と診断・検査・治療の実際を理解し、専門的知識を深める。<br>2. 特殊な状況下にある子どもと親・家族への診断・検査・治療の実際を理解し、専門的知識を深める。<br>3. さまざまな状況にある子どもと親・家族の症状マネジメントについて理解する。   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(1)小児における免疫力の獲得と感染症の病態・治療 白井憲司(医師)</p> <p>第 2 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(2)小児呼吸器疾患の病態・治療 白井憲司(医師)</p> <p>第 3 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(3)小児消化器疾患の病態・治療 白井憲司(医師)</p> <p>第 4 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(4)小児循環器疾患の診断・治療 白井憲司(医師)</p> <p>第 5 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(5)小児悪性腫瘍：神経芽腫、網膜芽腫等の病態・治療 白井憲司(医師)</p> <p>第 6 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(6)小児腎疾患の病態・治療 岡田真人(医師)</p> <p>第 7 回 小児疾患の病態生理と診断・検査・治療(7)小児神経疾患の病態・治療 岡田真人(医師)</p> <p>第 8 回 特殊な状況下にある子どもと親・家族への診断・検査・治療(1)胎児期の疾患と出生前診断 西尾公男(医師)</p> <p>第 9 回 特殊な状況下にある子どもと親・家族への診断・検査・治療(2)遺伝性疾患 西尾公男(医師)</p> <p>第 10 回 小児看護分野における薬物療法概論 寺田操(薬剤師・ゲストスピーカー)・市江和子</p> <p>第 11 回 子どもと親・家族への薬物療法と服薬管理 滝浪由季乃(薬剤師・ゲストスピーカー)・市江和子</p> <p>第 12 回 急性の状況における子どもと親・家族における症状マネジメント 一柳雄輔(小児看護専門看護師)</p> <p>第 13 回 慢性の状況における子どもと親・家族における症状マネジメント 宮谷恵</p> <p>第 14 回 栄養療法を受ける子どもと親・家族における症状マネジメント 宮谷恵</p> <p>第 15 回 診断・検査・治療を受ける子どもと親・家族への専門的ケア 一柳雄輔(小児看護専門看護師)</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第10-15回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義、セミナー形式で授業を進める。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業の取り組み50%、課題レポート50%により総合的に判断する。  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業時に課題として提示する内容を、事前・事後学修する。   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp  |               |           |             |                |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 小児看護援助特論 I   |
| 科目責任者         | 市江 和子  |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付        | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要          | 子どもと親・家族にとっての保健医療福祉及び教育などの状況をふまえ、関連領域との連携を学ぶ。また、小児医療・保健・福祉・教育の視点をふまえ、上級実践看護のあり方を学ぶ。在宅や施設で生活する子どもと親・家族への状況をふまえ、関連領域との連携における小児看護の専門職として関わる能力を養う。そして、小児医療・小児看護の現状を理解し、対象となる子どもと親・家族への支援を探求する。   |
| 到達目標          | 1. 子どもと親・家族に関連した保健医療福祉及び教育などの状況を理解する。<br>2. 小児医療の現状をとらえる。<br>3. 子どもの虐待の現状と虐待を防止する支援策を理解する。<br>4. 施設で生活する小児と親・家族への支援を理解する。<br>5. 地域、施設等における小児の心身の健康及び安全への対策を理解する。   |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 小児保健(1) 母子関係における心理的援助 市江和子<br/> 第2回 小児保健(2) プライマリーケアにおける子どもと親・家族の支援 市江和子<br/> 第3回 子どもと親・家族に関連した保健医療制度(1) 市江和子<br/> 保健衛生と母子保健サービス<br/> 第4回 子どもと親・家族に関連した保健医療制度(2) 社会保険 市江和子<br/> 第5回 子どもと親・家族に関連した教育・福祉の制度(1) 市江和子<br/> 教育に関連する制度について<br/> 第6回 子どもと親・家族に関連した教育・福祉の制度(2) 市江和子<br/> 社会福祉に関連する制度について<br/> 第7回 小児医療の現状(1) 予防接種に関連した感染症と小児保健・事故防止、虐待 遠藤雄策(医師)<br/> 第8回 小児医療の現状(2) 小児がん、脳性麻痺、重症心身障害児 遠藤雄策(医師)<br/> 第9回 児童虐待(1) 児童虐待の現状と法制度 村瀬修<br/> 第10回 児童虐待(2) 児童虐待防止の社会的課題 村瀬修<br/> 第11回 児童福祉施設における保健対策(1) 児童養護施設におけるケア 泉谷朋子<br/> 第12回 児童福祉施設における保健対策(2) 児童心理治療施設における治療 内山 敏<br/> 第13回 子どもと親・家族にとって最適な医療環境の検討 市江和子<br/> 第14回 生涯にわたる子どもの健康づくりの関連法規と政策 市江和子<br/> 第15回 地域社会における子どもと親・家族への支援施策と関連領域との連携 市江和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-6回、第13-15回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |
| 学修方法          | 講義、セミナー形式で授業を進める。  |
| 評価方法          | 授業の取り組み80%、課題レポートまたは発表20%により総合的に判断する。  |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。  |

|            |  |               |           |             |                |
|------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 指定図書       | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b> | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|            |  |               |           |             |                |
| 参考書        | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b> | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|            |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修    | 授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する。        |               |           |             |                |
| オフィスアワー    | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp |               |           |             |                |

|        |   |  |
|--------|---|--|
| 科目名    | 小児看護援助特論Ⅱ   |  |
| 科目責任者  | 市江 和子   |  |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋  |  |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。   |  |
| 科目概要   | 子どもと親・家族への看護を理解するため、小児看護における倫理的問題について学ぶ。そして、現代の子どもと親・家族がおかれている状況を理解し、倫理的観点からの分析を行う。さらに、対象となる子どもと親・家族への小児看護の役割と機能を学修し、小児看護の専門性をふまえた支援を探究する。  |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと親・家族へのインフォームドコンセント、子どもへのアセントを理解する。</li> <li>2. 子どもと親・家族への入院による影響を理解する。</li> <li>3. 健康障害をかかえる子どものきょうだいへの対応から具体的援助を検討する。</li> <li>4. 小児看護における倫理的問題と判断を理解し、倫理的判断能力を養い、子どもと親・家族のおかれている状況の倫理的課題及びその調整方法を探究する。</li> <li>5. 小児看護における実践・相談・教育・調整に関わる内容を学習し、専門看護師として実践で活用できる方向性を検討する。</li> <li>6. 子どもと親・家族をめぐる医療、総合的</li> </ol>  |  |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 健康を障害された子どもと親・家族におけるインフォームドコンセント<br/>子</p> <p>第2回 インフォームドコンセントとアセントの実際<br/>子</p> <p>第3回 子どもと親・家族に関連した倫理(1)人工妊娠中絶、生殖医療<br/>子</p> <p>第4回 子どもと親・家族に関連した倫理(2)病気の告知<br/>子</p> <p>第5回 子どもと親・家族における健康障害と入院による影響<br/>子</p> <p>第6回 健康障害をかかえる子どものきょうだいへの対応<br/>子</p> <p>第7回 小児看護における専門看護師の役割(1)相談・教育・高度実践・研究機能<br/>喜(小児看護専門看護師)</p> <p>第8回 小児看護における専門看護師の役割(2)調整・倫理機能<br/>喜(小児看護専門看護師)</p> <p>第9回 小児看護における専門看護師の実践(1)活動の実際<br/>喜(小児看護専門看護師)</p> <p>第10回 小児看護における専門看護師の実践(2)活動の課題<br/>喜(小児看護専門看護師)</p> <p>第11回 小児看護の現状と小児看護専門看護師の課題<br/>希(小児看護専門看護師)</p> <p>第12回 小児看護における倫理的判断に基づいた援助<br/>希(小児看護専門看護師)</p> <p>第13回 医療事故と医療安全<br/>美</p> <p>第14回 看護情報システムの管理・運営と病院におけるチーム医療<br/>美</p> <p>第15回 小児看護の専門性についてのまとめと討議<br/>子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>堀田法子</p> <p>堀田法子</p> <p>堀田法子</p> <p>堀田法子</p> <p>堀田法子</p> <p>堀田法子</p> <p>高真喜</p> <p>高真喜</p> <p>高真喜</p> <p>高真喜</p> <p>真木希</p> <p>真木希</p> <p>山田弘美</p> <p>山田弘美</p> <p>市江和子</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br>実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回 |               |           |             |                |
| 学修方法          | 講義、セミナー形式で授業を進める。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 授業の取り組み 60%、課題レポートあるいは発表 40%により総合的に判断する。                 |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。          |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 授業時に課題として提示する内容を、事前・事後学修する。課題の発表準備をする。                   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp |               |           |             |                |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 小児看護援助特論Ⅲ  |
| 科目責任者         | 市江 和子  |
| 単位数他          | 2 単位 (30 時間) 修士論文コース 選択・高度実践看護コース 必修 秋   |
| 科目の位置付        | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要          | さまざまな状況、健康障害をもつ子どもと親・家族の看護、分析・評価をふまえ、複雑な問題をもちながらも子どもが子どもらしく生活できるような看護を理解する。  |
| 到達目標          | 1. 複雑な問題をもつ子どもと親・家族の日常生活状況と、どのような問題が生じているかを理解し、分析・評価に応じた看護を学ぶ。<br>2. 子どもと親・家族への看護ケアの現状分析を行い、小児看護専門看護師としての援助方法と実践を考察する。   |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回 入院における子どもと親・家族への看護、分析・評価 市江和子</p> <p>第2回 外来における子どもと親・家族への看護、分析・評価 増井洋子 (小児看護専門看護師: ゲストスピーカー)・宮谷恵</p> <p>第3回 健康障害をもつ子どもと親・家族への看護、分析・評価(1) 一柳雄輔 (小児看護専門看護師)<br/>急性の状況にある子どもと親・家族</p> <p>第4回 健康障害をもつ子どもと親・家族への看護、分析・評価(2) 一柳雄輔 (小児看護専門看護師)<br/>周手術期の子どもと親・家族</p> <p>第5回 健康障害をもつ子どもと親・家族への看護、分析・評価(3) 市江和子<br/>侵襲的処置を受ける子どもと親・家族</p> <p>第6回 健康障害をもつ子どもと親・家族への看護、分析・評価(4) 市江和子<br/>慢性の状況にある子どもと親・家族</p> <p>第7回 健康障害をもつ子どもと親・家族への看護、分析・評価(5) 宮谷恵<br/>長期療養における子どもと親・家族</p> <p>第8回 神経症の子どもと親・家族への看護、分析・評価 宮谷恵</p> <p>第9回 発達障害の子どもと親・家族への看護、分析・評価 宮谷恵</p> <p>第10回 虐待をうけている可能性のある子どもと親・家族への看護ケア 市江和子</p> <p>第11回 小児感染症の特徴と看護管理 市江和子</p> <p>第12回 感染症の子どもと親・家族への看護ケア 市江和子</p> <p>第13回 小児看護におけるプレパレーション 市江和子</p> <p>第14回 小児看護におけるプレパレーションの実際 市江和子</p> <p>第15回 小児看護における子どもと家族へのケアの展開と研究課題 市江和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p> |
| 学修方法          | 講義、セミナー形式で授業を進める。  |
| 評価方法          | 授業の取り組み60%、課題レポート40%により総合的に判断する。   |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。  |

|             |  |        |    |      |         |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
| 指定図書        | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 参考書         | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | 授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、資料を作成する。  |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp |        |    |      |         |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | 小児看護学特論演習  |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 市江 和子  |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2単位 (45時間) 選択 秋  |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |        |    |      |         |
| 科目概要          | 小児看護学領域において問題となる看護現象を理解するために、子どもと親・家族の健康状態・生活能力の査定方法を学び、アセスメント能力を養う。   |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護領域における研究動向を判断できる。</li> <li>2. 関心のあるテーマをもとに、研究動向を把握したうえで、論理的文献考察力を深めることができる。</li> <li>3. 研究計画書の概要を立案できる。</li> </ol>   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回：オリエンテーション 市江和子・宮谷恵<br/> 第2回：課題の明確化 市江和子<br/> 第3回：課題学習 市江和子<br/> 第4回：研究方法の探求 市江和子<br/> 第5回：小児看護における倫理的課題 市江和子<br/> 第6回：小児看護における倫理の事例 市江和子<br/> 第7回：子どもと親・家族に対する外来看護 宮谷恵<br/> 第8回：障がいをもち在宅で生活する子どもと親・家族の看護 宮谷恵<br/> 第9-12回：文献紹介とクリティーク 市江和子<br/> 第13-17回：フィールドワーク 市江和子・宮谷恵<br/> 第18-20回：事例検討 市江和子・宮谷恵<br/> 第21回：レポート作成 市江和子・宮谷恵<br/> 第22回：発表 市江和子・宮谷恵<br/> 第23回：まとめ 市江和子・宮谷恵</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-23回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-23回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | 講義、演習、討論、発表  |        |    |      |         |
| 評価方法          | 課題レポート50%、演習に対する取り組みの姿勢50%を総合的に判断する。   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。  |        |    |      |         |
| 指定図書          | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |  |        |    |      |         |
| 参考書           | なし   |        |    |      |         |

| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | 関心あるテーマについて事前・事後学修としてレポートを作成する。  |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp |        |    |      |         |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 科目名    | 小児看護学演習 I  |   |
| 科目責任者  | 宮谷 恵   |   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 必修 秋  |   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |   |
| 科目概要   | 複雑な状況におかれている小児の身体・心理社会的側面を含む包括的アセスメントについて学ぶとともに、対象となる小児と親・家族への望ましい支援のあり方を探求する。   |   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どものフィジカルアセスメントの原則と基本的方法を修得する。</li> <li>2. 身体・心理社会的側面を包括的に査定する方略、技術を修得し活用することができる。</li> <li>3. 小児期に特有な疾患に必要なフィジカルイグザミネーションの実際を理解する。</li> <li>4. 子どもの成長・発達のアセスメントを理解し、子どもの発達段階のスクリーニングの方法を習得する。</li> <li>5. 小児科外来に受診する子どもと親・家族の健康のアセスメント、指導・助言などの対応を分析し、考察する。</li> <li>6. 発達段階に応じた適切な援助について学び、小児看護における包括的な専門的ケアを</li> </ol>   |   |
| 授業計画   | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 子どものヘルスアセスメント／ヘルスアセスメントの原則</p> <p>第2回 子どものフィジカルアセスメント(1)<br/>：バイタルサイン、全身状態(外観)</p> <p>第3回 子どものフィジカルアセスメント(2)<br/>：頭部・顔・頸部、呼吸器系、循環器系</p> <p>第4回 子どものフィジカルアセスメント(3)<br/>：消化器系、泌尿器系、生殖器系</p> <p>第5回 子どものフィジカルアセスメント(4)<br/>：脳・神経系、感覚器系、筋・骨格系</p> <p>第6回 子どものフィジカルアセスメント(5)<br/>小児専門看護師・市江和子<br/>：身体発育(成長)、精神運動発達、乳児健診</p> <p>第7回 子どものフィジカルアセスメントの実際(1)<br/>：乳児のフィジカルアセスメント</p> <p>第8回 子どものフィジカルアセスメントの実際(2)<br/>：幼児のフィジカルアセスメント</p> <p>第9回 子どものフィジカルアセスメントの実際(3)<br/>：学童・思春期のフィジカルアセスメント</p> <p>第10回 子どもの発達スクリーニング</p> <p>第11回 子どもの発達スクリーニングの演習(デンバーⅡによる発達評価)</p> <p>第12回 子どもの発達スクリーニングの分析</p> <p>第13回 乳幼児健診の実際</p> | <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>宮谷恵</p> <p>高 真喜(小児看護専門看護師)</p> <p>高 真喜(小児看護専門看護師)</p> <p>高 真喜(小児看護専門看護師)</p> <p>真木 希(小児看護専門看護師)</p> <p>増井洋子(ゲストスピーカー・小児専門看護師)</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
|               | <p>第14-23回 臨地演習(1) <span style="float:right">市江和子・宮谷恵</span><br/>       :小児科外来を受診する子どもの受診の一連のプロセスの見学と実施<br/>       小児科外来において受診する子どもと親・家族に同行し、可能であれば医師の外来診察に同席、診断過程を見学する<br/>       小児科外来において受診する子どもを観察し、医師の診察前にフィジカルアセスメントを実施する</p> <p>第24回 臨地演習(1)の事例分析と発表・討議 <span style="float:right">市江和子・宮谷恵</span></p> <p>第25-28回 臨地演習(2) <span style="float:right">市江和子・宮谷恵</span><br/>       :小児科外来において、乳幼児健診を受ける子どもと親・家族の健康のアセスメントを実施する<br/>       乳幼児健診を受ける子どもと親・家族を観察し、可能であれば医師の診察前に成長・発達の審査を主眼とした子どものフィジカルアセスメントを実施する<br/>       小児科外来において乳幼児健診を受ける子どもと親・家族に同行し、医師の診察に同席し、健診を見学する<br/>       乳幼児健診をうける小児と親・家族に対して、身体的発育状況、育児、環境、日常生活、健康管理の視点で、包括的に子どもの健康と成長・発達をアセスメントする<br/>       子どもと親・家族への指導、助言などの対応を分析し、考察する</p> <p>第29回 臨地演習(2)の事例分析と発表・討議 <span style="float:right">市江和子・宮谷恵</span></p> <p>第30回 臨地演習における子どもと親・家族に関するアセスメントの現状と課題の明確化<br/>       宮谷恵・市江和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>       双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/>       実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          | <p>講義、演習、セミナー形式で授業を行う。<br/>       &lt;臨地演習内容・方法&gt;<br/>       ・小児看護専門看護師、看護課長、医師及び臨地の指導者による指導を受けながら、子ども・親・家族への看護活動を体験する。</p>   |        |    |      |         |
| 評価方法          | <p>・演習に対する取り組みの姿勢・態度(20%) ・討議への参加度及びプレゼンテーション(20%)<br/>       ・目標に対する演習記録の提出(60%) 以上を総合して評価を行う。</p>   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | <p>授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。</p>  |        |    |      |         |
| 指定図書          |   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|               |   |        |    |      |         |
| 参考書           |   |        |    |      |         |

| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | 演習に先立ち、既修した小児看護学に関する授業内容について復習するとともに、フィジカルアセスメント、発達評価の概要について事前学修を行う。   |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp<br>看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp |        |    |      |         |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 小児看護学演習Ⅱ   |
| 科目責任者         | 宮谷 恵   |
| 単位数他          | 2単位(60時間) 高度実践看護コース 必修 春   |
| 科目の位置付        | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要          | 重度の障害をもつ子どもと親・家族への援助を学び、重症心身障害児の療育に携わる様々な人々及びチームの活動の実際を体験し、倫理的判断を含め、看護の機能・方法・方向性を分析し、状況に応じた高度看護専門職としての判断能力及び実践能力を養う。臨地演習を通して、課題解決の方法を探求する。   |
| 到達目標          | 1. 重度の障害をもつ子どもと親・家族の在宅、施設における看護を学び、携わる人々の活動と他職種とのチームの活動を理解する。<br>2. 他職種との連携・協働活動の体験を通して、子どもとその親・家族の障害・生活問題を把握し、支援するための看護援助について考察する。  |
| 授業計画          | <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float:right">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回 重度の障害をもつ子どもと親・家族への看護ケアと包括的アセスメント概観 宮谷恵<br/> 第2回 重度の障害をもち在宅で生活する子どもと親・家族の看護 宮谷恵<br/> 第3回 在宅における家族の機能・役割・形態について 市江和子・尾田優美子<br/> 第4回 在宅に関連する法的・倫理的問題について 市江和子・尾田優美子<br/> 第5回 子どもと親・家族の在宅支援(1)訪問看護の概要 市江和子・松下麻里子<br/> 第6回 子どもと親・家族の在宅支援(2)退院支援について 市江和子・松下麻里子<br/> 第7回 医療的ケアの実際 真木 希<br/> 第8回 重度の障害をもつ子どもの遊びに関する支援技術 真木 希<br/> 第9回 重度の障害をもつ子どもとのコミュニケーション支援技術 真木 希<br/> 第10回 重度の障害をもつ子どもと親・家族への援助方法の分析・評価 市江和子<br/> 第11回 重症心身障害児施設の臨地演習における現象のとらえ方と分析/演習オリエンテーション 宮谷恵・市江和子<br/> 第12-26回 重症心身障害児施設/訪問看護ステーションにおける臨地演習 宮谷恵・市江和子<br/> 第27-28回 事例検討(臨地演習の事例分析) 宮谷恵・市江和子</p> <p>第29回 障害児施設における支援の現状と課題 宮谷恵・市江和子<br/> 第30回 まとめと討議 宮谷恵・市江和子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-30回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第1-30回</p> |
| 学修方法          | 講義、演習、セミナー形式で授業を行う。<br><臨地演習内容・方法><br>・小児看護専門看護師、看護課長及び臨地の指導者による指導を受けながら、重症心身障害児施設の子ども・親・家族の看護活動を体験する。<br>・重症心身障害児施設におけるチームメンバーとともに行動し、他職種カンファレンスにおいて、子どもと親・家族への看護援助についての討議に参加する。  |
| 評価方法          | ・演習に対する取り組みの姿勢・態度(20%) ・討議への参加度及びプレゼンテーション(20%)<br>・目標に対する課題レポートの提出(60%) 以上を総合して評価を行う。   |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。  |
| 指定図書          |  |

| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
|             |  |        |    |      |         |
| 参考書         |  |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | 演習に先立ち、既修した小児看護学に関する授業内容について復習するとともに、チーム活動、小児ハビリテーションの概要について事前学修を行う。課題の発表準備をする。                                      |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp<br>看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp |        |    |      |         |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 小児看護学特論実習   |
| 科目責任者         | 市江 和子   |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 選択 秋   |
| 科目の位置付        | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要          | 健康障害・発達障害をもつ子どもと親・家族に対して、健康的な生活を維持・促進するための看護ケアを実践できる能力を修得する。  |
| 到達目標          | 1. 既習の理論や概念などを活用して、看護実践を評価する。<br>2. 子どもと親・家族との関わりを通じて、研究課題の明確化および研究方法の具体化を検討する。   |
| 授業計画          | <p>担当教員：市江和子、宮谷恵</p> <p>学生の学修課題、研究課題に応じた実習施設および対象を選択し、実習計画を作成し実践する</p> <p>実習の概要</p> <p>1. 実習内容</p> <p>1) 医療チームに関わる人々と協働し、チームアプローチを含む看護活動体験を通して、看護実践に関する学修を深める。</p> <p>2) 医療チームに参加して看護を統合的かつ継続的に展開し、自己の課題を検討する</p> <p>2. 学習目標</p> <p>1) 課題解決プロセスを検討し、諸理論を活用して分析する。</p> <p>2) 看護実践の現状や体験から、看護師（スタッフリーダー）の役割を考察する。</p> <p>第1回：事前オリエンテーション<br/>第2回：実習オリエンテーション<br/>施設の概要と組織の把握、状況の把握。病棟概要の把握、患児の情報収集。<br/>第3-48回：小児看護の実際に参加し、子どもと家族の健康問題に関するアセスメント、看護ケアを実践する。</p> <p>第48-49回：事例検討<br/>第50-56回：レポート作成<br/>第57-58回：発表<br/>第59-60回：まとめ</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：第3-48回</p> |
| 学修方法          | 実習、討論、発表  |
| 評価方法          | 実習に対する取り組みの姿勢・態度 50%<br>実習内容に関連した課題レポート 50%<br>以上を総合的に判断する  |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。   |

|             |  |        |    |      |         |
|-------------|--|--------|----|------|---------|
| 指定図書        | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 参考書         | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |  |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 | 関心あるテーマについて事前学修としてレポートを作成する。   |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp |        |    |      |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 小児看護学高度実践実習 I  |
| 科目責任者  | 宮谷 恵   |
| 単位数他   | 2 単位 (90 時間) 高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 小児期に特有な疾患の病態・生理を理解し、必要な診療手技を用いてフィジカルアセスメントを実施する。さらに、診断のプロセスと治療方法を学び、病気の診断と治療、症状・徴候の正常・異常の判断の思考過程、プライマリケアについて理解を深める。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期に特有な疾患の診断のプロセスと治療方法について理解できる。</li> <li>2. 小児期に特有な疾患の診断治療過程を見学実習し、系統的フィジカルアセスメントを実施し、医学的臨床判断に基づき子どもと親・家族の包括的アセスメントができる。</li> <li>3. 小児期の特有な入院事例や外来受診事例について、病歴、症状・所見、臨床検査データ等の情報の意味づけ・分析に「病態・生理学」を応用して診断するプロセスを学ぶ。</li> <li>4. アセスメント結果を順序だてて分かりやすく伝えることで、小児の健康促進への対応を子どもと親・家族と話し合うことができる。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 宮谷 恵、市江和子<br/> 実習施設 聖隷浜松病院 小児病棟<br/> 実習体制 実習指導は、実習担当教員と小児看護専門看護師、看護課長、医師等と相談・連携して行う<br/> 実習指導者 小児看護専門看護師 鈴木さと美、一柳 雄輔<br/> 医師 小児科部長 大呂陽一郎<br/> 実習内容(実習要項参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 小児病棟において、小児期に特有な疾患をもつ子どものフィジカルアセスメントの見学・実施をする。</li> <li>② 乳幼児健診における発達検査の見学・実施をする。</li> <li>③ 適宜、スーパービジョンを受ける。</li> </ol> <p>具体的方法<br/> 授業概要と実習目的・実習目標をふまえ、個人目標を設定して、実習計画書を作成する。<br/> 実習計画に則り、小児期に特徴的な疾患について、子どもの成長・発達段階、年齢、疾患、重症度等を考慮し、事例を選択する。<br/> 医師の外来診察、入院時の診察に同席し、診断技術や診断の手順、治療の選択について見学を通して学ぶ。実習終了時に、学生は見学した内容について医師に確認したり、質問する機会をもつ。<br/> 医師・看護師とともに、小児期に特徴的な疾患の治療診断プロセスを参加観察及びフィジカルアセスメントを実施し、病態の判断とその後の展開予測を行う。<br/> 実施したフィジカルアセスメントや臨床判断について、医師から助言を受けて振り返り、考察する。<br/> 日々、看護学実習記録として、「病態判断とその後の展開予測」、「症状マネジメントの能力の判断」、「検査・薬剤処方予測」を記載する。<br/> 臨地実習指導者と実習担当教員のスーパービジョンを通して、実践場面における判断、見方、考え等の臨床判断に対する検討を行う。<br/> 10 例以上の事例報告レポートを作成し、医師、チームメンバー、臨地実習指導者、実習担当教員による事例の分析・検討会を行う。</p> <p>実習の受持ち事例数は、実習目標が達成できなければこの限りではない。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |   |               |           |             |                |
| 学修方法          | 実習、セミナー形式で授業を進める。   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習に対する取り組みの姿勢・態度 30%<br>看護学実習記録の内容 20%<br>事例報告レポート：病態・生理の理解、正常・異常の判断、治療の理解 30%<br>診察手技、発達検査の実施または理解(事例報告レポートより) 20%<br>以上を本実習の到達目標に応じた評価表に基づき、目標到達度を総合的に評価する。 |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 共通科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学等)及び小児看護学領域の科目の既修内容について復習し、実習に臨む。課題の発表準備をする。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp<br>看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp  |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 小児看護学高度実践実習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 市江 和子  |
| 単位数他   | 3 単位 (135 時間) 高度実践看護コース 必修 春   |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 小児看護専門看護師のシャドウイングを通し、実践・教育・コンサルテーション (相談)・コーディネーション (調整)・研究・倫理の役割を理解する。小児看護専門看護師の指導のもとに、複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族への包括的な看護実践を行うとともに、コンサルテーション (相談)・コーディネーション (調整)・倫理・教育を実施する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護専門看護師の役割機能を理解する。</li> <li>2. 諸理論及び研究を基盤に、小児看護専門看護師の役割機能(実践・コンサルテーション・コーディネーション・倫理・教育)を考察する。</li> <li>3. 複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族の事例について、小児看護専門看護師の指導のもと、実践として直接ケアを行い、2 事例以上について実践を分析し、自己の課題を明確にする。</li> <li>4. 複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族の事例について、小児看護専門看護師の指導のもと、小児看護専門看護師の役割・機能(コンサルテーション・コ</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 市江 和子、宮谷 恵<br/> 実習施設 聖隷浜松病院 小児病棟・小児科外来<br/> 実習体制 実習指導は、実習担当教員と小児看護専門看護師、師長等と相談・連携して行う<br/> 小児看護専門看護師 鈴木さと美、一柳 雄輔</p> <p>実習内容(実習要項参照)<br/> 臨地実習指導者及び実習担当教員のスーパーバイズのもとに、専門看護師実習を行う。<br/> 複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族を受持ち、心身の健康レベルや養育環境について、包括的アセスメントを行う。<br/> 複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族への包括的アセスメントに基づき、2 事例以上の看護を実践する。<br/> 複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族への看護実践から、倫理的問題の調整・解決、看護ケアチームへのコンサルテーション、教育、他職種とのコーディネーションをそれぞれ 1 例以上の活動を実践する。<br/> 実習目的・目標を達成するための自己の目的・目標を設定し、小児看護専門看護師の役割機能について理解を深める。<br/> 小児看護専門看護師に同行し、高度実践看護師に必要とされる看護実践能力及び役割・機能の実際について見学を中心に体験する。<br/> 小児看護専門看護師とカンファレンスを持ち、ディスカッションを行うとともに助言を受ける。<br/> 小児看護専門看護師のスーパービジョンを通して、実践場面における判断、見方、考え等を振り返り、自己の課題を明確化する。<br/> 日々、看護学実習記録を書き、各役割場面の実践経過や現象を記載する。<br/> 実習終了後、事例報告レポートを作成し、チームメンバー、臨地実習指導者、実習担当教員による事例の分析・検討会を行う。</p> <p>実習の受持ち事例数は、実習目標が達成できなければこの限りではない。<br/> ①～⑨を通し、実践経過と自己の課題について実習記録としてまとめる。</p> <p>・小児看護高度実践実習の役割実習における、小児看護専門看護師の包括的アセスメントの臨床講義<br/> ・複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族への看護実践から、倫理的問題の調整・解決、看護ケアチームへのコンサルテーション、教育、他職種とのコーディネーションの臨床講義・</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>         実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>         実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          | 実習、セミナー形式で授業を進める。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習に対する取り組みの姿勢・態度 40%<br>看護学実習記録の内容 20%<br>看護学実習報告書の記録内容 20%<br>課題レポート 20%<br>以上を本実習の到達目標に応じた評価表に基づき、目標到達度を総合的に評価する。                    |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 共通科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学等)及び小児看護学領域の科目の既修内容について復習し、実習に臨む。実習終了後は、記録を整理し、小児看護専門看護師の役割理解に関する課題を考察する。                                  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp                   |               |           |             |                |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 小児看護学高度実践実習Ⅲ  |
| 科目責任者  | 市江 和子   |
| 単位数他   | 5 単位 (225 時間) 高度実践看護コース 必修 春  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要   | 重症心身障害児と親・家族に対し、包括的な看護を実践するために必要な小児看護専門看護師が果たす、専門家として高い倫理観をもつ態度で高度な看護実践を提供する能力を養う。また、看護実践を通して、専門看護師としての役割である、卓越した実践・教育・コンサルテーション(相談)・コーディネーション(調整)・研究・倫理の能力を修得する。さらに、小児看護専門看護師と活動した経験、複雑で高度な健康上の問題をもつ子どもと親・家族への看護実践を通して、専門看護師としての役割開発をどのように行っていくかについて学ぶ。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重症心身障害児と親・家族へ、小児看護専門看護師の実践として直接ケアを行い、3 事例以上について実践を分析し、自己の課題を明確にする。</li> <li>2. 重症心身障害児と親・家族の事例について、小児看護専門看護師の役割・機能(コンサルテーション・コーディネーション・倫理・教育)に関する実践をし、それぞれ1 例以上分析し、自己の課題を明確にする。</li> <li>3. 小児看護実践の質の向上のための研究課題を見出すことができ、その結果を看護実践に活用することができる。</li> <li>4. 自己の課題を明確化し、小児看護専門看護師の役割開発について考察する。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>&lt;担当教員名&gt; 市江 和子、宮谷 恵<br/> 実習施設 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター<br/> 実習体制 実習指導は、実習担当教員と小児看護専門看護師、課長等と相談・連携して行う<br/> 小児看護専門看護師 真木 希</p> <p>実習内容(実習要項参照)<br/> 臨地実習指導者及び実習担当教員のスーパーバイズのもとに、専門看護師実習を行う。<br/> 重症心身障害児と親・家族を受持ち、心身の健康レベルや養育環境について、包括的アセスメントを行う。<br/> 重症心身障害児と親・家族への包括的アセスメントに基づき、3 事例以上の看護を実践する。<br/> 重症心身障害児と親・家族への看護実践から、倫理的問題の調整・解決、看護ケアチームへのコンサルテーション、教育、他職種とのコーディネーションをそれぞれ 1 例以上の活動を実践する。<br/> 実習目的・目標を達成するための自己の目的・目標を設定し、小児看護専門看護師の役割機能について理解を深める。<br/> 小児看護専門看護師とともに、高度実践看護師に必要とされる看護実践能力及び役割・機能の実際について体験する。<br/> 小児看護専門看護師とカンファレンスをもち、ディスカッションを行うとともに助言を受ける。<br/> 小児看護専門看護師のスーパービジョンを通して、実践場面における判断、見方、考え等を振り返り、自己の課題を明確化する。<br/> 日々、看護学実習記録を書き、各役割場面の実践経過や現象を記載する。<br/> 受持ち終了後、事例報告レポートを作成し、チームメンバー、臨地実習指導者、実習担当教員による事例の分析・検討会を行う。</p> <p>実習の受持ち事例数は、実習目標が達成できなければこの限りではない。<br/> ①～⑨を通し、実践経過と自己の課題について実習記録としてまとめる。</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          | 実習、セミナー形式で授業を進める。  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 実習に対する取り組みの姿勢・態度 40%<br>看護学実習記録の内容 20%<br>看護学実習報告書の記録内容 20%<br>課題レポート 20%<br>以上を本実習の到達目標に応じた評価表に基づき、目標到達度を総合的に評価する。  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。   |               |           |             |                |
| 指定図書          | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           | なし   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 共通科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学等)及び小児看護学領域の科目の既修内容について復習し、実習に臨む。実習終了後は、記録を整理し、小児看護専門看護師の役割開発に関する課題を考察する。                |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|               |   |
|---------------|---|
| 科目名           | 小児看護学特別研究   |
| 科目責任者         | 市江 和子   |
| 単位数他          | 8 単位 (240 時間) 選択 通年   |
| 科目の位置付        | (4) 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。<br>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。<br>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。  |
| 科目概要          | 修士論文を作成するために必要な小児看護学領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。   |
| 到達目標          | 1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する<br>2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、資料収集を行う<br>3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる  |
| 授業計画          | 1 年次春semester：<br><授業内容・テーマ等>リハビリテーション研究入門、実験的研究法、社会調査特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。<br><評価方法><br>討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)<br><br>1 年次秋semester：<br><授業内容・テーマ等>春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。<br><評価方法><br>発表態度 (30%) 発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)<br><br>2 年次春semester：<br><授業内容・テーマ等>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。<br><評価方法><br>研究計画の倫理的配慮の精度 (40%) データ収集の適切性 (30%)、データ分析の論理性・技法の適切性 (30%)<br><br>2 年次秋semester：<br><授業内容・テーマ等> 指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。<br><評価方法><br>論文の完成度 (70%) 第三者の評価による修正の適切性 (30%)<br><br>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br>実務家教員や実務家による授業：全ての回 |
| 学修方法          | 討論、発表<br>ディスカッション、発表、個別指導、講義。   |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。  |
| 課題に対するフィードバック | 授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。次回授業に、課題を回答する。   |

|         |  |        |    |      |         |
|---------|--|--------|----|------|---------|
| 指定図書    | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 参考書     | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 関心を持った内容に関し、文献を検索し、学修を進める。研究の進行に伴い課題を自己学修する。   |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） e-mail:megumi-m@seirei.ac.jp |        |    |      |         |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | 小児看護学課題研究  |
| 科目責任者         | 市江 和子  |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) 高度実践看護コース 選択 通年   |
| 科目の位置付        | <p>(4) 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。</p> <p>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。</p> <p>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。</p>  |
| 科目概要          | 小児看護学特論、援助特論、小児病態・治療論等で学習した内容をふまえて看護実践の中から小児とその家族についての関心ある問題を取り上げ、研究課題を明確化して研究計画書を作成しそれに沿ってデータの収集・分析を行い、論文にまとめるプロセスを経験することにより基礎的な研究能力を修得する。  |
| 到達目標          | 1. 各学生が看護実践の中から関心ある問題を取りあげ、テーマを設定する。研究計画書を作成し、テーマに沿って倫理的配慮、データ収集を行う。課題について、文献的及び臨床的に実証する。  |
| 授業計画          | <p>1 年次春semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;看護学領域における特論、看護研究方法等で学修した内容を用いて、文献検討や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。</p> <p>&lt;評価方法&gt;・文献検討及び課題の焦点化 (30%)・研究計画書の 完成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画を検討会で発表し研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。</p> <p>&lt;評価方法&gt;・文献検討及び課題の焦点化 (30%)・研究計画書の 完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。</p> <p>&lt;評価方法&gt;・倫理的配慮の適切性 (10%)・データ収集及び分析の適切性 (30%)・論文の完成度 (60%)</p> <p>2 年次秋semester :</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;指導を受けながら、課題研究論文を作成し、完成させる。</p> <p>&lt;評価方法&gt;・倫理的配慮の適切性 (10%)・データ収集及び分析の適切性 (30%)・論文の完成度 (60%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>     実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |
| 学修方法          | 討論、発表<br>ディスカッション、発表、個別指導、講義。  |
| 評価方法          | 上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。   |
| 課題に対するフィードバック | 次回授業に、課題を回答する。   |

|         |  |        |    |      |         |
|---------|--|--------|----|------|---------|
| 指定図書    | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 参考書     | なし   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |
|         |  |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 既修の授業内容（看護研究方法および看護学領域における特論・演習・実習等）について、学修して臨むこと  |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 看護学研究科 市江和子：金曜日午前(1712 研究室) e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp<br>看護学研究科 宮谷 恵：月曜日午後(1713 研究室) e-mail:megumi-m@seirie.ac.jp |        |    |      |         |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | プライマリケア看護学特論 I   |
| 科目責任者  | 橋積 亜希子   |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春   |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |
| 科目概要   | プライマリケア NP が療養生活支援の専門職として、隣人愛の倫理性をもとに、療養者の生活の質を向上させる意義を考える。また、プライマリケア NP に求められる能力、役割、責任に関する知識を習得し、プライマリケア NP としての自身の看護実践の展望を考える。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 療養生活支援看護におけるプライマリケア NP の役割と意義を説明できる</li> <li>2. 特定行為を含む高度看護実践が療養者の健康維持回復、生活の質向上にどのように貢献できるかについて考えを述べることができる</li> <li>3. 多職種協働におけるプライマリケア NP の役割について説明できる</li> <li>4. プライマリケア NP に必要なコンサルテーションの理論と実践について説明できる</li> <li>5. 高度看護実践における医療倫理の理論と実践について理解できる</li> <li>6. 高度看護実践における看護マネジメントの理論、実践について理解できる</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>第 1 回 療養生活支援看護とは 診療看護師 (NP) 制度と看護師特定行為研修制度 川村佐和子</p> <p>第 2 回 診療看護師 (NP) の役割と責任 橋積亜希子</p> <p>第 3 回 高度実践看護とは 一日米の比較 エクランド源雅子</p> <p>第 4 回 プライマリケアとは 井上真智子</p> <p>第 5 回 プライマリケアの実践に触れる ① 松田真和 他</p> <p>第 6 回 プライマリケアの実践に触れる ② 松田真和 他</p> <p>第 7 回 プライマリケア看護とは 中山法子</p> <p>第 8 回 プライマリケアにおける多職種協働—チーム医療における診療看護師 (NP) の役割 中山法子</p> <p>第 9 回 高度看護実践における倫理的課題 エクランド源雅子</p> <p>第 10 回 医療安全における診療看護師 (NP) の役割 田口実里</p> <p>第 11 回 高度実践看護師によるコンサルテーションの理論と実践 エクランド源雅子</p> <p>第 12 回 高度看護実践における組織的アプローチ(組織分析)の理論と方法 鶴田恵子</p> <p>第 13 回 高度看護実践における組織的アプローチ(組織分析)の実際 鶴田恵子</p> <p>第 14 回 医療経済 看護実践における経済性、経営 鶴田恵子</p> <p>第 15 回 プライマリケア NP としての展望 プレゼンテーション・ディスカッション 檜原理恵・佐久間佐織</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>     双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-15 回<br/>     実務家教員や実務家による授業：第 1-15 回</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 実地での体験を伴う授業：第5-6回  |               |           |             |                |
| 学修方法          |  |               |           |             |                |
| 評価方法          | レポート40%、プレゼンテーション40%、授業への参加度20%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。   |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 橋積亜希子：<br>桎原 理恵：1616 研究室 随時 【連絡先】 rie-k@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |  |  |
|--------|--|--|
| 科目名    | プライマリケア看護学特論Ⅱ  |  |
| 科目責任者  | 檜原 理恵  |  |
| 単位数他   | 2単位 (30時間) プライマリケアNPプログラム 必修 2年次春  |  |
| 科目の位置付 | (2) エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野および関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。  |  |
| 科目概要   | 各ライフサイクルの発達課題の視点から健康をとらえ、疾病予防と健康の維持増進に関する看護実践に必要な知識と技術を学修する。   |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康課題とその看護について説明できる</li> <li>2. 疾患を持ちながら生活する小児の特徴と、子どもと家族が安心して地域で暮らすための支援について説明できる</li> <li>3. 成人期の代表的な健康課題と疾病予防について説明できる</li> <li>4. 精神疾患を持ちながら生活する療養者に必要な支援、ケアについて理解できる</li> <li>5. 人生の終末期を迎える対象に必要な支援、ケアについて理解できる</li> <li>6. 家族の機能と健康を支援する看護の役割について理解できる</li> </ol>   |  |
| 授業計画   | <p>第1回 高齢者の健康課題 —特徴、代表的な疾患<br/>真和</p> <p>第2回 高齢者の健康問題 —認知症①<br/>信二</p> <p>第3回 高齢者の健康問題 —認知症②<br/>信二</p> <p>第4回 高齢者の健康問題 —パーキンソン病<br/>昌宏</p> <p>第5回 小児の健康問題 —小児の健康・特徴、代表的な疾患と治療<br/>智也</p> <p>第6回 小児の健康問題と看護 —NICU から在宅移行、在宅療養<br/>ンド源雅子</p> <p>第7回 小児の健康問題と看護 —医療的ケアが必要な子ども、重症心身障がい児<br/>恵</p> <p>第8回 成人の健康問題と看護 —健康推進、生活習慣病の予防と保健指導、疾病予防<br/>てる子</p> <p>第9回 成人の健康問題と看護 —慢性疾患の悪化予防 (COPD, 慢性腎臓病)<br/>る子</p> <p>第10回 精神疾患をもつ在宅療養者の看護<br/>水隆裕</p> <p>第11回 人生の最終段階を迎える人に対する看護 —エンドオブライフケア<br/>岡さおり</p> <p>第12回 家族の機能と健康 (家族看護)<br/>江美子</p> <p>第13回 地域の特性とプライマリケア<br/>積亜希子</p> <p>第14回 健康課題に沿ったアセスメントと看護実践① プレゼンテーション<br/>原理恵</p> <p>第15回 健康課題に沿ったアセスメントと看護実践② プレゼンテーション<br/>原理恵</p> | <p>松田</p> <p>綱分</p> <p>綱分</p> <p>杉本</p> <p>樋口</p> <p>エクラ</p> <p>宮谷</p> <p>河口</p> <p>河口て</p> <p>清</p> <p>吉</p> <p>山村</p> <p>橋</p> <p>檜</p> <p>檜</p> |
|        | <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>         双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-15回<br/>         実務家教員や実務家による授業：第1-15回</p>   |  |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |   |               |           |             |                |
| 学修方法          |   |               |           |             |                |
| 評価方法          | レポート 40%、プレゼンテーション 40%、授業への参加度 20%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック |   |               |           |             |                |
| 指定図書          | 授業毎に示します  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           | 授業毎に示します  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       |   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 榎原理恵 1616 研究室<br>時間は、事前連絡（メール）により、院生の都合に合わせて調整します。<br>※講義の順番は、講師の都合などで変わることがあります。 |               |           |             |                |



|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-29 回<br>実務家教員や実務家による授業：第 1-29 回<br>実地での体験活動を伴う授業：第 1-18 回、第 21-29 回  |               |           |             |                |
| 学修方法          |   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 筆記試験 70%、授業への参加度 30%  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック | 課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。  |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       | 毎回の授業内容に関して主体的に事前事後学修を行う  |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 橋積亜希子：1216 研究室 随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>榎原 理恵：1616 研究室 随時 【連絡先】 rie-k@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | プライマリケア看護学特論演習Ⅱ  |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織   |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) プライマリケアNPプログラム 必修 秋   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 低栄養状態や脱水を適切にアセスメントするための知識、技術を学修する。また、栄養や水分出納を補正するために適切な輸液を選択、投与する知識・技術、および、胃ろうや腸ろう、膀胱ろうを安全かつ確実に管理するための知識、技術を修得する。<br>※この科目は、「栄養及び水分に係る薬剤投与関連」および「ろう孔管理関連」の内容を含む  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の脱水の状況を適切にアセスメントすることができる</li> <li>2. 対象の栄養状態を適切にアセスメントすることができる</li> <li>3. 脱水症状のある対象に適した輸液による補正を判断することができる</li> <li>4. 低栄養状態の対象に適した高カロリー輸液を判断することができる</li> <li>5. 胃ろう・腸ろう、膀胱ろうを造設している対象の全身状態を適切にアセスメントし、管理することができる</li> <li>6. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換を安全に実施することができる</li> <li>7. 膀胱ろうカテーテルの交換を安全に実施することができる</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p>第1回 循環動態に関する局所解剖、循環動態に関する主要症候 e-ラーニング</p> <p>第2回 脱水症状に関する基礎知識一局所解剖、脱水の症状、原因と病態生理 e-ラーニング</p> <p>第3回 脱水症状に関するフィジカルアセスメントと検査 橋積亜希子</p> <p>第4回 輸液療法の目的と種類、病態に応じた輸液療法の適応と禁忌、輸液時に必要な検査 橋積亜希子</p> <p>第5回 脱水症状に対する輸液製剤の種類と臨床薬理 橋積亜希子</p> <p>第6回 脱水症状に対する輸液による補正の実際 橋積亜希子</p> <p>第7回 輸液療法の計画、脱水症状に対する輸液による補正の判断基準 橋積亜希子</p> <p>第8回 低栄養状態に関する局所解剖、主要症候 e-ラーニング</p> <p>第9回 低栄養状態の原因と病態生理 e-ラーニング</p> <p>第10回 低栄養状態に関するフィジカルアセスメントと検査 橋積亜希子</p> <p>第11回 高カロリー輸液の種類と臨床薬理、高カロリー輸液に関する栄養学 橋積亜希子</p> <p>第12回 高カロリー輸液の実際 橋積亜希子</p> <p>第13回 輸液療法の計画、高カロリー輸液の判断基準 橋積亜希子</p> <p>第14回 筆記試験（共通、脱水、輸液） 橋積亜希子</p> <p>第15回 胃ろう、腸ろうに関する局所解剖と生理、主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメ</p> |

|               |   |
|---------------|---|
|               | <p>ント e-ラーニング</p> <p>第 16 回 胃ろう、腸ろうのカテーテル留置と患者の QOL、意思決定プロセスと支援 e-ラーニング</p> <p>第 17 回 胃ろう、腸ろうの基礎知識<br/>橋積亜希子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 胃ろう・腸ろうの目的、適応と禁忌、リスク</li> <li>2) 胃ろう及び腸ろう造設術の種類</li> <li>3) 胃ろう・腸ろうカテーテル、ボタンの構造と選択</li> <li>4) 胃ろう・腸ろうの交換の時期と方法、困難例とその対応</li> </ol> <p>第 18 回 胃ろう、腸ろうの栄養管理、栄養スクリーニング、栄養剤の選択<br/>橋積亜希子</p> <p>第 19 回 胃ろう、腸ろうの管理－カテーテルの感染管理<br/>橋積亜希子</p> <p style="padding-left: 40px;">胃ろう、腸ろうのカテーテル留置に必要なスキンケア</p> <p>第 20 回 試験（共通、胃ろう・腸ろう）<br/>橋積亜希子</p> <p>第 21 回 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換の方法<br/>橋積亜希子</p> <p style="padding-left: 40px;">（シミュレーション）</p> <p>第 22 回 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換の方法<br/>橋積亜希子</p> <p style="padding-left: 40px;">（シミュレーション）</p> <p>第 23 回 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 OSCE<br/>杉本昌宏・橋積亜希子</p> <p>第 24 回 膀胱ろうに関する局所解剖と生理、主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメント<br/>橋積亜希子</p> <p style="padding-left: 40px;">膀胱ろうカテーテル留置と患者の QOL</p> <p>第 25 回 膀胱ろうの目的、適応・禁忌、膀胱ろうに伴うリスク、膀胱ろう造設術 佐藤 敦</p> <p>第 26 回 膀胱ろうカテーテルの種類と特徴、膀胱ろうの交換の時期と方法<br/>佐藤 敦</p> <p>第 27 回 膀胱ろうの管理、起こりうるトラブルとその対応<br/>佐藤 敦</p> <p style="padding-left: 40px;">筆記試験（膀胱ろう）</p> <p>第 28 回 膀胱ろうカテーテルの交換の方法（シミュレーション）①<br/>橋積亜希子</p> <p>第 29 回 膀胱ろうカテーテルの交換の方法（シミュレーション）②<br/>橋積亜希子</p> <p>第 30 回 膀胱ろうカテーテルの交換 OSCE<br/>佐藤 敦・橋積亜希子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。</p> <p>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 3-7 回、第 9-13 回、第 17-30 回</p> <p>実務家教員や実務家による授業：第 3-7 回、第 9-13 回、第 17-30 回</p> |
| 学修方法          |   |
| 評価方法          | <p>筆記試験 100%（小テスト含む）</p> <p>OSCE の合格は単位修得の必須条件</p>  |
| 課題に対するフィードバック | <p>課題については、授業の中で討議する機会を設け、随時フィードバックを行う。</p>   |

|             |   |        |    |      |         |
|-------------|---|--------|----|------|---------|
| 指定図書        |   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 参考書         |   |        |    |      |         |
| 書籍名         | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|             |   |        |    |      |         |
| 事前・<br>事後学修 |   |        |    |      |         |
| オフィス<br>アワー | 橋積亜希子：1216 研究室 随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |        |    |      |         |



|      |  |
|------|--|
|      | <p>第 14 回 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法、<br/>深水秀一・小梢雅野<br/>出血の止血方法（縫合含む）</p> <p>第 15 回 筆記試験（共通、壊死組織の除去）</p> <p>第 16 回 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法、<br/>小梢雅野<br/>出血の止血方法（縫合含む）【演習】①</p> <p>第 17 回 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法、<br/>小梢雅野<br/>出血の止血方法（縫合含む）【演習】②</p> <p>第 18 回 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法、<br/>小梢雅野<br/>出血の止血方法（縫合含む）【演習】③</p> <p>第 19 回 気管切開の目的、気管切開の方法、小児の気管切開 橋<br/>積重希子</p> <p>第 20 回 気管切開の適応と禁忌、気管切開に伴うリスク 橋<br/>積重希子<br/>気管カニューレの適応と禁忌、気管カニューレの構造と種類</p> <p>第 21 回 気管カニューレ挿入中の管理・ケア、気管カニューレの交換の手技<br/>橋積重希子<br/>気管カニューレ交換の困難例とその対応</p> <p>第 22 回 筆記試験（共通、気管カニューレ） 橋<br/>積重希子</p> <p>第 23 回 気管カニューレ交換の手技（シミュレーション）<br/>橋積重希子</p> <p>第 24 回 気管カニューレの交換 OSCE<br/>杉本昌宏・橋積重希子</p> <p>第 25 回 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法 OSCE<br/>杉本昌宏・橋積重希子</p> <p>第 26 回 創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的<br/>小梢雅野</p> <p>第 27 回 創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、リスク、感染創の管理<br/>小梢雅野</p> <p>第 28 回 物理的療法の原理<br/>小梢雅野</p> <p>第 29 回 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法、出血の止血方法<br/>小梢雅野<br/>試験（陰圧閉鎖療法）</p> <p>第 30 回 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法<br/>小梢雅野</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 2-7 回、第 9-30 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 2-7 回、第 9-30 回</p> |
| 学修方法 |  |
| 評価方法 | <p>筆記試験 100%（小テスト含む）<br/>OSCE の合格は単位修得の必須条件</p>  |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 課題に対するフィードバック |   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別／備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       |   |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー   | 橋積亜希子：1216 研究室 随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | プライマリケア看護学特論演習Ⅳ  |
| 科目責任者  | 橋積 亜希子   |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) プライマリケアNPプログラム 必修 秋   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 糖尿病をもつ対象の総合的なアセスメントと全身管理の実践的知識を学修し、対象の特性に応じたインスリン投与量の調整する技術を修得する。また、感染兆候のある対象の病状を総合的に判断するための実践的知識を学修し、効果的な臨床薬剤の投与の技術を修得する。<br>※この科目は、特定行為区分「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」「感染に係る薬剤投与関連」の内容を含む  |
| 到達目標   | 1. 糖尿病をもつ対象を総合的にアセスメントできる<br>2. 対象の特性に応じたインスリン投与量の調整を判断することができる<br>3. 感染兆候のある対象の病状を総合的にアセスメントできる<br>4. 感染兆候のある対象の特性に応じた効果的な薬剤投与を判断することができる   |
| 授業計画   | 第 1 回 糖尿病に関する局所解剖と病態生理<br>菊池範行<br>第 2 回 糖尿病に関するフィジカルアセスメントと検査<br>菊池範行<br>第 3 回 糖尿病のコントロールと治療① 血糖コントロール<br>菊池範行<br>第 4 回 糖尿病のコントロールと治療② 全身管理 (高脂血症、高血圧への影響、高齢者など)<br>菊池範行<br>第 5 回 糖尿病のコントロールと治療③ インスリン療法<br>中山法子<br>第 6 回 病態、対象の環境に応じたインスリン製剤の調整<br>中山法子<br>第 7 回 糖尿病の合併症<br>中山法子<br>第 8 回 インスリン療法に関する患者への説明と退院支援<br>中山法子<br>第 9 回 筆記試験 (共通、インスリンの投与量調整)<br>第 10 回 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (シミュレーション)<br>橋積亜希子<br>在宅ケア患者におけるインスリン製剤の調整<br>第 11 回 感染症総論<br>田島靖久<br>第 12 回 感染症の主要症候、所見<br>田島靖久<br>第 13 回 感染症の診断、検査①<br>田島靖久<br>第 14 回 感染症の診断、検査②<br>田島靖久<br>第 15 回 感染症の治療① 抗生剤の種類と臨床薬理<br>田島靖久<br>第 16 回 感染症の治療② 各種抗生剤の適応と使用方法、副作用<br>田島靖久<br>第 17 回 感染症の治療③ 各種抗生剤の適応と使用方法、副作用<br>田島靖久<br>第 18 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理① |

|   |                   |               |           |             |                |
|---|-------------------|---------------|-----------|-------------|----------------|
| <p>田島靖久<br/>第 19 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理 ②<br/>田島靖久<br/>第 20 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理 ③<br/>田島靖久<br/>第 21 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理 ④<br/>田島靖久<br/>第 22 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理 ⑤<br/>田島靖久<br/>第 23 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理 ⑥<br/>田島靖久<br/>第 24 回 主要感染症のアセスメント、診断、管理 ⑦<br/>田島靖久<br/>第 25 回 感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤<br/>田島靖久<br/>・薬剤の種類と臨床薬理・薬剤の適応と使用方法・薬剤の副作用<br/>第 26 回 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準①<br/>橋積亜希子<br/>第 27 回 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準②<br/>橋積亜希子<br/>第 28 回 筆記試験（共通、感染薬剤投与）<br/>第 29 回 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準①（シミュレーション）<br/>橋積亜希子<br/>第 30 回 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準②（シミュレーション）<br/>橋積亜希子</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-30 回<br/>実務家教員や実務家による授業：第 1-30 回</p> |                   |               |           |             |                |
| 学修方法  |                   |               |           |             |                |
| 評価方法  | 筆記試験 100%（小テスト含む） |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック   |                   |               |           |             |                |
| 指定図書  |                   |               |           |             |                |
| <u>書籍名</u>  | <u>著者</u>         | <u>発売元出版社</u> | <u>価格</u> | <u>ISBN</u> | <u>媒体種別/備考</u> |
|   |                   |               |           |             |                |
| 参考書   |                   |               |           |             |                |
| <u>書籍名</u>  | <u>著者</u>         | <u>発売元出版社</u> | <u>価格</u> | <u>ISBN</u> | <u>媒体種別/備考</u> |

|             |                 |    |       |                       |  |
|-------------|-----------------|----|-------|-----------------------|--|
|             |                 |    |       |                       |  |
| 事前・<br>事後学修 |                 |    |       |                       |  |
| オフィス<br>アワー | 橋積亜希子：1216 研究室  | 随時 | 【連絡先】 | akiko-ha@seirei.ac.jp |  |
|             | 榎原 理恵：1616 研究室  | 随時 | 【連絡先】 | rie-k@seirei.ac.jp    |  |
|             | 佐久間佐織：1618 研究室、 | 随時 | 【連絡先】 | saori-s@seirei.ac.jp  |  |

|        |  |   |
|--------|--|---|
| 科目名    | プライマリケア看護学特論演習 V   |   |
| 科目責任者  | 橋積 亜希子   |   |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 秋   |   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |   |
| 科目概要   | 対象の循環動態を総合的にアセスメントし、全身管理するための実践的知識を学修し、安全で効果的な循環薬剤（カテコラミン、降圧剤、利尿薬、糖質輸液・電解質輸液、持続点滴による Na、K 又は Cl）の投与を判断する技術を修得する。<br>※この科目は、特定行為区分「循環動態に係る薬剤投与関連」の内容を含む   |   |
| 到達目標   | 1. 代表的な循環器疾患の診断プロセスを理解できる<br>2. 対象の循環動態を総合的にアセスメントできる<br>3. 循環動態に問題をもつ対象の特性に応じた効果的な循環薬剤（カテコラミン、降圧剤、利尿薬、糖質輸液、電解質輸液、持続点滴による Na、K 又は Cl）の投与を判断することができる  |   |
| 授業計画   | 第1回 循環の基礎<br>第2回 ショック①<br>第3回 ショック②<br>第4回 症例検討（①ショック）<br>第5回 心不全①<br>第6回 心不全②<br>第7回 心不全③<br>第8回 構造的心疾患①<br>第9回 構造的心疾患②<br>第10回 症例検討（②心不全、心臓弁膜症）<br>第11回 高血圧①<br>第12回 高血圧②<br>第13回 症例検討（③高血圧）<br>第14回 不整脈①<br>第15回 不整脈②<br>第16回 症例検討（④不整脈または血管系）<br>第17回 冠動脈疾患①<br>第18回 冠動脈疾患②<br>第19回 症例検討（⑤冠動脈疾患）<br>第20回 大血管疾患<br>第21回 末梢動静脈疾患<br>第22回 腎不全①<br>第23回 腎不全②<br>第24回 腎不全③<br>第25回 腎不全④<br>第26回 症例検討（⑥腎不全）<br>第27回 電解質異常①<br>第28回 電解質異常②<br>第29回 症例検討（⑦電解質異常）<br>第30回 筆記試験（共通、カテコラミン、降圧剤、利尿剤、Na、K 又は Cl、糖質輸液・電解質輸液） | 橋積亜希子<br>渥美生弘<br>渥美生弘<br>橋積亜希子<br>重富杏子<br>重富杏子<br>重富杏子<br>重富杏子<br>重富杏子<br>重富杏子<br>田中隆光<br>田中隆光<br>橋積亜希子<br>田中隆光<br>田中隆光<br>橋積亜希子<br>岡 俊明<br>岡 俊明<br>橋積亜希子<br>小野宏志<br>小野宏志<br>三崎太郎<br>三崎太郎<br>三崎太郎<br>三崎太郎<br>橋積亜希子<br>渥美生弘<br>渥美生弘<br>橋積亜希子 |
|        | *この科目は「実践的な方法による授業」である。<br>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第1-29回<br>実務家教員や実務家による授業：第1-29回  |   |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               |  |               |           |             |                |
| 学修方法          |  |               |           |             |                |
| 評価方法          | 筆記試験 100% (小テスト含む)   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック |  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       |  |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー   | 積重希子：1216 研究室 随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>榎原 理恵：1616 研究室 随時 【連絡先】 rie-k@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | プライマリケア看護学特論演習VI   |
| 科目責任者  | 橋積 亜希子   |
| 単位数他   | 2単位 (60時間) プライマリケアNPプログラム 必修 秋   |
| 科目の位置付 | (3) 看護学の研究分野以外の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を發揮して、専門性の高い活動を実践することができる。   |
| 科目概要   | 神経疾患、統合失調症、気分障害、不安障害をもつ対象を総合的にアセスメントし、全身管理するための実践的知識を学修する。安全で効果的な循環薬剤（抗けいれん剤、抗精神薬、抗うつ薬・抗不安薬）の投与を判断する技術を修得する。<br>※この科目は特定行為区分「精神および神経症状に係る薬剤投与関連」の内容を含む   |
| 到達目標   | 1. 神経疾患をもつ対象を総合的にアセスメントできる<br>2. 統合失調症、気分障害・不安障害をもつ対象を総合的にアセスメントできる<br>3. けいれんのある対象の特性に応じた効果的な薬剤の調整を判断することができる<br>4. 精神的な症状をもつ対象の特性に応じた効果的な薬剤（抗精神薬、抗うつ薬・抗不安薬）の調整を判断することができる  |
| 授業計画   | 第1回 精神系の局所解剖と生理、神経系の局所解剖と生理<br>橋積亜希子<br>第2回 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント、神経学的検査<br>橋積亜希子<br>第3回 神経学的主要症候① 意識障害/脳死、植物状態/頭蓋内圧亢進症状・脳ヘルニア/頭痛<br>山本貴道<br>第4回 神経学的主要症候②（けいれん※）/髄膜刺激症状/高次脳機能障害/錐体外路障害/<br>てんかん 山本貴道<br>第5回 主要な神経疾患の病態生理① 脳血管障害<br>山本貴道<br>第6回 主要な神経疾患の病態生理② 脳腫瘍<br>山本貴道<br>第7回 主要な神経疾患の病態生理③ 神経変性疾患/脱髄性中枢性疾患/末梢神経障害（ニューロパチー）<br>杉本昌宏<br>第8回 主要な神経疾患の病態生理④ 筋疾患（ミオパチー）/神経筋接合部疾患/感染症 他<br>杉本昌宏<br>第9回 神経疾患の治療薬の基礎、臨床薬理② 抗けいれん薬※<br>山本貴道<br>第10回 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準<br>山本貴道<br>第11回 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準（シミュレーション）<br>山本貴道<br>第12回 精神医学的主要症候 感情の障害/思考の障害/知覚の障害/意欲の障害/記憶の障害<br>清水隆裕<br>第13回 心理・精神機能検査<br>清水隆裕<br>第14回 統合失調症の病態① 原因・病態生理<br>西村克彦<br>第15回 統合失調症の病態② 症状<br>西村克彦<br>第16回 統合失調症の病態③ 診断<br>西村克彦<br>第17回 抗精神病薬の臨床薬理① 種類と臨床薬理<br>ゲストピ-カ-田口弘美<br>第18回 抗精神病薬の臨床薬理② 適応、使用方法、副作用、リスクとその対策 |

|               |   |        |    |      |         |
|---------------|---|--------|----|------|---------|
|               | <p>ゲストスピーカー-田口弘美<br/> 第 19 回 病態に応じた抗精神病薬の投与の判断基準<br/> 橋積亜希子<br/> 第 20 回 病態に応じた抗精神病薬の投与の判断基準（シミュレーション）<br/> 橋積亜希子<br/> 第 21 回 気分障害、不安障害① 原因・病態生理<br/> 西村克彦<br/> 第 22 回 気分障害、不安障害② 症状、診断<br/> 西村克彦<br/> 第 23 回 抗うつ薬、抗不安薬の臨床薬理① 適応と使用方法<br/> ゲストスピーカー-石塚正人<br/> 第 24 回 抗うつ薬、抗不安薬の臨床薬理② 副作用とリスク<br/> ゲストスピーカー-石塚正人<br/> 第 25 回 不安の診断と治療および抗不安薬の投与の判断基準<br/> 橋積亜希子<br/> 第 26 回 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準①<br/> 橋積亜希子<br/> 第 27 回 せん妄の病態生理と薬剤①<br/> 橋積亜希子<br/> 第 28 回 せん妄の病態生理と薬剤②<br/> 橋積亜希子<br/> 第 29 回 せん妄に対する介入<br/> 橋積亜希子<br/> 第 30 回 筆記試験（共通、抗けいれん剤、抗精神病薬、抗不安薬）</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：第 1-29 回<br/> 実務家教員や実務家による授業：第 1-29 回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          |   |        |    |      |         |
| 評価方法          | 筆記試験 100%（小テスト含む）   |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック |   |        |    |      |         |
| 指定図書          |   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|               |   |        |    |      |         |
| 参考書           |   |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |

|             |                 |    |       |                       |  |
|-------------|-----------------|----|-------|-----------------------|--|
|             |                 |    |       |                       |  |
| 事前・<br>事後学修 |                 |    |       |                       |  |
| オフィス<br>アワー | 橋積亜希子：1216 研究室  | 随時 | 【連絡先】 | akiko-ha@seirei.ac.jp |  |
|             | 榎原 理恵：1616 研究室  | 随時 | 【連絡先】 | rie-k@seirei.ac.jp    |  |
|             | 佐久間佐織：1618 研究室、 | 随時 | 【連絡先】 | saori-s@seirei.ac.jp  |  |

|               |  |
|---------------|--|
| 科目名           | プライマリケア看護学実習 I   |
| 科目責任者         | 佐久間 佐織   |
| 単位数他          | 1 単位 (45 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 春   |
| 科目の位置付        | (6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要          | 講義や演習で学修した医療面接や身体診察、臨床推論の知識・技術を統合して、医師の指導を受けながら一連の診療プロセスの実際を学ぶ。また、組織における医療安全やチームマネジメントの実際を学び、プライマリケア NP としての役割を考察する。<br>※放送大学大学院科目「特定行為共通科目統合実習」を含む  |
| 到達目標          | 1. 症状をもつ対象に対して、医療面接・身体診察を適切に実施することができる<br>2. 収集した情報から、臨床推論を用いて医学的診断を行うことができる<br>3. 医師や他の医療職に正しく伝わる記録、報告ができる<br>4. 多様な臨床場面におけるチームマネジメントの視点を理解することができる<br>5. 組織における医療安全の実際、管理体制を学び、プライマリケア NP の役割について自分の考えを述べるることができる  |
| 授業計画          | <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導の下、受け持ち患者に対して、医療面接、身体診察を実施し、臨床推論を用いて医学的診断を行う (5 症例)</li> <li>2. 上記 1 について、1 症例を症例レポートにまとめる</li> <li>3. 症例発表会にてプレゼンテーション (1 症例) する</li> <li>4. 医師のカンファレンス、多職種とのカンファレンスに積極的に参加する</li> </ol> <p>実習予定施設<br/>聖隷浜松病院</p> <p>実習期間<br/>実習日程は、目標達成状況と実習施設の状況により適宜検討する<br/>実習期間は概ね 1~2 週間とする</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/>双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/>実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/>実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |
| 学修方法          |  |
| 評価方法          | 実習記録 20%、症例レポートおよびプレゼンテーション 40%、実習中の観察評価 40%<br>実習中の観察評価は到達目標の達成度について指導医と教員が協議し、評価する。  |
| 課題に対するフィードバック |  |
| 指定図書          |  |

| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|---------|---|--------|----|------|---------|
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     |   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。   |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 橋積亜希子：1216 研究室、随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |        |    |      |         |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | プライマリケア看護学実習Ⅱ   |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織  |
| 単位数他   | 6単位 (270時間) プライマリケアNPプログラム 必修 2年次春  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。   |
| 科目概要   | 対象を医学的知識にもとづき生命と生活の両面から包括的にアセスメントするための基礎的能力と、特定行為を含めた医療実践を安全に行うための基礎的な実践能力を修得する。また、チーム医療においてチームの一員として役割を果たすとともに、プライマリケアNPとしての倫理観を養い、自らの看護実践を見直し標準化する能力を修得する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患や症状をもつ対象を包括的にアセスメントすることができる</li> <li>2. 臨床推論の根拠となる病態の知識を深めることができる</li> <li>3. 医師の指導の下、特定行為を含めた医療実践を安全に実施することができる</li> <li>4. チーム医療の原理・原則を活用して、チームの一員としての役割を果たすことができる</li> <li>5. プライマリケアNPとして自己の倫理観を養い、自らの看護実践を客観的に振り返ることができる</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師の指導のもと、受け持ち患者に対して、医療面接、身体診察を実施し、臨床推論を用いて医学的な診断を行う</li> <li>2. 受け持ち患者のうち1症例以上を症例レポートとしてまとめる</li> <li>3. 症例発表会にてプレゼンテーション(1症例)する</li> <li>4. 特定行為8区分17行為が該当する場面において、指導医の指導のもと特定行為の実施の判断、実施、報告の一連のプロセスを実施する</li> </ol> <p>特定行為(17行為)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」</li> <li>②「脱水症状に対する輸液による補正」</li> <li>③「胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換」</li> <li>④「膀胱ろうカテーテルの交換」</li> <li>⑤「気管カニューレの交換」</li> <li>⑥「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」</li> <li>⑦「創傷に対する陰圧閉鎖療法」</li> <li>⑧「インスリンの投与量の調整」</li> <li>⑨「感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与」</li> <li>⑩「抗けいれん剤の臨時的投与」</li> <li>⑪「抗精神病薬の臨時的投与」</li> <li>⑫「抗不安薬の臨時的投与」</li> <li>⑬「持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整」</li> <li>⑭「持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整」</li> <li>⑮「持続点滴中の降圧剤の投与量の調整」</li> <li>⑯「持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整」</li> <li>⑰「持続点滴中の利尿剤の投与量の調整」</li> </ol> <p>実習予定施設</p> <p>聖隷浜松病院<br/>聖隷三方原病院</p> |

|               |  |               |           |             |                |
|---------------|--|---------------|-----------|-------------|----------------|
|               | <p>実習期間<br/> 実習日程は、目標達成状況と実習施設の状況により適宜検討する<br/> 実習期間は概ね6週間とする</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |               |           |             |                |
| 学修方法          |  |               |           |             |                |
| 評価方法          | <p>症例レポートおよびプレゼンテーション 60%<br/> 実習中の観察評価 40%<br/> 実習中の観察評価は到達目標の達成度について指導医と教員が協議し、評価する。</p>   |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック |  |               |           |             |                |
| 指定図書          |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 参考書           |  |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>  | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |  |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       |  |               |           |             |                |
| オフィス<br>アワー   | <p>橋積亜希子：1216 研究室、随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br/> 佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp</p>   |               |           |             |                |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | プライマリケア看護学実習Ⅲ  |
| 科目責任者  | 佐久間 佐織   |
| 単位数他   | 8 単位 (360 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 2 年次秋  |
| 科目の位置付 | (6) 他の専門職や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。  |
| 科目概要   | 多様な臨床場面において、対象を医学的知識にもとづき生命と生活の両面から包括的にアセスメントするための基礎的能力と、特定行為を含めた医療実践を安全に行うための基礎的な実践能力を高める。また、チーム医療の実践をととしてプライマリケア NP の役割を考察するとともに、プライマリケア NP としての倫理観を養い、自らの看護実践を見直し標準化する能力を修得する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様な臨床場面において、疾患や症状をもつ対象を包括的に、迅速にアセスメントすることができる</li> <li>2. 多様な臨床場面において、臨床推論の根拠となる病態への知識を深めることができる</li> <li>3. 診断に基づいた治療計画、疾病予防計画を提案することができる</li> <li>4. 多様な臨床場面において、特定行為を含めた医療実践を安全に実施することができる</li> <li>5. チーム医療においてチームの一員としての役割を果たし、プライマリケア NP の役割を考察することができる</li> <li>6. プライマリケア NP として自己の倫理観を養い、自らの看護実践を客観的に振り返ることができる</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち患者に対して、医療面接、身体診察を実施し、臨床推論を用いて医学的診断を行う</li> <li>2. 診断に基づいた治療計画、疾病予防計画を考える</li> <li>3. 受け持ち患者のうち 5 症例以上について症例レポートにまとめる (指導医から評価、指導を受ける) <ul style="list-style-type: none"> <li>※症例レポートは、プライマリケア NP として受持った対象者の背景、治療経過 (プライマリケア NP としての臨床推論過程、実施 (提案) した検査、治療過程、実践した看護実践を含む)、考察を含める。</li> </ul> </li> <li>4. 症例発表会にてプレゼンテーション (1 症例) する</li> <li>5. 特定行為 8 区分 17 行為が該当する場面において、指導医の指導のもと特定行為の実施の判断、実施、報告の一連のプロセスを実施する</li> <li>6. 積極的にケースカンファレンスなどに参加し、多職種協働におけるプライマリケア NP の実践について考察する</li> </ol> <p>実習予定施設</p> <p>菊川市立家庭医療センター あかつちクリニック<br/> 御前崎市家庭医療センター しろわクリニック<br/> 森町家庭医療クリニック<br/> 山口市徳地診療所 (とくち地域医療センター)<br/> 伊東市民病院<br/> 鹿児島県立大島病院 他</p> <p>実習期間</p> <p>実習日程は、目標達成状況と実習施設の状況により適宜検討する<br/> 実習期間は概ね 8 週間とする</p> <p>※詳細は実習要項参照</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回<br/> 実地での体験活動を伴う授業：実習期間</p> |

|               |   |               |           |             |                |
|---------------|---|---------------|-----------|-------------|----------------|
| 学修方法          |   |               |           |             |                |
| 評価方法          | 症例レポートおよびプレゼンテーション 60%、実習中の観察評価 40%<br>実習中の観察評価は到達目標の達成度について指導医と教員が協議し、評価する。                  |               |           |             |                |
| 課題に対するフィードバック |   |               |           |             |                |
| 指定図書          |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 参考書           |   |               |           |             |                |
| <b>書籍名</b>    | <b>著者</b>   | <b>発売元出版社</b> | <b>価格</b> | <b>ISBN</b> | <b>媒体種別/備考</b> |
|               |   |               |           |             |                |
| 事前・事後学修       |   |               |           |             |                |
| オフィスアワー       | 橋積亜希子：1216 研究室、随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |               |           |             |                |

|               |  |        |    |      |         |
|---------------|--|--------|----|------|---------|
| 科目名           | プライマリケア看護学課題研究   |        |    |      |         |
| 科目責任者         | 佐久間 佐織   |        |    |      |         |
| 単位数他          | 2 単位 (60 時間) プライマリケア NP プログラム 必修 通年  |        |    |      |         |
| 科目の位置付        | <p>(4) 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。</p> <p>(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。</p> <p>(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。</p>  |        |    |      |         |
| 科目概要          | 学修した内容をふまえて、看護実践の中からプライマリケア領域で関心のある課題を取り上げ、研究計画書を作成し、データの収集・分析を行い、課題研究を完成させる。  |        |    |      |         |
| 到達目標          | <ol style="list-style-type: none"> <li>自身の関心のある課題の焦点化を深め、研究計画を作成する</li> <li>研究計画に沿って、倫理的配慮について第三者評価を得て、データ収集を行う</li> <li>得られたデータを適切に分析し、課題研究としてまとめる</li> </ol>   |        |    |      |         |
| 授業計画          | <p>1 年次春semester :</p> <p>これまで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点化する。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 討論参加度 (30%) 及び課題の焦点化達成度 (70%)</p> <p>1 年次秋semester :</p> <p>焦点化した研究課題について文献検討し、研究計画を作成する。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 発表態度 (30%)、発表内容及び研究計画書の完成度 (70%)</p> <p>2 年次春semester :</p> <p>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請する。承認後、研究協力依頼、データ収集、分析を行う。(症例報告に取り組む)</p> <p>&lt;評価方法&gt; 研究計画の倫理的配慮の精度 (50%)、データ収集や分析の視点の適切性 (50%)</p> <p>2 年次秋semester :</p> <p>指導を受けながら、研究課題についての考察を深め、論文を執筆し、完成させる。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 論文の完成度(70%)、第三者の評価による修正の適切性(30%)</p> <p>*この科目は「実践的な方法による授業」である。<br/> 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業：全ての回<br/> 実務家教員や実務家による授業：全ての回</p> |        |    |      |         |
| 学修方法          |  |        |    |      |         |
| 評価方法          | ※授業計画参照  |        |    |      |         |
| 課題に対するフィードバック | 授業のなかでのディスカッション、検討会等、様々な機会を通して随時フィードバックを行う。  |        |    |      |         |
| 指定図書          |  |        |    |      |         |
| 書籍名           | 著者   | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別/備考 |

|         |   |        |    |      |         |
|---------|---|--------|----|------|---------|
|         |   |        |    |      |         |
| 参考書     |   |        |    |      |         |
| 書籍名     | 著者  | 発売元出版社 | 価格 | ISBN | 媒体種別／備考 |
|         |   |        |    |      |         |
| 事前・事後学修 | 毎回の授業内容に関して主体的に議論できるように自身の考えおよび資料等の準備をしておく。   |        |    |      |         |
| オフィスアワー | 橋積亜希子：1216 研究室、随時 【連絡先】 akiko-ha@seirei.ac.jp<br>榎原 理恵：1616 研究室 随時 【連絡先】 rie-k@seirei.ac.jp<br>佐久間佐織：1618 研究室、随時 【連絡先】 saori-s@seirei.ac.jp |        |    |      |         |